

古 照 遺 跡

—第7次調査—

(第1分冊)

1994

松山市教育委員会

財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

古照遺跡

—第7次調査—

(第1分冊)

1994

松山市教育委員会

財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター



調査地空中写真

序

松山市は、高縄半島の南西に広がる、瀬戸内海に面した県下最大の松山平野の中央部に位置し、気候温暖で美しい自然と豊かな風土に恵まれています。

このような自然条件のもと、この平野には古くから多くの貴重な文化財が残されています。これら数多くの文化遺産の中でも、昭和47年、下水処理施設工事中に発見されました古照遺跡は、翌年からの発掘調査によって古墳時代前期の灌漑土木施設「井堰」3基を確認し、わが国農耕文化の実態を知る重要な遺跡であることが判明しています。

本書は、平成3年度に行いました第7次の発掘調査をまとめた報告書です。第7次調査では、平安時代から室町時代にかけての建物跡、土坑墓や水田跡の生活・生産遺構が調査され、数多くの遺物が発見されています。この中には県内で初めて出土した土器もあり、松山市における古代・中世の人々の生活を知る上での貴重な手がかりを得ることができました。

この報告書は、古照遺跡周辺の調査から出土した土器の資料を紹介し、今後の地域史研究や埋蔵文化財に対するご理解の一助となれば幸いです。

最後に、調査にあたり何かとご指導、ご教授いただいた数多くの先生方に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも一層のご協力、ご支援をたまわりますようお願い申し上げます。

平成6年3月31日

財団法人 松山市生涯教育振興財団
理事長 出 中 誠 一

例 言

1. 本書は、松山市南江戸4丁目1-1 松山市下水道中央浄化センター内に所在する古照遺跡の第7次調査地の概報である。
2. 屋外調査は、松山市下水道建設課の委託をうけ、平成3年10月21日から平成4年3月31日までに(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが実施したものである。
3. 整理・刊行作業などは、平成4年度は松山市下水道建設課の委託、平成5年度は松山市下水道建設第1課の委託をうけ、(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが実施したものである。
4. 本書に使用した方位は磁北である。
5. 遺構は呼称を略号で記す場合がある。独立柱建物跡：SB、欄列：SA、土坑・土坑溝：SK、溝：SD、自然流路：SR、柱穴：SP、性格不明：SXである。
6. 出土遺物観察表における法量数値の単位はcmであり、表現の中で()は残存長、[]は高台径である。
7. 土色及び遺物観察表における色調は、『標準土色帖』1989年版による。
8. 屋外調査における遺構図の作成は、栗田正芳の責において、河野史知を中心に、宮脇和人、波多野恭久、越智隆、服部和広、浅野芳道、西平健一、川井正、黒河正人、東條正和、野口剛、松田剛、鎌田謙二、高橋敏彦、白玉典子、乗松和枝、谷口よし子、藤田潤子、横田三都子、岡田弥生、岡田久子、白形安子が行った。
9. 遺物の実測は、栗田正芳、河野史知、今井伸、菅摩理、栗田紀子、関正子、多知川富美子、萩野ちよみ、福羅美和子、宮中行代、矢野久子、吉井信枝が行った。
10. 遺構図・実測図等の浄書は、栗田正芳、田丸竜馬、鎌田謙二、上野山志保、岡市美紀、菅摩理、関正子、竹村志津、多知川富美子、西島優子、萩野ちよみ、矢野久子、山本仁美、吉井信枝が行った。
11. 遺構の写真撮影は栗田正芳と河野史知、遺物の写真撮影は大西明子が行った。
12. 本書の執筆・編集は、栗田正芳が行った。
13. 本遺跡の報告にあたっては、奈良医科大学 山田正典、愛媛大学 四宮孝昭・織本千年・高久武司、帯広畜産大学 中野益男、奈良教育大学 三注利一、(株)ズコーシャ総合科学研究所、(株)古環境研究所の各氏・各機関に分析を依頼し、玉稿を頂いた。
14. 航空写真は、(株)パスコの提供を受けた。
15. 出土遺物並びに図面・写真類は松山市立埋蔵文化財センターに保管している。
16. 調査中には、(株)日本上下水道設計、(株)月島機械、(株)井原工業、(株)伸和建設、(株)オノノ開発、(株)ワキタ、(株)ソガベ機械、(株)エクビ産業の各社に便宜を計って頂き、記して感謝します。

本文目次

I	遺跡の立地と歴史的環境	1
1	遺跡の立地	1
2	歴史的環境	3
II	調査に至る経緯と組織	8
1	調査に至る経緯	8
2	調査組織	10
III	A地区の概要	13
1	調査の経過	13
2	土層	15
3	遺構と遺物	21
4	工事立会調査	57
IV	B地区の概要	59
1	調査の経過	59
2	土層	60
3	遺構と遺物	65
4	工事立会調査	160
V	小結	161
1	A地区	161
2	B地区	166
VI	資料編	171
1	濃縮タンク工事立会調査	171
2	古照地域出土遺物について	172
VII	分析編・写真図版は第2分冊	

挿 図 目 次

< I ・ II >

第1図	松山平野の地形分類図	1
第2図	古照遺跡周辺の遺跡分布図 (縮尺 1/25000)	5
第3図	古照遺跡調査地位位置図 (縮尺 1/2400)	9

< III A地区 >

第4図	A地区グリット設定図 (縮尺 1/400)	14
第5図	A地区北壁土層図 (縮尺 1/50)	17
第6図	A地区遺構平面図 (縮尺 1/200)	19
第7図	SK-1測量図 (縮尺 1/40)	21
第8図	SK-2測量図 (縮尺 1/40)	21
第9図	SK-3・4測量図 (縮尺 1/40)	22
第10図	SK-5測量図 (縮尺 1/40)	22
第11図	SK-5出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	22
第12図	SK-6測量図 (縮尺 1/20)	22
第13図	SK-7測量図 (縮尺 1/20)	23
第14図	SK-7出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	23
第15図	SK-8測量図 (縮尺 1/20)	24
第16図	SK-8出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	24
第17図	SK-9測量図 (縮尺 1/40)	24
第18図	SK-10測量図 (縮尺 1/40)	25
第19図	SK-10出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	25
第20図	SK-11・22測量図 (縮尺 1/40)	25
第21図	SK-12測量図 (縮尺 1/40)	26
第22図	SK-13測量図 (縮尺 1/40)	26
第23図	SK-14測量図 (縮尺 1/40)	26
第24図	SK-15測量図 (縮尺 1/40)	27
第25図	SK-15出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	27
第26図	SK-16・25測量図 (縮尺 1/40)	28
第27図	SK-16出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	28
第28図	SK-18測量図 (縮尺 1/40)	29
第29図	SK-19測量図 (縮尺 1/40)	29
第30図	SK-20測量図 (縮尺 1/40)	29

第31图	S K-21测量图 (縮尺 1/40).....	30
第32图	S K-23测量图 (縮尺 1/40).....	30
第33图	S K-23出土遺物実測图 (縮尺 1/3).....	31
第34图	S K-24·35測量图 (縮尺 1/40).....	31
第35图	S K-24出土遺物実測图 (縮尺 1/3).....	31
第36图	S K-26測量图 (縮尺 1/40).....	31
第37图	S K-26出土遺物実測图 (縮尺 1/3).....	32
第38图	S K-27測量图 (縮尺 1/40).....	32
第39图	S K-28測量图 (縮尺 1/40).....	32
第40图	S K-29·30·31測量图 (縮尺 1/40).....	33
第41图	S K-29出土遺物実測图 (縮尺 1/3).....	34
第42图	S K-32·33測量图 (縮尺 1/40).....	35
第43图	S K-34測量图 (縮尺 1/40).....	35
第44图	S K-34出土遺物実測图 (縮尺 1/3).....	36
第45图	S K-36測量图 (縮尺 1/40).....	36
第46图	S K-36出土遺物実測图 (縮尺 1/3).....	36
第47图	S D-1測量图 (縮尺 1/60).....	37
第48图	S D-1土層图 (縮尺 1/60).....	38
第49图	S D-1出土遺物実測图 (1) (縮尺 1/3).....	39
第50图	S D-1出土遺物実測图 (2) (縮尺 1/3).....	40
第51图	S D-2測量图 (縮尺 1/60).....	40
第52图	S D-3測量图 (縮尺 1/60).....	41
第53图	小畦畔状遺構測量图 (縮尺 1/80).....	41
第54图	鐵跡状遺構測量图 (縮尺 1/80).....	42
第55图	第V層出土遺物実測图 (縮尺 1/3).....	43
第56图	第V層出土錢拓影图 (縮尺 1/2).....	43
第57图	第VI層出土遺物実測图 (縮尺 1/3).....	43
第58图	第VII層出土遺物実測图 (1) (縮尺 1/3).....	45
第59图	第VII層出土遺物実測图 (2) (縮尺 1/3).....	46
第60图	第VII層出土遺物実測图 (3) (縮尺 1/3).....	47
第61图	第VII層出土遺物実測图 (4) (縮尺 1/3).....	48
第62图	第VII層出土遺物実測图 (5) (縮尺 1/3).....	49
第63图	第VII層出土遺物実測图 (6) (縮尺 1/3).....	50
第64图	第VII層出土遺物実測图 (7) (縮尺 1/3).....	52

第65図	第Ⅶ層出土遺物実測図 (8) (縮尺 1/3).....	53
第66図	第Ⅶ層出土遺物実測図 (9) (縮尺 1/3).....	54
第67図	第Ⅶ層出土遺物実測図 (10) (縮尺 1/3).....	55
第68図	第Ⅶ層出土遺物実測図 (11) (縮尺 1/3).....	56
第69図	工事立会調査出土遺物実測図 (縮尺 1/3).....	57
〈Ⅳ B地区〉		
第70図	B地区グリット設定図 (縮尺 1/400).....	59
第71図	B地区土層図 (縮尺 1/50).....	61
第72図	B地区遺構平面図 (縮尺 1/100).....	63
第73図	S B-1・S A-1 測量図 (1) (縮尺 1/60).....	66
第74図	S B-1・S A-1 測量図 (2) (縮尺 1/60).....	67
第75図	S B-1 出土遺物実測図 (1) (縮尺 1/3).....	68
第76図	S B-1 出土遺物実測図 (2) (縮尺 1/3).....	69
第77図	S A-1 出土遺物実測図 (縮尺 1/3).....	70
第78図	S K-1 測量図 (縮尺 1/40).....	71
第79図	S K-1 出土遺物実測図 (縮尺 1/3).....	72
第80図	S K-2 測量図 (縮尺 1/40).....	72
第81図	S K-2 出土遺物実測図 (縮尺 1/3).....	72
第82図	S K-4 測量図 (縮尺 1/40).....	73
第83図	S K-4 出土遺物実測図 (縮尺 1/3).....	73
第84図	S K-8 測量図 (縮尺 1/40).....	73
第85図	S K-8 出土遺物実測図 (縮尺 1/3).....	73
第86図	S K-9 出土遺物実測図 (1) (縮尺 1/3).....	74
第87図	S K-9 出土遺物実測図 (2) (縮尺 1/3).....	75
第88図	S K-9 測量図 (縮尺 1/40).....	76
第89図	S K-10 測量図 (縮尺 1/40).....	76
第90図	S K-10 出土遺物実測図 (縮尺 1/3).....	77
第91図	S K-11 測量図 (縮尺 1/40).....	78
第92図	S K-11 出土遺物実測図 (縮尺 1/3).....	78
第93図	S K-13 測量図 (縮尺 1/40).....	78
第94図	S K-13 出土遺物実測図 (縮尺 1/3・1/4).....	79
第95図	S K-14 測量図 (縮尺 1/40).....	80
第96図	S K-14 出土遺物実測図 (縮尺 1/3).....	80
第97図	S K-15 測量図 (縮尺 1/40).....	81

第98图	S K-15出土遺物実測図(1)(縮尺1/3).....	82
第99图	S K-15出土遺物実測図(2)(縮尺1/3).....	83
第100图	S D-1測量図(縮尺1/60).....	84
第101图	S D-5測量図(縮尺1/60).....	84
第102图	S D-1出土遺物実測図(縮尺1/3).....	85
第103图	S D-5出土遺物実測図(縮尺1/3).....	85
第104图	S D-6測量図(縮尺1/60).....	85
第105图	S D-6出土遺物実測図(縮尺1/3).....	86
第106图	S D-7測量図(縮尺1/100).....	87
第107图	S D-7出土遺物実測図(縮尺1/3).....	89
第108图	S D-8測量図(縮尺1/60).....	91
第109图	S D-8出土遺物実測図(1)(縮尺1/3).....	94
第110图	S D-8出土遺物実測図(2)(縮尺1/3).....	95
第111图	S D-8出土遺物実測図(3)(縮尺1/3).....	96
第112图	S D-8出土遺物実測図(4)(縮尺1/3).....	97
第113图	S D-8出土遺物実測図(5)(縮尺1/3).....	98
第114图	S D-8出土遺物実測図(6)(縮尺1/3).....	99
第115图	S D-8出土遺物実測図(7)(縮尺1/3).....	100
第116图	S D-8出土遺物実測図(8)(縮尺1/3).....	101
第117图	S D-8出土遺物実測図(9)(縮尺1/3·1/6).....	102
第118图	S D-9測量図(縮尺1/60).....	103
第119图	S D-10測量図(縮尺1/60).....	103
第120图	S D-10出土遺物実測図(縮尺1/3).....	104
第121图	S P-7測量図(縮尺1/40).....	104
第122图	S P-13·15·28測量図(縮尺1/40).....	105
第123图	S P-7·13·15·28出土遺物実測図(縮尺1/3).....	106
第124图	1号集積遺構測量図(縮尺1/4).....	107
第125图	3号集積遺構出土遺物実測図(縮尺1/3).....	107
第126图	2号集積遺構測量図(縮尺1/4).....	107
第127图	1·2号集積遺構出土遺物実測図(縮尺1/3).....	108
第128图	S X-3·5·7測量図(縮尺1/40).....	109
第129图	S X-3·5·7出土遺物実測図(縮尺1/3).....	110
第130图	S X-8·10測量図(縮尺1/40).....	111
第131图	S X-8·10出土遺物実測図(縮尺1/3).....	111

第132图	S X-12·13测量图 (縮尺 1/40).....	112
第133图	S X-12·13出土遺物実測图 (縮尺 1/3).....	113
第134图	S X-20·26·28測量图 (縮尺 1/40).....	114
第135图	S X-20·26·28出土遺物実測图 (縮尺 1/3).....	114
第136图	S X-29·30測量图 (縮尺 1/40).....	115
第137图	S X-29·30出土遺物実測图 (縮尺 1/3).....	115
第138图	S X-33測量图 (縮尺 1/40).....	116
第139图	S X-33出土遺物実測图 (縮尺 1/3).....	116
第140图	S X-34·49測量图 (縮尺 1/40).....	117
第141图	S X-34·49出土遺物実測图 (1) (縮尺 1/3).....	118
第142图	S X-49出土遺物実測图 (2) (縮尺 1/3).....	119
第143图	S X-52·53測量图 (縮尺 1/40).....	120
第144图	S X-52·53出土遺物実測图 (縮尺 1/3).....	120
第145图	遺構外出土遺物実測图 (1) (縮尺 1/3).....	121
第146图	遺構外出土遺物実測图 (2) (縮尺 1/3).....	122
第147图	遺構外出土遺物実測图 (3) (縮尺 1/3).....	123
第148图	遺構外出土遺物実測图 (4) (縮尺 1/3).....	124
第149图	遺構外出土遺物実測图 (5) (縮尺 1/3).....	125
第150图	遺構外出土遺物実測图 (6) (縮尺 1/3).....	126
第151图	遺構外出土遺物実測图 (7) (縮尺 1/3).....	127
第152图	遺構外出土遺物実測图 (8) (縮尺 1/3).....	128
第153图	遺構外出土遺物実測图 (9) (縮尺 1/3).....	129
第154图	遺構外出土遺物実測图 (10) (縮尺 1/3).....	130
第155图	遺構外出土遺物実測图 (11) (縮尺 1/3).....	131
第156图	遺構外出土遺物実測图 (12) (縮尺 1/3).....	132
第157图	遺構外出土遺物実測图 (13) (縮尺 1/3).....	133
第158图	遺構外出土遺物実測图 (14) (縮尺 1/3).....	134
第159图	遺構外出土遺物実測图 (15) (縮尺 1/3).....	135
第160图	遺構外出土遺物実測图 (16) (縮尺 1/3).....	135
第161图	遺構外出土遺物実測图 (17) (縮尺 1/3).....	136
第162图	遺構外出土遺物実測图 (18) (縮尺 1/3).....	137
第163图	遺構外出土遺物実測图 (19) (縮尺 1/3).....	138
第164图	遺構外出土遺物実測图 (20) (縮尺 1/3).....	139
第165图	遺構外出土遺物実測图 (21) (縮尺 1/3).....	140

第166図	遺構外出土遺物実測図 (27) (縮尺 1/3).....	141
第167図	遺構外出土遺物実測図 (28) (縮尺 1/3).....	142
第168図	遺構外出土遺物実測図 (29) (縮尺 1/3).....	142
第169図	遺構外出土遺物実測図 (30) (縮尺 1/3).....	142
第170図	遺構外出土遺物実測図 (31) (縮尺 1/3).....	143
第171図	遺構外出土遺物実測図 (32) (縮尺 1/3).....	144
第172図	遺構外出土遺物実測図 (33) (縮尺 1/3).....	145
第173図	遺構外出土遺物実測図 (34) (縮尺 1/3).....	146
第174図	遺構外出土遺物実測図 (35) (縮尺 1/3).....	147
第175図	遺構外出土遺物実測図 (36) (縮尺 1/3).....	148
第176図	遺構外出土遺物実測図 (37) (縮尺 1/3).....	149
第177図	遺構外出土遺物実測図 (38) (縮尺 1/3).....	150
第178図	遺構外出土遺物実測図 (39) (縮尺 1/3).....	150
第179図	遺構外出土遺物実測図 (40) (縮尺 1/3).....	151
第180図	遺構外出土遺物実測図 (41) (縮尺 1/3).....	152
第181図	遺構外出土遺物実測図 (42) (縮尺 1/3).....	153
第182図	遺構外出土遺物実測図 (43) (縮尺 1/3).....	154
第183図	遺構外出土遺物実測図 (44) (縮尺 1/3).....	155
第184図	遺構外出土遺物実測図 (45) (縮尺 1/3).....	156
第185図	遺構外出土遺物実測図 (46) (縮尺 1/3).....	157
第186図	遺構外出土遺物実測図 (47) (縮尺 1/3).....	158
第187図	遺構外出土遺物実測図 (48) (縮尺 1/2).....	158
第188図	遺構外出土遺物実測図 (49) (縮尺 1/2).....	159

〈VI 資料編〉

第189図	濃縮タンク工事立会調査出土遺物実測図 (縮尺 1/3).....	172
第190図	古照遺跡第6次下層調査出土遺物実測図 (縮尺 1/3).....	173
第191図	古照遺跡第10次調査出土遺物実測図 (縮尺 1/3).....	174
第192図	古照遺跡第1・2次調査出土遺物実測図 (縮尺 1/3).....	175
第193図	古照ゴウラ遺跡4次調査地出土遺物実測図 (1) (縮尺 1/3).....	176
第194図	古照ゴウラ遺跡4次調査地出土遺物実測図 (2) (縮尺 1/3).....	177
第195図	古照ゴウラ遺跡4次調査地出土遺物実測図 (3) (縮尺 1/3).....	178
第196図	古照ゴウラ遺跡4次調査地 (4)・辻町遺跡出土遺物実測図 (縮尺 1/3).....	179
第197図	古照遺跡第8次上層調査A・B地区出土遺物実測図 (縮尺 1/3).....	181
第198図	東山彦が森8号墳出土遺物実測図 (縮尺 1/3).....	185

表 目 次

〈A地区〉

表 1	A地区出土遺物觀察表 (1)	189
表 2	A地区出土遺物觀察表 (2)	190
表 3	A地区出土遺物觀察表 (3)	191
表 4	A地区出土遺物觀察表 (4)	192
表 5	A地区出土遺物觀察表 (5)	193
表 6	A地区出土遺物觀察表 (6)	194
表 7	A地区出土遺物觀察表 (7)	195
表 8	A地区出土渡来錢觀察表	195

〈B地区〉

表 9	B地区出土遺物觀察表 (1)	196
表 10	B地区出土遺物觀察表 (2)	197
表 11	B地区出土遺物觀察表 (3)	198
表 12	B地区出土遺物觀察表 (4)	199
表 13	B地区出土遺物觀察表 (5)	200
表 14	B地区出土遺物觀察表 (6)	201
表 15	B地区出土遺物觀察表 (7)	202
表 16	B地区出土遺物觀察表 (8)	203
表 17	B地区出土遺物觀察表 (9)	204
表 18	B地区出土遺物觀察表 (10)	205
表 19	B地区出土遺物觀察表 (11)	206
表 20	B地区出土遺物觀察表 (12)	207
表 21	B地区出土遺物觀察表 (13)	208
表 22	B地区出土遺物觀察表 (14)	209
表 23	B地区出土遺物觀察表 (15)	210
表 24	B地区出土遺物觀察表 (16)	211
表 25	B地区出土遺物觀察表 (17)	212
表 26	B地区出土遺物觀察表 (18)	213
表 27	B地区出土遺物觀察表 (19)	214
表 28	B地区出土遺物觀察表 (20)	215
表 29	B地区出土遺物觀察表 (21)	216
表 30	B地区出土遺物觀察表 (22)	217

表31	B地区出土遺物觀察表 ⑲	218
表32	B地区出土遺物觀察表 ⑳	219
表33	B地区出土遺物觀察表 ㉑	220
表34	B地区出土遺物觀察表 ㉒	221
表35	B地区出土遺物觀察表 ㉓	222
表36	B地区出土土・木・鉄製品觀察表	222
〈VI 資料編〉		
表37	出土遺物觀察表 (1)	223
表38	出土遺物觀察表 (2)	234
表39	出土遺物觀察表 (3)	225

写真図版目次

巻頭写真図版 調査地空中写真

I 遺跡の立地と歴史的環境

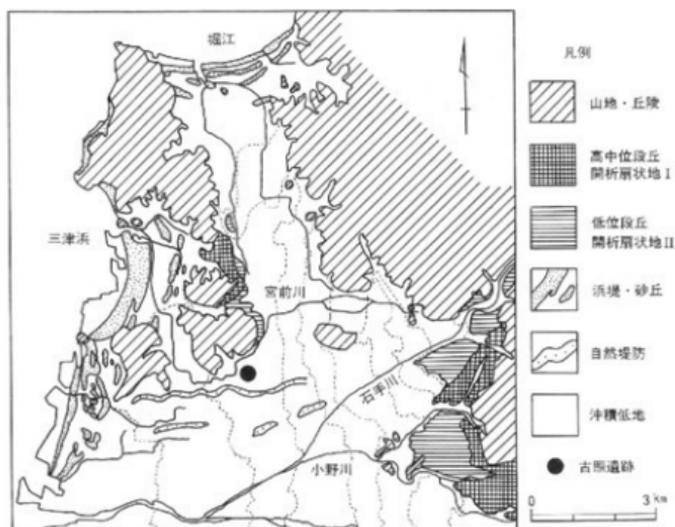
1 遺跡の立地

松山平野は、愛媛県のほぼ中央部、高縄半島の付け根部分に位置する。この高縄半島中央部には、半島最高峰の東三方ヶ森をはじめ、北三方ヶ森、伊之子山、高縄山からなる高縄山地が形成されている。この高縄山地に源を発した河川によって形成された沖積平野が松山平野である。

古照遺跡は、この沖積平野のやや西側にあり、東に勝山(132.1m)、北に大峰ヶ台(133.7m)、北西に岩子山(116m)、西に弁天山(129.7m)の分離丘陵に囲まれて立地している。

松山平野を流れる河川のうち、北東から南西方向に平野を斜めに横切って流れる石手川があり、古照遺跡の南々西約3.8kmの地点で平野の南よりのところを東の山地から西に向かって流れる重信川と合流して伊予灘へ注いでいる。

古照遺跡と関係の深い石手川は、高縄山地に水源を発し、山地を激しく浸蝕開折し、山麓部から平野部に出てから急激に土砂礫を堆積させ扇状地を形成している。さらに下流で宮前川などの小河川に分流している。



第1図 松山平野の地形分類図

宮前川は、岩堰で石手川から分岐した後、道後城北地区を流れて大峰ヶ台丘陵の東麓で大きく右折し、古照遺跡の北側を流れている。また、古照遺跡の南側を西流する石手川支流の中ノ川と南西で合流し、更に分岐し北・西の2条の流れとなって伊予灘に注いでいる。

石手川によって形成された扇状地について平井幸弘氏(1)は、標高約50mの石手寺付近を扇頂とし半径は約4km、標高約20mまでの部分であり、これより西方は氾濫・堆積によって形成された氾濫原の地域であると指摘されている。扇状地の地表勾配は約1000分の5～10程度である。この扇状地の扇端付近、標高約12.8mに古照遺跡が位置している。

前述の氾濫原には、松山市駅付近より西方に向かって長さ約4km、幅約100m前後の自然堤防が延びており、やや南側に同様の自然堤防状の微高地も認められている。これら微地形は、江戸時代に石手川の河川改修(1601～1602年)が行われた以前に形成されたものと考えられている。

古照遺跡周辺の丘陵については、まず、大峰ヶ台の南半分は和泉層群の頁岩・砂岩・礫岩、東側一部は石鐘層群の閃緑玢岩、北半分は領家貫入岩類の花崗閃緑岩である。岩子山は石鐘層群の安山岩、弁天山は南側が和泉砂岩群、北側は領家変成岩類塩基性ホルンヘルスである。

【註】

(1)平井幸弘：「石手川扇状地城北地区における沖積低地の地形発達と考古遺跡の立地環境」『愛媛大学教育学部紀要 Ⅲ 自然科学』9、愛媛大学、1989

【参考文献】

- *『古照遺跡』古照遺跡調査本部・松山市教育委員会、1974
- *『愛媛県史—原始・古代I—』愛媛県史編さん委員会、1892
- *平井幸弘：「廣子遺跡および樽味遺跡をとりまく地形環境」『廣子遺跡・樽味遺跡の調査』愛媛大学埋蔵文化財調査室、1989
- *『松山市史—第1巻—』松山市史編集委員会、1992

2 歴史的環境

古照遺跡周辺には、数多くの遺跡が分布しており、これらの遺跡について最近の調査結果から時代別に述べていくことにする。

縄文時代

古照遺跡周辺では、いまだ明確な縄文時代の遺跡は調査されていない。古照遺跡の北、大峰ヶ台丘陵東裾部の朝美澤遺跡2次調査(1)、松環美沢遺跡(2)から縄文式土器が出土している。古照遺跡の既往調査(3)からは、河川氾濫などによる砂礫地積層より前期末から晩期にいたる土器が出土している。これらのことから、大峰ヶ台丘陵の東側に縄文時代の遺跡が存在するものと考えられる。

弥生時代

弥生時代には、丘陵部やその周辺部に遺跡の分布が認められている。

前期では、朝美澤遺跡2次調査から前期前半の包含層を確認し土器を出土している。また、弁天山丘陵の東側に突出した小丘陵上に位置する斎院烏山遺跡(4)からは、前期末段階の漆状遺構を検出している。また、同丘陵中央東麓の宮前川左岸の後背湿地に立地する宮前川別府遺跡(5)からは前期末から中期前半の土器や朝鮮系無文土器などが出土している。

中期に入ると、大峰ヶ台丘陵の山頂部にある大峰台遺跡(6)は中期中葉段階の高地性集落である。同丘陵東裾部の澤遺跡(7)、辻遺跡(8)からは中期中葉の土器が出土し、松環美沢遺跡では中期の溝を検出し、石包丁や有柄式磨製石鏃などが出土している。

後期になると、遺跡の分布は更に広がりを見せている。澤遺跡からは、竈棺墓や堅穴式住居址などを検出している。弁天山丘陵の東麓緩斜面に位置する津田鳥越遺跡(9)からは、堅穴住居址群などを検出し、後期後半～庄内段階の土器と共に土錘・石錘などの漁撈具が出土している。

古照遺跡の東側にある松環古照遺跡(10)からは、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての土器が出土し、特に完形品の手燈型土器も出土している。

古墳時代

古墳時代には、弥生時代と同様に遺跡が分布し、大峰ヶ台や岩子山、弁天山などの各丘陵において多数の古墳が確認されている。

古墳時代初頭では、宮前川下流の宮前川北斎院遺跡(11)から火災焼失住居址を含む堅穴住居址群が検出され、また、クスノキの巨木周辺約20mの範囲から古墳時代初頭の土器などが多量に出土している。この他に宮前川周辺の遺跡群からは、弥生時代末～古墳時代初頭にかけての遺物が多量に出土し、それらの中には骨角器やト占に使用された鹿の肩胛骨などのほか、注口土器や動物型土製品、絵画土器などもある。また山陰系土器や畿内系土器等の外系土器もあり、当時の流通・交易の経路を考える上で貴重な遺物の出土がみられる。

前期古墳は、大峰ヶ台丘陵の北西尾根部に朝日谷2号墳⑫があり、主体部内から2面の帛織鏡（二禽二獸鏡など）と40本を越える銅鏡・鉄鏡のほか直刀・ガラス玉などが出土し、墳丘くびれ部からは壺形土器が出土している。

中期末から後期にかけては、各丘陵に群集墳が出現する。大峰ヶ台丘陵には客谷古墳群⑬が、岩子山丘陵に岩子山古墳群⑭と同丘陵の尾根周辺に斎院茶白山古墳⑮、御産所11号墳⑯、御産所権現山1号墳⑰があり、弁天山丘陵には弁天山古墳群がある。この弁天山古墳群の中には前期古墳と思われる弁天山0号墳⑱がある。

古墳以外には、古照遺跡の既往調査や松環古照遺跡、古照ゴウラ遺跡⑲から古墳時代の上器を出土している。また、大峰ヶ台丘陵の東側、宮前川左岸にある辻町遺跡⑳からは後期の祭祀関連遺物を出土し、周辺に集落が存在する可能性がある。同丘陵東麓の緩斜面にある辻遺跡2次調査㉑、松環大峰ヶ台遺跡㉒からは掘立柱建物跡が検出されている。

歴史時代

古照遺跡周辺には現在も長地型の条単的地割りが残っており、古代荘園制との関係が指摘されている。

古代寺院としては、大峰ヶ台東裾部にある親和園前遺跡㉓から「澤庵寺」に関連する複弁蓮華軒丸瓦が出土し、掘立柱建物跡が検出されている。また、同丘陵南麓には大宝元年（701年）創立の太宝寺㉔があり、同寺本堂は県下でも最古の鎌倉時代前期の建造物であり国宝に指定されている。

古照遺跡周辺では、11～13世紀にいたる集落址が確認されている。

澤遺跡からは平安時代の掘立柱建物跡が検出されている。

松環古照遺跡と古照ゴウラ遺跡からは、掘立柱建物跡、区画溝、土坑、曲げ物井戸などが検出され、花辨形石製硯、越州窯青磁、楠葉型・和泉型瓦器、黒色土器、東播系鉢・甕、亀山焼甕、常滑焼甕、滑石製石鍋など11～13世紀にかけての遺物が多量に出土している。古照遺跡第6次上層調査からは、13～16世紀前半の遺構や遺物を出土している。

中世城郭としては、大峰ヶ台丘陵南西尾根部に花見山城跡㉕が確認されている。

古照遺跡の北約30mの南江戸園日遺跡㉖からは、13世紀後半から14世紀にかけての土師器集積土坑が検出され、多量の土師器杯・皿が出土している。朝美澤遺跡2次調査では、中世の掘立柱建物跡、辻遺跡2次調査地では土坑墓が検出されている。

宮前川下流域においても、古代から中近世にかけての遺跡が分布しており、古照遺跡の西方約1kmの北寺院地内遺跡㉗では15～16世紀代の集落址が、宮前川三本柳遺跡㉘では奈良時代の井戸関連遺構や中世の畑、近世の井戸などが検出されている。

江戸時代には、古照ゴウラ遺跡では曲げ物井戸が、親和園前遺跡から江戸時代末の障屋跡が、美沢遺跡の屋敷跡からは水琴窟が検出されている。また、大峰ヶ台丘陵東裾部の宮前川右岸に位置する南江戸桑田遺跡㉙からは、桶棺墓が多数検出されている。また、古照遺跡第



第2図 古河遺跡周辺の遺跡分布図（縮尺1/25000）

6次七層調査では江戸時代中期の洪水によって埋没した水田・畑・大畦畔跡などが検出されている。

[註]

- (1)梅木謙一・宮内慎一：「朝美澤遺跡2次調査」「朝美澤遺跡・辻町遺跡」(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1992
- (2)岡田敏彦：「調査の経緯と経過」『一般国道196号松山現状埋蔵文化財発掘調査報告書 Ⅰ—松山古黒遺跡—』(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター、1993
- (3)①「古黒遺跡」古黒遺跡調査本部・松山市教育委員会、1974
- (3)②「古黒遺跡Ⅱ」松山市教育委員会、1976
- (3)③松村 淳：「古黒遺跡第5次調査」『松山市埋蔵文化財調査年報 Ⅲ』松山市教育委員会松山市立埋蔵文化財センター、1991
- (3)④栗田正芳・河野史和 他：「古黒遺跡—第6次調査—」松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1993
- (3)⑤本報告書の概報及び平成4年度古黒遺跡調査概報については、「古黒遺跡7・8・9次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報 V』(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター(1993)に掲載している。
- (4)「斎院鳥山遺跡」『松山市史料集 第1巻—考古編—』松山市史料集編集委員会、1980
- (5)「宮前川遺跡」(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター、1987
- (6)栗田茂敏：「大峰台遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報 Ⅱ』松山市教育委員会、1989
- (7)松村 淳・栗田茂敏：「澤遺跡」前掲註(6)文獻
- (8)栗田茂敏：「辻遺跡」前掲註(6)文獻
- (9)①西尾幸則：「津田島越遺跡(津田中学校構内)」『松山市埋蔵文化財調査年報 Ⅰ』松山市教育委員会、1989
- (9)②「津田島越遺跡」前掲註(4)文獻
- ⑩前掲註(2)文獻
- ⑪前掲註(5)文獻
- ⑫平成元年度、総合公園建設に伴う事前緊急調査である。
- (13)①宮崎泰好：「大峰台雲谷地区古墳群」前掲註(9)①文獻
- (13)②松村 淳・栗田茂敏：「各谷地区古墳群」前掲註(6)文獻
- ④名本二六雄：「岩子山古墳」松山市教育委員会、1975
- ⑨西尾幸則：「斎院茶臼山古墳」松山市教育委員会、1983
- ⑩森 光晴：「御座所11号墳」松山市教育委員会、1976
- ⑪栗田茂敏・大森 一成：「御座所検見山遺跡」前掲註(3)③文獻
- ⑫「松山市史—第1巻—」松山市史編集委員会(1992)並びに「津田山古墳」『愛媛県史 資料編 考古』愛媛県史編さん委員会(1986)
- ⑬①宮崎泰好：「古黒ゴウラ遺跡(1・2次)」前掲註(6)文獻
- ⑬②松村 淳・宮崎泰好：「古黒ゴウラ遺跡(3次)」前掲註(3)③文獻
- ⑬③松村 淳・山本健一：「古黒ゴウラ遺跡(4次)」『松山市埋蔵文化財調査年報 Ⅳ』(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1992
- ⑭梅木謙一・宮内 潔：「辻町遺跡」前掲註(1)文獻

- 00 栗田正芳：「止遺跡 2 次調査。 前掲註(3)③文献
- 01 前掲註(2)文献
- 02 『愛媛県史 - 原始・古代 I -』愛媛県史編さん委員会、1982
- 03 前掲註(2)文献
- 04 『松山市の文化財』松山市教育委員会、1980
- 05 『愛媛県中世城館跡 - 分布調査報告 -』愛媛県教育委員会、1987
- 06 上田 真・水本完見：『南江戸岡目遺跡。松山市教育委員会松山市立埋蔵文化財センター、1991
- 07 ①宮崎泰好：「北斎院地内遺跡。 前掲註(5)文献
- 08 ②梅木謙一・武正良浩：「北斎院地内遺跡 2 次調査地。 前掲註(3)⑤文献
- 09 重松佳久・小笠原善治・水本完見：「宮前川二本柳遺跡。 前掲註(3)③文献
- 10 重松佳久・丹下道一：「南江戸桑田遺跡。 前掲註(6)文献

II 調査に至る経緯と組織

1 調査に至る経緯

平成2年10月29日、松山市都市整備部公共下水道課（以下「公共下水道課」という）課長より、松山市南江戸4丁目1-1の松山市下水道中央処理場（現、松山市下水道中央浄化センター、以下「浄化センター」という）内における下水処理施設建設工事に伴う埋蔵文化財確認願いが松山市教育委員会文化教育課（以下「文化教育課」という）に提出された。

申請された建設予定施設は、汚泥消化タンク・汚泥濃縮タンク・汚泥消毒タンク・ガスタンク・連絡管廊・分配槽・地下連絡通路などである。

平成3年7月22日から同年8月31日の間、申請地の中で汚泥消化タンク・汚泥濃縮タンク・ガスタンの3ヶ所について試掘調査を実施した（現地表面から約2mまで）。その結果、汚泥消化タンク予定地では、平安時代後半の遺物包含層と中世水田跡の検出があった。汚泥濃縮タンク・ガスタンク予定地では、河川の影響がみられ遺構の検出はなかった。

汚泥消毒タンク予定地は、第6次調査地の西に隣接しているため中世遺構が連続していることが明らかである。

公共下水道課と文化教育課並びに松山市立埋蔵文化財センター（以下「埋文センター」という）とは、汚泥消化タンクと汚泥消毒タンクの工事を着手するにあたり事前の埋蔵文化財発掘調査について協議を行った。協議の結果、まず、汚泥消化タンク予定地の発掘調査期間は、建設工事の工程・内容から同年10月から12月末まで、汚泥消毒タンク予定地は平成4年1月から3月末までとなる。次に、この2ヶ所における発掘調査の標高よりも更に深い調査（現地表面から約5m）については、掘削工事中に立会調査を行うことになる。また、試掘調査を行った残りの2ヶ所についても同様に掘削工事中の立会調査を行うことになる。

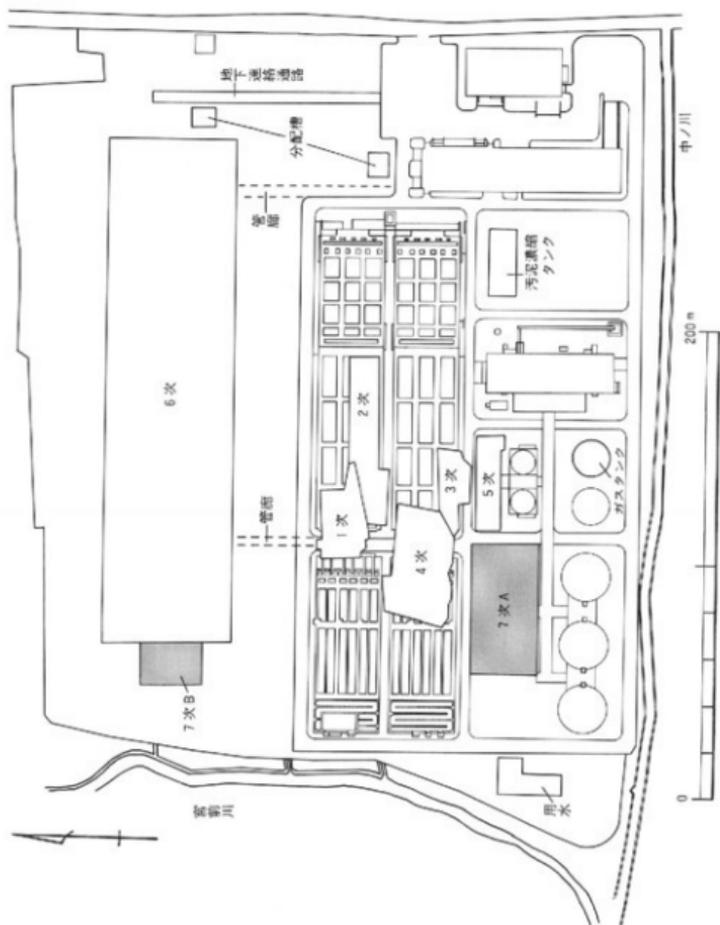
平成3年10月1日、財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター（以下「財埋文センター」という）設立に伴い、発掘調査は財埋文センターへ委託される。

今回の第7次調査では、平安時代後半から中世にいたる集落や生産関連遺構の調査を主目的として、平成3年10月21日から屋外調査を開始する。

平成4年3月9日から同月21日にかけて、連絡管廊と地下連絡通路などの工事予定地の試掘調査を行う。

第7次調査は二地区に分かれるため、まず汚泥消化タンク予定地をA地区、汚泥消毒タンク予定地をB地区とする。既往調査結果については、『古照遺跡-第6次調査-』（1993）を参照されたい。

平成2年度の第6次調査において浄化センター内を磁北に合わせて6mのグリッド割を行っているため、都市計画図面からこのグリッドを使用する。



第3図 古用遺跡調査地位置図

2 調査組織

平成3年10月1日、財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが設立し、同月21日、松山市から当財団に業務委託される。調査後の整理及び刊行作業は、平成4・5年度
の古照遺跡8・9・10次調査と並行しながら行う。

調査及び整理・刊行組織は以下の通りである。

【屋外調査組織】

平成3年10月21日～平成4年3月31日

(財)松山市生涯学習振興財団	理事長	田中 誠一
	事務局長	池田 秀雄
埋蔵文化財センター	所 長	和田祐三郎
	次 長	出所 延行
	調査係長	西尾 幸則
	調査係主任	田城 武志
調査担当	調査係主事	栗田 正芳 (文化教育課主事)
調査担当	調査員補	河野 史知

〈従事作業員〉

相川 直人・浅野 芳道・阿達 正平・越智 隆・面平 健一・金澤 進・鎌田 謙二・
川井 正・黒河 正人・相良 浩志・佐川友五郎・塩田 太郎・重松 浩一・重松 恒彦・
高橋 聖児・高橋 敏彦・田中 勳・田部井 陽・東條 正和・中条 聖郎・西田 竜一・
二宮 和見・野口 剛・乗松 伯・波多野禎彦・波多野恭久・服部 和広・久岡 正幸・
福田 恒仁・松田 俊二・松田 剛・松友 利夫・松本 正義・宮脇 和人・三好 弘文・
吉岡 正人・渡辺 康仁・今井 伸・岡田 久子・岡田 弥生・菅 摩理・栗田 紀子・
白杉 安子・白玉 典子・竹田紀美代・谷口よし子・常廣 一恵・釣井 環奈・乗松 和枝・
福羅美和子・藤田 潤子・宮中 行代・矢野 純子・横田三都子

【整理・刊行組織】

平成4・5年度

(財)松山市生涯学習振興財団	理事長	田中 誠一
	事務局長	渡辺 和彦
	事務局次長	鶴井 茂忠 (平成4年度)
	〃	一色 正士 (平成5年度)
埋蔵文化財センター	所 長	和田祐三郎 (平成4年度)

所 長	河 口 雄三 (平成5年度)
次 長	田 所 延行
調 査 係 長	西 尾 幸則 (平成4年度)
〃	田 城 武志 (平成5年度)
調 査 係 主 任	田 城 武志 (平成4年度)
整理担当 調査係主事	栗 田 正芳 (文化教育課主事、平成4・5年度)
整理担当 調 査 員	河 野 史知 (平成4年度)
整理担当 調 査 員 補	小 笠 原 善治 (平成5年度)

〈従事作業員〉

人塚 隆重・金澤 進・鎌田 譲二・川井 正・佐川友五郎・田丸 竜馬・波多野楨彦・
 松本 哲郎・松本 正義・宮脇 和人・今井 伸・上野山志保・遠藤久仁子・岡市 美紀・
 岡田 久子・岡田 弥生・菅 摩理・清水 淳子・白形 安子・白玉 典子・関 正子・
 竹村 志津・多知川富美子・谷口よし子・常廣 一恵・永井かおり・中欠富士子・
 西島 優子・栗松 和枝・萩野ちよみ・藤田 潤子・宮中 行代・欠野 久子・
 山本 仁美・横田三都子・吉井 信枝

調査中並びに本書をまとめるにあたっては、下記の各氏・機関より御指導並びに御助言を
 うけ、記して感謝します。(敬称略)

上原 善通 (奈良国立文化財研究所)、
 上原 真人 (奈良国立文化財研究所)、
 山田 正典 (徳島大学医学部名誉教授)、
 坂詰 秀一 (立正大学文学部教授)、
 三辻 利一 (奈良教育大学物理化学研究室学部教授)、
 下條 信行 (愛媛大学法文学部教授)、
 四宮 孝昭 (愛媛大学医学部教授)、
 吉永 長則 (愛媛大学農学部教授)、
 宮本 一夫 (愛媛大学法文学部助教授)、
 田崎 博之 (愛媛大学教養学部助教授)、
 村上 恭通 (名古屋大学文学部考古学研究室助手)、
 織本 千年 (愛媛大学医学部技師)、
 伊野 近富・森島 康雄 ((財)京都市埋蔵文化財調査研究センター)、
 小森 俊寛・白瀬 正恒・吉村 正親 ((財)京都市埋蔵文化財研究所)、
 尾上 実 (大阪府教育委員会)、
 橋本 久和 (高槻市立埋蔵文化財センター)、

福田 正継（岡山県古代吉備文化財センター）、
根木 修・神谷 正義・乗岡 実（岡山市教育委員会）、
山本 悦世（岡山大学埋蔵文化財調査研究センター）、
諫原 芳秀（広島県教育委員会）、
鈴木 康之（広島県草戸千軒町遺跡調査研究所）、
土井 基司（府中市教育委員会）、
片桐 孝浩（（財）香川県埋蔵文化財調査センター）、
松田 直則（（財）高知県文化財埋蔵文化財センター）、
中野 良一・作田 一耕・沖野 新一・土井光一郎（（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター）、
岡山市教育委員会、
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、
愛媛大学埋蔵文化財調査研究室、
（財）京都市埋蔵文化財研究所、
（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター、
四国中近世土器研究会、
瀬古環境研究所、
瀬ズコーシャ、
瀬バスコ、

Ⅲ A地区の概要

1 調査の経過

A地区は、第1・4次調査地の南側、第5次調査地の西側にある。工事対象は南北約30.45m、東西約61.5m、面積約1,872.7㎡ある。

調査区グリットは、S15～19W27～35の範囲に入る。

平成3年10月21日、調査区東端から重機により第VI層中世水田面までの掘削を開始し、足跡や土坑などを検出する。

同年10月24日、北壁を精査し、土層図を作成する。

同年11月1日、ベルトコンベア・土砂走行車など重機を搬入し、遺構精査を行う。

同年11月2日、重機による掘削を終了する。

同年11月5日、調査区内にグリット杭打ちを行う。

同年11月18日、土坑から埋葬遺体を検出する。

同年11月20日、土坑墓3基から埋葬遺体を検出しているため、お祓いを行う。

同年11月22日、遺構検出状況の写真撮影を行う。

同年11月25日、土坑遺構の掘り下げを開始する。

同年11月27日、愛媛大学法文学部の下條信行先生から現地において調査指導を頂く。

同年12月2日、下水道中央浄化センターの航空写真撮影を行う。

同年12月4日、土坑SK-23の土壌サンプリング。

同年12月5日、土坑墓出土人骨について奈良医科大学の山田正興先生、愛媛大学医学部の四宮学昭先生並びに織本千年技官から現地においてご指導を頂く。

同年12月9日、立正大学の板詰秀一先生から現地において調査指導を頂く。

同年12月10日、S15・16W26～28の第VI層水田に残る足跡を精査し、写真撮影を行う。また、調査区東側から第VII層（遺物包含層）の掘り下げを開始する。

同年12月11日、奈良国立文化財研究所の工藤善通先生から現地において調査指導を頂き、また、併せて第6次下層調査の検討を行う。

同年12月13日、調査区中央の第VI層水田から小畦畔遺構を検出し、周辺の足跡などととも精査・測量を開始する。

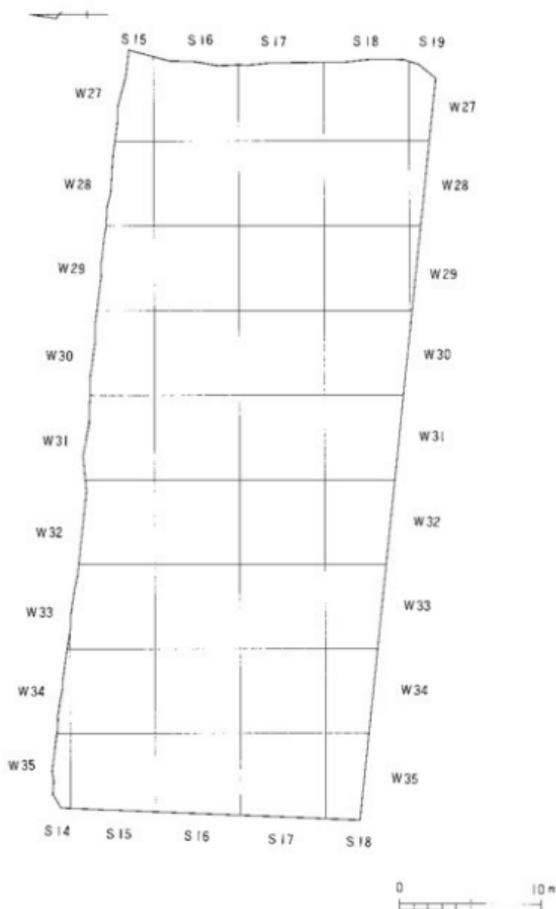
同年12月13日、調査区南東側の第VIII層の緑灰色粘土面において鋤跡状遺構を検出する。

同年12月16日、土坑墓並びに土坑などの土壌をサンプリングし、脂肪酸分析を(株)ズコーシヤ総合科学研究所に依頼する。

同年12月28日、小畦畔周辺の測量及びSD-3のレベル測量を行い、現場調査を終了する。調査実施面積は約1,110㎡である。

平成4年1月5日、北壁並びに調査区から土壌をサンプリングし、プラント・オパール分析並びに花粉分析を岡山環境研究所に依頼する。

同年5月28日と6月1日、工事掘削に伴う下層の立会調査を行う。結果、標高約8mに層厚約50~80cmを測る緑灰色シルト層が調査区全域に見られた。この土壌を採取し、プラント・オパール分析を岡山環境研究所に依頼する。



第4図 A地区グリッド設定図

2 土層

調査区の現地地表は標高約12.8～13.0mを測り、工事掘削により現地地表から深さ約1mは既に場外搬出されている。調査区の土層図は、北壁のみを作成した。

北壁土層は、基本的に第Ⅰ～Ⅷ層に分層できる。

第Ⅰ層は現代造成土並びに攪乱などによる堆積層である。

第Ⅱ層は現代耕作土である。第Ⅱ層直下の東から約2.80～6.45m並びに8.30～11.95mの間においてラミネーションを伴う灰白色(5Y7/1)細砂層の堆積が見られるため、第Ⅲ層上面が文化面と考えられる。約44.50mより西側の第Ⅱ層以下の土層は、第Ⅲ層や第Ⅳ層に対応するとは断定できなかった。この地点は造成以前、東と西の田畑の境界地でもあり、西側の田畑は東側に比べて約40cm低くなっていたことが解っている。

第Ⅲ層は、層厚約20～35cmを測る。約42.40mで第Ⅲ層は途絶える。この第Ⅲ層では、Ⅲ-3・4・6・7層とⅢ-5層、Ⅲ-8層とⅢ-9層、Ⅲ-8層とⅢ-8'層、Ⅲ-8'層とⅢ-8''・10層との各土層間において灰白色(10Y8/1)の極細砂が部分的に堆積しており、大きく二文化土層と考えられるが、分層はできなかった。

第Ⅳ層は層厚約10～35cmを測る。約17.10mと21.80mの間、小河川(SR)を検出する。このSRはレンズ状の底を呈し、灰白色(7.5Y7/1)の砂礫が堆積しており、多量の遺物が出土している。試掘調査でもこのSRを確認している。このSRは幅約1.2mを測り、やや北西方向へ振れる東西方向のSRである。出土遺物は、砥部焼・唐津系・伊万里系・瀬戸美濃系の陶磁器、備前系指鉢、黒瓦、木構、ガラス細片、桃実などを出土し、明治時代前期の小河川と考えられる。

この第Ⅳ層は第Ⅲ層と同様に、Ⅳ-8・9・10層とⅣ-5層、Ⅳ-11層とⅣ-8層、Ⅳ-8層とⅣ-12層の各土層から大きく二文化の上層と考えられる。

第Ⅴ層は黄褐色(2.5Y5/3)極粗砂、灰色(10Y5/1・4/1)粗砂～極粗砂、ブロック状の暗灰黄色(2.5Y4/2)粘土、暗緑灰色(10GY4/1)砂質土、暗緑灰色(10G3/1)シルトなどが互層堆積を成している。層厚約10～40cmを測り、約32.90m地点から西側では暗灰色(N3/)粘土～シルトが厚く堆積している。更に、約40.10mから以西では黒褐色(10YR3/1)シルトが堆積しているため、この第Ⅴ層は洪水による堆積層と考えられる。この第Ⅴ層上面からSK・SPなどを検出する。

第Ⅵ層は層厚約10～25cmを測る。この第Ⅵ層はグライ層であり、黄褐色(10YR5/6)の鬚状斑紋がみられる。東から約34.50m地点で、第Ⅴ層同様に途絶える。この第Ⅵ層上面で小畦畔状遺構と足跡を検出する。出土遺物は、土師器皿、東播系こね鉢の破片などがあり、13世紀代の埋没水田と考えられる。

第Ⅶ層は黒褐色(2.5Y3/1)粘土で層厚約10～25cmを測り、11～12世紀にかけての土層

を包含する土層である。東から約35.50m地点で急激に下降している。また、この第VII層が「イモゴ土壤」ではないかと考えられたため、愛媛大学農学部の高永長則先生に簡易分析をして頂いた。結果、火山灰ガラスの検出はなく「イモゴ土壤」ではなかった。

第VIII層は調査区内で大きく2層に分かれる。北壁土層では第VII層は粗砂礫層として観察しているが、南半分は緑灰色(10GY5/1)シルトが広がり、この緑灰色シルト上面から鋤跡状遺構を検出している。

北壁土層から、プラント・オパール分析(分析編VII-4)のための土壌採取を行い、その採取時の土層(分析編VII-4、図1)と、本土層説明での対比は以下の通りである。

分析土層=本土層説明…III層 a = 第III-8層、III層 b = 第III-9層、IV層 a = 第IV-11層、IV層 b = 第IV-12層、VI層 = 第VI-9層。また、VIII層1は鋤跡状遺跡の直上土壌であり、VIII層2は同遺構の検出面である。

*第5図、土色等説明

第I層：造成土・攪乱土

第II層：現代耕作土

第III層

- 1層：暗オリーブ灰色粘土(2.5GY4/1)、2層：灰黄褐色粘土(10YR4/2)
- 3層：オリーブ灰色粘土(10Y4/2)、4層：暗緑灰色粘土(7.5GY4/1)
- 5層：オリーブ灰色粘土(10Y5/2)、6層：にぶい黄褐色粘土(10YR5/4)
- 7層：暗オリーブ灰色シルト(5GY4/1)
- 8層：灰オリーブ色粘土～シルト(7.5Y5/2)
- 8'層：灰オリーブ色シルト(7.5Y5/2)・8層との境界に灰白色微砂が堆積している(33.80mより以西)
- 8''層：灰オリーブ色シルト(7.5Y5/2)・8'層との境界に灰白色微砂が堆積している(40mより以西)
- 9層：オリーブ灰色シルト(10Y5/2)
- 10層：灰オリーブ色粘土～シルト(7.5Y5/3)

第IV層

- 1層：灰色砂質土(7.5Y4/1)、2層：暗オリーブ灰色粘土(2.5GY4/1)
- 3層：オリーブ灰色砂質土(2.5GY5/1)、4層：暗オリーブ色シルト(5GY4/1)
- 5層：暗緑灰色粘土(10GY4/1)、6層：オリーブ褐色粘土(2.5Y4/4)
- 7層：オリーブ褐色砂質土(2.5Y4/3)、8層：暗緑灰色粘土(7.5GY4/1)
- 9層：暗青灰色粘土(10BG3/1)・IV-8層混じり
- 10層：暗緑灰色粘土(5G4/1)、11層：暗青灰色シルト(5B4/1)
- 12層：灰色粘土(5Y4/1)、13層：暗青灰色シルト(10BG4/1)
- 14層：オリーブ灰色シルト(10Y5/2)、15層：褐色シルト(10YR4/4)
- 16層：灰色シルト(10Y4/1)

第VI層

- 1層：暗灰色粘土～シルト(N3/)、2層：暗緑灰色粘土(10G4/1)
- 3層：緑灰色シルト(5G5/1)、4層：暗青灰色シルト(10BG4/1)
- 4'層：暗青灰色シルト(10BG4/1)・暗灰色シルト(N3/)混じり
- 5層：黄褐色シルト(2.5Y5/4)、6層：暗緑灰色粘土～シルト(10GY4/1)
- 7層：灰色シルト(10YR5/6)、8層：灰色シルト(N4/)
- 9層：暗緑灰色シルト(7.5GY4/1)、10層：褐灰色粘土～シルト(10YR4/1)

第A層：褐色粘土(7.5YR4/6)

第B層：暗緑灰色砂質土(5G4/1)

第C層：暗灰色粘土～砂質土(N3/)

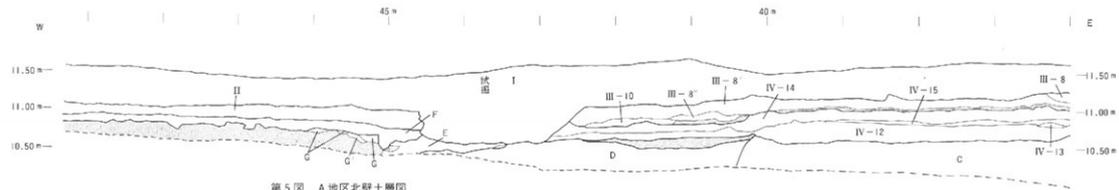
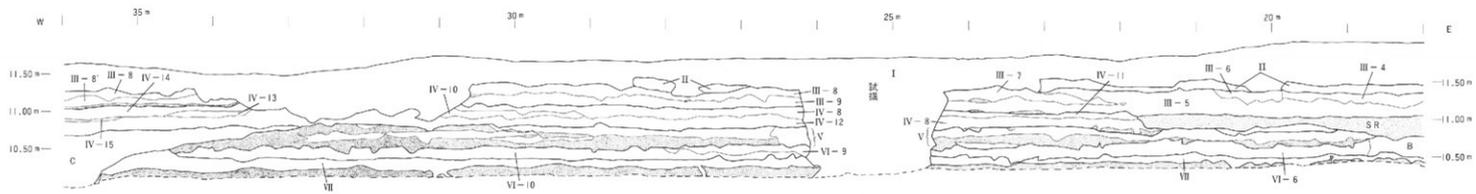
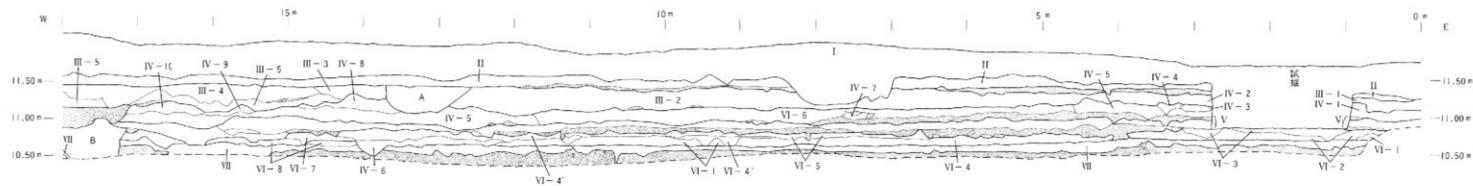
第D層：黒褐色シルト(10YR3/1)

第E層：褐灰色シルト(10YR5/1)

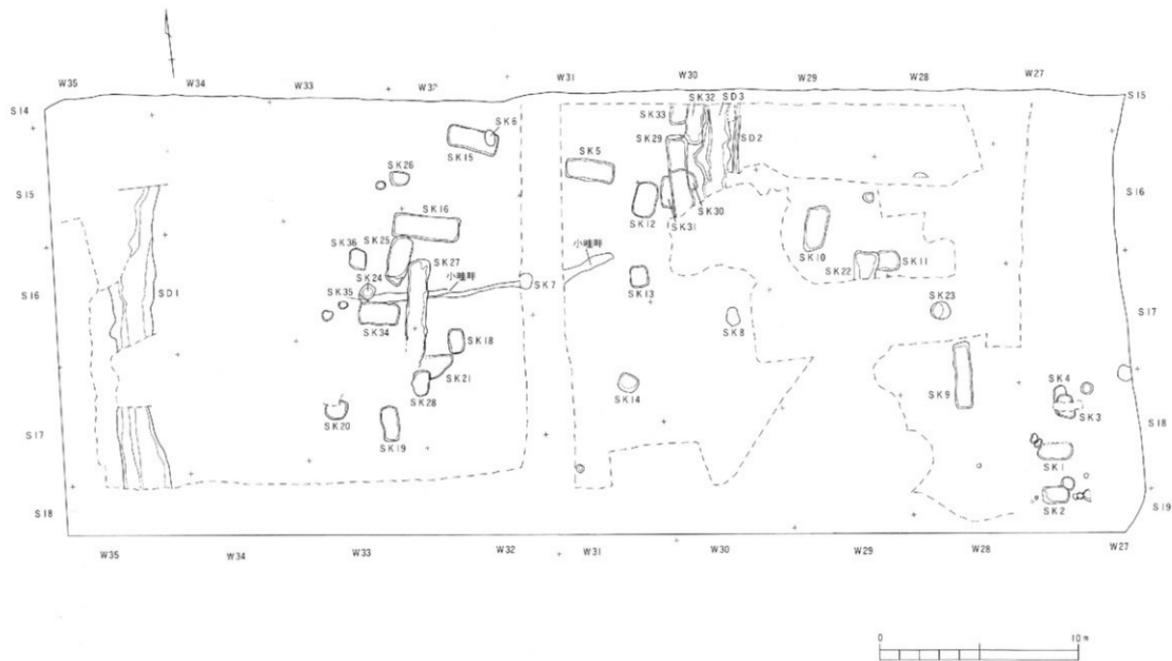
第G層：緑灰色粘土～シルト(10G6/1)

第G'層：緑灰色砂質土(10G6/1)

*点線は微砂や粗砂礫層である。また、第V層の土色等は付記していない。



第5图 A地区北段土层图



第6图 A地区遺構平面図

3 遺構・遺物

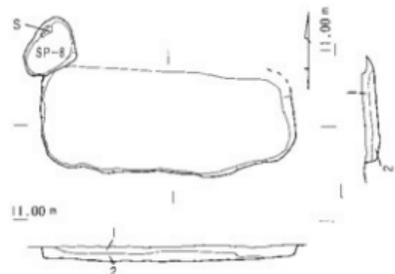
調査区は、以前の工事関係の掘削により部分的に第V層あるいは第VI層まで及んでいることもあり、それぞれの遺構確認層に違いがみられる。検出された遺構は、土坑35基、溝3条、小畦状遺構1条、鋤跡状遺構、柱穴15基である。

土坑状遺構

土坑35基を検出した。そのうち3基から埋葬遺体を出土した。

SK-1 (第7図)

SK-1はS18W27に所在し、確認面は第VI層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.96m、短軸約0.90m、深さ約0.10mを測る。長軸方向はN-90°-Eで東西方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は二層に分かれ、上層は暗緑灰色砂質土、下層は暗青灰色シルトである。出土遺物はない。



第7図 SK-1測量図

SK-2 (第8図)

SK-2はS18W27に所在し、確認面は第V層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.29m、短軸約0.79m、深さ約0.26mを測る。長軸方向はN-90°-Eで東西方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は暗緑灰色粘土と暗灰色粘土で、オリーブ灰色細砂・暗緑灰色細砂がみられる。出土遺物はない。



第8図 SK-2測量図

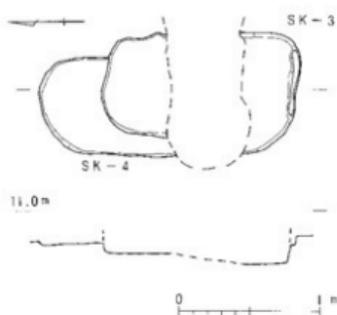
SK-3 (第9図)

SK-3はS18W27に所在し、確認面は第VI層で、SK-4を切って掘り込まれている。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.36m、短軸約0.86m、深さ約0.20mを測り、中央部が攪乱を受けている。長軸方向はN-0°-Eと磁北方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は暗緑灰色粘土である。出土遺物はない。

SK-4 (第9図)

SK-4はS18W27に所在し、確認面は第VI層でSK-3に切られて検出する。平面形は隅丸長方形で、長軸約0.97m、短軸約0.68mを測り、深さは不明である。長軸方向はN-1°

—Wでほぼ磁北である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は暗緑灰色粘土である。出土遺物はない。



第9図 SK-3・4測量図

SK-5 (第10図)

SK-5はS15W31に所在し、確認面は第V層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約2.24m、短軸約1.70m、深さ約0.24mを測る。長軸方向は $N-80^{\circ}-W$ で東西方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面からやや直にたち上がる。埋土は緑灰色砂質土で、ブロック状の緑灰色砂質土と緑黑色粘土などが見られる。出土遺物には図示したものの他、白磁碗・瓦器・土師器・土鍋・黒色土器の破片がある。

SK-5出土遺物 (第11図)

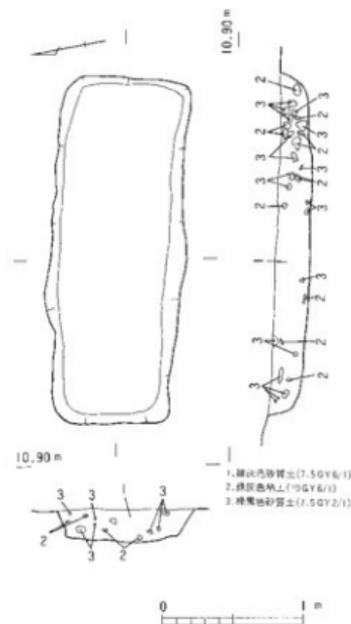
1は白磁碗の底部片である。断面逆台形状の高台を削り出している。高台径約5.8cmを測り、灰白色の釉がかかっている。



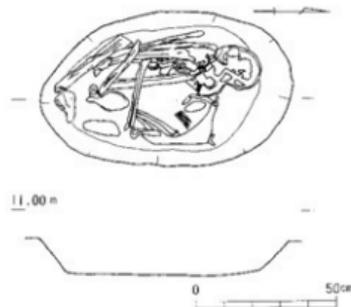
第11図 SK-5出土遺物実測図

SK-6 (第12図)

SK-6はS15W31に所在し、確認面は第V層である。SK-15を切って掘られている。



第10図 SK-5測量図



第12図 SK-6測量図

平面形は楕円形に近く、長軸約0.84m、短軸約0.38m、深さ約0.12mを測る。長軸方向はN-0°-Eで磁北に沿う。断面形は逆台形を呈し、壁は床面から播鉢状にたち上がる。埋土は緑灰色砂質土である。埋葬遺体1体を検出している。埋葬方法は、西向き北枕の屈葬である。この出土遺体についての鑑定は、分析編VII-1に掲載している。副葬遺物はなく、土師器・土鍋の細片が出土している。

SK-7 (第13図)

SK-7はS16W31・32に所在し、試掘トレンチにより大部分が削平されている。確認面は、遺構の西層で第VI層からである。平面形は隅丸方形で、長軸約0.58m、短軸約0.53m、深さ約0.08mを測る。長軸方向はN-2°-Eでほぼ磁北である。断面形は逆台形を呈し、床面には起伏がみられる。壁は床面から播鉢状にたち上がる。埋土は黒褐色粘土である。埋葬遺体と思われる骨片を出土するが、削平のため骨の残存が悪く埋葬方法は不明である。副葬遺物に土師器杯1点がある。

SK-7出土遺物 (第14図)

2は土師器杯の完形品である。口径10.6cm、器高4.0cmを測る。底面は回転糸切りで、内外面とも撫で調整である。

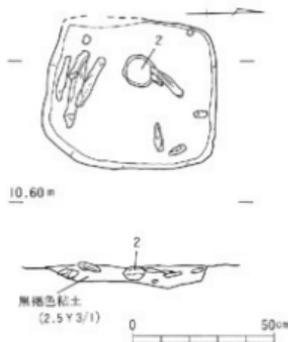
SK-8 (第15図)

SK-8はS17W30に所在し、確認面は第V層である。平面形は楕円形に近く、長軸約0.93m、短軸約0.67m、深さ約0.14mを測る。長軸方向はN-0°-Eでほぼ磁北に沿う。断面形は逆台形を呈し、壁は床面から播鉢状にたち上がる。埋土は暗緑灰色粘土である。埋葬遺体1体を検出している。埋葬方法は、東向き北枕の屈葬である。この出土遺体と埋土の残留脂肪酸についての鑑定及び分析は、分析編VII-1・3に掲載している。

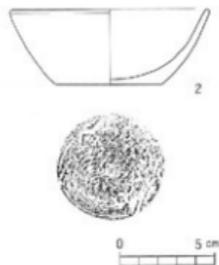
また、歯牙には黒色染料の付着がみられ、第6次上層調査D区で検出されたSK-57出土の黒色染料付着の歯牙と比較分析し、その結果を分析編VII-2に掲載している。副葬遺物に土師器杯1点があり、他に土鍋の細片が出土している。

SK-8出土遺物 (第16図)

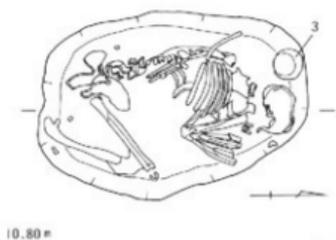
3は土師器杯の完形品である。口径10.3cm、器高5.6cmを測る。底面は静止糸切りで、内外面とも撫で調整を施している。



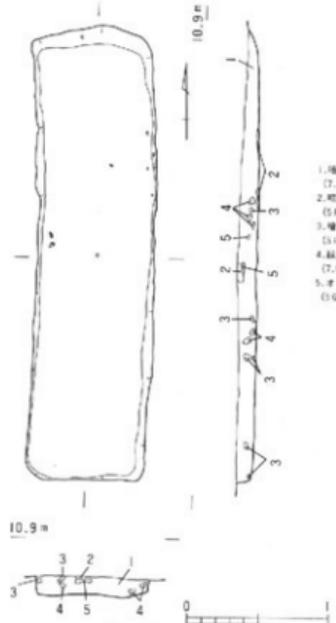
第13図 SK-7測量図



第14図 SK-7出土遺物
実測図

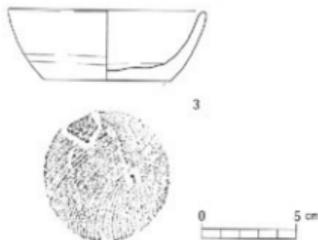


第15図 SK-8測量図



第17図 SK-9測量図

1. 暗緑灰色砂質土 (T.S. 14/1)
2. 暗黄灰色粘土 (S.P. 3/1)
3. 暗青灰色粘土 (S.P. 4/1)
4. 緑灰色粘土 (T.S. 5/1)
5. オリーブ灰色細砂 (S.G. 5/1)



第16図 SK-8出土遺物実測図

SK-9 (第17図)

SK-9はS17・18W28に所在し、確認面は第VI層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約3.20m、短軸約0.80m、深さ0.13mを測る。長軸方向はN-0°-Eでほぼ磁北である。壁は南側で、床面から直に立ち上がり、北側では緩やかに立ち上がる。埋土は暗緑灰色砂質土で、ブロック状の暗青灰色粘土・緑灰色粘土・細砂などがみられる。出土遺物には、土師器柄・土師器皿(底面回転糸切り)・摩滅した土師器などの細片がある。

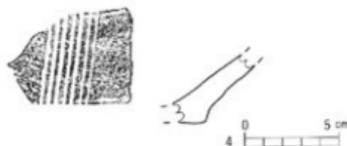
SK-9の規模は、南江戸岡目遺跡で検出されたSK-4と同一の規格性がみられる。

SK-10 (第18図)

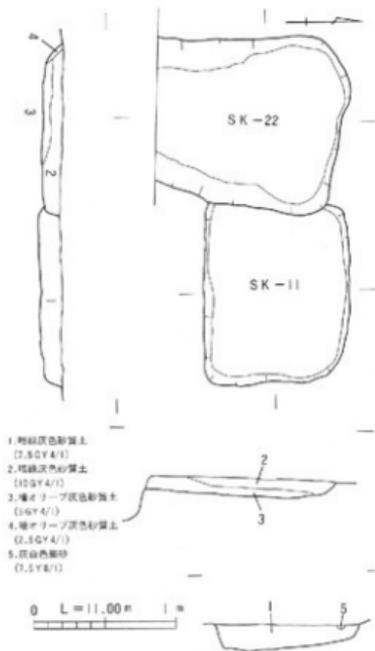
SK-10はS16W29に所在し、確認面は第VI層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約2.33m、短軸約0.94m、深さ0.70mを測る。長軸方向はN-7°-Eである。断面形は逆台形を呈し、壁は床面からやや直に立ち上がる。埋土は、暗緑灰色粘土である。出土遺物には図示したものその他、土師器・瓦器の細片がある。

SK-10出土遺物（第19図）

4は備前焼播鉢の底部である。内面に7条の菊目が施されている。



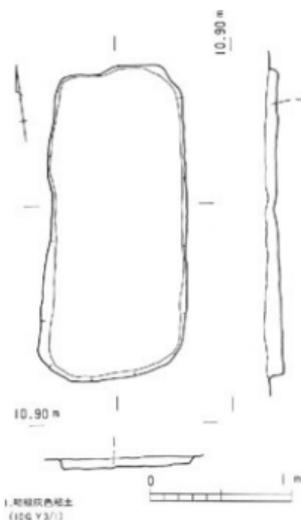
第19図 SK-10出土遺物実測図



第20図 SK-11・22測量図

SK-22（第20図）

SK-22はS16W29に所在し、確認面は第VI層である。SK-11の西肩を切って掘られている。平面形は隅丸方形で、検出された長軸は約1.35m、短軸約1.18m、深さ約0.14mを測る。長軸方向はN-0°-Eで磁北に沿う。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から播



第18図 SK-10測量図

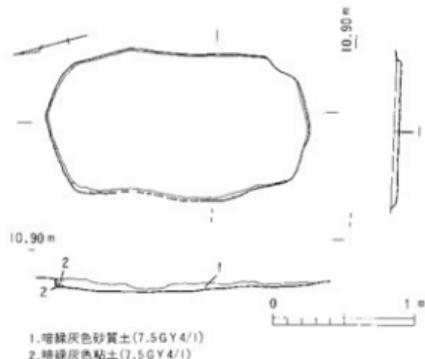
SK-11（第20図）

SK-11はS16W28・29に所在し、確認面は第VI層である。西肩からSK-22が掘られている。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.20m、短軸約1.01m、深さ0.16mを測る。長軸方向はN-90°-Eの東西方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は床面から直にたつち上がる。埋土は暗緑灰色砂質土で、ブロック状の灰白色細砂がみられる。出土遺物には、土師器の細片がある。

鉢状にたち上がる。埋土は暗緑灰色砂質土・暗オリーブ灰色砂質土などである。出土遺物には、土師器の細片がある。

SK-12 (第21図)

SK-12はS16W30・31に所在し、確認面は第VI層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.83m、短軸約1.06m、深さ0.02~0.07mを測る。長軸方向はN-15°-Eである。壁の南側は床面から緩やかにたち上がり、北側は直に立ち上がる。埋土は暗緑灰色砂質土で、ブロック状の暗緑灰色粘土がみられる。出土遺物には、摩滅した土師器細片がある。



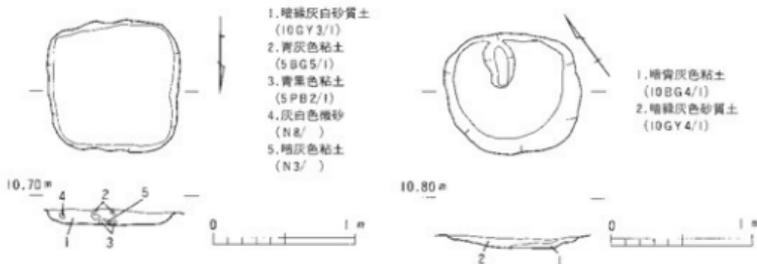
第21図 SK-12測量図

SK-13 (第22図)

SK-13はS16W31に所在し、確認面は第VI層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約0.91m、短軸約0.88m、深さ0.12mを測る。長軸方向はN-90°-Eである。断面形はレンズ状を呈し、壁は床面から緩やかにたち上がる。埋土は暗緑灰色砂質土で、ブロック状の青黒色粘土・暗灰色粘土・青灰色粘土・微砂などがみられる。出土遺物には、瓦器・土鍋の細片がある。

SK-14 (第23図)

SK-14はS17W31に所在し、確認面は第VI層である。平面形は隅丸で円形に近い方形で、長軸約0.93m、短軸約0.85m、深さ0.06mを測る。長軸方向はN-55°-Wである。断面形はレンズ状を呈し、壁は床面から緩やかにたち上がる。埋土は二層に分かれ、上層は暗緑灰色砂質土、下層は暗青灰色粘土である。出土遺物はない。

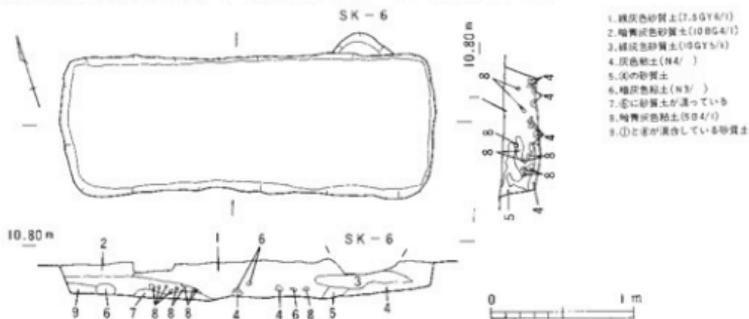


第22図 SK-13測量図

第23図 SK-14測量図

SK-15 (第24図)

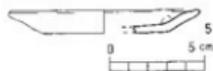
SK-15はS15W32に所在し、確認面は第V層である。北東部分をSK-6に切られる。平面形は隅丸長方形で、長軸約2.25m、短軸約0.92m、深さ0.26mを測る。長軸方向はN-73°-Wである。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は緑灰色砂質土を基層として暗灰色粘土・暗青灰色粘土・灰色粘土などのブロック状の混入がみられる。出土遺物には、図示できなかったものに瓦器・土鍋の細片がある。土坑墓と比較するため埋土の脂肪酸分析を行い、結果を分析編VII-3に掲載している。



第24図 SK-15測量図

SK-15 出土遺物 (第25図)

5は土師器皿である。口縁端部をやや上に曲げる「て」の字状のものである。口径約9.6cm、器高1.2cmを測る。内外面とも撫で調整である。



第25図 SK-15 出土遺物
実測図

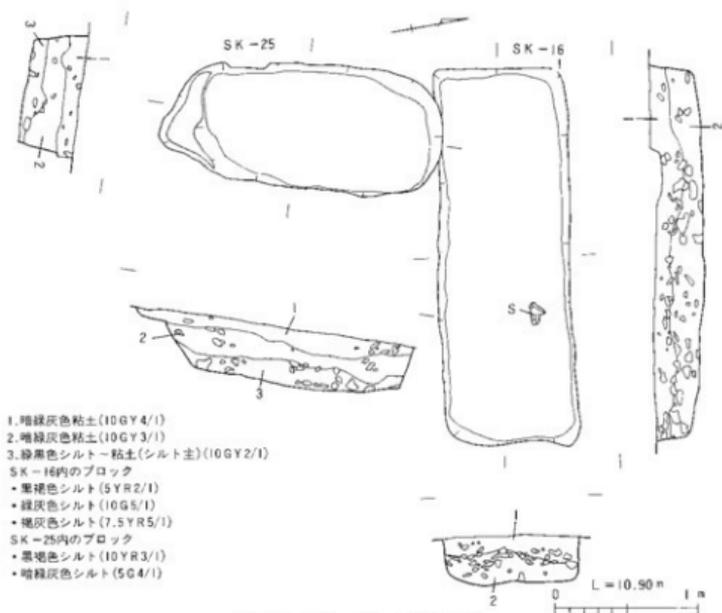
SK-16 (第26図)

SK-16はS16W32・33に所在し、確認面は第V層である。南側の一部からSK-25が掘り込まれている。平面形は隅丸長方形で、長軸約2.86m、短軸約0.95m、深さ0.33mを測る。長軸方向はN-82°-Wの東西方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は大きく二層に分かれ、上層は暗緑灰色粘土、下層は暗緑灰色粘土に緑灰色シルト・黒褐色シルトなどのブロックが多数混入している。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師器・黒色土器の細片と緑泥片岩1点がある。

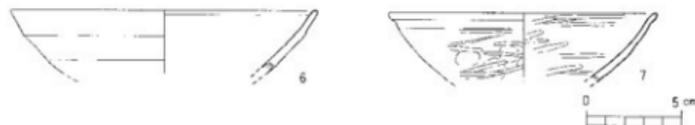
SK-16 出土遺物 (第27図)

6は土師器碗の口縁部である。口径16cmを測り、内外面ともに磨きが施されている。

7は瓦器碗の口縁部である。口縁は外反し端部を丸くおさめている。口径14cmを測る。内面に横方向の暗文、外面には指頭痕と磨きがあり、口縁部は横撫でされている。和泉型瓦器碗である。



第26図 SK-16・25測量図



第27図 SK-16出土遺物実測図

SK-25 (第26図)

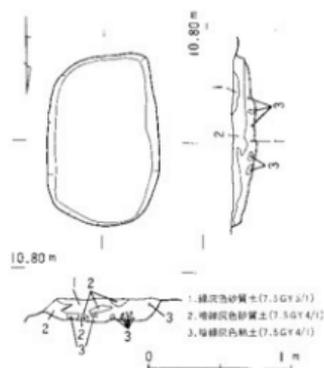
SK-25はS16W32・33に所在し、確認面は第V層である。SK-16を切って掘られてい
る。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.95m、短軸約0.87m、深さ約0.39mを測る。長軸方向
はN-19°-Eの南北方向である。断面形は逆台形を呈し、南側に一段平坦な面がある。壁
は平坦な床面から直に立ち上がる。埴土は大きく三層に分かれ、上層は暗緑灰色粘土、中層
も暗緑灰色粘土、下層は緑黑色シルトで、SK-16と同様のブロックが多数混在している。
ある。出土遺物はない。

SK-17

SK-17はS16W32において検出したが、表面精査で消失した。

SK-18 (第28図)

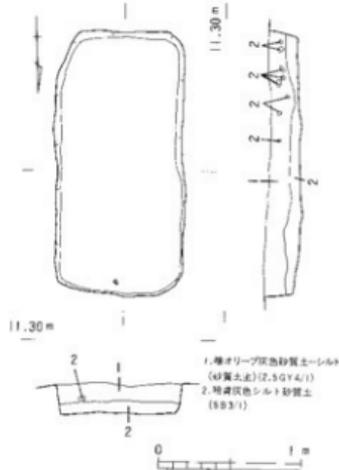
SK-18はS17W32に所在し、確認面は第VI層である。東側は削平を受けている。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.14m、短軸約0.82m、深さ約0.17mを測る。長軸方向はN-0°-Eと磁北である。断面形は逆台形を呈し、床面に起伏がみられる。壁は床面から直にたち上がる。埋土は二層に分層でき、上層は暗緑灰色砂質土、下層は緑灰色砂質土にブロック状の暗緑灰色粘土などがみられる。出土遺物には、土師器の細片がある。



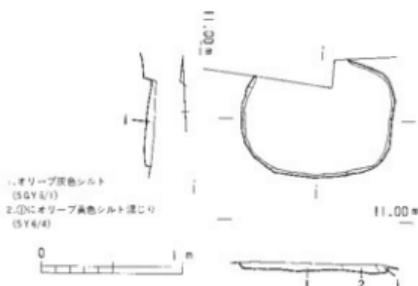
第28図 SK-18測量図

SK-19 (第29図)

SK-19はS17W33に所在し、確認面は第V層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.82m、短軸約0.83m、深さ約0.20mを測る。長軸方向はN-0°-Eと磁北に沿う南北方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は二層に分かれ、上層は暗オリーブ灰色砂質土、下層は暗青灰色シルトである。上層中にブロック状の下層が混入している。出土遺物には黒色土器・土師器の細片と、外面に細線蓮弁文の青磁碗の破片1点がある。



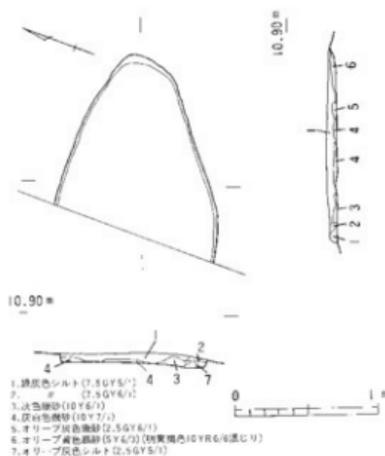
第29図 SK-19測量図



第30図 SK-20測量図

SK-20 (第30図)

SK-20はS17W33に所在し、確認面は第VI層である。北側は削平を受けている。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.50m、短軸約0.61m、深さ約0.06mを測る。長軸方向はN-86°-Wと東西方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土はオリーブ灰色シルトとオリーブ黄色シルトである。出土遺物はない。



第31図 SK-21測量図

SK-23 (第32図)

SK-23はS17W28に所在し、確認面は第VIII層の砂礫層からである。平面形は隅丸方形あるいは円形で、長軸約0.94m、短軸約0.88m、深さ約0.33mを測る。壁の東側は床面から緩やかに内湾しながら立ち上がり、西側にやや平坦な床をもち、直に立ち上がる。埋土は黒褐色砂質土に緑黒色粘土・黄色土・粗砂などがみられる。埋土の黒褐色砂質土について花粉分析を行い、結果を分析編VII-5に掲載している。出土遺物には図示したものの他、瓦器の細片がある。

SK-23出土遺物 (第33図)

8は土師器碗の底部である。断面三角形の高台を貼り付けている。内外面とも撫で調整である。

9・10・11はともに土師器皿である。いずれも底面回転糸切りで、内外面とも撫で調整である。11の底面には板状圧痕がみられる。

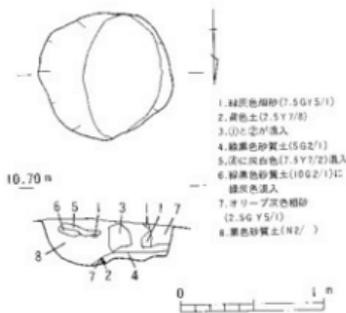
12は土師質の土鍋である。内外面には撫で調整がみられる。

SK-24 (第34図)

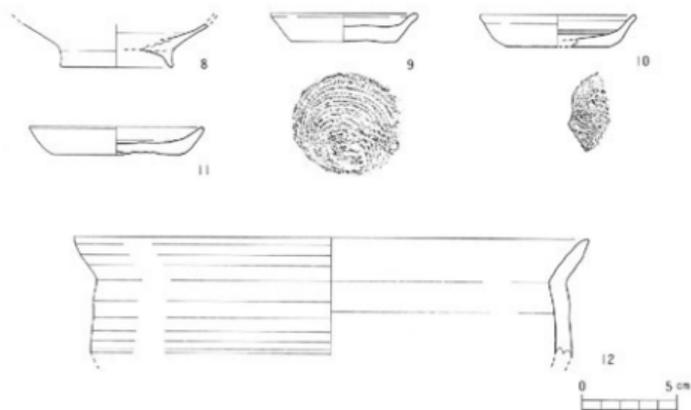
SK-24はS16W33に所在し、確認面は第V層である。SK-35を切って掘り込まれている。平面形は隅丸方形で、長軸約0.76m、短軸約0.70m、深さ約0.12mを測る。長軸方向はN-47°-Eである。断面形はレンズ状を呈し、壁は床面から緩やかに立ち上がる。

SK-21 (第31図)

SK-21はS17W32に所在し、確認面は第VI層である。西側が削平を受けているため、平面形は楕円形と思われる、東半分のみ検出した。検出した長軸は約1.39m、短軸約1.02m、深さ約0.07mを測る。長軸方向はN-70°-Eの東西方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直に立ち上がる。埋土は上層に緑灰色シルト、下層に微砂が堆積している。床面からSK-28を検出する。出土遺物には、摩滅した土師器細片がある。



第32図 SK-23測量図

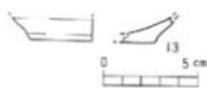


第33図 SK-23出土遺物実測図

埋土は大きく二層に分かれ、上層は暗緑灰色砂質土、下層は黒褐色シルトで、ブロック状の緑灰色シルト・黒褐色シルトなどがみられる。出土遺物には図示したもの他、土師器細片がある。

SK-24 出土遺物 (第35図)

13は土師器杯の底部である。底面は回転糸切りで、内外面とも撫で調整である。



第35図 SK-24 出土遺物実測図

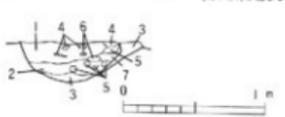
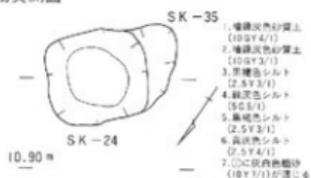
SK-35 (第34図)

SK-35はS16W33に所在し、確認面は第V層である。

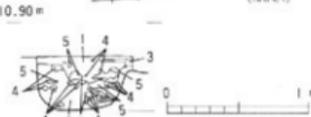
SK-24に大部分切られているため、検出できた平面形は楕円形で、長軸約0.62m、短軸約0.20m、深さ約0.06mを測る。壁は緩やかにたち上がる。埋土は黒褐色シルトである。出土遺物はない。

SK-26 (第36図)

SK-26はS15W32・33に所在し、確認面は第V層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約0.86m、短軸約0.68m、深さ約0.38mを測る。長軸方向はN-85°-Wの東西方向である。断面形はU字状を呈し、壁は床面から緩やかにたち上がる。埋土は大きく二層に分かれ、上層は暗緑灰色粘土、下層は暗緑



第34図 SK-24・35測量図



第36図 SK-26測量図

灰色粘土で、ブロック状の緑灰色砂質土・紫黑色粘土などがみられる。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土鍋の細片がある。

SK-26 出土遺物 (第37図)

14は土師器杯あるいは円盤高台の椀と思われる。摩滅のため底面の切り離しは不明である。



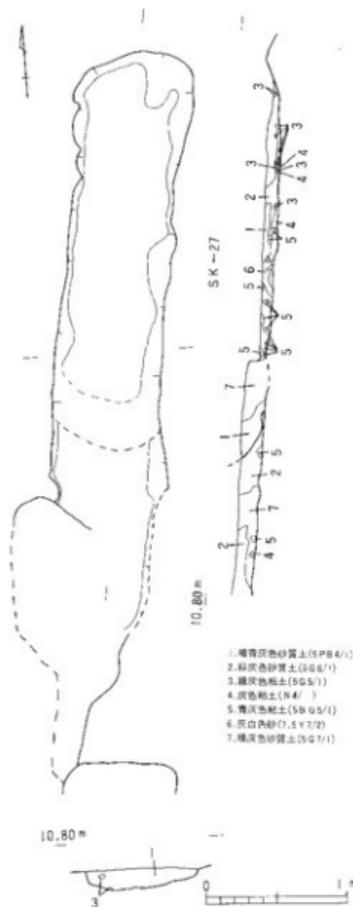
第37図 SK-26
出土遺物実測図

SK-27 (第38図)

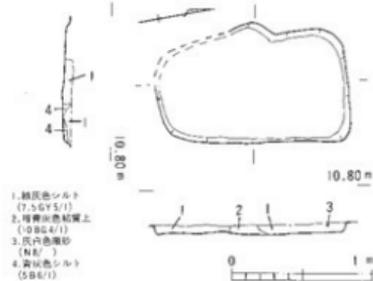
SK-27はS 16W32・33に所在し、確認面は第V層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約4.50m、短軸約0.78m、深さ約0.10～0.12mを測る。長軸方向はN-8°-Eの南北方向である。断面形はレンズ状を呈し、壁は平坦な床面から緩やかにたち上がる。埋土は暗青灰色砂質土・緑灰色砂質土にブロック状の緑灰色粘土・灰色粘土・青灰色粘土などが混入している。出土遺物には、土師器細片がある。

SK-28 (第39図)

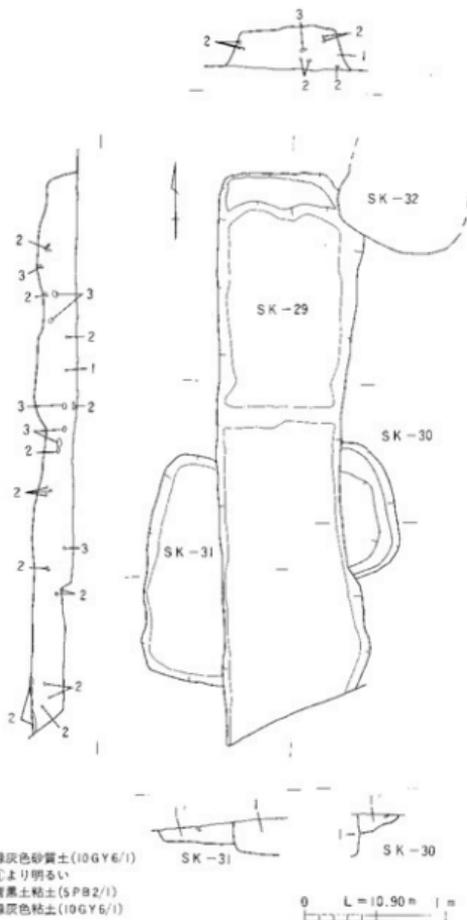
SK-28はS 17W32・33に所在し、SK-21の床面から検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.37m、短軸約0.86m、深さ約0.07mを測る。長軸方向はN-12°-Eである。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は緑灰色シルト・暗青灰色粘質土・青灰色シルトなどである。出土遺物はない。



第38図 SK-27測量図



第39図 SK-28測量図



第40図 SK-29・30・31測量図

面四角形の高台が貼り付けられている。内外面とも撫で調整を施している。17は底部で、底面回転糸切りで円盤高台のものである。

20は土師器皿である。口縁端部を上方向に少し折り曲げ、「て」の字状にしている。内外面とも撫で調整を施している。

19は瓦器碗である。推定口径14cmを測る。口縁はやや外反し、撫で調整が施されている。内外面に暗文が施され、外面には指痕度も見られる。

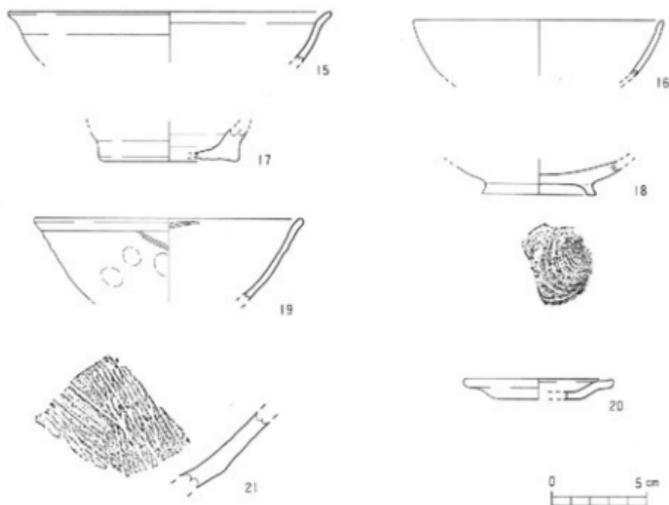
SK-29 (第40図)

SK-29はS15・16W30に所在し、確認面は第VI層である。SK-30・31を切って掘られ、南端は削平されている。平面形は隅丸長方形で、長軸約3.70m以上、短軸約0.92m、深さ約0.30mを測る。長軸方向はN-0°-Eで磁北である。床面には起伏がある。断面形は逆台形を呈し、壁は床面から直にたち上がる。埋土は緑灰色砂質土に若干の青黒色粘土・緑灰色粘土のブロックがみられる。出土遺物には図示したものの他、瓦質鉢・土鍋の細片がある。

SK-29出土遺物(第41図)

15~18は土師器碗である。15は口径16.8cmを測り、口縁部は外反し端部を丸く仕上げている。内外面とも撫で調整を施している。16は口径13cmを測り、口縁部は内弯しながら立ち上がる。内外面とも撫で調整を施している。18は底部で高台径5.6cmを測る。底面は回転糸切りされた後に断

21は土師質播鉢である。内面に6条の櫛目が放射状に施されている。



第41図 SK-29出土遺物実測図

SK-30 (第40図)

SK-30はS16W30に所在し、確認面は第VI層である。SK-29に切られているため、平面形は隅丸の方形あるいは長方形と思われる。検出した長軸は約2.40m、短軸約1.86m、深さ約0.06mを測る。断面形はレンズ状を呈し、壁は床面から緩やかにたち上がる。埋土は緑灰色砂質土である。出土遺物には、土鍋細片がある。

SK-31 (第40図)

SK-31はS16W30に所在し、確認面は第VI層である。SK-29に東側を切られているため、平面形は隅丸の方形あるいは長方形と思われる。検出した長軸は約3.30m、短軸約1.00m、深さ約0.12mを測る。長軸方向はN-7°-Eである。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は緑灰色砂質土である。出土遺物には、摩滅した土師器細片がある。

SK-32 (第42図)

SK-32はS16W30に所在し、確認面は第VI層である。北側は調査区外へ広がる可能性がある。SK-33の東側を切って掘り込まれている。平面形は隅丸長方形で、長軸約1.34m、短軸約0.82m、深さ約0.26mを測る。長軸方向はN-15°-Eでほぼ南北方向である。断面

形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は三層に分かれ、上層は緑灰色砂質土、中層は緑灰色砂質土（青灰色粘土混じり）、下層は緑灰色砂質土（やや粘性強い）であり、下層に若干の青灰色粘土・明黄色砂・青灰色粘土のブロックが混入している。出土遺物には、土師器皿（底面回転糸切り）・土鍋の細片がある。

SK-33（第42図）

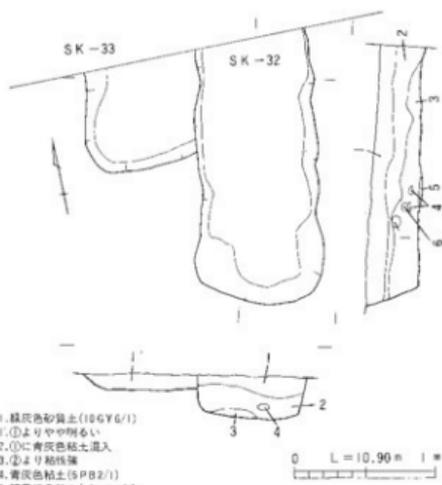
SK-33はS16W30に所在し、確認面は第VI層である。東側をSK-32に切られている。平面形は隅丸方形あるいは長方形と思われ、調査区外へ広がる。検出した東西長は約0.81m、南北長は約0.74m、深さ約0.12mを測る。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から緩やかにたち上がる。埋土は緑灰色砂質土である。出土遺物はない。

SK-34（第43図）

SK-34はS16W33に所在し、確認面は第V層である。平面形は隅丸長方形で、長軸約2.24m、短軸約1.00m、深さ約0.25mを測る。長軸方向はN-80°-Wの東西方向である。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は上層に暗緑灰色粘土、下層に暗緑灰色シルトなど、ブロック状の黄灰色シルトなどがみられる。出土遺物には、土師器碗がある。

SK-34 出土遺物（第44図）

22は土師器碗である。底面が回転糸切りされた後に断面四角形の高台を貼り付けている。



1. 緑灰色砂質土(10GY6/1)
1. ①よりやや明るい
2. ①に青灰色粘土混入
3. ②より粘性強
4. 青灰色粘土(5PB2/1)
5. 明黄色砂土(10YR6/6)
6. 青灰色粘土(5BG5/1)

第42図 SK-32・33測量図



1. 暗緑灰色粘土(10GY4/1)
1. ①に黄灰色シルト(10Y7/1)混入
- ①に②のブロックで混入
2. 暗緑灰色シルト・砂質土(10GY2/1)
2. 底面回転糸切り(10Y7/1)混入
3. 黄灰色シルト(2.5Y4/1)
4. 灰白色砂土(10Y7/1)
5. 暗緑色シルト(2.5Y3/1)

第43図 SK-34測量図

外面には横溝が施されている。

SK-36 (第45図)

SK-36はS16W33に所在し、確認面は第V層である。
平面形は隅丸方形あるいは菱形で、長軸約1.20m、短軸約

1.01m、深さ約0.39mを測る。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直にたち上がる。埋土は二層に分かれ、上層は暗緑灰色粘土、下層は暗緑灰色粘土で、上層に若干のブロック状の暗緑灰色シルトなどがみられる。出土遺物には図示したものの他、土師器・瓦器・土鍋・備前焼播鉢の細片がある。

SK-36出土遺物 (第46図)

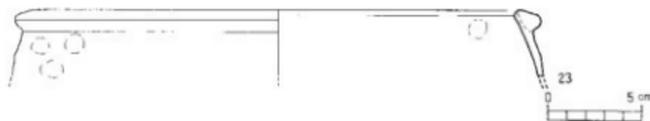
23は土師質の土釜の口縁部で、口径25.8cmを測り、口縁外面に断面三角形の凸帯が貼り付けられている。



第44図 SK-34出土遺物実測図



第45図 SK-36測量図



第46図 SK-36出土遺物実測図

【参考文献】

- *上田 真・水本完児：『南江戸圃日遺跡』松山市教育委員会松山市立埋蔵文化財センター、1991
- *尾上 実：『南河内の瓦器概』『藤沢一夫先生古香記念古文化論叢』、1983
- *間望忠彦：『備前焼』(考古学ライブラリー60)、1991

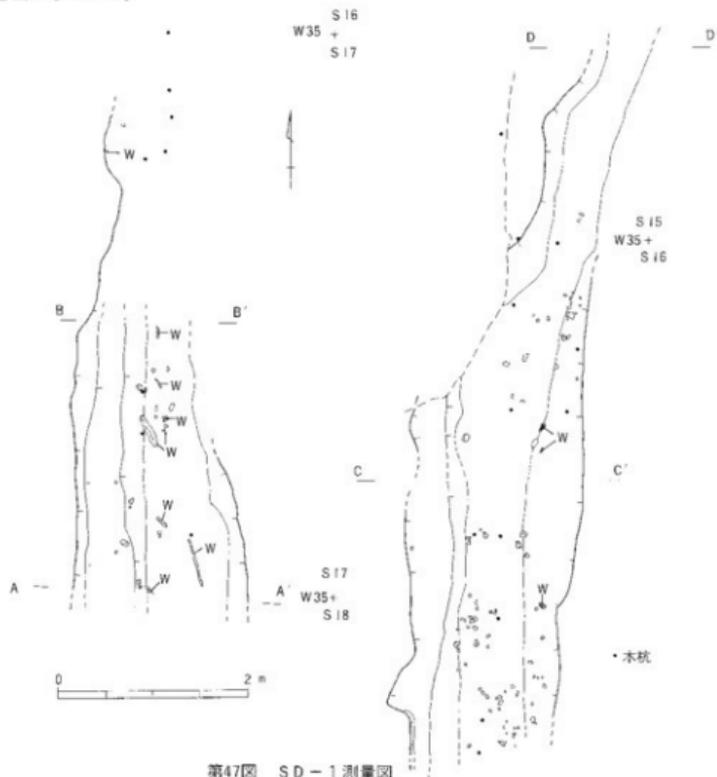
溝状遺構

調査区の西端第IV-a層上面から1条、北東部の第VI層上面から2条、計3条検出した。

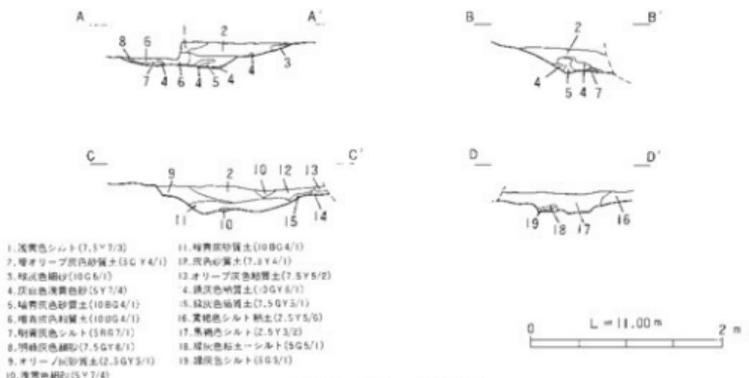
SD-1 (第47・48図)

調査区西のS15~17W35において、第IV-a層上面で検出した南北方向の溝である。この溝は、幅1.80~1.85m、深さ約0.25m、検出長約14mを測る。中央と北西周辺は擾乱を受けている。主軸方向はほぼN-0°-Eで、北側2.3m分はやや北東に振れN-13°-Eを測る。断面形は舟底形を呈し、壁は底面から緩やかに立ち上がり、一段の平坦面を成して緩やかに上がる。埋土は、微砂や細砂を含みだまかに二層に分けられる。上層は暗オリーブ灰色砂質土、下層は青灰色系の砂質土~シルトに若干のブロック状黒褐色粘土などを含む層である。

この溝には、木杭が南北列として19本打ち込まれている。遺物は、近世の陶磁器や瓦などを出土している。



第47図 SD-1測量図



第48図 SD-1土層図

SD-1出土遺物 (第49・50図)

磁器碗 (24~29) 24は染付の端反り碗である。外面に草花文が描かれている。25は染付の丸腰碗である。外面に菊花格子目文、見込みにコンニャク判による五花弁とトチン跡がみられる。26は染付碗で、腰の張った体部に草花が描かれている。27は染付碗で、腰のやや張る丸みのある体部で、呉須は緑色で二条巡っている。28・29は円筒形の碗で、体部は丸ノミによる削り加えられ、明緑灰色の釉がかかっている。29の底部は蛇ノ目凹形高台である。

磁器碗蓋 (30) 30は染付碗蓋で、内面は四方繡文、外面は鱗状の文様が描かれている。

磁器皿 (31~36) 31は口縁を波状にした輪花状の染付皿である。外面は草花文、内面は漬し小文、高台内面に「夾」の文字が描かれている。32は口縁を波状にした輪花状の皿である。全体に摩滅がひどい。高台部と見込み部を除いて明緑灰色の釉がかかっている。33は染付皿で、内面に二重の格子文が描かれている。34・35は染付皿で、底部は蛇ノ目凹形高台である。34は内面に五花文が描かれ、トチン跡が残る。35は内面に花文とトチン跡が残る。36は染付皿で、外面に草花文、内面に五花文が描かれている。

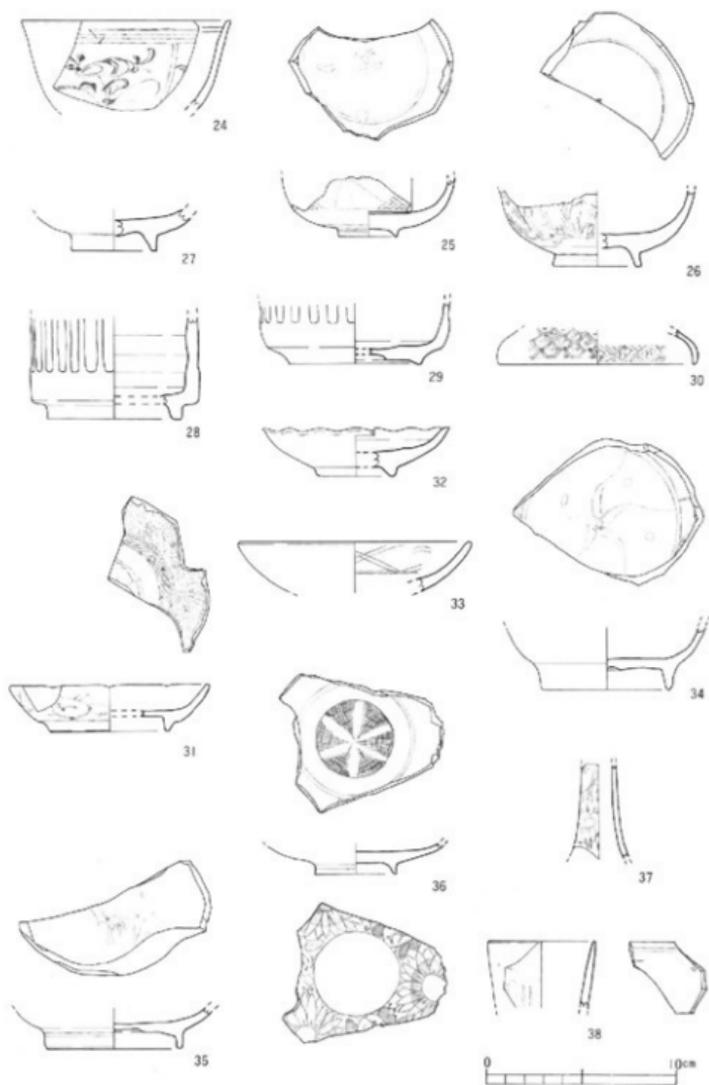
磁器徳利 (37) 37は染付徳利で、外面に胡唐草文が描かれている。

磁器猪口 (38) 38は染付猪口で、外面に草花文、内面に文字が描かれている。

陶器碗 (39・40・41) 39・40はやや腰の張る体部をもつ。39にはよい黄橙色の釉が内外面にかかっている。40は灰オリーブ色の釉がかかり、灰色の呉須により二条の線が描かれている。41は削り出し高台で、黒色の釉が高台部を除く内外面にかかっており、天目碗とも考えられる。

陶器猪口 (42) 42は猪口で、ロクロ成形のため内外面ともに釉が残る。口縁端部は内側に張り出し、余体がよい赤褐色を呈している。

灯火具 (43) 43は兼燭で、底面回転糸切りの後に孔を開けている。底部を除き、全体に

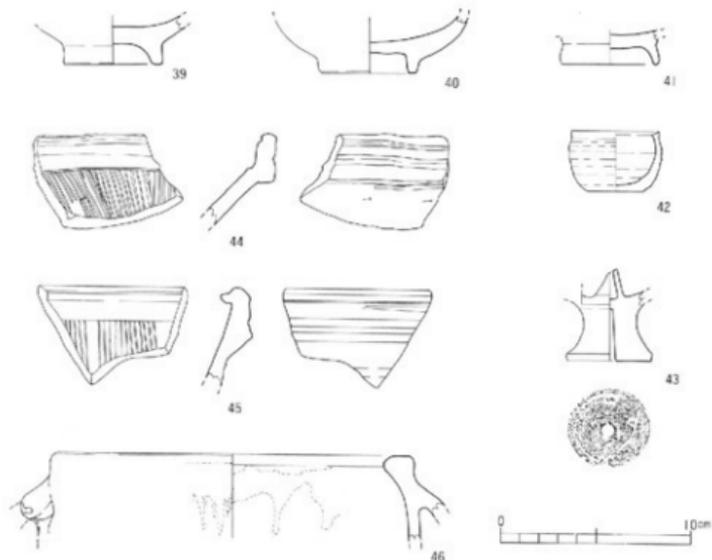


第49图 SD-1 出土文物实测图 (I)

暗オリーブ色の釉がかかっている。

陶器播鉢 (44・45) 44・45ともに、口縁外面に二条の凹線が巡る。44の内面には1単位10条の播目が全体に施されている。45の内面には1単位12条の播目がある。

陶器鉢 (46) 46は取手が付く鉢である。口縁は肥厚し、緑色の釉がかかっている。



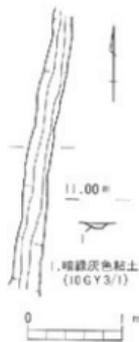
第50図 SD-1出土遺物実測図(2)

SD-2 (第51図)

SD-2はS15W30の第VI層において検出した南北の溝である。検出長約3.00m、幅約0.26m、深さ約0.06mを測る。主軸方向はN-9°-Eである。断面形は逆台形を呈し、壁はやや平坦な床面から斜めに立ち上がる。埋土は、暗緑灰色粘土である。出土遺物はない。

SD-3 (第52図)

SD-3はS15・16W30の第VI層において検出した南北の溝である。検出長約4.50m、幅約1.0~1.9m、深さ約0.08~0.18mを測る。主軸方向はN-10°-Eである。断面形は逆台形を呈し、西側に一段高い平坦面を有し、壁は床面から斜めに立ち上がる。埋土は暗緑灰色砂質土で、若干の緑灰色粘土・微砂がみられる。出土遺物には、摩滅した土師器の細片がある。

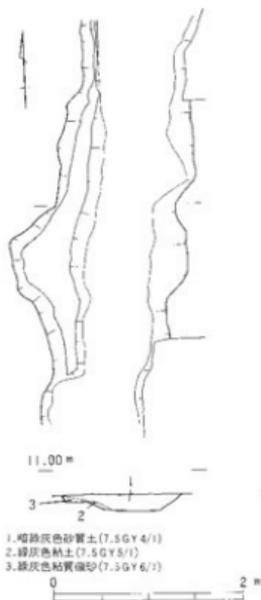


第51図 SD-2測量図

小畦畔遺構 (第53図)

調査区の中央西側 S16W31・32・33の第VI層で確認した東西方向の小畦畔である。検出した畦畔の中央部は、試掘トレンチによって削平を受けている。検出長約10.5m、幅約0.3～0.4m、高さ約0.05mを測る。断面形は東側と西側で蒲針状、中央は段状を呈している。畦畔周辺に多数の人・牛の足跡が残り、これら全ての足跡内に砂が堆積していることから、洪水によって埋没したと思われる。

また、調査区内の第VI層 (S15・16・17W27・28・29) から、同様の砂で埋没した足跡群を確認している。



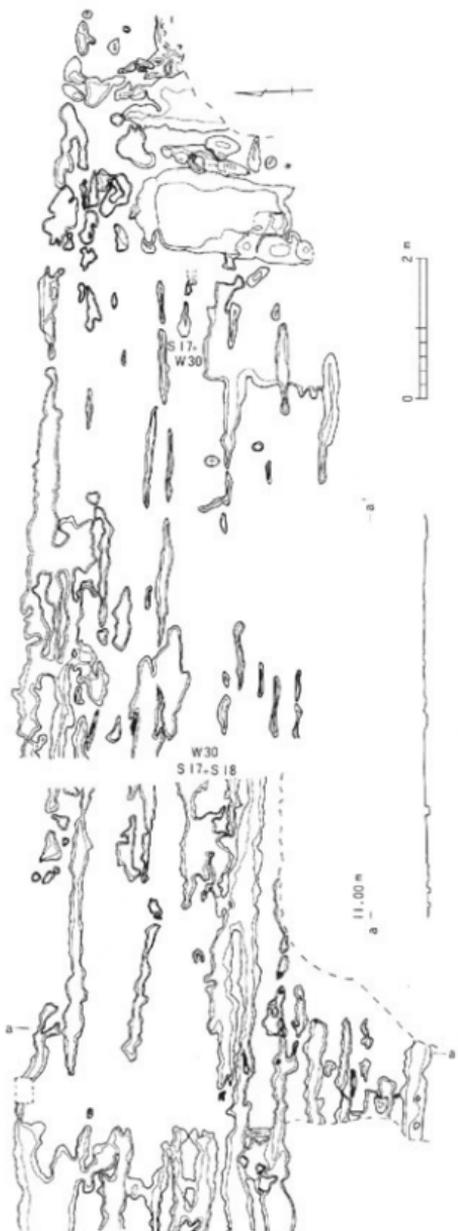
第52図 SD-3測量図



第53図 小畦畔遺構測量図

鋤跡状遺構 (第54図)

調査区の南側 S17・18W29・30・31の第Ⅷ層緑灰色シルト面において検出した東西方向の小溝群である。この小溝群は、検出長約17m、幅約0.1~0.28m、深さ約0.02mを測り、鋤跡と判断した。主軸はE-2°-Sである。埋土は黒褐色粘土で第Ⅶ層と同じ土層である。出土遺物には、土師器・黒色土器などの細片があり、これら遺物は第Ⅶ層の包含遺物と同時期のものである。



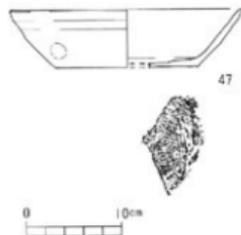
第54図 鋤跡遺構測量図

各層出土遺物

第V層出土遺物 (第55・56図)

47は土師器杯である。底部から斜め方向に直に立ち上がる。口径約12.2cmを測る。底面の切り離しは回転糸切りである。内外面とも撫で調整を施している。

48は北宋銭の「天禧通宝」である。銭径2.43cm、孔径0.63cm、重さ2.69gを測る。



第55図 第V層出土遺物実測図

第VI層出土遺物 (第57図)

第VI層は、小畦状遺構・足跡などを検出した土層である。

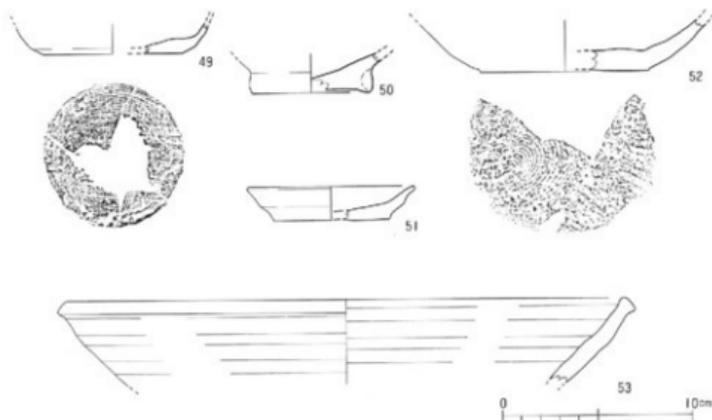
50は土師器碗の底部である。底面は摩滅のため切り離しは不明であり、円盤高台の外面に貼り付けを行い、やや輪高台状にしている。内面は撫で調整が施されている。

49は土師器杯の底部である。底面は回転糸切りで、内面は撫で調整が施されている。

51は土師器皿である。底面は回転ヘラ切りで、内外面とも撫で調整が施されている。



第56図 第V層出土銭拓影図



第57図 第VI層出土遺物実測図

52・53は東播系こね鉢である。52は第VII層出土破片と接合した底部片である。底面に回転糸切り痕が残る。53は口縁部である。口縁断面形は四角形を呈し、内外面とも撫で調整が施されている。

第VII層出土遺物（第58～68図）

上師器碗（第58～63図、54～138）

底部から口縁にかけて残存しているのは、54のみである。54は吉備系上師器碗である。54～80は口縁部である。54～78は口縁が外反し端部を丸く仕上げているものである。この中でも、55は口縁外面に屈曲部を伴う。69は鋭く外反する口縁をもつ。65・74は外面に磨きが施され、61・69は内面に磨きが施されている。77の口縁は外反せず直に立ち上がるものである。78はやや硬質の焼きである。79・80は内湾しながら立ち上がり端部を丸く仕上げている。

81～138は底部である。81～133は輪高台の底部である。87は回転糸切りにより底部が円盤状高台になり、その外側に輪高台として貼り付けている特徴がある。134～138は円盤状高台または平高台のもので、134・135は底面回転糸切りである。138はやや硬質の焼きで底面は糸切りである。

出土した土師器碗の底部の中で特に輪高台の碗について簡単な分類をおこなう。

I群：底面の切り離しが糸切りのもの

II群：底面の切り離しがへら切りのもの

これら輪高台の断面形態からも、四角形（A群）と三角形（B群）に大別できる。また、高台の張り出し方から外方向のもの（1群）と他（2群）に大別でき、分類してみる。

これら輪高台の底部の一部には内面に磨きが残るものもあるが、大部分が摩滅しているため、調整方法による分類は不可能である。

I-A-a群……81・82・83・84・85・86

I-A-b群……87・88・89・90

I-B-a群……91・92・93・94・95・96

I-B-b群……97・98・99・100

II-A-a群……101・102

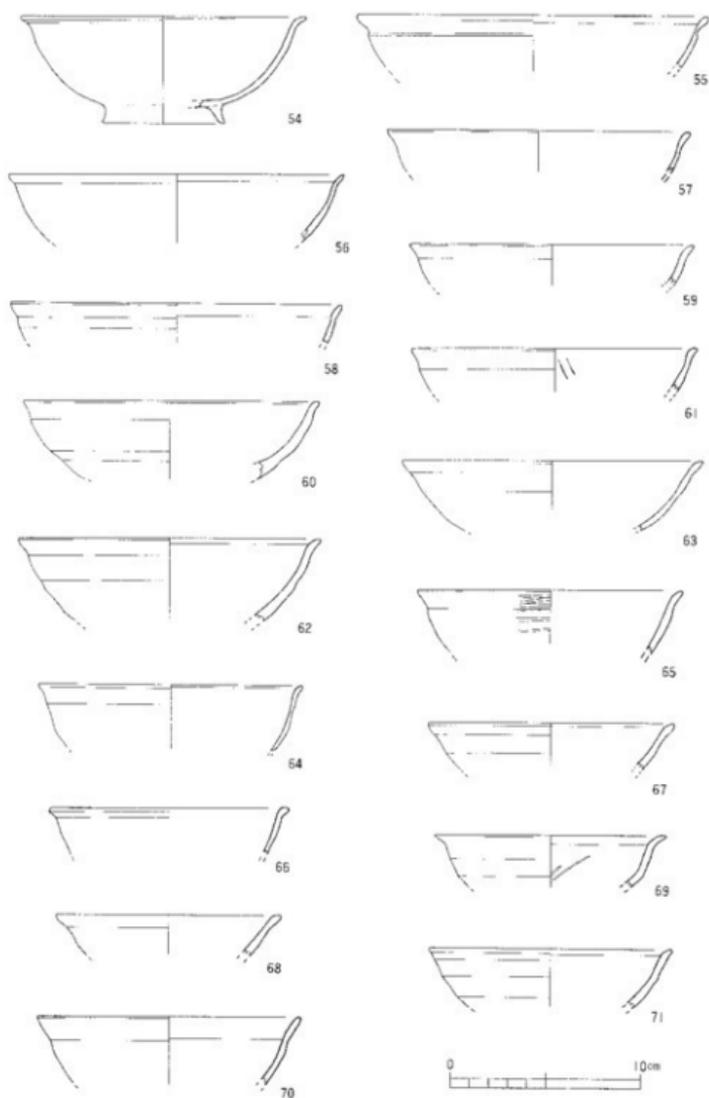
II-B-a群……103・104・105

106～133は底面の切り離しが不明なものであるが、これらの中でも前述のA・B群とa・b群に分類できる。ただし、106・107・108は内面の調整で刷毛目の後に磨きが施されているため、調整方法として一つの群を形成するものとして別にする。

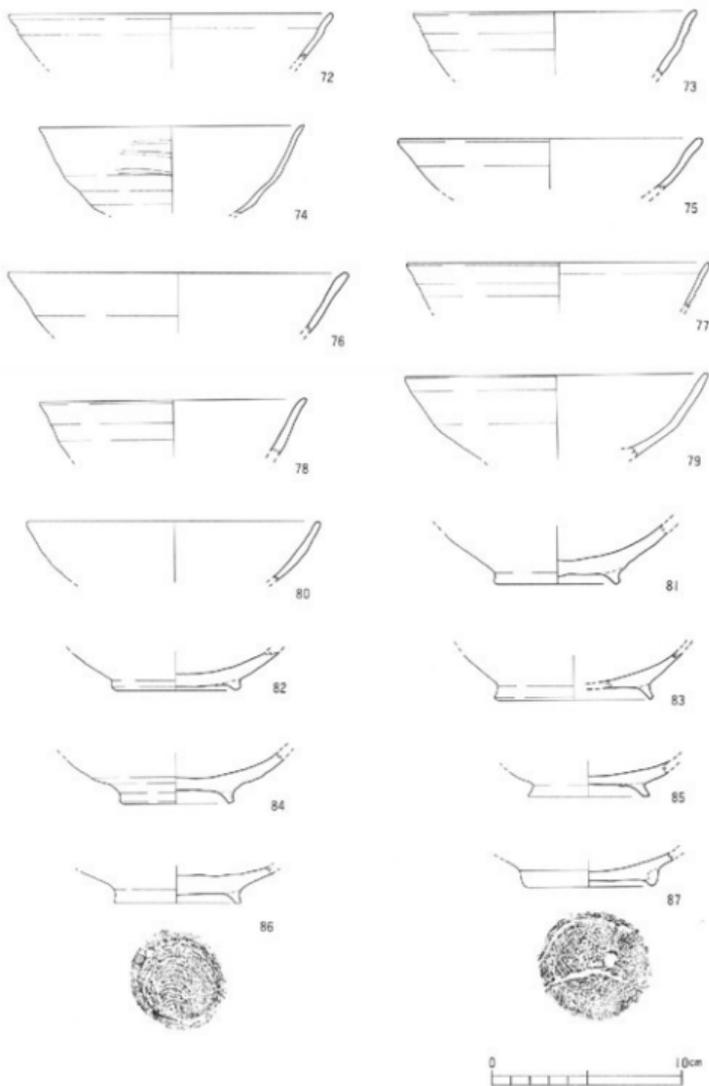
A-a群……109・110・111・112・113・114・115・116・117・118・120・122

A-b群……119・121・123・124・125

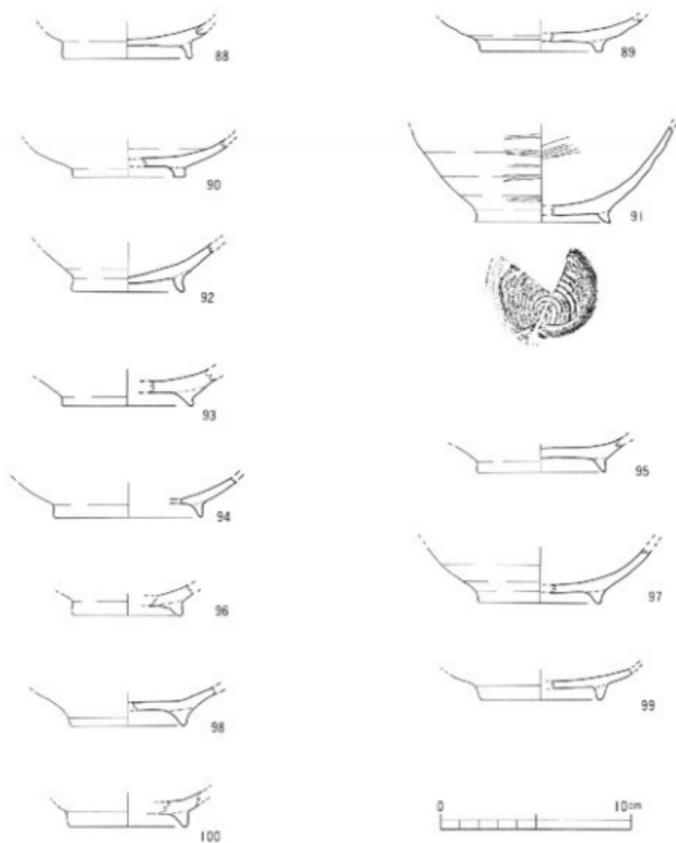
B-a群……126・127・128・129・130・131・132・133



第58图 第VII层出土文物实测图(1)



第59圖 第VII層出土遺物実測図(2)



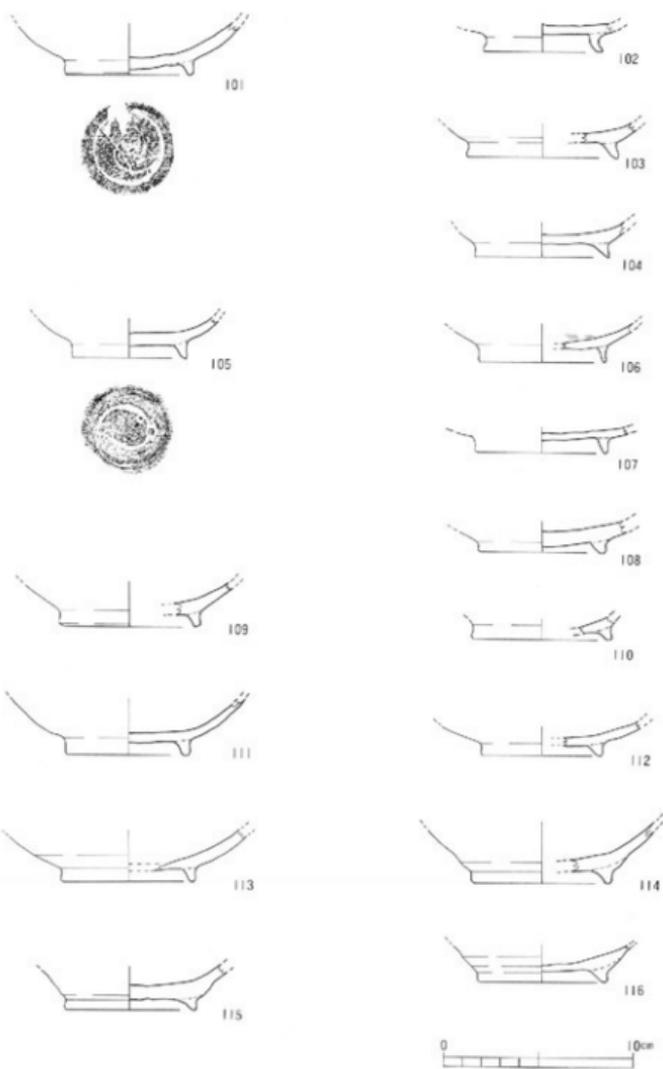
第60図 第七層出土物実測図(3)

土師器杯(第63図、139~149)

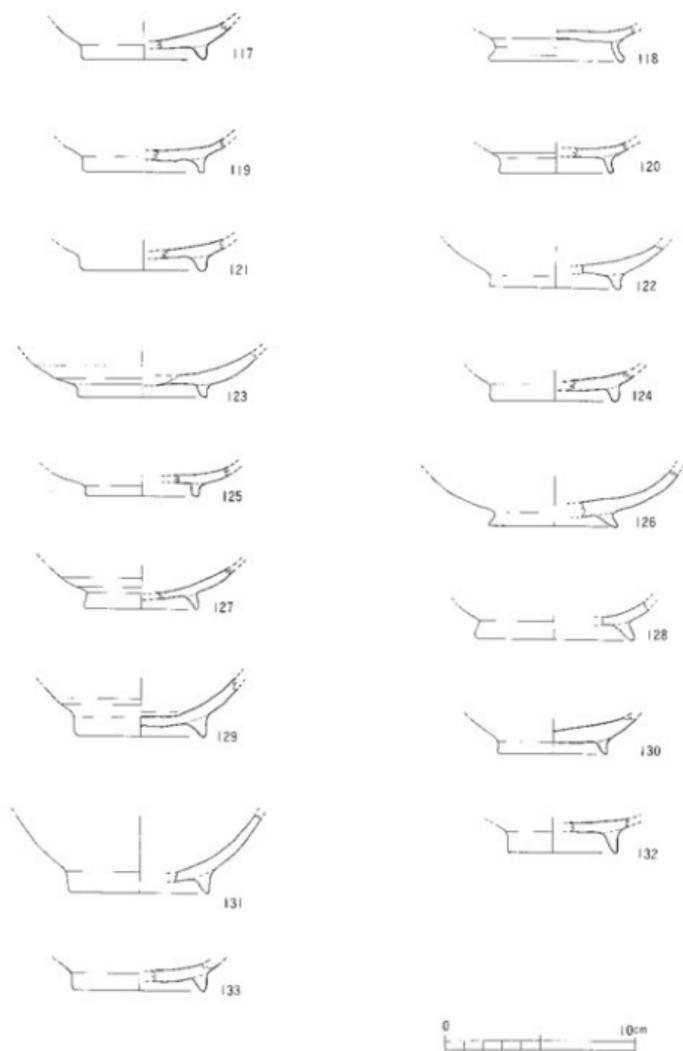
139・140・141は底部から口縁にかけて残存しているもので、139・140の底面は回転ヘラ切りで、141は摩滅のため不明である。140は完形品である。

142・143・144・145は口縁部である。146~149は底部である。146~149の底面はすべて回転ヘラ切りである。

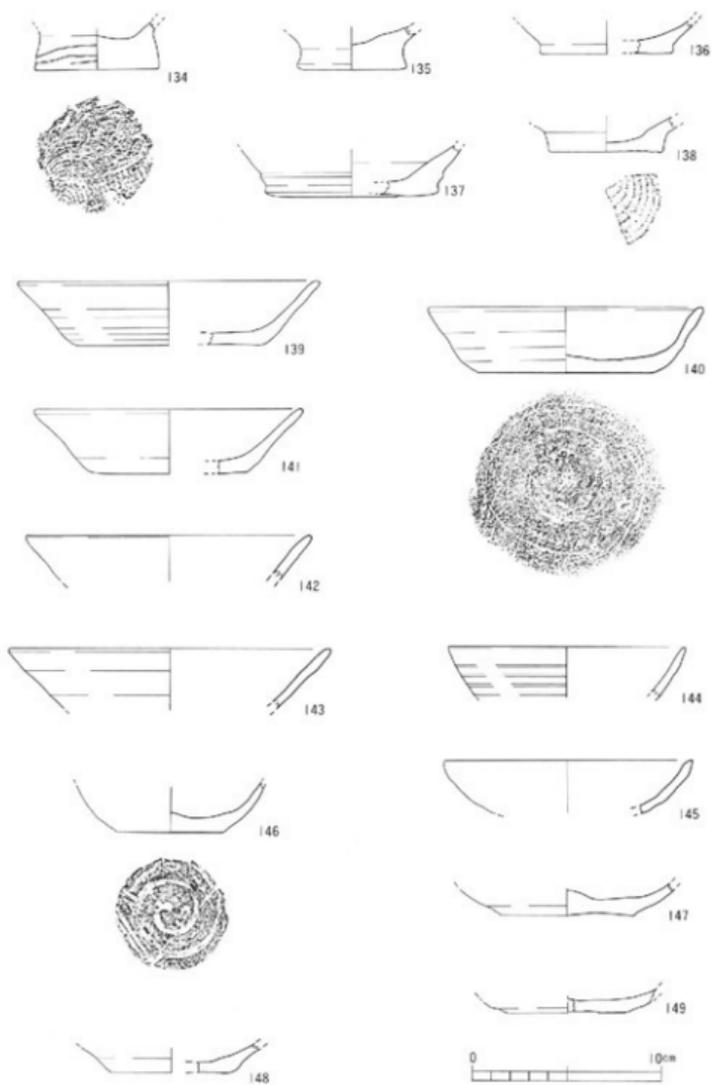
145は手づくね成形によるものと考えられる。



第61图 第七层出土遗物实测图(4)



第62图 第VII层出土铜物类测图(5)



第63圖 第VII層出土遺物実測圖(6)

土師器皿（第64図）

- 150～160は、底面がへら切りによるものである。
161～164は、底面が糸切りによるものである。
165～168は底部に指頭痕がみられ、手づくねである。
169～173は摩滅のため底面の切り離しなどは不明である。
174～181は口縁部が「て」の字状を呈する皿である(1)。

黒色土器碗（第65図、182～193）

- 182・183・184は口縁部で、口縁部は外反している。184は口縁内面に1条の沈線が巡る。
185～193は底部で、全て貼り付け輪高台である。189は内面に磨きが施されている。

瓦器碗（第65・66図、194～215）

- 194・195は桶葉型瓦器碗の口縁部である。口縁部内面に1条の沈線が巡り、内外面ともに幅の細い磨きが施されている。桶葉型瓦器の編年(2)では、1～2期にあたる。
196～206は和泉型瓦器碗の口縁部である。内外面ともに磨きが施されている。これらは和泉型瓦器の編年(3)では、II-2・3期にあたる。
207～213は底部で、全て貼り付け高台である。

瓦器皿（第66図、214・215）

- 214は口径5.9cmを測り、内面に磨きが施されている。

土烙（第67図、216）

- 216は土師質の土烙の蓋と思われる口縁部である。

土鍋（第67・68図、217～222）

- 217～222は土師質の土鍋の口縁部で、頸部から口縁にかけて外傾している。内外面とも刷毛目調整が施されている。217の口縁はやや内穹気味に外傾し、222の口縁は平坦に近く外傾している。

瓦質甕（第68図、223）

- 223は甕の口縁部である。外面に横方向の刷毛目が施されている。

須恵器碗・皿（第68図、224・225・226）

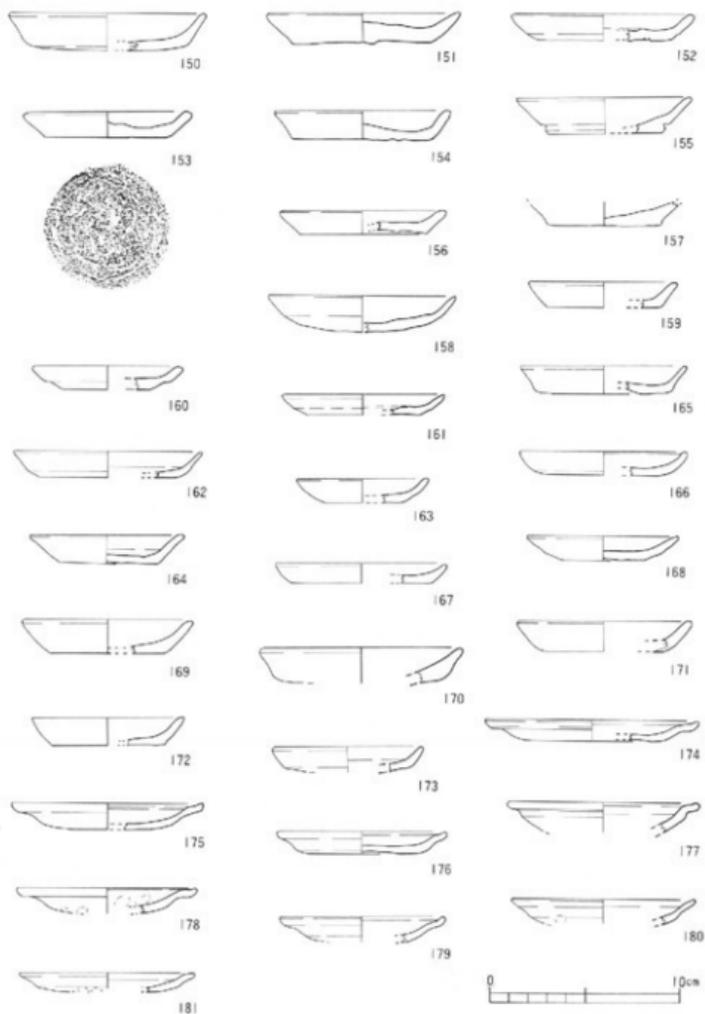
- 224・225はともに輪高台の碗底部である。224は貼り付け高台である。
226は底面が回転糸切りされている皿である。

須恵器鉢（第68図、227）

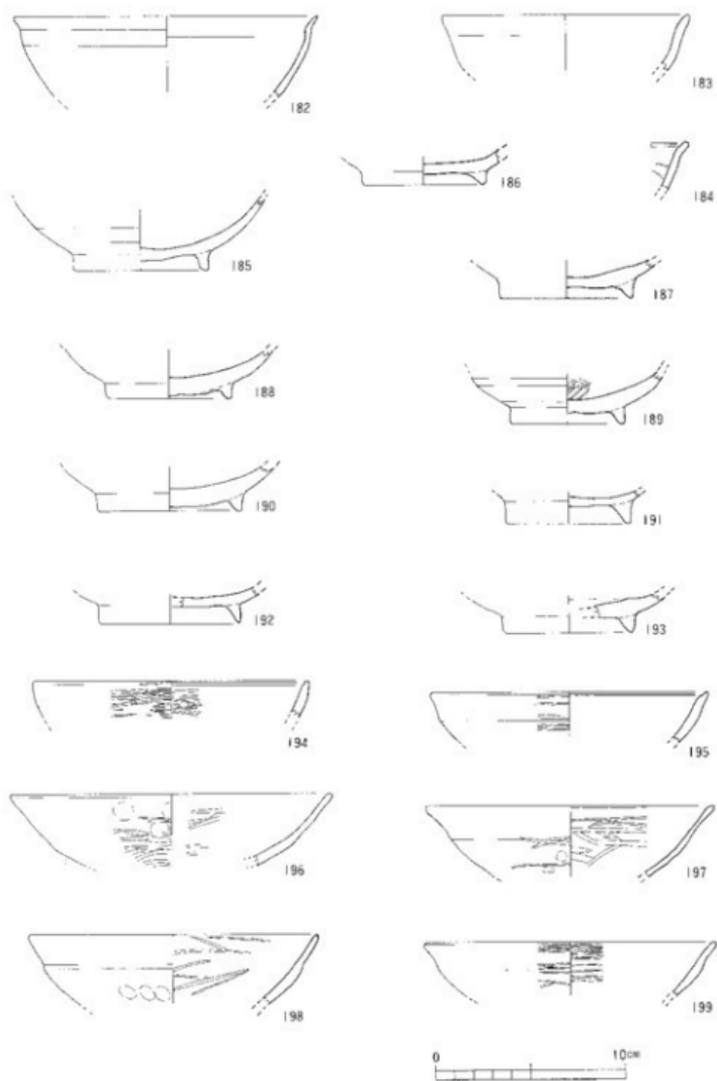
- 227は鉢の底部である。色調は灰白色を呈する。底面にかすかな擦痕が見られる。窯系と思われるが断定できない。搬入品であろう。

須恵器壺（第68図、228）

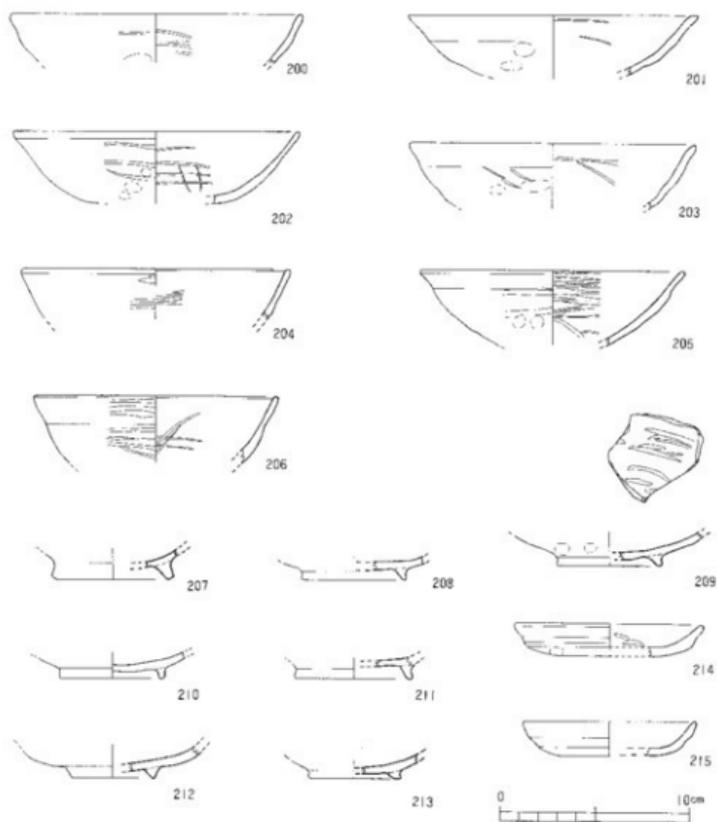
- 228は壺の口縁部である。口縁部を内側に折り曲げ肥厚させている。内外面とも撫で調整が施されている。



第64图 第VII层出土遺物実測图(7)



第65图 第VII层出土文物插图(8)

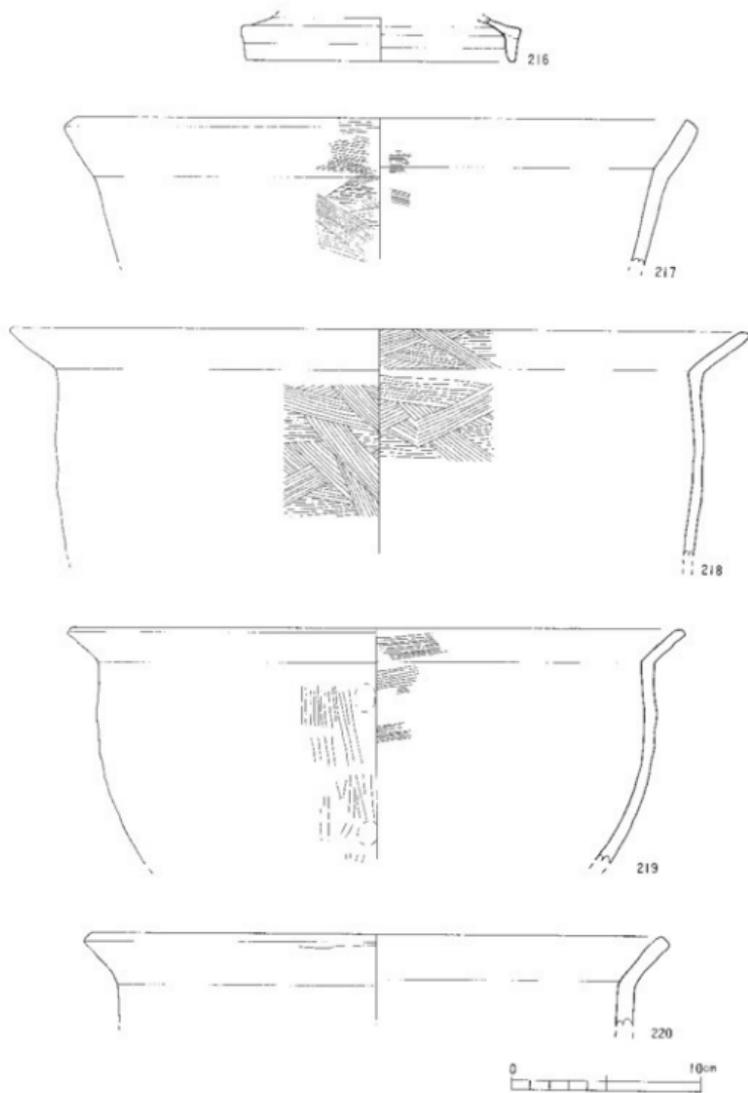


第66図 第VII層出土遺物実測図(9)

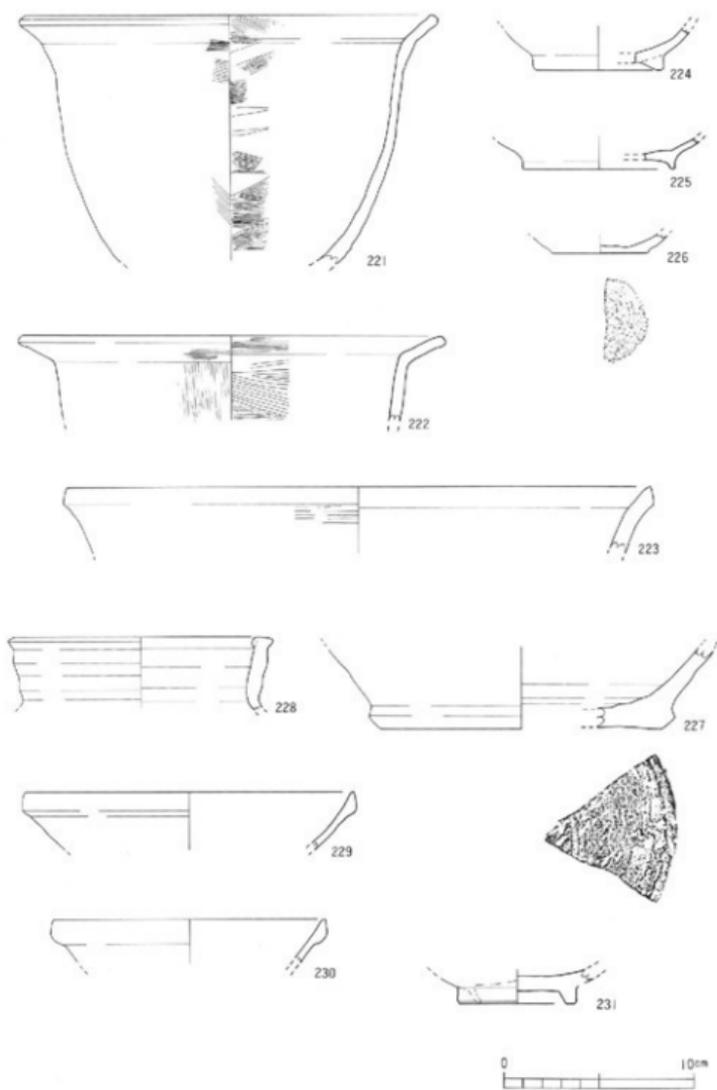
白磁碗(第68図、229・230・231)

229・230は玉縁状の口縁部をもつ碗である。231は底部で削り出し高台である。高台部に釉はかかっていない。いずれも白磁碗IV類にあたる(4)。

その他の出土遺物には、図示したもののほか桃核片・獣骨片などがある。



第67图 第Ⅶ层出土文物实测图 (10)



第68图 第VII层出土文物实测图(1)

4 工事立会調査

平成4年5月28日と同年6月1日、工事掘削中に立会調査を行う。

結果、標高約8.0mにおいて層厚約50～80cmを測る緑灰色シルト層を工事壁面の四方で水平面として確認した。このシルト層の一部を採取してプラント・オパール分析を行う。結果は分析欄VII-6に掲載している。

緑灰色シルト層の上下には厚く砂礫層が堆積していた。この緑灰色シルト層は、第6次下層調査で検出された緑灰色粘土、また、第1・2次調査の「井堰」基底層の青灰色粘土と同一層であると考えられる（土色の違いは地下水の影響による）。

この緑灰色シルト層は、弥生時代末までに形成された自然堤防である(5)。

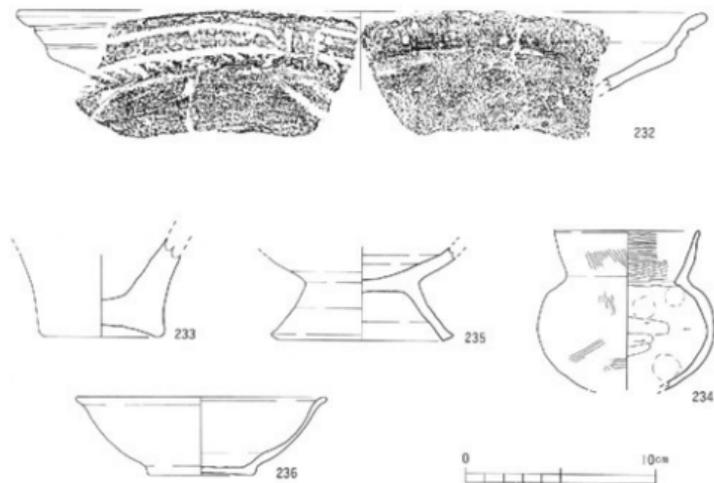
第3堰の南西部は、自然堤防が連続していた地形と解釈できる。

工事立会調査出土遺物（第69図）

図化した遺物は、前述の緑灰色シルト層より上位の砂礫層、標高約10.0mから採集した遺物である。

232は縄文式土器の浅鉢の口縁部である。口縁外面には沈線による方形の区画をもち擬縄文が残る。後期前半に属すると思われる。

233は弥生式土器の甕の底部である。上げ底を呈し、底部内面には指頭痕が見られる。中期前半と思われる。



第69図 下層立会調査出土遺物実測図

234は小型甕である。内外面に刷毛目が残り、体部内面には指頭痕と横方向の削りが見られる。古墳時代中期後半頃と思われる。

235は須恵器の台杯碗の高台部である。「八」の字状に断面四角形の細長い高台をもつ。高台高3cmを測る。古墳時代後期のものと考えられる。

236は須恵器碗である。円盤高台の碗で、底部から内弯しながら立ち上がり、口縁部を外反させて端部を丸く仕上げている。底面の切り離しは不明である。内面には火だすきが残る。器壁は薄く、搬入品の可能性がある。

[註]

- (1) (財)京都市埋蔵文化財研究所の小森俊寛・百瀬正恒・吉村正統の三氏から大阪の淀川流域の「て」の字口縁土師器皿ではないかご教示頂いた。
- (2) 橋本久和：「高槻における中世土器の編年」『上牧遺跡発掘調査報告書』高槻市教育委員会、1980
- (3) 尾上実：「南河内の瓦器碗」『藤沢一夫先生古希記念古文化論叢』（1983）並びに、森島康雄：「畿内産瓦器碗の併行関係と暦年代」『大和の中世土器 II 一大和型瓦器碗とその周辺一』（1992）
- (4) 森田勉・横田賢次郎：「大宰府出土の輸入中国陶磁器について—型式分類と編年を中心として—」『九州歴史資料館研究論集 4』、1978
- (5) 古照遺跡第8・9次の調査結果から考察されている。第8・9次調査の概報は『松山市埋蔵文化財調査年報 V』（1993）に掲載している。

IV B地区の概要

1 調査の経過

B地区は、第6次調査地の西側隣接地である。工事対象は南北約26m、東西約19m、面積約494㎡である。

調査区グリットは、N7～11W31～34の範囲に入る。

平成4年1月6日、調査地の東半分を工事用道路として残し、西半分について遺物包含層まで重機によって掘削を南側から始める。

同年1月7日、包含層を掘り下げ、遺物測量を開始する。

同年1月8日、掘削が終了し、グリット杭打ちを行う。北壁を精査、土層図を作成する。

同年1月9日、SP・SKなどの遺構を検出する。また、土師器皿などが数枚重なる集積遺構を三カ所で検出する。

同年1月13日、西壁を精査し土層図を作成する。

同年1月29日、検出遺構の測量を開始する。土砂走行車及びベルトコンベアを調査区に入れて土砂を調査区外へ搬出し、遺構精査を行う。

同年2月25日、調査区東半分（工事用道路）の掘削を南側から開始する。グリット杭打ちを行う。南壁と北壁を精査し土層図を作成する。

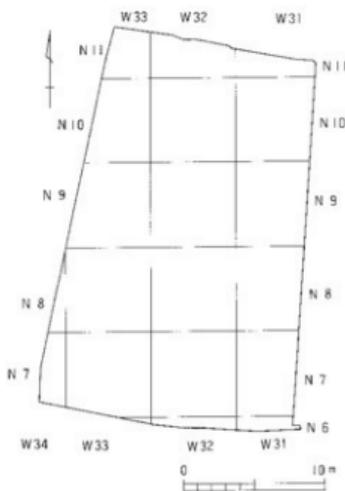
同年2月26日、重機による掘削が終了する。

N8・9W32に多量の土器が集積しているため、6mグリットを更に50cm×画に細区分して測量を行いながら、取り上げていく。

同年3月17～27日までの間、例年になく降雨が多く、雨の中での測量作業を行う。

同年3月31日、調査区の屋外調査を終了する。調査実施面積は約460㎡である。

同年8月6・7日、工事掘削に伴い下層の立会調査を行う。工事掘削深さの標高約9.60mまでの間は、砂礫層が厚く堆積していた。工事用排水ポンプ設置のために一部を掘り下げた結果、標高約9.40mで黒褐色粘土を検出した。この黒褐色粘土は第6次下層調査で検出された粘土層と思われ、西方への広がりが確認できた。



第70図 B地区グリット設定図

2 土層

調査区は、標高約12.80～12.90mに立地する。調査区の約2/3は、造成以前に旧耕作土の掘削・搬出が行われている。その行為は包含層あるいは遺構検出面までにも及んでいる。

調査区の土層図は、基本的に第Ⅰ～Ⅷ層に分層できる。

第Ⅰ層は現代造成土及び攪乱層である。土層図では第Ⅰ層を割愛した。西壁では第Ⅰ層が第Ⅶ層まで及んでいる。

第Ⅱ層は造成前の旧耕作土である。この第Ⅱ層は南壁の東側一部でしか残っていない。

第Ⅲ層は、青灰色（5B G 5/1）粘土で層厚約10cm前後を測る。遺物の出土はない。第Ⅱ層と同様に南壁にしか残っていない。

第Ⅳ層は、オリーブ黄色（7.5Y 6/1）粘土で層厚約5～10cmを測る。遺物の出土はない。第Ⅱ層と同様に南壁にしか残っていない。

第Ⅴ層は、緑灰色（5G 5/1）粘土～シルトで層厚約10～20cmを測る。遺物の出土はない。第Ⅱ層と同様に南壁にしか残っていない。

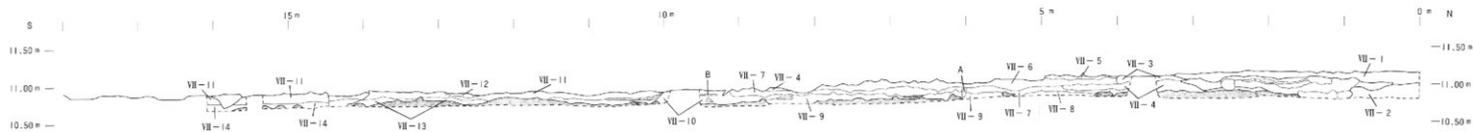
第Ⅵ層は遺物包含層で、3層に分かれる。第Ⅱ層と同様に南壁にしか残っていない。

第Ⅵ-1層は西側で黄灰色（2.5Y 4/1）粘土～シルト、第Ⅵ-2層は黒褐色（2.5Y 3/1）粘土～シルトで、これらの二層に多量の土器が包含されている。特に第Ⅵ-2層の約10m地点の落ち込み（遺構?）から瓦器碗1点、手づくね土師器杯・皿各1点ずつが重なって出土している。

第Ⅵ-3層は暗緑灰色（10G Y 4/1）シルトであり、西から約8.9～15mの間で第Ⅵ-2層の直上に地積している。第Ⅵ-3'層の砂質土が第Ⅴ層と第Ⅵ-3層との間で部分的に見られる。第Ⅵ-3層からは土器が若干出土している。

第Ⅶ層上面からSP・SK・SDなどの遺構を検出している。この第Ⅶ層は約22の土層に細分している（第71図の土層図において、土層番号のないものは遺構内埋土である）。

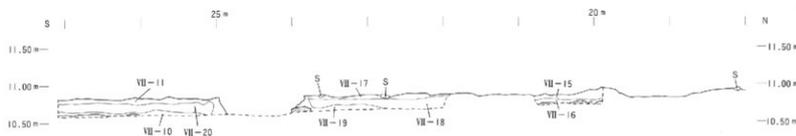
第Ⅷ層は、第Ⅶ層下の細砂層であり、浅黄色（2.5Y 7/4）、灰白色（5Y 7/1）、灰色（N 6/ ）などである（土層図では点描にしている）。



土層説明

- 第II層：現代耕作土
- 第III層：青灰色粘土(5BG5/1)
- 第IV層：オリーブ黄色粘土(7.5Y6/1)
- 第V層：緑灰色粘土-シルト(5G5/1)
- 第VI-1層：黄灰色粘土-シルト(2.5Y4/1)
- 第VI-2層：黒褐色粘土-シルト(2.5Y3/1)
- 第VI-3層：暗緑灰色シルト(10GY4/1)
- 第VI-3層：暗緑灰色砂質土(10GY4/1)
- 第VII-1層：暗緑灰色粘土(7.5GY4/1)、土礫多量
- 第VII-2層：黄褐色粘土-シルト(10YR5/3)、明褐色(7.5YR5/6) 斑点あり
- 第VII-3層：淡オリーブ色粘土(7.5Y5/3)
- 第VII-4層：暗青灰色粘土-シルト(10BG4/1)
- 第VII-5層：黄灰色粘土(2.5Y4/1)
- 第VII-6層：暗灰黄色粘土-シルト(2.5Y4/2)
- 第VII-7層：淡黄色シルト(2.5Y7/3)
- 第VII-8層：青灰色砂質土(5BG5/1)
- 第VII-9層：緑灰色シルト(7.5Y5/1)
- 第VII-10層：緑灰色シルト(10GY5/1)
- 第VII-11層：緑灰色粘土-シルト(10GY6/1)
- 第VII-12層：青灰色粘土(10BG5/1)
- 第VII-13層：緑灰色砂質土(10GY5/1)
- 第VII-14層：暗青灰色粘土(5BG4/1)
- 第VII-15層：緑灰色シルト(10G6/1)
- 第VII-16層：淡黄色粘土(5Y7/4)
- 第VII-17層：暗緑灰色シルト(10G4/1)、明褐色斑点あり
- 第VII-18層：黄褐色シルト(2.5Y5/3)、礫状斑紋あり
- 第VII-19層：灰色砂質土(10Y6/1)
- 第VII-20層：黄灰色粘土-シルト(2.5Y5/1)、礫管状斑紋あり
- 第VII-21層：灰青褐色粘土-シルト(10YR4/1)
- 第VII-22層：暗緑灰色粘土-シルト(10GY3/1)、明褐色斑点あり
- 第A層：黄灰色粘土-シルト(2.5Y4/1)
- 第B層：黒褐色粘土(2.5Y3/1)

* 点線は砂等の堆積である。また、遺構の土色等は付記していない。
 * Sは石である。



第71図 B地区西壁・南壁土層図



第72图 B地区透視平面图

2 遺構・遺物

遺構は、第V層上面より検出された。掘立柱建物跡1棟、櫛列遺構2条、土坑状遺構16基、溝状遺構10条、柱穴状遺構33基、性格不明遺構58基、土器集積遺構3基である。

以下、主要な遺構について説明する。

掘立柱建物

調査区の西側において1棟検出した。

S B-1 (第73・74図)

N7・8W33に位置する1間×3間の南北棟の建物である。棟方向はN-11°-Wを測る。規模は梁行約4.2~4.4m、桁行約5.7~6.0mを測り、床面積は約25.8㎡である。いずれの柱穴に柱痕跡は認められなかった。P3は、SX-29の床面から検出した。

柱穴から出土した遺物には、図示できなかったものに土鍋、瓦質甕、常滑焼、須恵器、青磁の破片や木炭、鉄滓などがある。

S B-1 出土遺物 (第75・76図)

237~243はP1出土である。237・238・239は土師器杯で、いずれも底面は回転糸切りで板状圧痕がみられる。237は口径11.8cm、器高3.3cm、238は口径12.1cm、器高2.9cm、239は口径14.6cm、器高3.3cmを測る。これら杯の口縁部は、237はやや内傾、238はやや外傾、239はやや内傾する体部からそのまま口縁端部にいたる。

240~243は土師器皿で、これらの底面も全て回転糸切りで板状圧痕がみられる。口径7.6~8.8cm、器高1.2~1.5cmを測る。240・243はやや内傾する体部のもので、241・242は底部から斜め方向に立ち上がるものである。

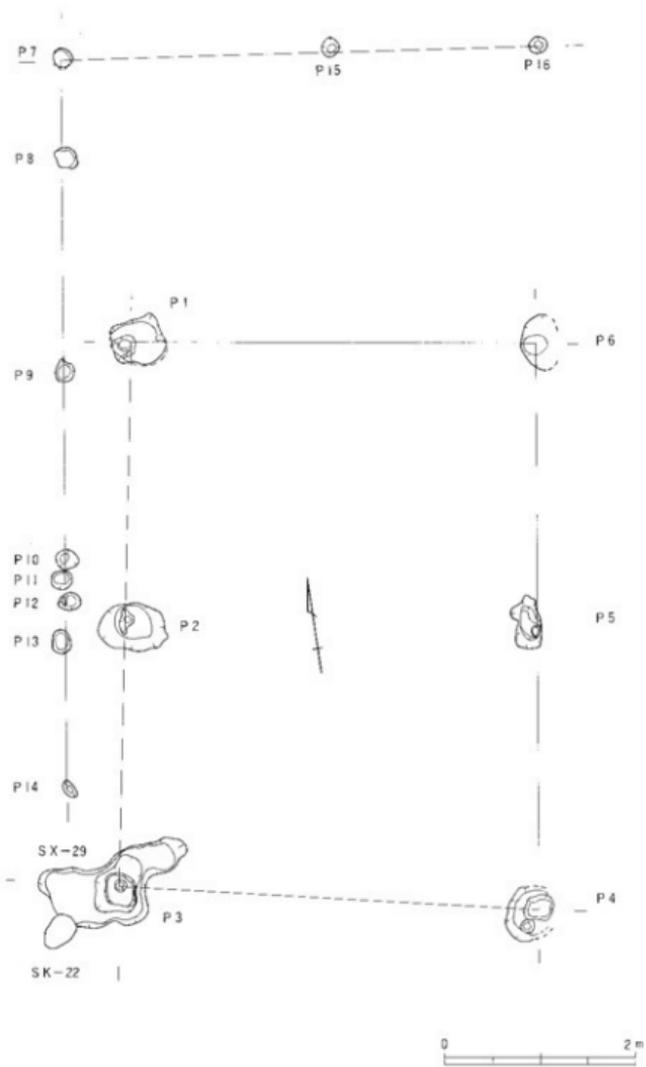
244~247はP2出土である。244は土師器碗で口径10.0cm、器高3.4cm、高口径4.4cmを測る。全体に摩滅しているため調整は不明。断面逆台形状の高台がつく。

245・246は土師器杯である。245はやや肥厚する口縁部である。全体に摩滅している。口径12.0cmを測る。246の底面は回転糸切りで、外面には横撫でによる稜がみられる。口径9.2cm、器高3.3cmを測る。

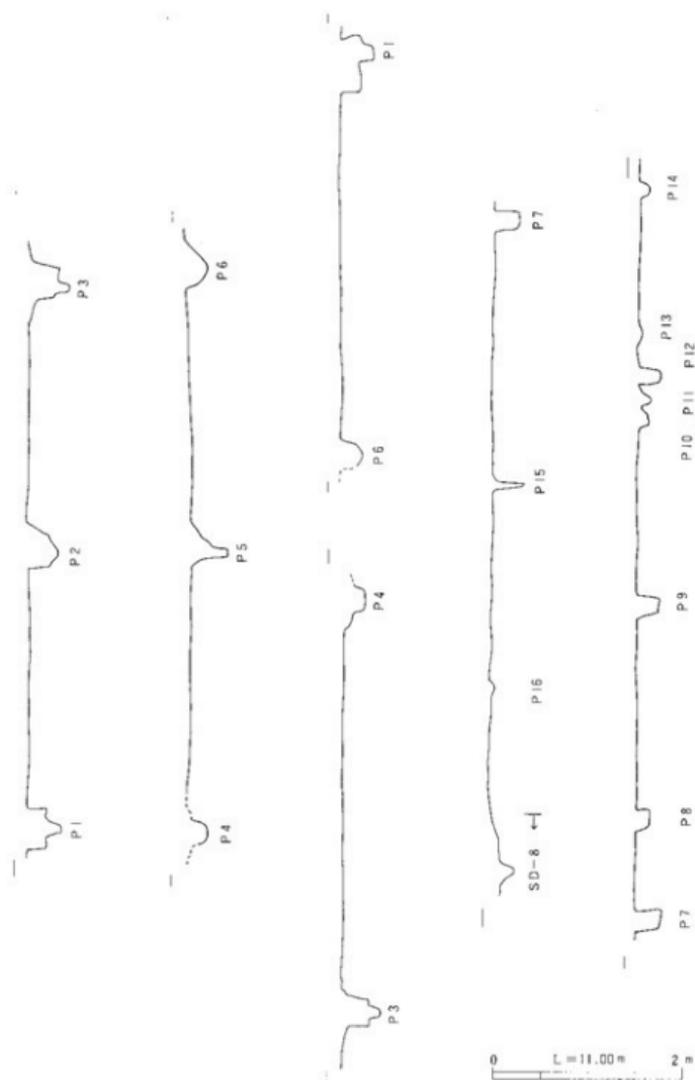
247は土師質の上釜である。内傾する口縁部をもち端部を丸く仕上げている。口縁部やや下がった位置にやや丸みのある断面三角形の凸帯が貼り付けられている。体部外面はやや煤けている。

248はP3出土の東播系こね鉢の口縁部である。口縁部は丸みのある四角形を呈し、内外面とも横撫で調整が施されている。口径26.2cmを測る。この破片は、SK-15出土破片と接合した(第99図にも掲載)。

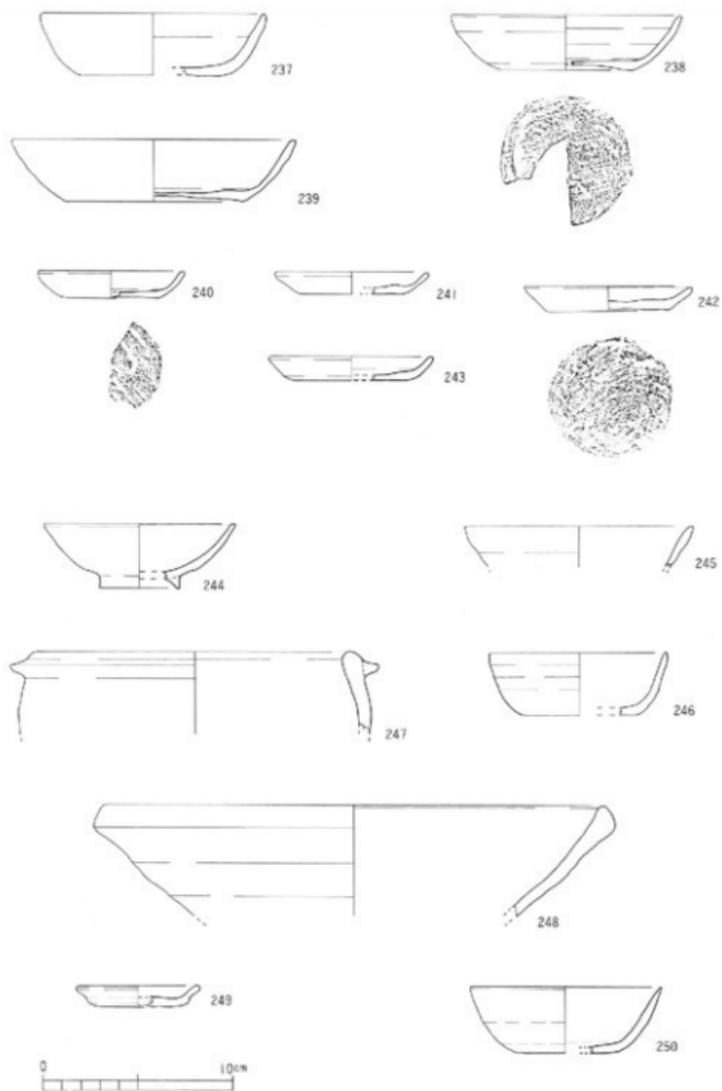
249はP4出土の土師器皿である。口縁部は強い横撫でにより外傾し端部を丸く仕上げ



第73図 SB-1・SA-1測量図(1)



第74图 SB-1·SA-1测量图(2)



第75图 SB-1 出土器物实测图 (1)

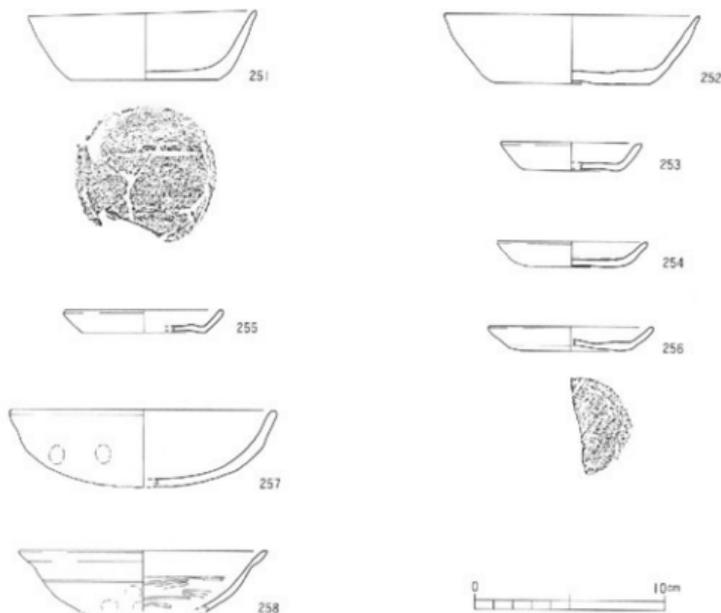
いる。底部に指頭痕がみられ、手づくねである。口径6.0cm、器高1.1cmを測る。

250はP 5 出土の土師器杯で、底面は回転糸切りである。底部からやや内湾しながら立ち上がり、端部を細く仕上げている。内外面とも撫でが施されている。内面は煤け、灯明として使用されたと思われる。口径10.0cm、器高3.5cmを測る。

251～258はP 6 出土である。251・252は土師器杯で、底面は回転糸切りで板状圧痕がみられる。いずれも底部から外方向へ立ち上がり、口縁端部を細く仕上げている。内外面とも横撫でが施されている。251は口径12.0cm、器高3.6cm、252は口径13.4cm、器高3.7cmを測る。

253～256は土師器皿である。253・255・256の底面は回転糸切りで口径7.3～8.6cm、器高1.2～1.5cmを測る。253・256は底部から内湾気味に立ち上がり、255は底部から外傾して立ち上がり、いずれも端部を丸く仕上げ、内外面とも横撫でが施されている。254は手づくねで、口径8.0cm、器高1.3cmを測る。口縁外面には横撫でが施され、端部を丸く仕上げている。底部に指頭痕がみられる。

257・258は瓦器碗である。257は底部から内湾しながら丸く立ち上がり、口縁部は横撫でによりやや内傾気味となり、端部を丸く仕上げている。全体に摩滅し暗文は不明である。内面



第76図 SB-I 出土遺物実測図(2)

と口縁外面に炭素の付着がみられる。口径14.0cmを測る。おそらく丸底で無高台になる。杯と考えられる。258は内面に横方向の暗文が見られる。口縁外面は横撫でにより外反し、端部を丸く仕上げている。体部には成形時の2条の浅い沈線が巡り、指頭痕がみられる。おそらく有高台の碗であろう。口径13.0cmを測り、内外面ともに炭素の付着がみられる。

柵列遺構

調査区中央西で南北方向の柵列とこの柵列から更に東西方向に続く柵列を検出した。

S A - 1 (第73・74図)

N 7・8・9 W 32・33にまたがって位置する柵列である。南北長約7.72m、東西長約4.96mを測る。南北軸はN-8°-E、東西軸はE-6°-Sで、直行角は92°を測る。S B - 1の北と西面を囲み同遺構に付随する柵列と思われる。

P 7はS X - 7の床面から検出した。柱穴から出土した遺物には図示したものの他、土釜・土鍋の破片がある。

S A - 1 出土遺物 (第77図)

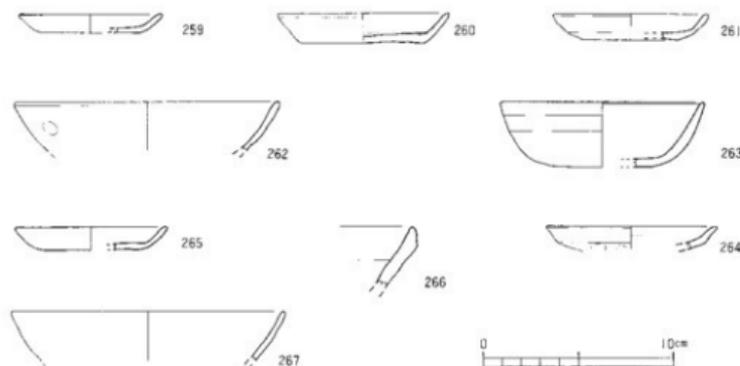
259はP 7出土の土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径7.6cm、器高1.0cmを測る。

260はP 8出土の土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径9.0cm、器高1.6cmを測る。

261~264はP 12出土である。261・264は土師器皿である。261は底面回転糸切りで、底部から内傾ぎみに立ち上がり端部を丸く仕上げている。口径8.0cm、器高1.4cmを測る。264は手づくねのもので、口縁外面には横撫でが施され、その下部に指頭痕がある。口径9.0cmを測る。

263は土師器杯で、底面は回転糸切りである。底部近くからやや内凹気味に立ち上がり端部をやや丸く仕上げている。外面には横撫でが施されている。

262は瓦器碗の口縁部で、口縁外面には横撫でが施され、下部に指頭痕がみられる。口径



第77図 S A - 1 出土遺物実測図

14.0cmを測る。

265・266はP14出土である。265は土師器皿で、底面は回転糸切りである。底部から内湾気味に立ち上がり端部を丸く仕上げている。内外面とも撫でが施されている。口径8.0cm、器高1.2cmを測る。

266は東播系こね鉢の口縁部で、口縁端部を上方向につまみ上げている。

267はP15出土の瓦器碗の口縁部である。口縁外面には弱い横撫でが施され、内湾気味になり端部を丸く仕上げている。口径14.4cmを測る。内外面に炭素の付着がみられる。

土坑状遺構

調査区において、16基検出した。以下、実測可能な遺物を出土した遺構についてのみ記す。

SK-1 (第78図)

SK-1はN10W33において検出した。平面形は楕円形で、長軸約0.62m、短軸約0.45m、深さ約0.12mを測る。断面形は凹凸のあるレンズ状を呈し、南側に一段の平坦面をもつ。埋土は暗緑灰色粘土と黒褐色土に分かれ、ブロック状の緑灰色シルトと若干の炭が混入している。出土遺物には図示したものの他、瓦器・須恵器・土鍋・青磁碗・黒色土器の破片と鉄滓がある。

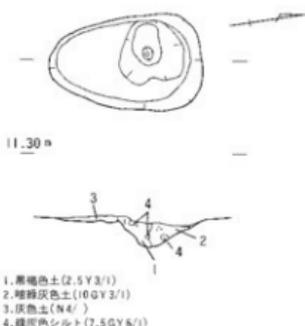
SK-1 出土遺物 (第79図)

268・269・270は土師器杯である。268・269は底面が回転糸切り、270は手づくねである。268は底部から内湾しながら立ち上がり端部をやや細く仕上げている。口径11.4cm、器高3.2cmを測る。269は底部から外傾しながら立ち上がり端部を丸く仕上げている。外面には横撫でによる稜がみられる。口径13.4cm、器高3.4cmを測る。270は丸底になる底部から内湾しながら立ち上がり端部を丸く仕上げている。口縁外面には横撫でが施され外傾する。口径15.0cmを測る。

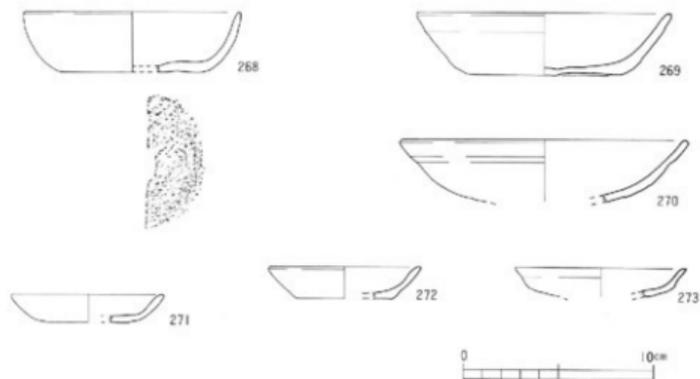
271・272・273は土師器皿である。271・272は底面が回転糸切りで板状圧痕がみられる。口径8.0cm、器高1.4・1.7cmを測る。271・272はともに底部からやや内湾ぎみに立ち上がり、口縁部がやや肥厚し、端部を丸く仕上げている。273は手づくねで口径9.0cmを測る。口縁外面は横撫でにより外傾気味になり、端部を丸く仕上げている。底部外面には粘土紐巻き上げの成形痕がみられる。

SK-2 (第80図)

SK-2はN10W32において検出した。平面形は円形で、長軸約0.49m、短軸約0.44m、深さ約0.04mを測る。断面形は、逆台形を呈し、平坦な底面から北壁はやや直に立ち上がり、



第78図 SK-1 測量図



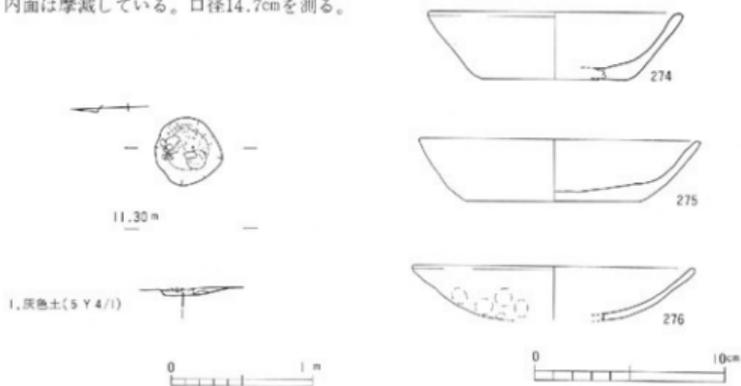
第79図 SK-1 出土遺物実測図

南壁はなだらかに立ち上がる。特に東側で炭が点在している。埋土は灰色シルトである。出土遺物には、土師器・瓦器の破片がある。

SK-2 出土遺物 (第81図)

274・275は土師器杯で、全体に摩滅している。ともに底面は回転糸切りである。274は底部から内湾しながら立ち上がり、口縁部は内側に肥厚し、端部を丸く仕上げている。口径13.0 cm、器高3.6cmを測る。275は完形品で、底部からやや内湾しながら立ち上がり、口縁部は外傾し、端部を丸く仕上げている。口径14.8cm、器高3.3cmを測る。

276は瓦器碗の口縁部である。口縁部外面には横撫でが施され、下部に指頭痕が見られる。内面は摩滅している。口径14.7cmを測る。



第80図 SK-2 測量図

第81図 SK-2 出土遺物実測図

SK-4 (第82図)

SK-4はN10W33において検出した。平面形は楕円形で、長軸約0.45m、短軸約0.40m、深さ約0.04mを測る。断面形は逆台形状を呈し、底面にはやや緩やかな勾配があり、壁はこの床面から斜めに立ち上がる。遺構の東岸周辺に赤褐色の焼土がみられる。埋土は暗褐色粘土である。出土遺物には土師器杯がある。

SK-4 出土遺物 (第83図)

277は土師器杯で、底面は回転糸切りである。底部からやや内湾気味に立ち上がり口縁部近くで少し内傾し、端部を丸く仕上げている。口径12.4cm、器高3.7cmを測る。

SK-8 (第84図)

SK-8はN9W31において検出した。平面形は隅丸方形に近く、長軸約0.72m、短軸約0.64m、深さ約0.20mを測る。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な底面から斜め方向に立ち上がり、東側と西側においては一段の広がりをもって立ち上がる。埋土はオリブ灰色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土鍋の破片がある。

SK-8 出土遺物 (第85図)

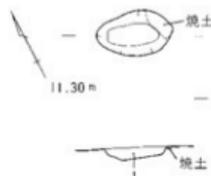
278は土師器皿で、底面は回転糸切りである。底部からやや内湾気味に立ち上がり口縁近くで外傾し、端部を丸く仕上げている。口径9.0cm、器高1.7cmを測る。

SK-9 (第88図)

SK-9はN7W32において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.85m、短軸約0.75m、深さ約0.25mを測る。断面形は逆台形を呈し、壁は底面から丸みを持って立ち上がる。北側に平坦な段をもつ。埋土は3層に分かれ、上層は緑灰色粘土、中層は暗灰色シルト、下層は黒色粘土である。特に中・下層から土師器・瓦器を出土している。出土遺物には図示したものの他、土鍋の破片がある。

SK-9 出土遺物 (第86・87図)

279～290は土師器杯である。279～289は底面が回転糸切りで板状圧痕がみられる。これら



1. 暗褐色粘土(7.5 Y R 3/3)



第82図 SK-4 測量図



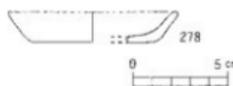
第83図 SK-4 出土遺物実測図



1. オリブ灰色シルト(2.5 G Y 5/1)



第84図 SK-8 測量図



第85図 SK-8 出土遺物実測図



279



280



281



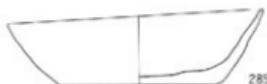
282



283



284



285



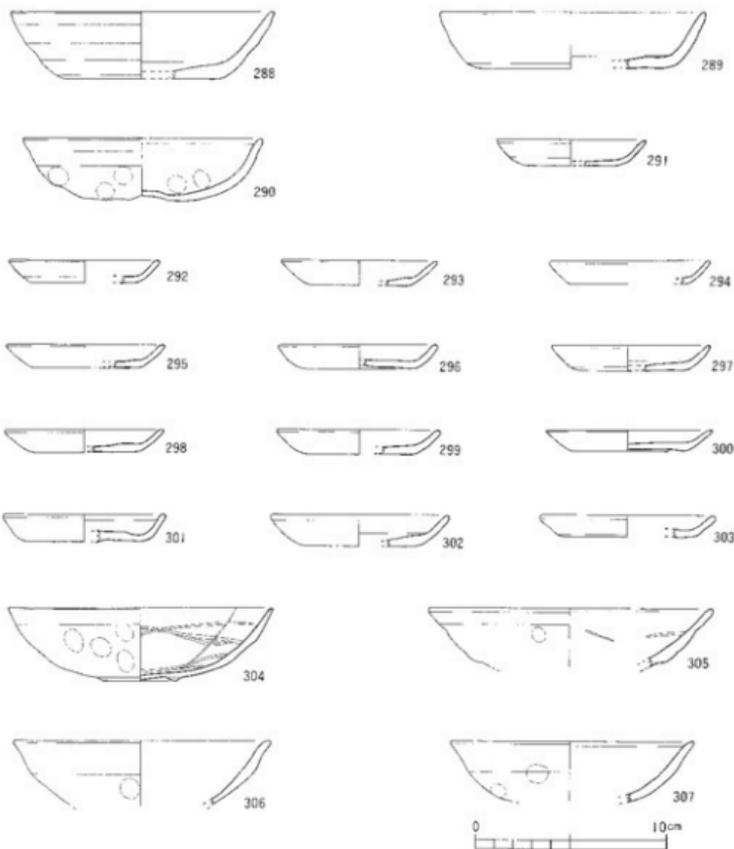
286



287



第86图 SK-9出土遺物実測図(1)



第87図 SK-9出土遺物実測図(2)

は口径12.6~13.9cm、器高3.0~4.0cmを測る。いずれも内外面とも横撫でが施されている。289のみ口径13.9cmと大振りでありながら器高3.0cmと低い。290は手づくねの杯で、完形品である。口径12.6cm、器高3.0cmを測る。口縁部は横撫でにより、外反する。休部以下に指痕がみられる。

291~303は土師器皿で、291~302は底面が回転糸切りのものである。これらは口径7.8~9.5cm、器高1.1~1.7cmを測る。303は手づくねの皿で、口径8.8cmを測る。

304・305・306・307は瓦器柄である。304は完形品で、内面に螺旋状の暗文が施され、口縁

部外面には横撫でが施されている。高台は形骸化し、粘土紐を貼り付けただけのものである。口径14.0cm、器高3.9cm、高台径4.0cmを測り、全体に灰白色を呈している。305は口径15.0cm、306は口径13.5cm、307は口径12.7cmを測る。いずれの瓦器碗も口縁部外面に横撫でが施されている。

SK-10 (第89図)

SK-10はN7W32において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約1.10m、短軸約1.00m、深さ約0.12mを測る。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な床面から直に立ち上がる。埋土は灰色シルトである。出土遺物には土師器・瓦器・土鍋がある。

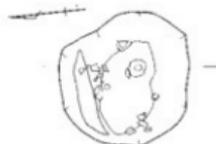
SK-10 出土遺物 (第90図)

308・309・310は土師器杯で、底面は回転糸切りで板状片痕がみられる。口径12.0~12.3cm、器高3.3~3.6cmを測る。308・310は底部から内湾しながら立ち上がり、308は端部を丸く仕上げ、310は端部を細く仕上げている。309は底部から外傾しながら立ち上がり端部を丸く仕上げている。

311~315は土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径6.5~8.6cm、器高1.0~1.3cmを測る。311は底部から斜め方向に立ち上がり端部を丸く仕上げている。312~315は、いずれも底部から内湾しながら立ち上がり端部を丸く仕上げているものである。

316は瓦器碗の口縁部である。丸みのある体部をもち、口縁は横撫でにより外傾する。内面には横方向の暗文があり、外面に指頭痕がみられる。口径13.2cmを測り、内外面とも黒色を呈する。

317・318は土師質の土鍋である。317は厚での口縁部をもち、口径30.0cmを測る。口縁部は、頸部からやや内湾しながら立ち上がり、端部は断面四角形を呈する。内外面とも横方向の刷毛目が施され、外面は炭けている。318は底部からやや斜めに立ち上がり、体部はやや外傾し、頸部から口縁にかけてやや内湾気味に外傾する。口縁端部には若下の窪みが巡り、内面に横方向、体部外面は縦方向、底部は横方向の刷毛目が施されている。口径37.0cmを測る。



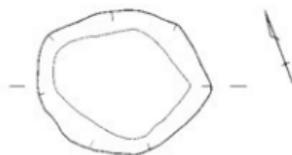
11.20 m



1. 緑灰色粘土(10GY5/1)
2. 暗灰色シルト(N3/)
3. 黒色粘土(N2/)



第88図 SK-9 測量図



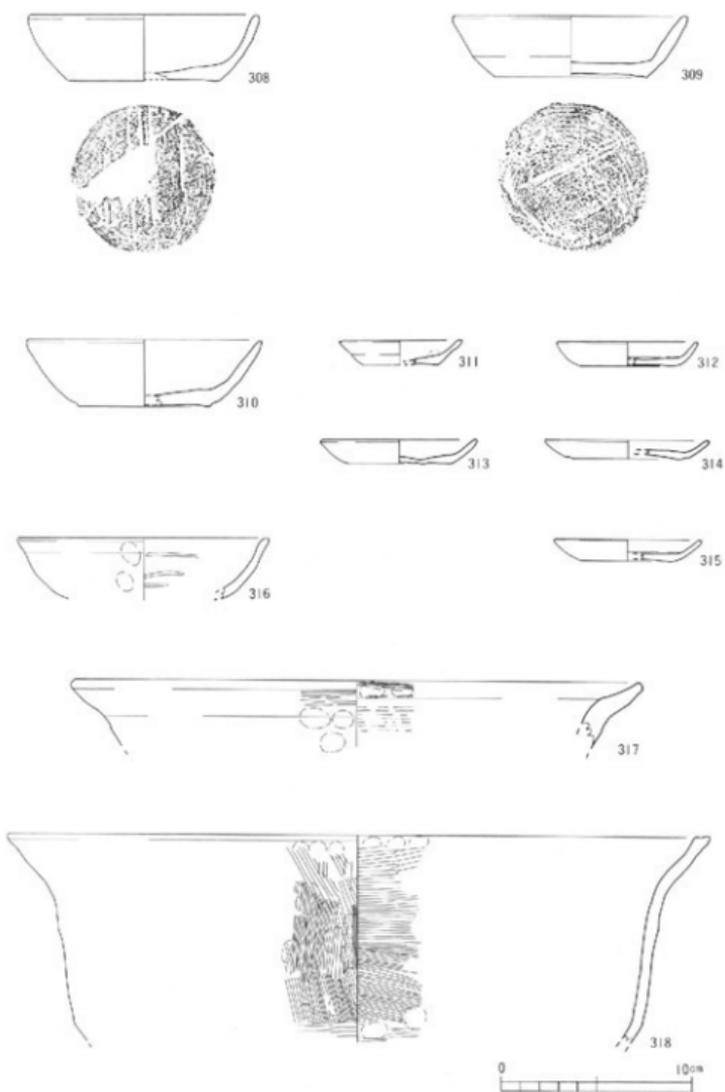
11.20 m



1. 灰色シルト(N4/)



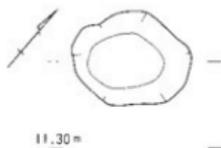
第89図 SK-10 測量図



第90図 SK-10出土遺物実測図

SK-11 (第91図)

SK-11はN9W32において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約0.70m、短軸0.64m、深さ約0.15mを測る。断面形はレンズ状を呈し、壁は平坦な床面からやや直に立ち上がる。埋土は青黒色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土鍋・土師質鉢の破片がある。

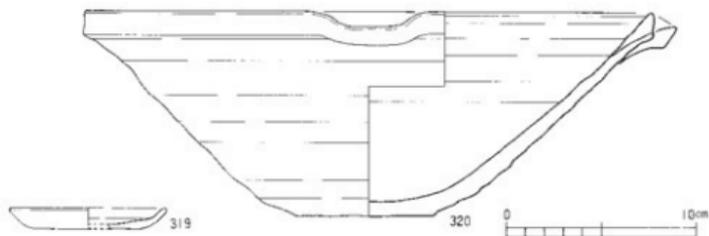


SK-11 出土遺物 (第92図)

319は土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径8.3cm、器高1.1cmを測る。底部から内湾しながら立ち上がり、端部を丸く仕上っている。



320は東播系のこね鉢で、口径30.0cm、器高10.9cm、底径7.0cmを測る。底面の切り離しは回転糸切りと思われる。内外面とも横撫でが施されている。底部内面には、下部から高さ約7cmまでの間に凹凸が著しく残っている。SK-11出土にしているが、SK-11から出土したのは体部片1点のみである。その他の破片は、散逸した状態で他から出土している。底部は



第91図 SK-11測量図

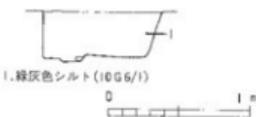
第92図 SK-11 出土遺物実測図

N9W32、体部はSK-11・SD-8・N8W32・N9W32・N11W32、口縁部はSD-8・N8W32・N9W32から出土した破片と接合している。SD-8の廃絶時期と同時期と考えられる。

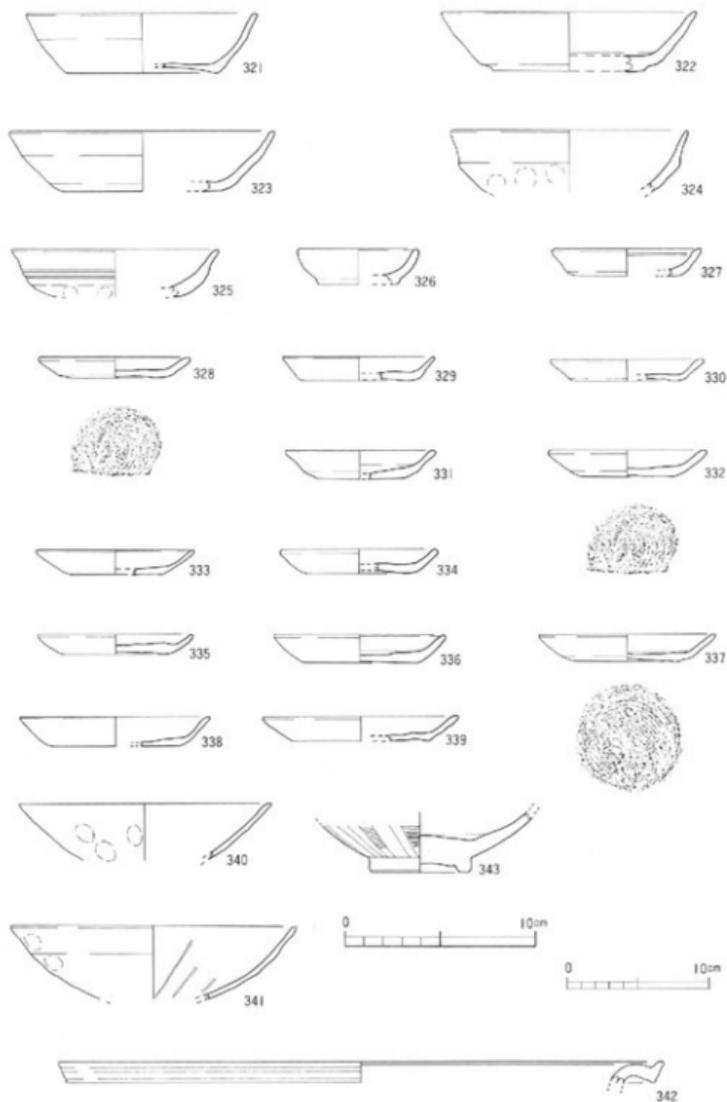


SK-13 (第93図)

SK-13はN10W33において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約1.90m、短軸0.20~0.35m、深さ約0.34mを測る。断面形は台形状を呈す。壁はやや平坦な床面から直に立ち上がる。床面に1箇所円形の窪みがある。埋土は青緑灰色シルトである。出土遺物には図示したものの他、



第93図 SK-13測量図



第94図 SK-13出土遺物実測図(342は1/4)

瓦器・土鍋・土師質鉢の破片がある。

SK-13 出土遺物 (第94図)

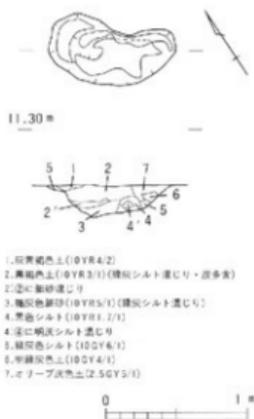
321~325は土師器杯である。321・322・323は底面回転糸切りで、口径11.8~14.0cm、器高3.2cmを測る。324・325は手づくねで、324は口縁部外面には横撫でが施され、下部に指頭痕が見られ、口径12.4cmを測る。325は口径10.8cmを測り、口縁部外面に横撫でが施され、沈線2条が巡る。下部に指頭痕がみられる。内面は摩滅している。

326~339は土師器皿で、全て底面が回転糸切りのものである。口径6.2~10.4cm、器高1.1~1.9cmを測る。326は口径6.2cm、器高1.9cmを測り、全体に厚みがあり、他の土師器皿とは若干異なるものである。326は口縁部内側が肥厚している。330・331は底部近くに撫でによる弱い稜ができ、331は外傾気味に立ち上がる。337は完形品で底部を切り離した後、周縁を撫で消している。

340・341は瓦器碗の口縁部である。340は口径13.2cmを測る。口縁外面には弱い横撫でが施され、その下部に指頭痕が見られる。摩滅している。341は口径15.0cmを測り、内面には斜め方向の暗文が施され、口縁外面には横撫でと指頭痕がみられる。

342は常滑焼き裏の口縁部である。口径43.0cmを測る。口縁部の形態から、赤羽一郎氏の編年(1)では第Ⅱ段階後半期に比定され、13世紀前半に位置づけられている。

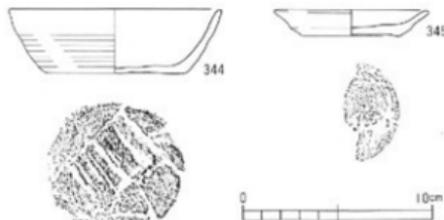
343は龍泉窯系青磁碗の底部である。外面にはへら状工具と指あるいは刷毛により蓮弁の文様が全面に施されている。高台は削り出しによる。高台の内部を除いて明緑灰色の釉がかかっている。



第95図 SK-14 測量図

SK-14 (第95図)

SK-14はN 9 W33において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.44m、短軸約0.20m、深さ約0.26mを測る。断面形はややレンズ状を呈し、床面はなだらかな面の段をもつ。南壁は床面から斜め方向に立ち上がり、北壁には平坦な面を一段もつ。東壁はオーバハンクしている。埋土は



第96図 SK-14 出土遺物実測図

1. 灰青褐色土 (0YR4/2)
2. 黄褐色土 (0YR3/1) (線状シムト溝じり・波多裏)
2. 定に紫砂埋じり
3. 黄褐色細砂 (0YR5/1) (線状シムト溝じり)
4. 黒色シムト (0YR1/1)
4. 定に褐色シムト埋じり
5. 緑灰色シムト (10Y6/1)
6. 半緑褐色土 (10Y4/1)
7. エゾアブ灰褐色土 (2.5GY5/1)

最下部に褐灰色細砂と黒色シルト、それより上位には黒褐色土とオリーブ灰色土であり、若干ブロックを含む。出土遺物には図示したもの他、瓦器・須恵器・土鍋・瓦質製の破片がある。

SK-14 出土遺物 (第96図)

344は土師器杯で、底面は回転糸切りである。口径11.2cm、器高3.4cmを測る。底部からやや内湾気味に立ち上がり端部を丸く仕上げている。体部外面には幅の狭い横撫でが施されている。

345は土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径8.2cm、器高1.4cmを測る。底部から外傾気味に立ち上がり、強い横撫でによりやや外反して稜が残る。口縁端部は丸く仕上げている。

SK-15 (第97図)

SK-15はN9W33において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.81m、短軸約0.75m、深さ約0.20mを測る。断面形は台形状を呈し、東壁は平坦な床面から斜め方向に立ち上がり、西壁は丸く内湾気味に立ち上がる。埋土は3層に分層でき、上層は緑灰色土、中層は暗青灰色シルト、下層は中層に似て暗青灰色シルトである。遺物は上・中層から主に出土している。出土遺物には図示したもの他、瓦器・須恵器・土鍋・瓦質製の破片がある。

SK-15 出土遺物 (第98・99図)

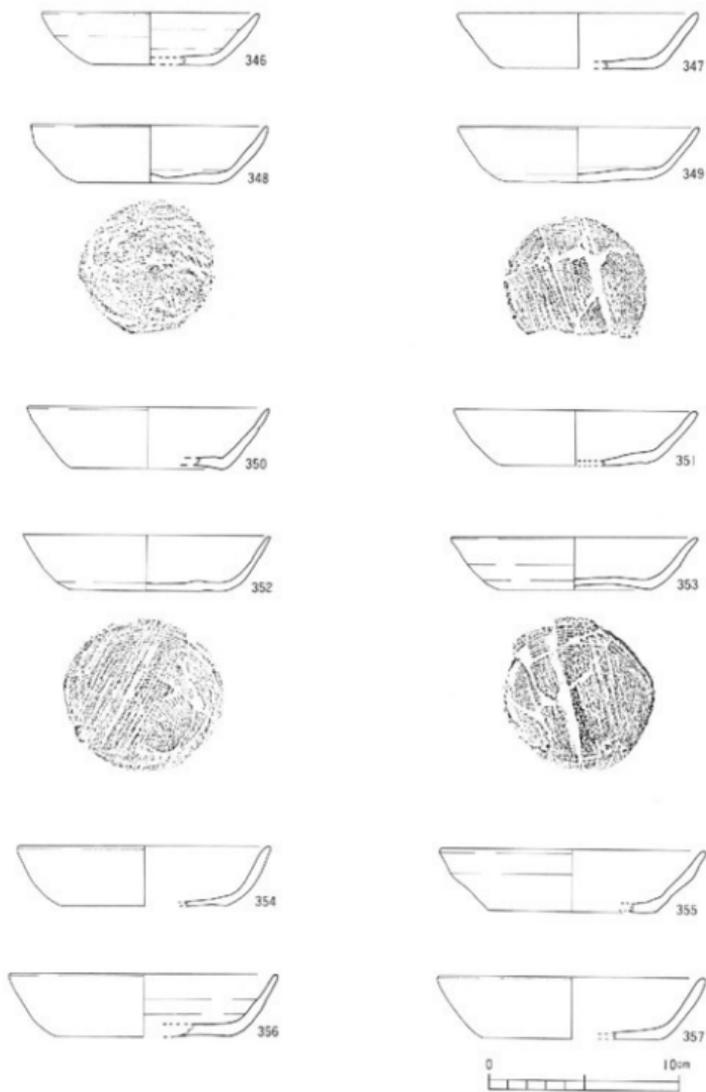
346~358は土師器杯で、全て底面が回転糸切りであり、中には板状圧痕がみられるものもある。口径11.4~14.6cm、器高2.8~3.8cmを測る。底面の拓本を載せている杯はほぼ完形品である。346は口径11.4cm、器高2.8cmと小振りのもので、内外面とも横撫でが施されている。354の口縁外面は、口縁端部から下1cmの間において色調が違ってやや灰色を呈している。重ね焼きによる痕跡かと思われる。355は口縁外面に強い横撫でにより稜がみられる。

359~371は土師器皿で、359~370は底面が回転糸切り、371は手づくねである。回転糸切りの皿は口径6.5~8.8cm、器高0.7~1.6cmを測り、中には板状圧痕がみられるものもある。359は器高0.7cmと最も低い。369と370は器高1.5cm・1.6cmと他の皿より比較的高く、370のみ口縁部が外反している。371は口径8.0cm、器高1.7cmを測り、口縁部は横撫でにより外反する。

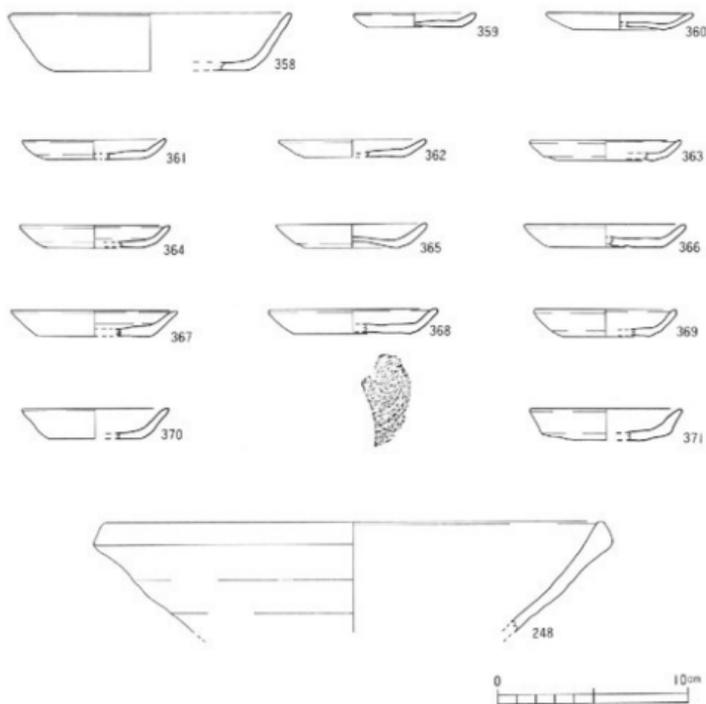
248は東播磨のこね鉢である。SB-1のP3出土破片と接合した(第75図にも掲載)。



第97図 SK-15 測量図



第98图 SK-15出土遺物実測図(1)



第99図 SK-15出土遺物実測図(2)

〔註〕

(1)赤羽一郎：『常滑焼—中世窯の様相—』（考古学ライブラリー23）、1984

【参考文献】

- ★森田 勉：「東播磨中世須志器生産の成立と展開—神出古窯址群を中心に—」『研究紀要 第3号』神戸市立博物館、1986
- ★森田 勉・横田賢次郎：「大宰府出土の輸入中国陶磁器について—型式分類と編年を中心として—」『九州歴史資料館研究論集 4』、1978

溝状遺構

調査区において、10条検出した。以下、主要な遺構についてのみ記す。

SD-1 (第100図)

SD-1はN8W32において検出した南北方向の浅い溝である。北側はSD-9に切られている。検出長約2.20m、幅約0.18m、深さ約0.03mを測る。主軸はN-7°-Eである。断面形はレンズ状を呈し、埋土は暗褐色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土釜の破片がある。

SD-1出土遺物 (第102図)

372は土師器杯で、底面は回転糸切りで板状圧痕がみられる。口径12.0cm、器高3.7cmを測る。底部から斜め方向に立ち上がる。口縁部は横撫でが施されやや外反する。

373は土師質の上鍋である。口縁部は「く」の字となり、端部をやや丸く仕上っている。内面に横方向の刷毛目、頸部外面には撫でが施されている。口径22.0cmを測る。

SD-5 (第101図)

SD-5はN10W31・32において検出した東西方向の溝である。検出長約6.60m、幅約0.80m、深さ約0.20mを測る。主軸方向はN-87°-Wではほぼ東西になり、東側はSD-7に切られている。断面形はレンズ状を呈し、西寄りの北側に平坦な一段をもつ。埋土は緑灰色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土鍋・青磁碗・常滑焼甕・置き甕の破片がある。

SD-5出土遺物 (第103図)

374~377は土師器杯で、全て底面は回転糸切りである。口径12.9~13.4cm、器高3.4~3.7cmを測る。374の口縁部は上方向に立ち上がる。375は底部からやや外反気味に立ち上がり、口縁部は横撫でにより少し外反する。376は底部から外方向へ内弯しながら立ち上がる。377は底部から内弯しながら立

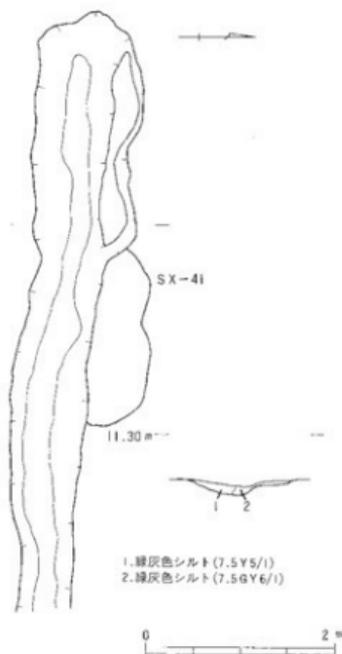


11.50m

暗褐色シルト(10YR3/3)

0 1m

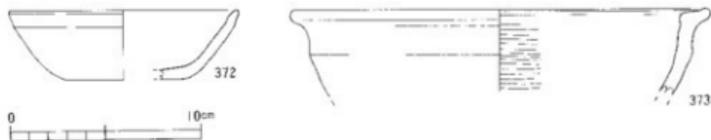
第100図 SD-1



1. 緑灰色シルト(7.5Y5/1)
2. 緑灰色シルト(7.5GY6/1)

0 2m

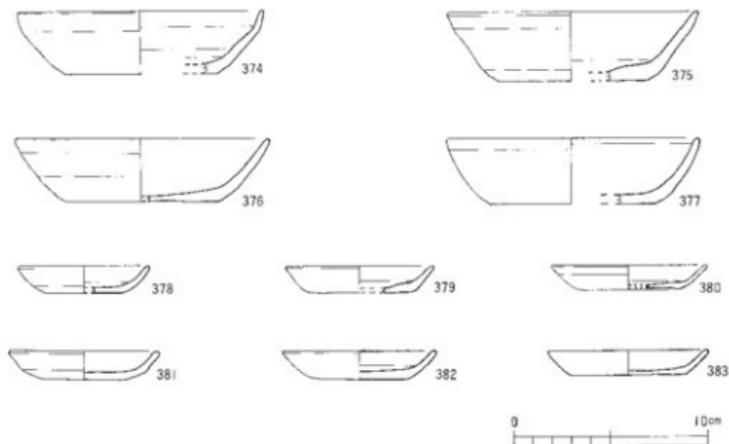
第101図 SD-5測量図



第102図 SD-1出土遺物実測図

ち上がり、376よりは内傾している。

378～383は土師器皿で、全て底面は回転糸切りである。口径7.0～8.2cm、器高1.3～1.5cmを測る。382はほぼ完形品である。381は口縁外面に強い横撫でが施され外反している。



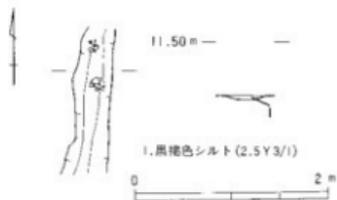
第103図 SD-5出土遺物実測図

SD-6 (第104図)

SD-6はN7W33において検出した南北方向の溝である。検出長約1.70m、幅約0.40m、深さ約0.06mを測る。主軸方向はN-8°-Eである。断面形はレンズ状を呈し、埋土は黒褐色シルトである。出土遺物には図示したもの他、瓦器・土鍋・青磁碗・瓦質裏の破片がある。

SD-6出土遺物 (第105図)

384・385・386は土師器杯である。384は完形に近く口径13.4cm、器高3.3cmを測る。底部から内湾



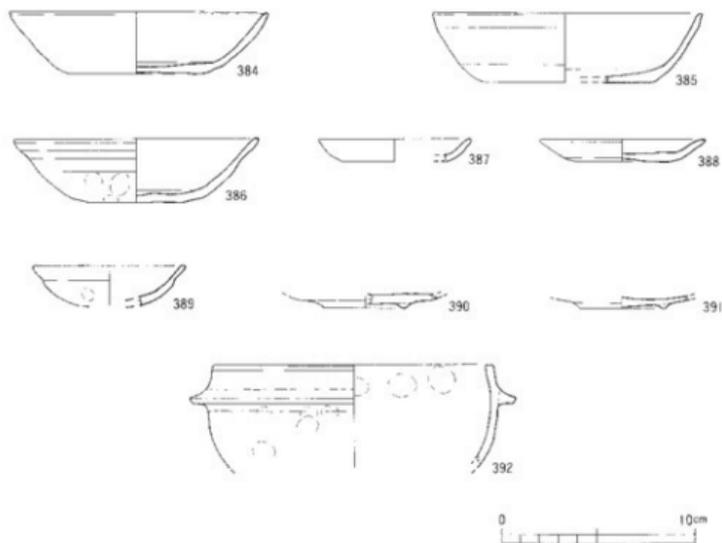
第104図 SD-6測量図

しながら立ち上がり端部を丸く仕上げている。全体に摩滅しているが、内面は撫でが施され底面に板状圧痕がみられ、おそらく回転糸切りと思われる。385は口径14.0cm、器高3.7cmを測り、底面が回転糸切りである。384と同様に底部から内湾しながら立ち上がり端部をやや細く仕上げ、器壁は384より薄い。386は手づくねで、口径12.8cm、器高3.4cmを測る。内面と口縁部外面には横撫でが施され、下部に指頭痕がみられる。

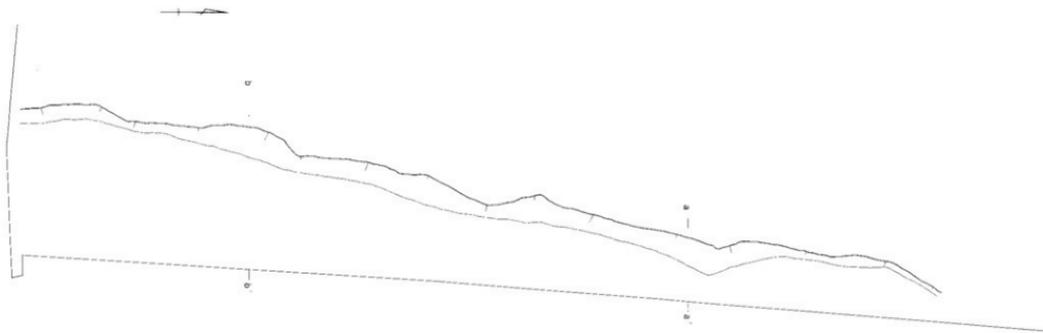
387・388・389は土師器皿である。387は口縁部であるが、底面に若干の糸切り痕跡がみられ、388と比べて硬質の焼きで、口径8.0cm、器高1.2cmを測る。内湾しながら立ち上がり端部は外反し、内外面とも撫で調整である。388は口径8.6cm、器高1.2cmを測り、底面は回転糸切りである。389は手づくねで、口径8.0cmを測る。口縁外面には強い横撫でが施されている。内面も撫でが施されている。底面には粘土紐巻き上げの痕跡を看取れる。

390・391は瓦器椀の底部である。いずれも形骸化した高台で粘土紐を貼り付けただけのものである。390は高台径4.4cmを測り、黒色を早している。391は高台径4.4cmを測り、外面は灰白色、内面は黒色を早し磨きがかすかにみられる。

392は瓦質の土釜である。口径14.5cmを測る。体部は内湾しながら口縁に至る。口縁端部には窪みが巡る。断面四角形の鈔が貼り付けられている。内外面とも撫でが施され、指頭痕が残る。



第105図 SD-6出土遺物実測図



b ——— 11.30 m
b'

a ——— 11.30 m
a'



第106図 SD-7測量図

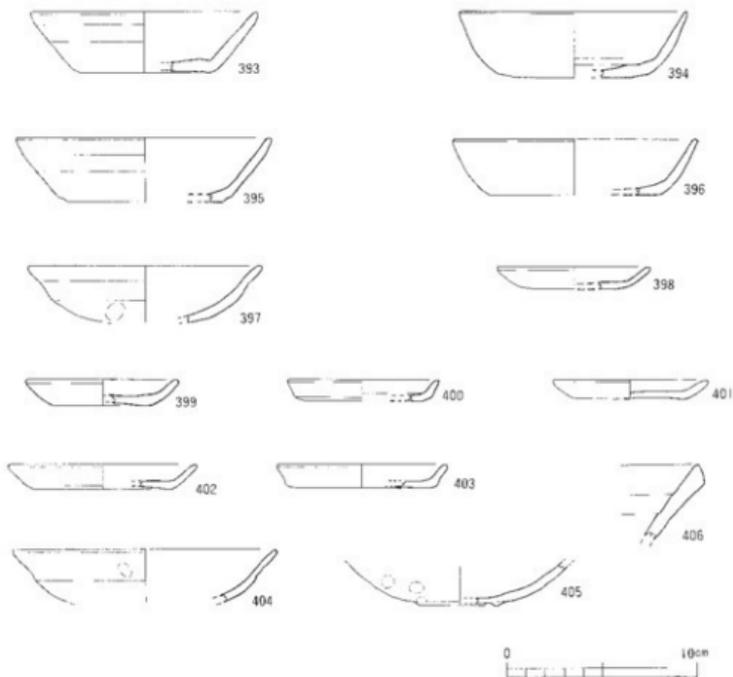
SD-7 (第106図)

SD-7は調査区の東端N6~10W31において検出した南北方向の溝である。検出長約23.0m、幅約4.0m以上、深さ約0.12mを測り、西肩のみを検出している。主軸方向はN-12°Eである。北側ではSD-5を切っている。断面形は平底状を呈し、埋土は浅黄色砂である。出土遺物には図示したもの他、上鍋・上釜・青磁碗・常滑焼甕・置き籠の破片がある。

SD-7出土遺物 (第107図)

393~397は土師器杯である。393~396の底面は回転糸切りで、口径11.8~13.3cm、器高3.0~3.5cmを測る。393は他より厚手に作られている。いずれも内外面とも横撫でが施されている。397は手づくねで、口径12.2cmを測る。口縁外面には横撫でが施され、下部に指頭痕がみられる。口縁部は外反し端部を丸く仕上げている。

398~403は土師器皿である。398~402の底面は回転糸切りで、口径7.9~10.0cm、器高1.0~1.4cmを測る。400は底部を切り離した後、周縁部を削り調整が施されて明瞭な残が残る。



第107図 SD-7出土遺物実測図

402は底部を切り離した後、周縁部は横撫でによる弱い稜がみられる。403は手づくねで、口径8.8cmを測る。口縁部には横撫でが施され平底状を呈し、底部に指頭痕が残る。

404・405は瓦器碗である。404は口径13.8cmを測り、口縁端部のみ黒色を呈し、内外面は灰白色を呈している。口縁部外面には横撫でが施され、やや外反し端部を丸く仕上げている。405は高台径4.2cmを測る。丸みのある体部で、形骸化した粘土紐を貼り付けたものである。外面に指頭痕が残る。黒系の灰白色を呈し、全体に摩滅している。

406は東播系こね鉢の口縁部である。内外面とも横撫でが施されている。口縁断面は丸みのある四角形を呈している。

SD-8 (第108図)

SD-8はN7～9W32において検出した南北方向の溝である。遺構検出前、特にN8W32のグリットから多数の遺物が出土し取り上げている。SD-8は、これら遺物取り上げ後に検出した遺構である。長さ約14.30m、幅約1.50m、深さ約0.05～0.11mを測る。主軸はN-10°-Eである。断面形は中央から南側では三角形状、北側では浅い台形状を呈している。西肩のやや北寄り一段高い面をもち、西へと遺構が伸びてT字状になるが、この先端部は削平されて検出できなかった。また、北側の床面からSIP状の遺構を1基検出した。埋土は黒色粘土～シルトである。

遺構検出時の遺物は、図にみられるようにT字状周辺で特に集中している。

出土遺物の中には、先にグリットで取り上げた遺物や他の遺構・グリットから出土した遺物と接合したものもある。

これら図示したものの他、青磁碗・常滑焼斐の破片やガラス質スラグが付着した如焼と思われる破片がある。

SD-8 出土遺物 (第109～117図)

土師器碗 (第109図、407)

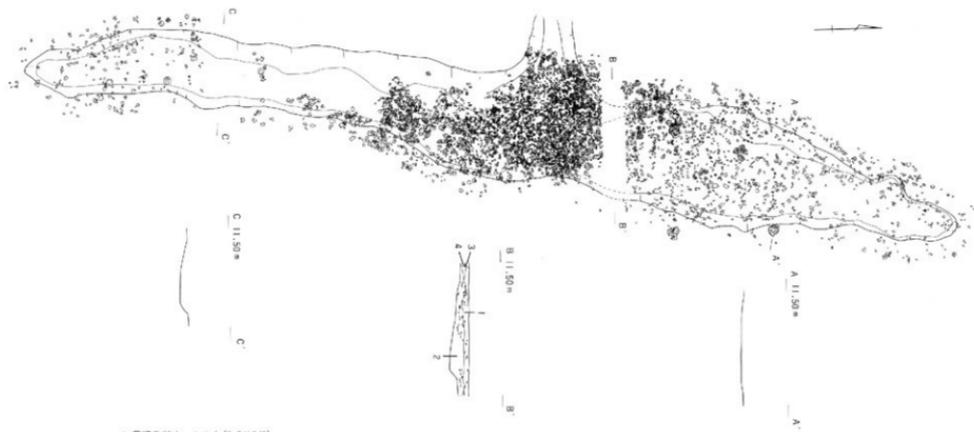
407は底部である。粘土紐の高台を貼り付けたもので、高台径3.6cmを測る。外面には指頭痕が、内面には磨きがかすかにみられる。吉備系土師器碗と思われ、13世紀後半と考えられる。

土師器杯 (第109・111図、408～448)

408は高台付杯である。底面は回転糸切りした後、粘土紐を貼り付け輪高台としている。高台径3.7cmを測る。本調査区からはこの1点しか出土していない。

409～439は底面が回転糸切りである。口径11.0～14.0cm、器高2.8～3.8cmを測る。435は内面が黒けているため灯明として使用された可能性がある。422は他の杯と比べて色調が浅黄橙色である。

440～448は手づくねである。口径12.0～14.0cm、器高2.8～4.1cmを測る。



1. 黄褐色粘土-シルト(2.5Y5/3)
2. 黒色粘土-シルト(2.5Y 2/1)
3. 黒色粘土-砂質土(2.5Y 3/1)
4. 増殖灰色粘土(0GY 4/1)

第108図 SD-8測線図

土師器皿（第112・114図）

449～514は底面が回転糸切りである。口径6.8～9.8cm、器高0.9～1.8cmを測る。

515～534は手づねである。口径7.0～9.0cm、器高1.1～2.1cmを測る。

瓦器椀（第115図、535～547）

535～547は瓦器椀である。口径11.8～16.0cmを測る。540は内面に横方向の暗文が施されている。537は内面見込みに略文が施されている。544は内面に暗文が施されている。539は口縁外面のみ黒色である。543は外面と口縁内面のみ黒色である。538は全体に灰黒色を呈している。547は粘土紐を貼り付けただけの高台部である。

出土した瓦器椀は、いずれも口縁部外面を横撫で、下部に指頭痕がみられる。

瓦器皿（第115図、548・549）

548は口径8.3cm、器高1.7cmを測る。549は口径8.4cm、器高1.5cmを測る。いずれも口縁部内外面とも横撫でが施されている。

図化できた瓦器皿は、この2点のみである。

瓦質土鍋（第117図、559）

559は瓦質の土鍋で、口径30.0cmを測る。

須恵器椀（第116図、558）

558は平底を呈する底部である。底面は回転糸切りで、底径5.0cmを測る。内外面とも撫でが施されている。椀としているが、立ち上がりから皿または杯である可能性もある。

須恵器こね鉢（第116図、550～557）

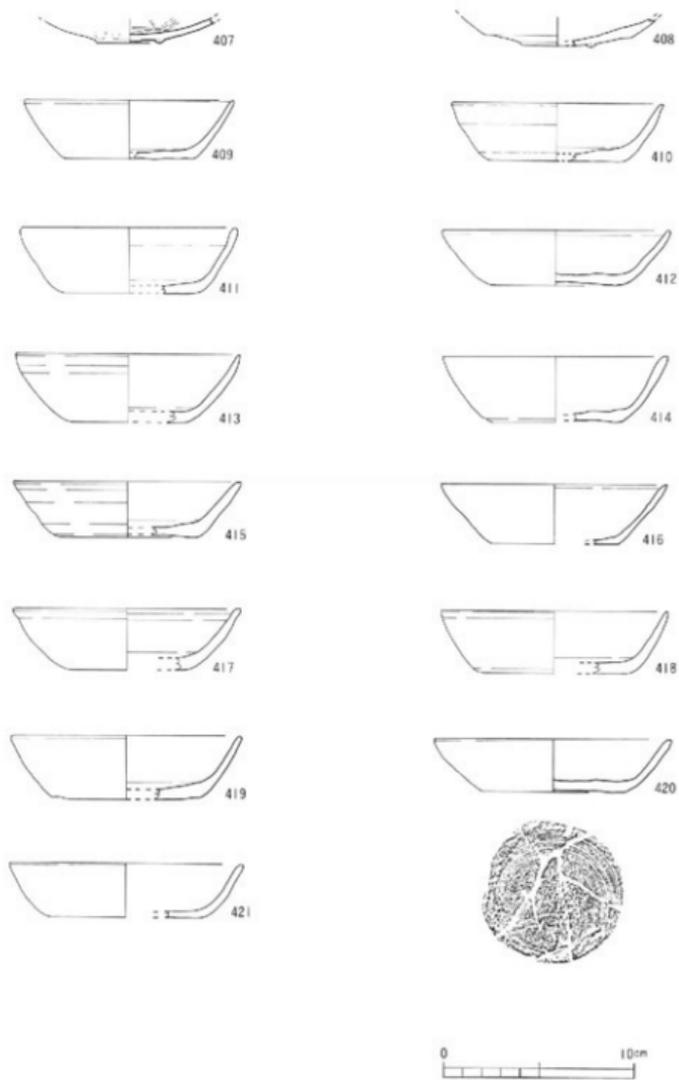
553は口縁部外面に丸みをもつ。556は557と同様に口縁部外面に丸みをもつ。554は口縁部外面に稜をもち、断面三角形を呈している。555は554よりは丸みを持つ口縁断面三角形で、全体に灰白色を呈して、やや軟質のものである。552は口径30.0cmを測る。グリットN9W32取り上げ破片と接合している。551は口径30.0cmを測る。口縁部は上方向につまみあげられている。550は口径28.0cmを測る。554と同様の口縁であり、拡張幅が広い。N9・10W32出土破片と接合している。553は口径35.0cmを測る。口縁部は557より薄く丸く仕上げられている。全体に灰白色を呈して、やや軟質のものである。N7W32・N11W33出土破片と接合している。

図化したこね鉢は、いずれも東播磨のもので、内外面とも横撫でが施されている。

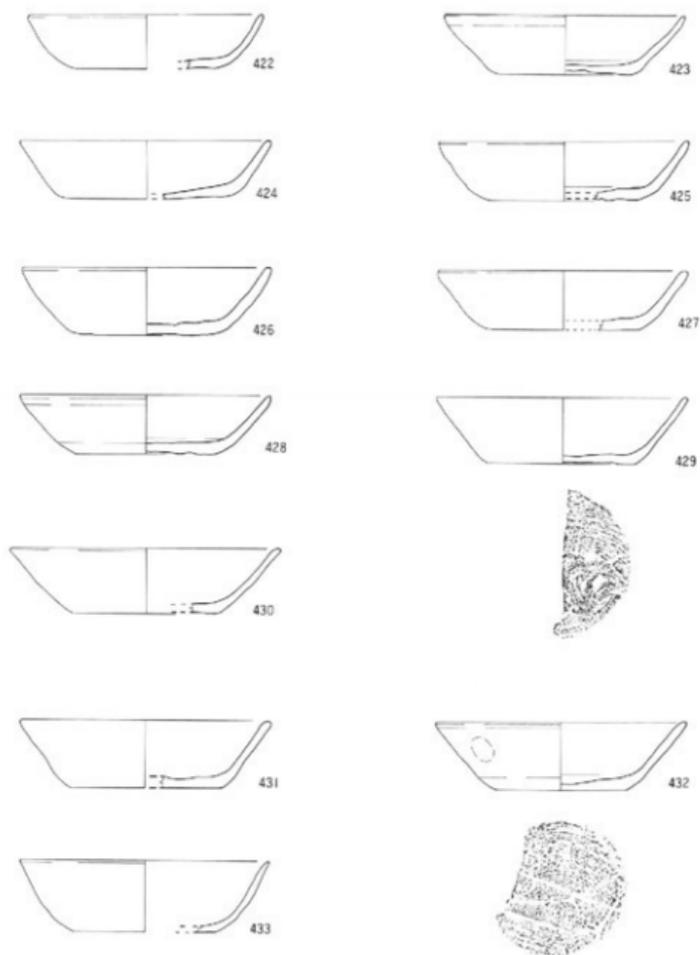
土鍋（第117図、560・561・562）

いずれも土師質の土鍋の口縁部である。

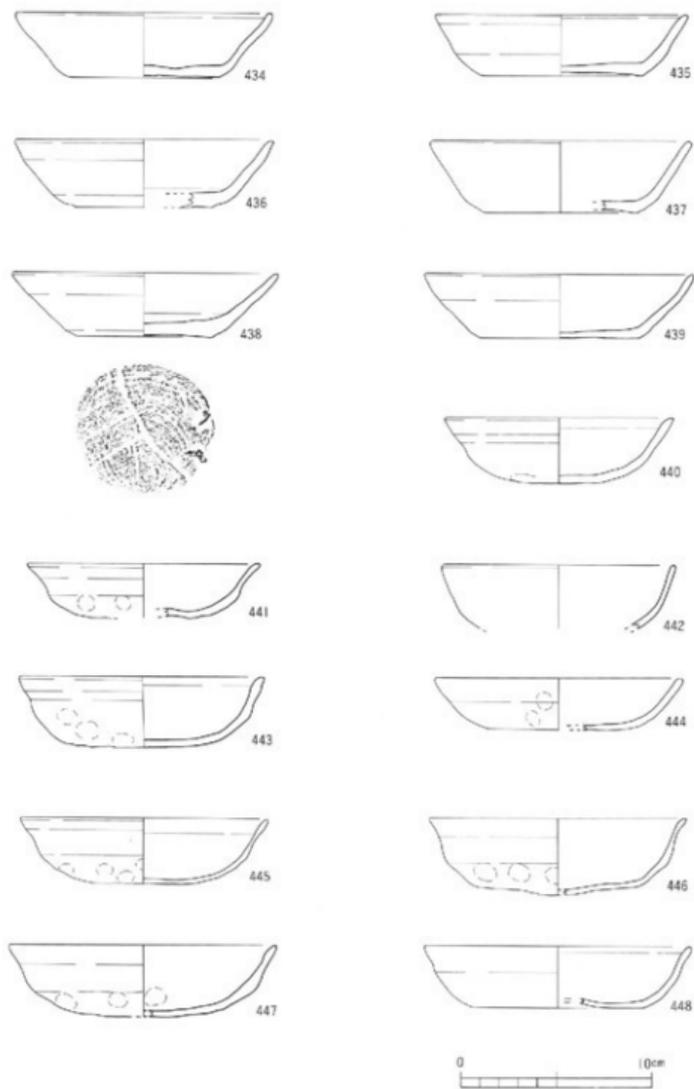
560は口径34.0cmを測り、内面は横方向の刷毛目が施されている。561は口径39.0cmを測る。内面は横方向、外面頸部から下部に縦方向の刷毛目が施されている。562は口径40.0cmを測る。内面は横方向の刷毛目が施され、口縁部は外傾し、頸部は内傾している。



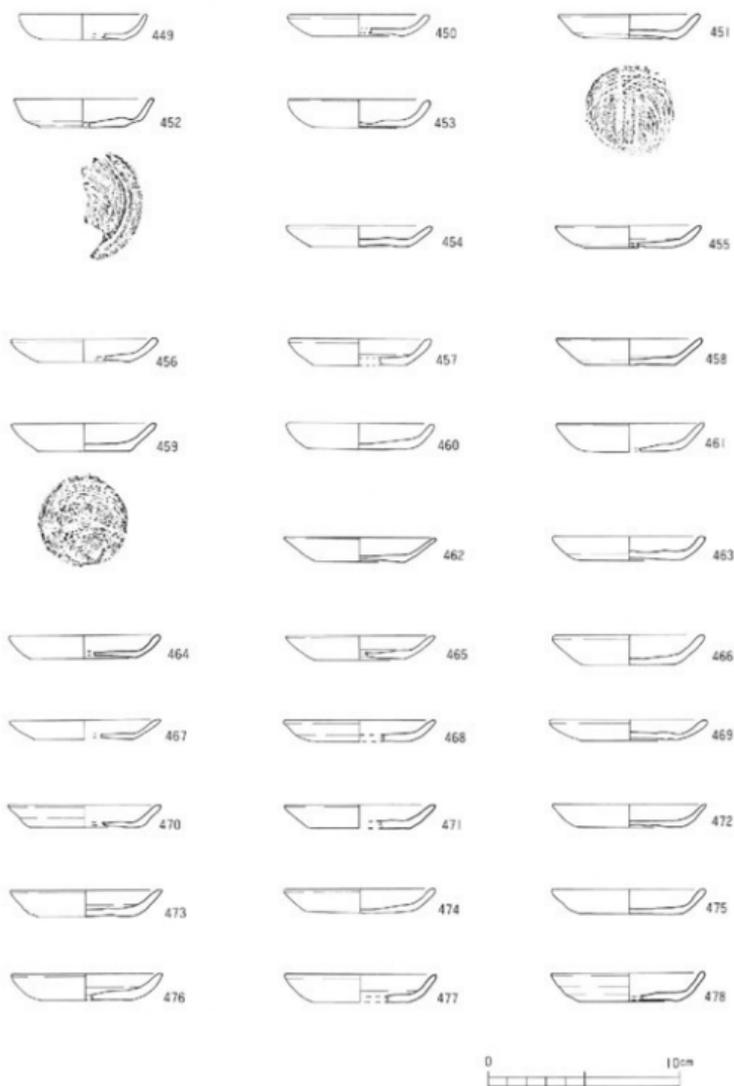
第109图 SD-8出土文物实测图(1)



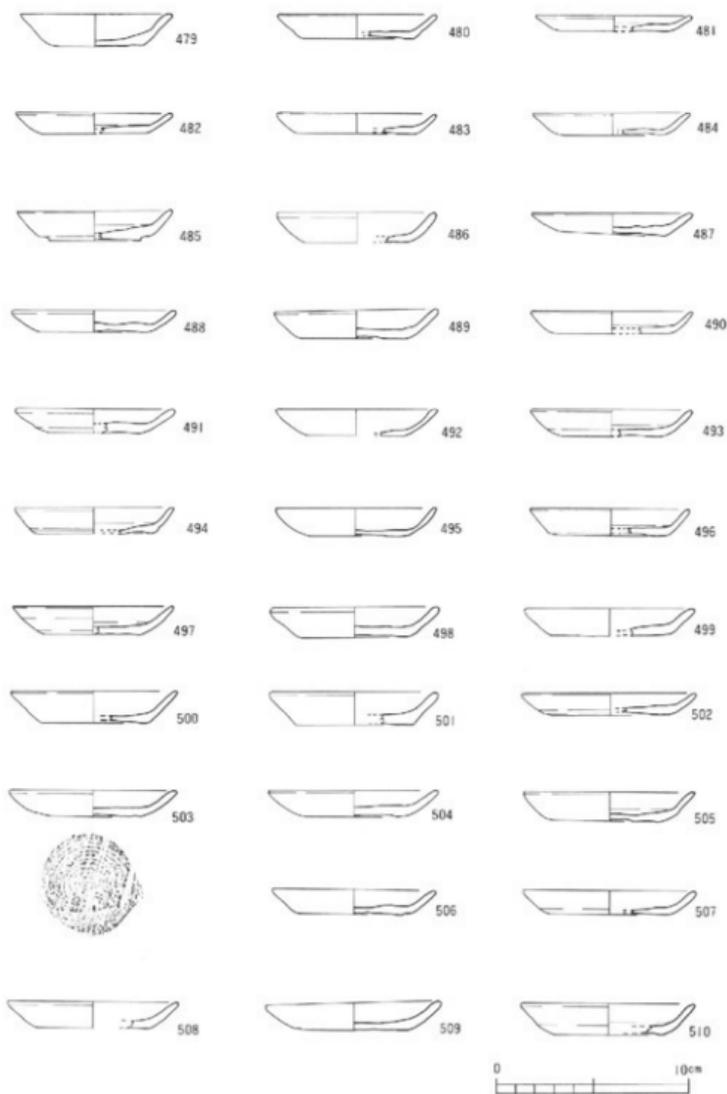
第110图 SD-8出土遗物实测图(2)



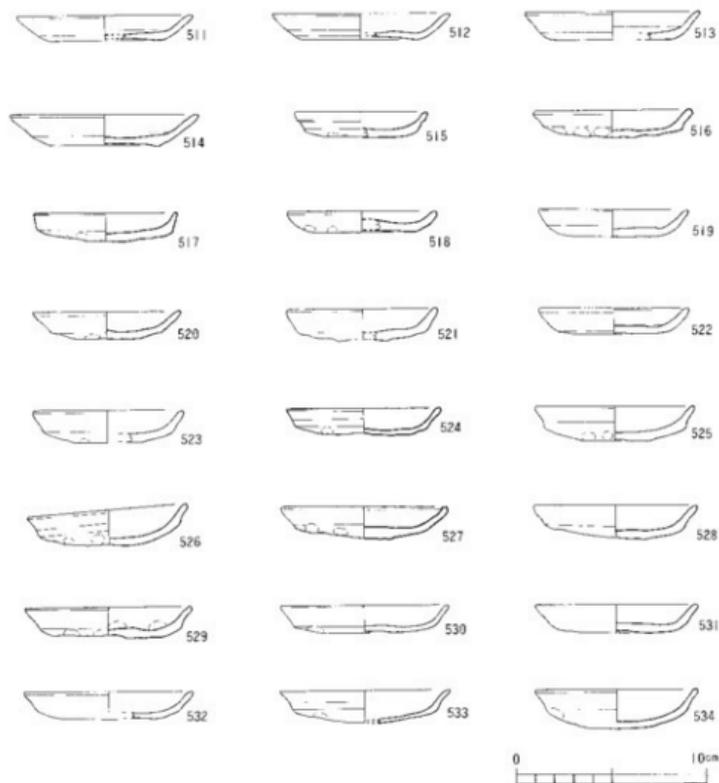
第111图 SD-8出土遗物实测图(3)



第112图 SD-8出土遗物实测图(4)



第113图 SD-8出土文物实测图(5)



第114図 SD-8出土遺物実測図(6)

甕 (第117図、563)

563は土師質の置き甕で、馬蹄形を呈している。釜穴の口径は推定で約28cmを測る。焚口上部の外面には、縦方向の刷毛目か施されている。脣部は斜め上方に伸び、端部を丸く仕上げられており、曲げ甕となる。

青磁皿 (第117図、564)

564は口径11.4cm、器高2.8cm、底径4.4cmを測る。内面見込み部には、草花文のスタンプが押されている。薄い緑色をおびた灰白色の釉がかかり、施釉後に底面の釉をカキ取っている。底面には墨書らしき跡がみられる。龍泉窯系のもと考えられる。



535



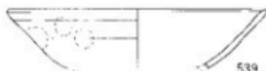
536



537



538



539



540



541



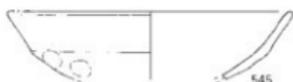
542



543



544



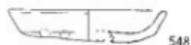
545



546



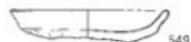
547



548

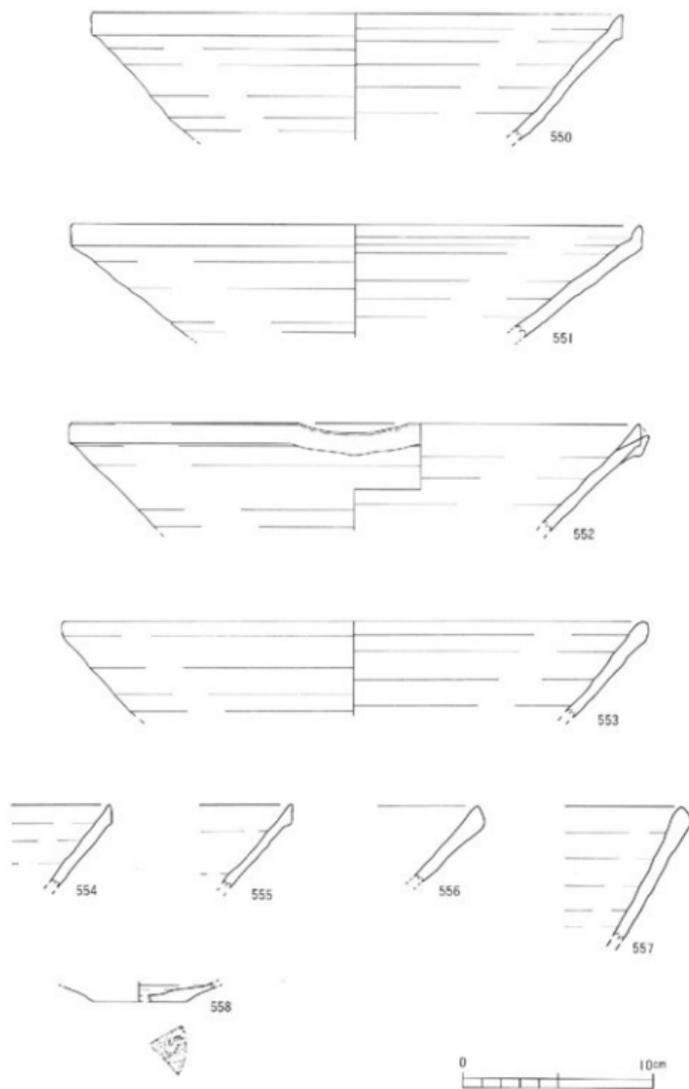


10cm

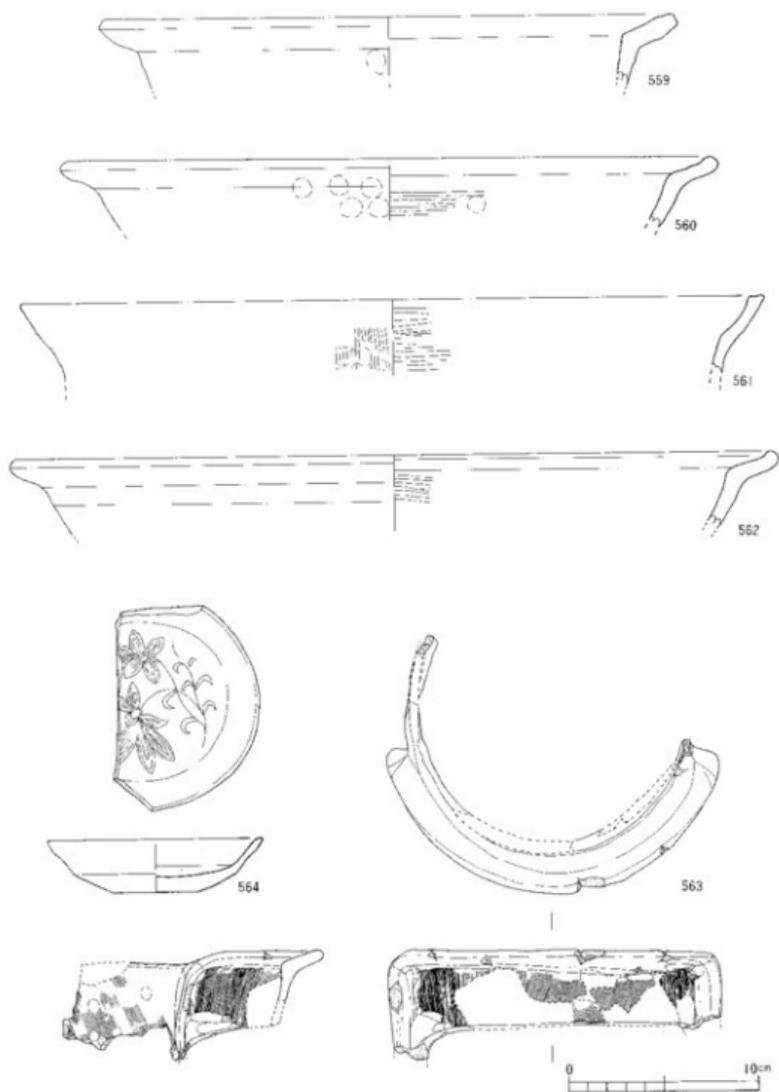


549

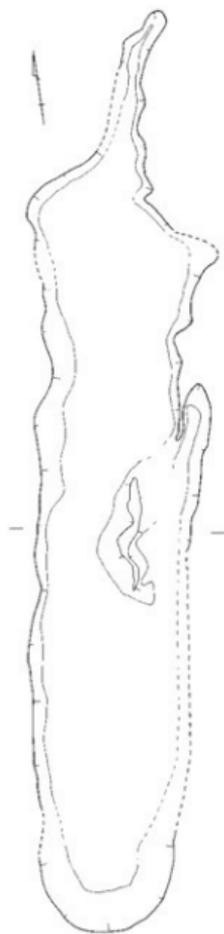
第115图 SD-8出土遺物実測図(7)



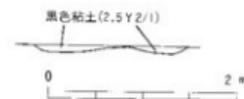
第116圖 SD-8出土遺物実測図(8)



第117図 SD-8出土遺物実測図(9)(563のみ1/6)



11.50 m



第118図 SD-9測量図

SD-9 (第118図)

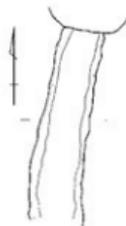
SD-9はN8・9・10W31・32において検出した南北方向の溝である。SD-8同様に、検出前に遺物が密集して出土していた。長さ約9.80m、幅約1.70m、深さ約0.08mを測る。主軸はSD-8と同じN-10°-Eである。北側部分は東西幅約0.4mと細くなる。断面形は台形状を呈し、中央に高まりをもつ。埋土は黒色粘土である。検出後の出土遺物には土師器・須恵器があり、細片のため図示できなかった。

SD-10 (第119図)

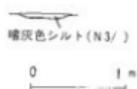
SD-10はN7W32において検出した南北方向の溝である。北側はSK-9に切られている。長さ約2.10m、幅約0.50m、深さ約0.03mを測る。主軸はN-10°-Eである。断面形は平底状を呈し、埋土は暗灰色シルトである。出土遺物には図示したもの他、土鍋・須恵器の破片がある。

SD-10出土遺物 (第120図)

565・566は土師器杯で、いずれも底面は回転糸切りである。内外面とも撫でが施されている。565は口径14.0cm、器高3.6cmを測る。566は口径12.0cm、器高2.5cmを測る。



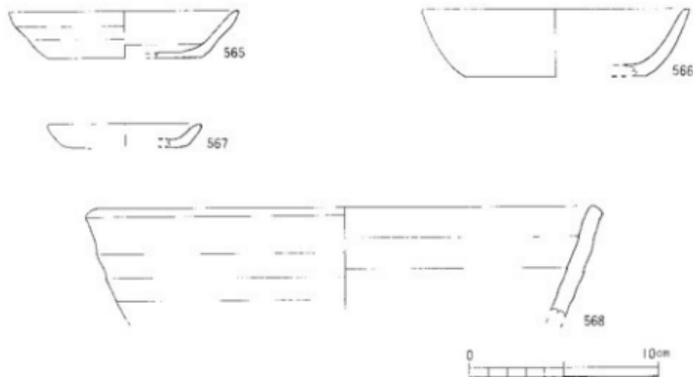
11.30 m



第119図 SD-10測量図

567は土師器皿で、手づくねによるものである。口径8.0cm、器高1.3cmを測る。

568はこね鉢の口縁部である。口縁部の断面は四角形を呈している。口径26.0cmを測る。



第120図 SD-10出土遺物実測図

柱穴状遺構

調査区において、33基検出した。以下、実測可能な遺物を出土した遺構についてのみ記す。

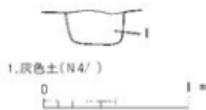
SP-7 (第121図)

SP-7はN8W33・34において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.45m、短軸約0.40m、深さ約0.21mを測る。埋土は灰色土である。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師質土器・須恵器・青磁碗・砥石の破片がある。



SP-7出土遺物 (第122図、569-574)

569・570は土師器杯である。570の底面は回転糸切りである。569は口径11cmを測る。570は口径11.4cm、器高2.9cmを測り、内外面とも撫でが施されている。底部から内弯しながら立ち上がり、口縁部がやや肥厚し端部を丸く仕上げている。



第121図 SP-7測量図

571-573は土師器皿で、全て底面が回転糸切りである。口径7.0-9.0cm、器高1.4-1.5cmを測る。

574は常滑焼の甕の底部である。底径14.0cmを測る。底部から外方向へ立ち上がりながら内弯していく。内面にはオリブ色の釉がかかっている。

SP-13 (第122図)

SP-13はN7W33において検出した。平面形は楕円形で、長軸約0.45m、短軸約0.35m、深さ約0.35mを測る。埋土は暗青灰色土である。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師質の土鍋の破片がある。

SP-13 出土遺物 (第123図、575)

575は土師器杯で、底面は回転糸切りである。口径13.0cm、器高3.1cmを測る。内外面とも横撫でが施されている。

SP-15 (第122図)

SP-15はN8W33において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.50m、短軸約0.46m、深さ約0.20mを測る。埋土はオリーブ灰色土である。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師質土器の破片がある。

SP-15 出土遺物 (第123図、576)

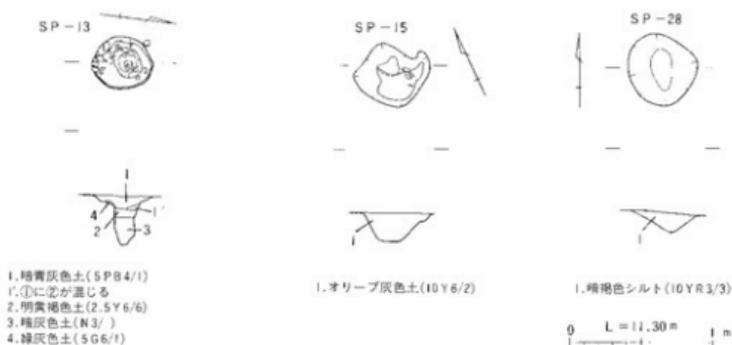
576は土師器杯で、底面は回転糸切りである。口径11.8cm、器高3.5cmを測る。内外面とも横撫でが施されている。

SP-28 (第122図)

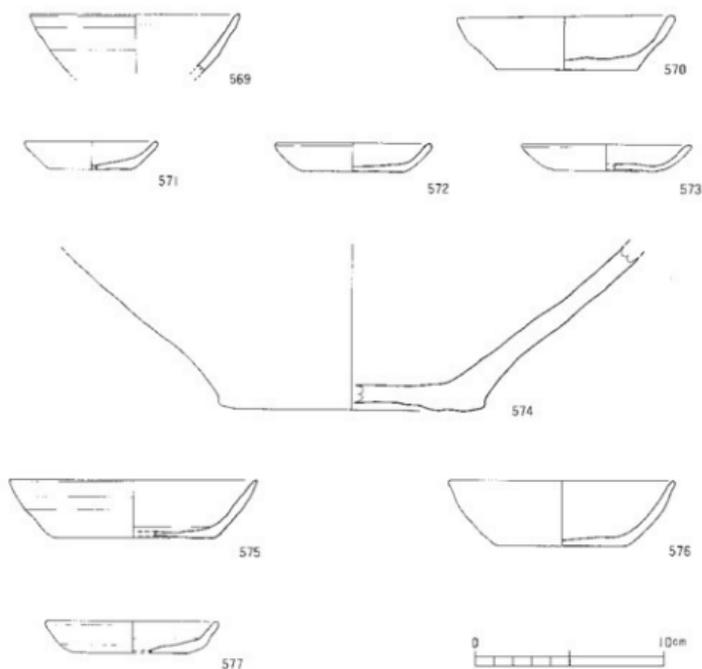
SP-28はN9W32において検出した。平面形は楕円形で、長軸約0.50m、短軸約0.43m、深さ約0.10mを測る。埋土は暗褐色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師質土器の破片がある。

SP-28 出土遺物 (第123図、577)

577は土師器皿である。底面は摩滅しているが、板状圧痕がみられ回転糸切りと思われる。口径9.2cm、器高1.7cmを測る。



第122図 SP-13・15・28 測量図



第123図 SP-7・13・15・28出土遺物実測図

土器集積遺構

調査区内の3箇所で見出された。明確な掘り方は認められず、土師器などが数枚重なって検出されたものである。

1号集積（第124図）

N7W33において、土師器杯及び皿が重積して出土した。約20枚の土師器杯・皿が重なって出土した。ほとんどの土器は、摩滅がひどく実測できたのは、図示したもののみである。

1号集積出土遺物（第127図、581～597）

581・582は土師器杯である。581は口径13.0cmを測り、内外面とも横撫でが施されている。582の底面は回転糸切りである。

583～597は土師器皿である。597のみ手づくねで口径7.6cmを測り、他は全て底面回転糸切

りである。596・592・593・594・588・590・595はほぼ完形品で、口径6.3～8.4cm、器高0.8～1.5cmを測る。

2号集積 (第126図)

N 8 W33において検出した。約8枚の土師器杯・皿が重なって出土した。ほとんどの土器は、摩滅がひどく実測できたのは、図示したのみである。

2号集積出土遺物 (第127図、598～602)

598～601は土師器杯で、601のみ手づくねで口径13.2cmを測り、他は全て底面糸切りである。599は口径12.6cm、器高3.2cm、600は口径13.8cm、器高3.0cmを測る。

602は土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径7.8cm、器高1.4cmを測る。

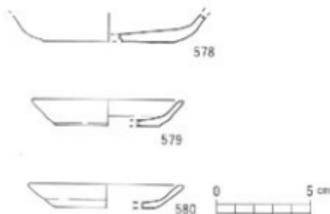
3号集積

N 7 W33において検出した。約5枚の土師器杯・皿が重なって出土した。ほとんどの土器は、摩滅がひどく実測できたのは、図示したのみである。

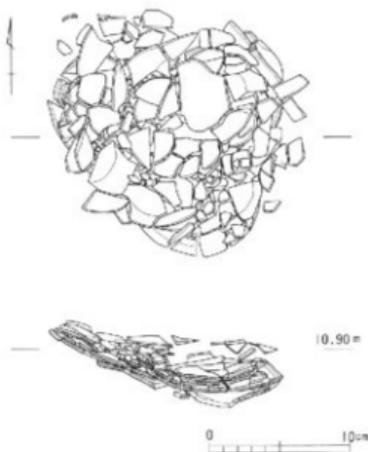
3号集積出土遺物 (第125図)

578は土師器杯で、底面回転糸切りである。

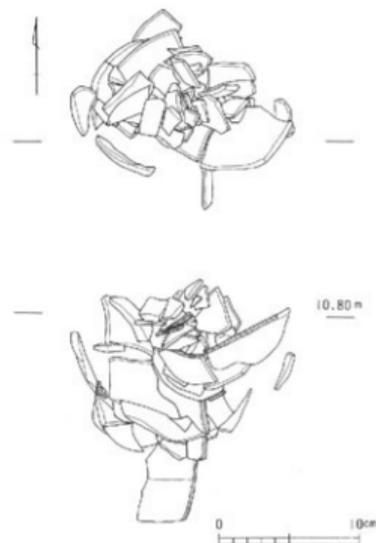
579・580は土師器皿で、底面回転糸切りである。



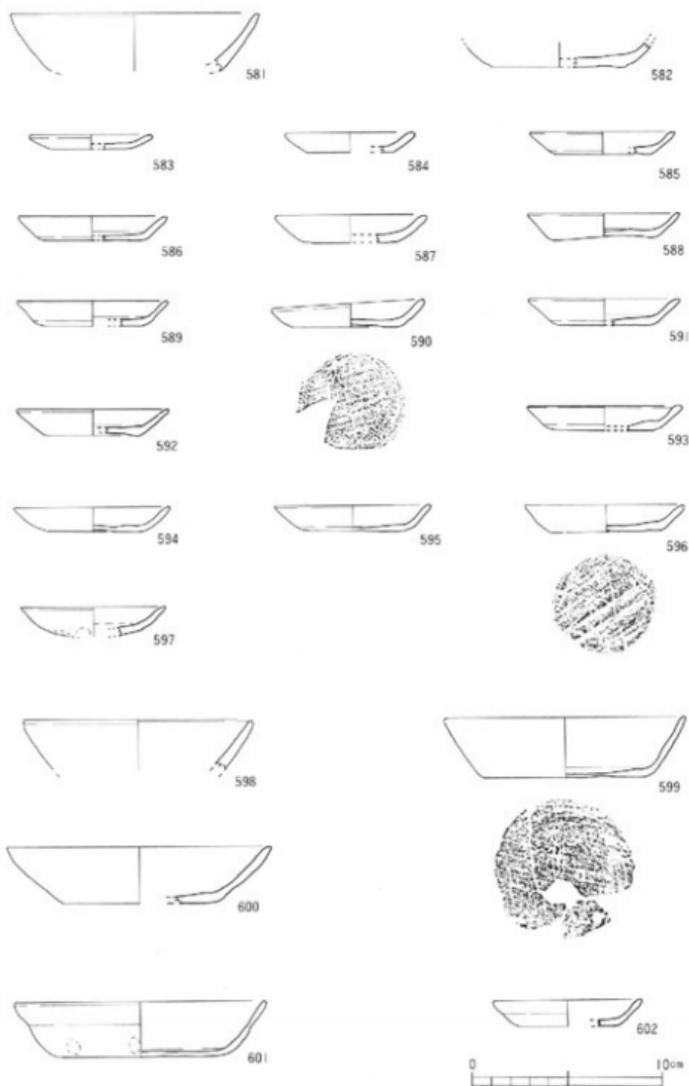
第125図 3号集積遺物出土遺物実測図



第124図 1号集積遺物測量図



第126図 2号集積遺物測量図



第127图 1·2号集墳遺構出土遺物実測図

性格不明遺構

調査区において、58基検出した。以下、実測可能な遺物を出土した遺構についてのみ記す。

SX-3 (第128図)

SX-3はN8W33において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.45m、短軸約0.26m、深さ約0.33mを測る。埋土は黒色シルトなどである。出土遺物には図示したものの他、土師質の土釜の破片がある。

SX-3 出土遺物 (第129図、603・604・605)

603・604は土師器皿で、底面は回転糸切りである。

605は瓦器碗の口縁部で、口径13.8cmを測る。

SX-5 (第128図)

SX-5はN8W34において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約0.40m、短軸約0.22m、深さ約0.07mを測る。埋土は暗緑灰色シルトである。出土遺物には図示したものの他、土師器の破片がある。

SX-5 出土遺物 (第129図、606~614)

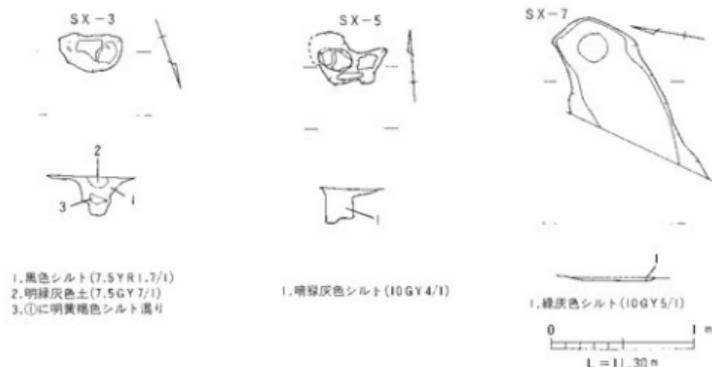
606・607は土師器杯である。底面は回転糸切りである。606は口径12.3cm、器高3.2cm、607は口径13.4cm、器高3.6cmを測る。

608~613は土師器皿で、いずれの底面も回転糸切りである。口径7.6~8.8cm、器高1.2~1.6cmを測る。

614は瓦器碗である。口径15.4cmを測る。全体に摩滅している。

SX-7 (第128図)

SX-7はN9W33において検出した。平面形は不整形の長方形で、検出した長軸約1.10m、短軸約0.70m、深さ約0.04mを測る。埋土は緑灰色シルトである。床面からSΛ-1の



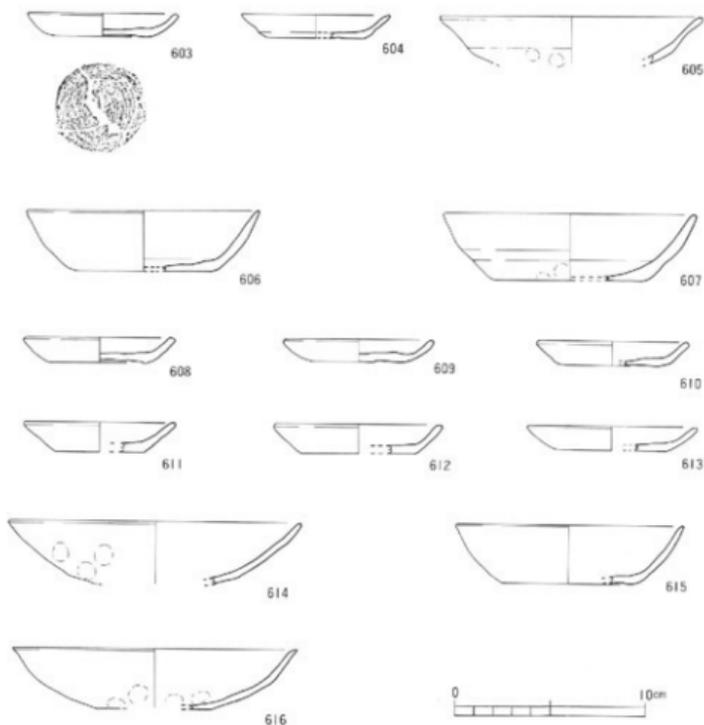
第128図 SX-3・5・7測量図

P7を検出した。出土遺物には図示したもの他、土師質の土鍋がある。

SX-7 出土遺物 (第129図、615・616)

615は土師器杯で、底面は回転糸切りである。口径11.8cm、器高3.1cmを測る。

616は瓦器碗で、口径15.0cmを測る。



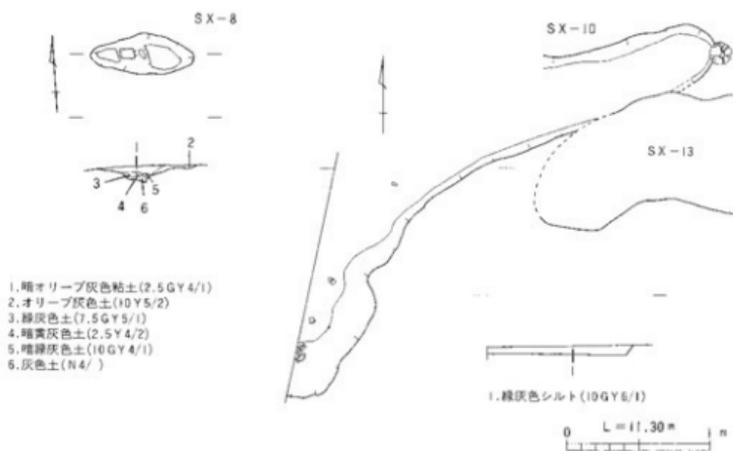
第129図 SX-3・5・7出土遺物実測図

SX-8 (第130図)

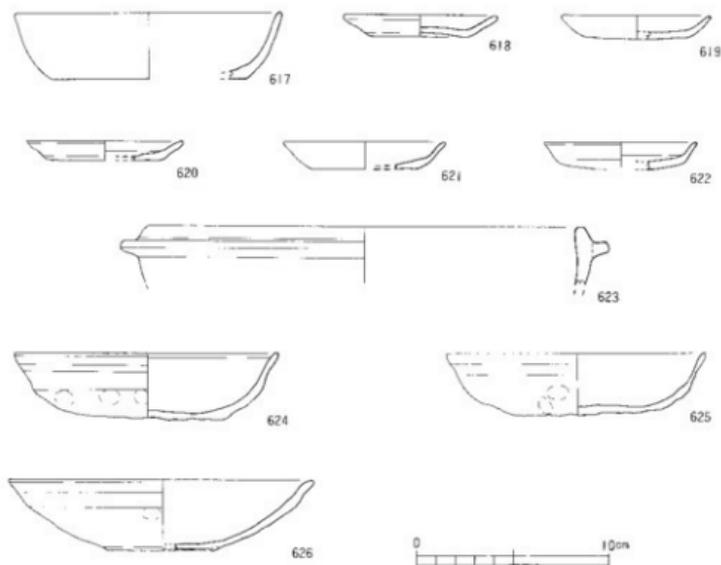
SX-8はN9W33において検出した。平面形は不整形の長方形で、長軸約0.65m、短軸約0.30m、深さ約0.10mを測る。埋土は暗オリーブ灰色粘土などである。出土遺物には図示したもの他、瓦器・土師質の土釜の破片がある。

SX-8 出土遺物 (第131図、617~623)

617は土師器杯で、底面が回転糸切りのものである。口径14.0cm、器高3.5cmを測る。



第130図 SX-8・10測量図



第131図 SX-8・10出土遺物実測図

618～622は土師器皿である。618～621の底面は回転糸切りである。口径7.6～8.6cm、器高1.0～1.5cmを測る。622は手づくねで口径8.0cmを測る。

623は土師質の土釜の口縁部である。口径22.5cmを測る。

SX-10 (第130図)

SX-10はN9・10W33において検出した。東南部の一部はSX-13に切られている。平面形は長円形で、長軸約1.90m、短軸約0.35m以上、深さ約0.06mを測る。埋土は緑灰色シルトである。出土遺物には図示したもの他、瓦器・土師質の上釜・青磁碗の破片がある。

SX-10出土遺物 (第131図、624・625・626)

624・625は土師器杯で、手づくねのものである。624はほぼ完形品で口径13.8cm、器高3.4cmを測る。625は口径13.6cm、器高3.2cmを測る。

626は瓦器碗で、口径16.0cm、器高3.8cm、高台径5.4cmを測る。粘土紐を貼り付けただけの形骸化した高台で、全体に摩滅している。

SX-12 (第132図)

SX-12はN9W33において検出した。平面形は楕円形で、長軸約0.45m、短軸約0.40m以上、深さ約0.04mを測る。埋土は黒褐色粘土である。出土遺物には図示したもの他、瓦器・土師質の土釜の破片がある。

SX-12出土遺物 (第133図、627)

627は土師器杯の底部である。摩滅しているが、底面は回転糸切りと思われる。

SX-13 (第132図)

SX-13はN9W33において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約1.90m、短軸



第132図 SX-12・13測量図

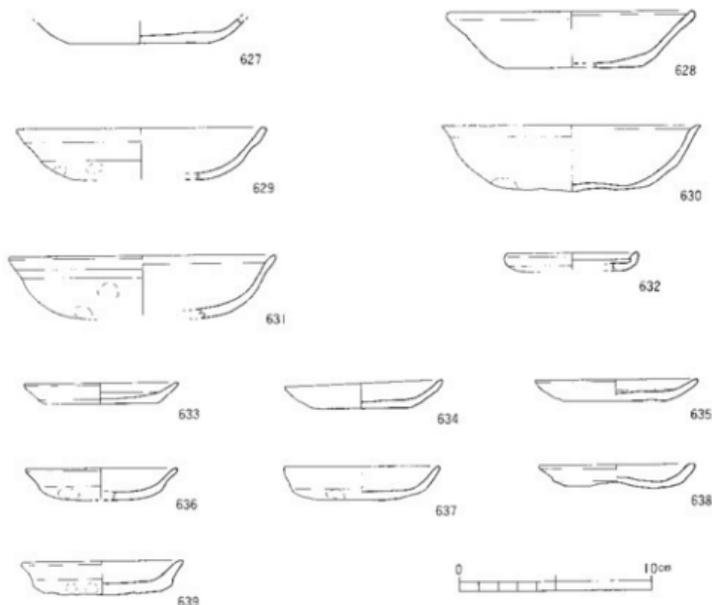
約0.50m、深さ約0.06mを測る。埋土は暗緑灰色シルトなどである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土鍋・須恵器・土師質の土釜・青磁碗の破片、ガラス質スラグの付着した炉片がある。

S X - 13 出土遺物 (第133図、628~639)

628~631は土師器杯である。628の底面は回転糸切りである。口径12.6cm、器高3.0cmを測る。629・630・631は手づくねの杯である。629は口径13.0cm、630は口径13.4cm、器高3.5cm、631は口径14.0cmを測る。630はほぼ完形品である。

632~639は土師器皿である。633・634・635は底面回転糸切りで、口径8.0~8.6cm、器高1.1~1.4cmを測る。636~639は手づくねのもので口径7.9~8.4cm、器高1.2~1.8cmを測る。634・635・637・639はほぼ完形品である。

632は、口縁部が内側に折り曲げられている。口径7.0cm、器高1.0cmを測り、本調査区からはこの1点のみの出土である。



第133図 S X - 12・13 出土遺物実測図

SX-20 (第134図)

SX-20はN9W33において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約0.43m、短軸約0.90m、深さ約0.07mを測る。埋土は暗灰色土などである。出土遺物には図示したものの他、瓦器の破片がある。

SX-20出土遺物 (第135図、640・641)

640は土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径7.6cm、器高1.5cmを測る。

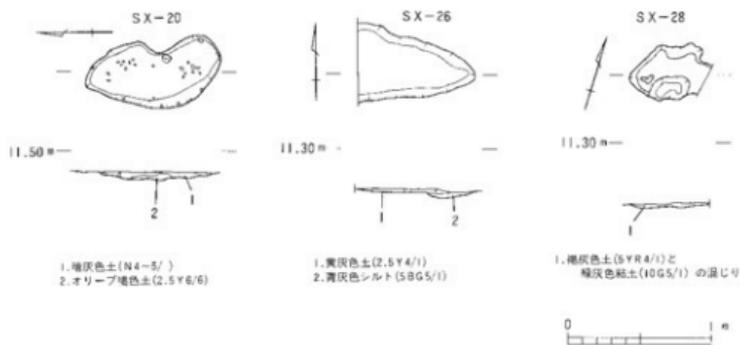
641は土師質の上鍋の口縁部である。口縁部内面には斜め方向の刷毛目、頸部外面には縦方向の刷毛目が施されている。

SX-26 (第134図)

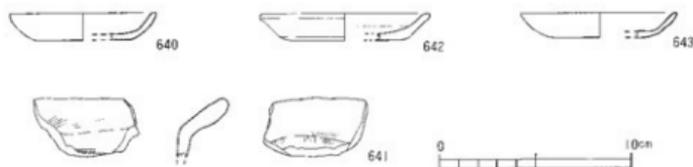
SX-26はN9W32において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約0.65m以上、短軸約0.45m、深さ約0.03mを測る。埋土は黄灰色土などである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師質の土釜の破片がある。

SX-26出土遺物 (第135図、642)

642は土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径9.0cm、器高1.4cmを測る。



第134図 SX-20・26・28測量図



第135図 SX-20・26・28出土遺物実測図

SX-28 (第134図)

SX-28はN8W32において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.55m、短軸約0.40m、深さ約0.04mを測る。埋土は褐灰色土などである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師質の上釜の破片がある。

SX-28 出土遺物 (第135図、643)

643は土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径8.2cm、器高1.3cmを測る。

SX-29 (第136図)

SX-29はN7W33において検出した。南西部の一部はSX-22に切られている。平面形は不整形の楕円形で、長軸約1.05m、短軸約0.70m、深さ約0.08mを測る。埋土は灰色土である。床面からSB-1のP3が検出された。出土遺物には図示したものの他、土師器・瓦器の破片がある。

SX-29 出土遺物 (第137図、644)

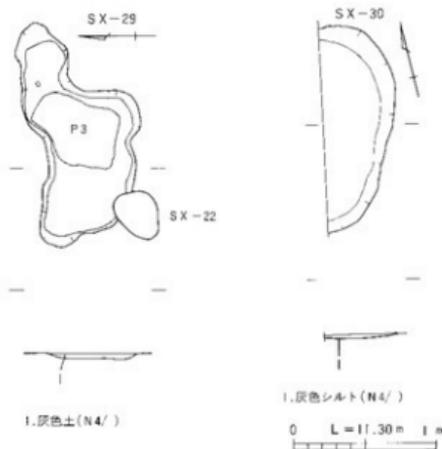
644は瓦質の鉢の口縁部である。

SX-30 (第136図)

SX-30はN9W33において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約0.50m以上、短軸約1.30m、深さ約0.03mを測る。埋土は灰色シルトである。出土遺物には土師器がある。

SX-30 出土遺物 (第137図、645)

645は土師器杯である。底面は摩滅しているが、切り縁は回転糸によるものと思われる。口径14.0cm、器高3.2cmを測る。



第136図 SX-29・30測量図



第137図 SX-29・30出土遺物実測図

SX-33 (第138図)

SX-33はN11W32において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約2.30m、短軸約1.90m、深さ約0.07mを測る。埋土は灰色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師質の土釜の破片がある。

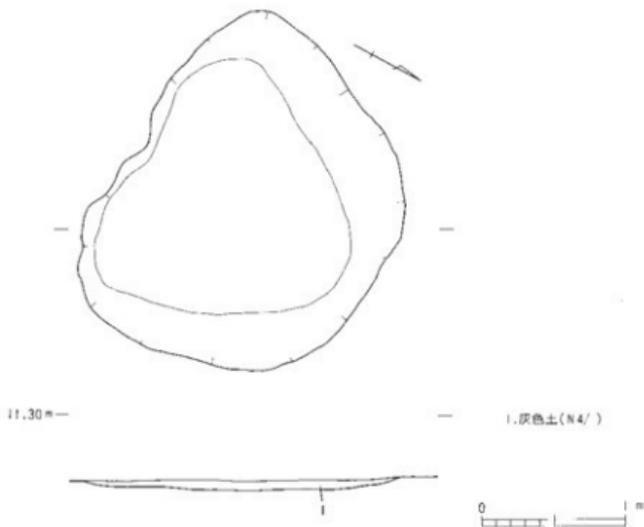
SX-33出土遺物 (第139図)

646は土師器杯で、底面は回転糸切りである。口径11.2cm、器高3.2cmを測る。

647は土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径8.8cm、器高1.3cmを測る。

SX-34 (第140図)

SX-34はN11W31において検出した。平面形は不整形の楕円形で、長軸約0.44m、短軸約0.34m、深さ約0.04mを測る。埋土は灰色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・土師質の土釜の破片がある。



第138図 SX-33測量図



第139図 SX-33出土遺物実測図

SX-34 出土遺物 (第141図、648)

648は土師器皿で、底面は回転糸切りである。口径8.4cm、器高1.3cmを測る。

SX-49 (第140図)

SX-49はN8W32において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.26m、短軸約0.13m、深さ約0.03mを測る。埋土は暗緑灰色シルトである。出土遺物には図示したものの他、瓦器・須恵器の破片がある。

SX-49 出土遺物 (第141・142図、649~666)

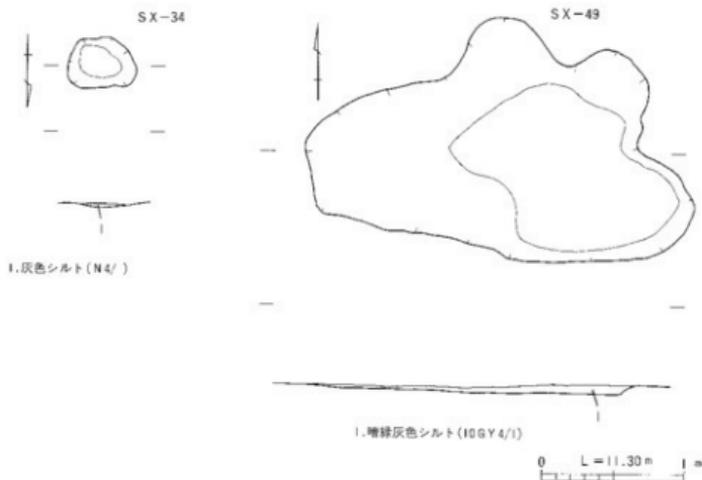
649~655は土師器杯である。全て底面は回転糸切りである。口径10.4~13.0cm、器高3.0~3.6cmを測る。

656~663は土師器皿である。656~660は底面が回転糸切りのものである。口径7.4~8.0cm、器高1.2~1.6cmを測る。661・662・663は手づくねのものである。口径7.8~8.4cm、器高1.2~1.5cmを測る。663は完形品である。

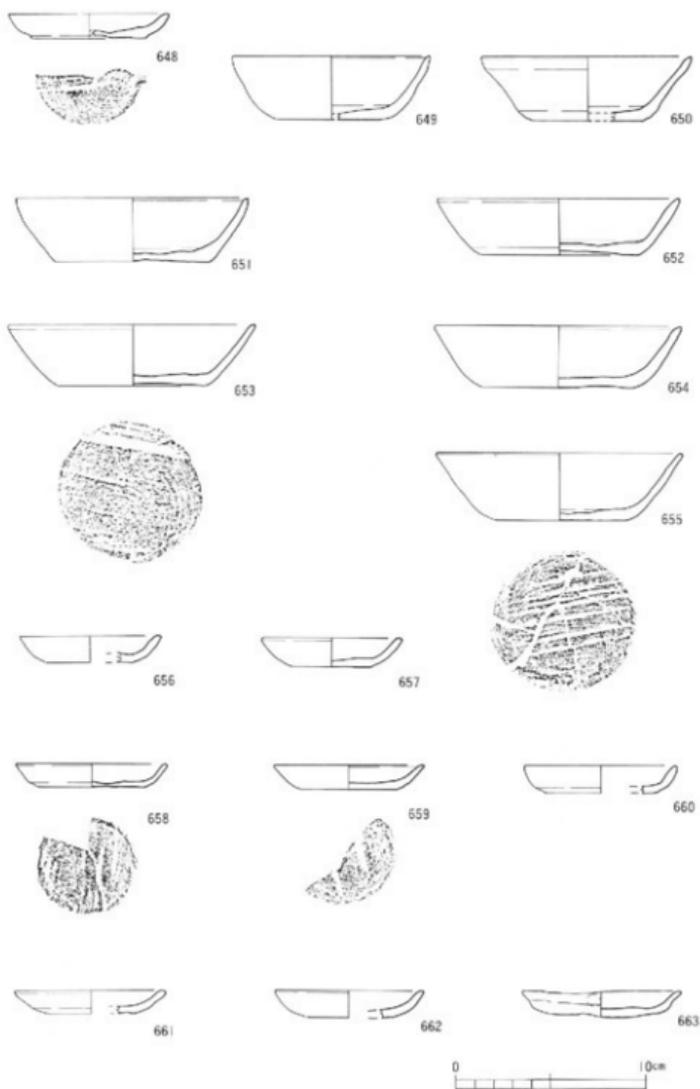
664は黒色土器A類の椀底部である。高台径5.6cmを測り、全体に摩滅している。

665は土師質の土鍋の口縁部である。内面は横刷毛、外面は撫でが施されている。

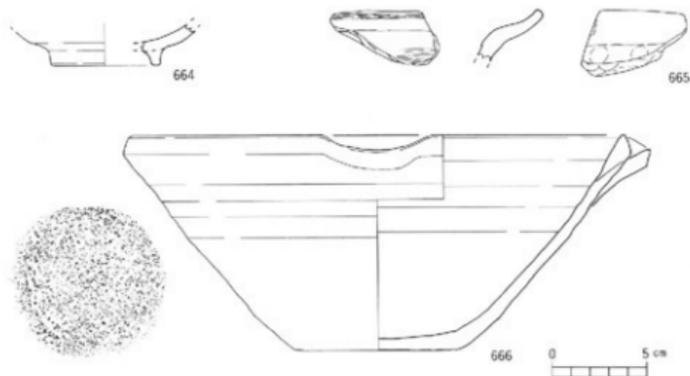
666は東播磨こね鉢である。口縁部と体部の一部はSD-8・N8W32から出土した破片と接合している。大部分がSX-49出土である。口径26.0cm、器高11.4cm、底径8.8cmを測る。底面の切り離しは回転糸切りである。内外面とも撫でが施されている。底部内面から高さ約7cmまでの間、特に凹凸が著しい。



第140図 SX-34・49 測量図



第141图 SX-34·49出土遗物实测图(1)



第142図 SX-49出土遺物実測図(2)

SX-52 (第143図)

SX-52はN 8 W32において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.24m、短軸約0.44m、深さ約0.03mを測る。埋土は暗褐色シルトである。出土遺物には図示したもの他、瓦器の破片がある。

SX-52出土遺物 (第144図、667・668)

667・668は土師器杯で、底面は回転糸切りである。667は口径12.6cm、器高3.0cmを測り、668は口径13.7cm、器高3.5cmを測る。

SX-53 (第143図)

SX-53はN 7 W33において検出した。平面形は不整形で、長軸約0.14m、短軸約0.25m、深さ約0.05mを測る。埋土は暗褐色シルトである。出土遺物には図示したもの他、瓦器の破片がある。

SX-53出土遺物 (第144図、669~674)

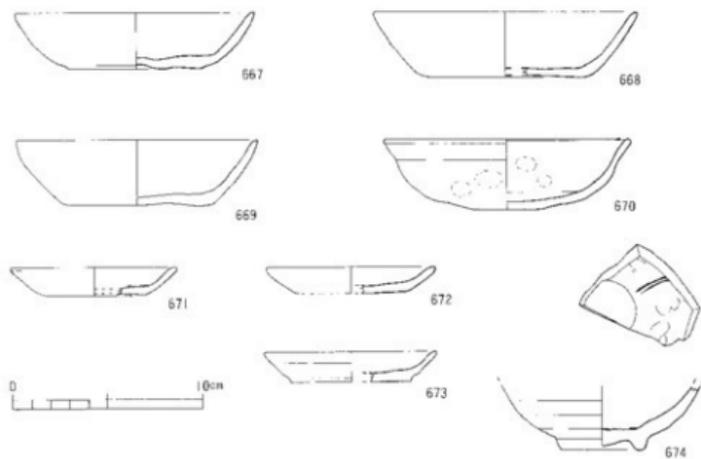
669・670は土師器杯である。669は底面が回転糸切り、670は手づくねのものである。669は完形品で口径12.7cm、器高3.5cm、底径7.4cmを測る。670は口径12.8cm、器高3.7cmを測る。

671・672・673は土師器皿で、いずれも底面は回転糸切りである。口径8.8~9.0cm、器高1.4~1.6cmを測る。

674は青磁碗である。高台は削り出しである。体部内面にはへうによる花文が描かれている。内外面には明緑灰色の釉がかかり、高台部は無釉である。



第143図 SX-52・53測量図



第144図 SX-52・53出土遺物実測図

遺構外出土遺物

土師器杯 (第145～153図)

675～757は全て底面回転糸切りの杯である(第145～151図)。682・686は完形品で、676・688・691・693・701・720・721・726・740・875はほぼ完形に近い。口径9.6～14cm、器高2.5～4.2cmを測る。675・676は器高に対して口径が小さく器高指数30.0を超えている。675は底部から直に上方方向に伸びて口縁端部が肥厚しているものであり、678は口縁部外面に浅い段をもつ。

これらは、形態から数種類に分類可能であるが、その中で特徴的なものについて記述するならば、以下の通りである。

口縁端部が内傾するもの：679・680・682・683・685・686・696・702・703・704・707・708・714・721・736・737

口縁端部を細くさせるもの：678・689・694・698・700・723・724・729・735・738・743・745・747

口縁端部が外反するもの：681・684・692・706・711・712・715・734・746

口縁端部が肥厚するもの：705

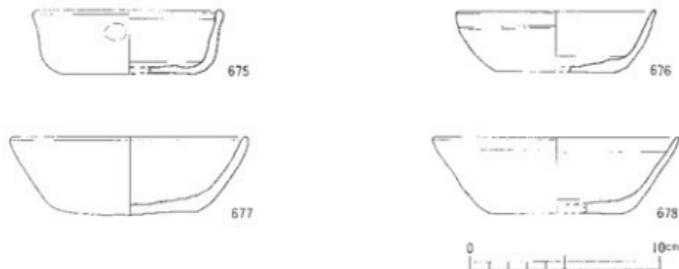
底部から内傾気味に立ち上がるもの：687・688・691・697・701・710・713・716・717・719・720・721・722・726・727・730・732・733・740・742・748・749・751・754・755・756・757

底部から外傾気味に立ち上がるもの：690・695・699・709・718・725・728・731・739・741・744・750

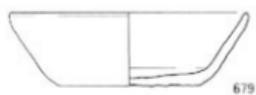
705は底部から内弯しながら上方方向に立ち上がっている。

724は体部外面に多段の横撫でが施されている。

736の口縁部は屈曲して内傾している。



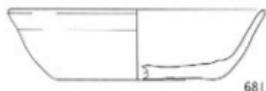
第145図 遺構外出土遺物実測図 (I)



679



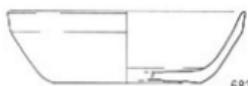
680



681



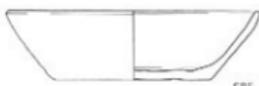
682



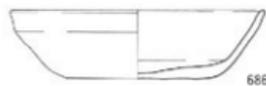
683



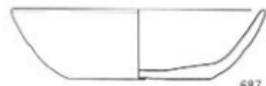
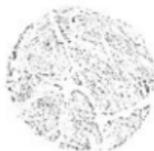
684



685



686



687



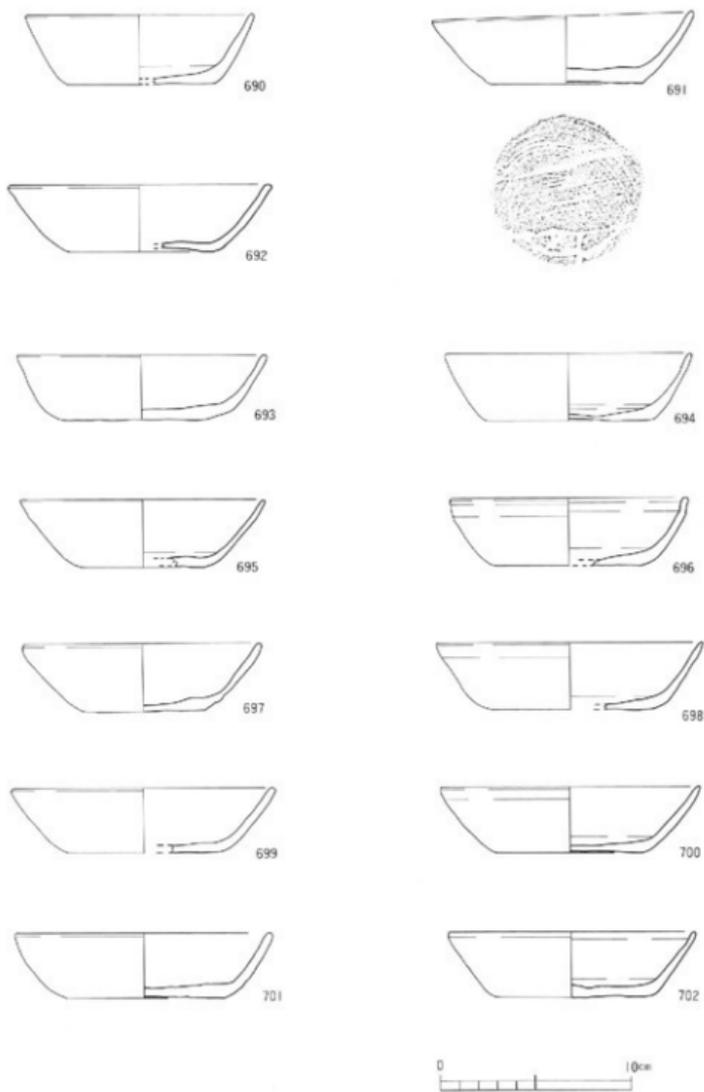
688



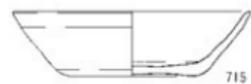
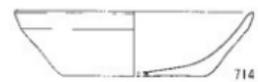
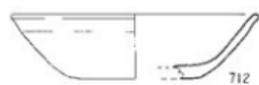
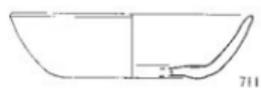
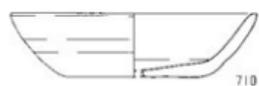
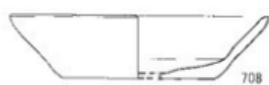
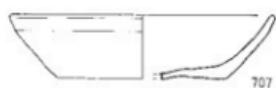
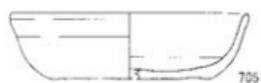
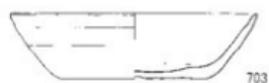
689



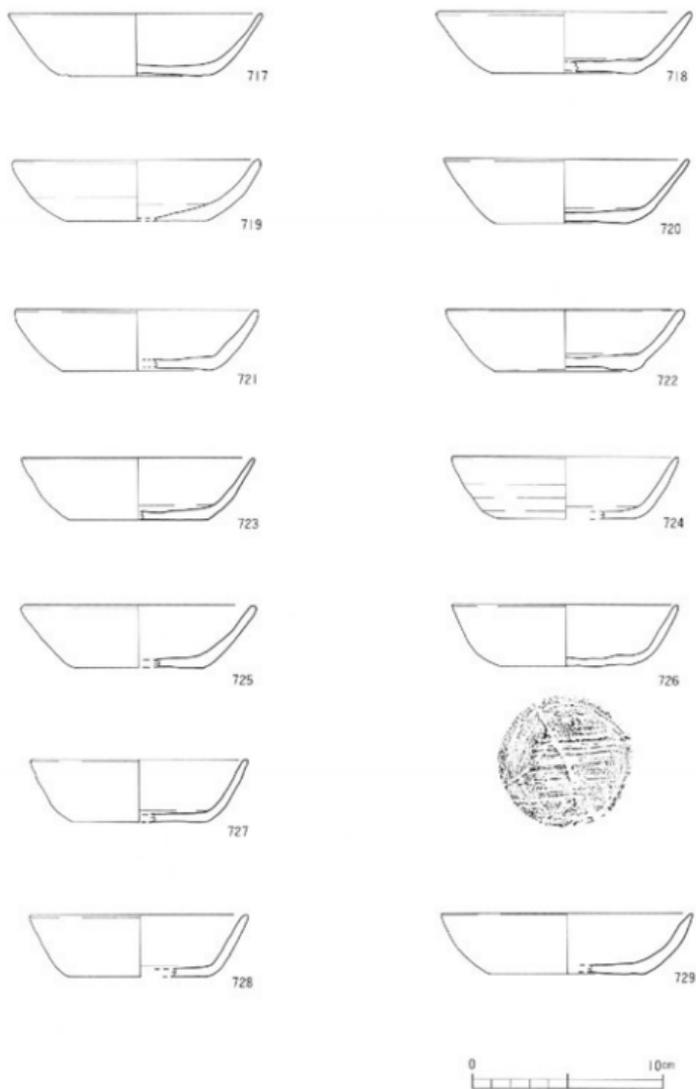
第146图 遼橋外出土遺物実測図(2)



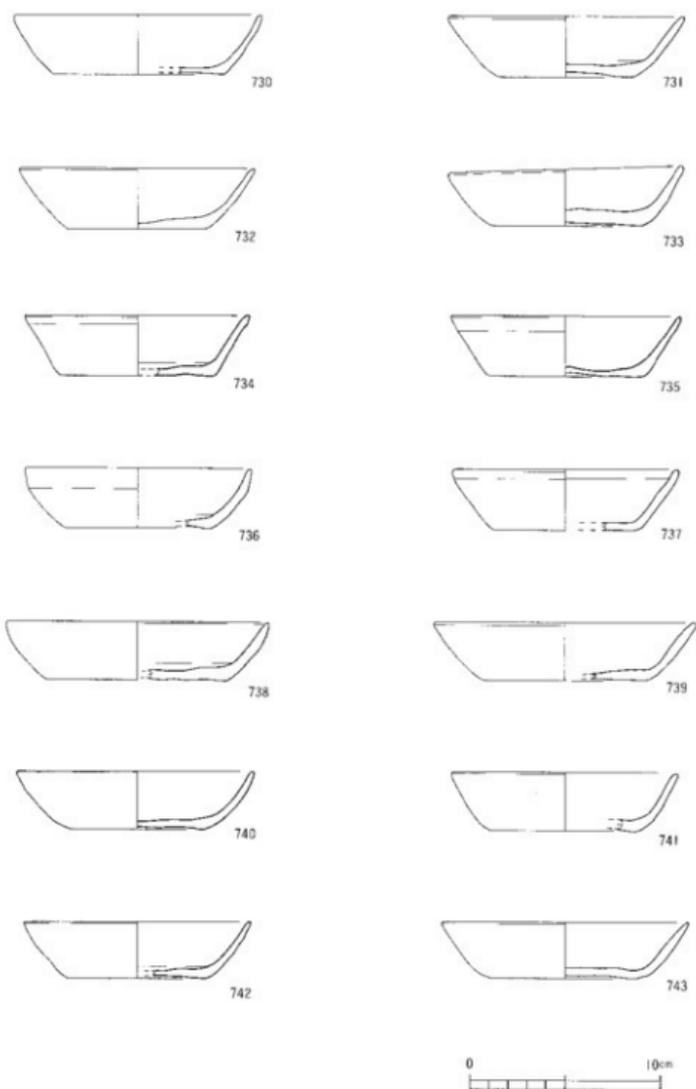
第147图 遼朝外出土遺物実測图(3)



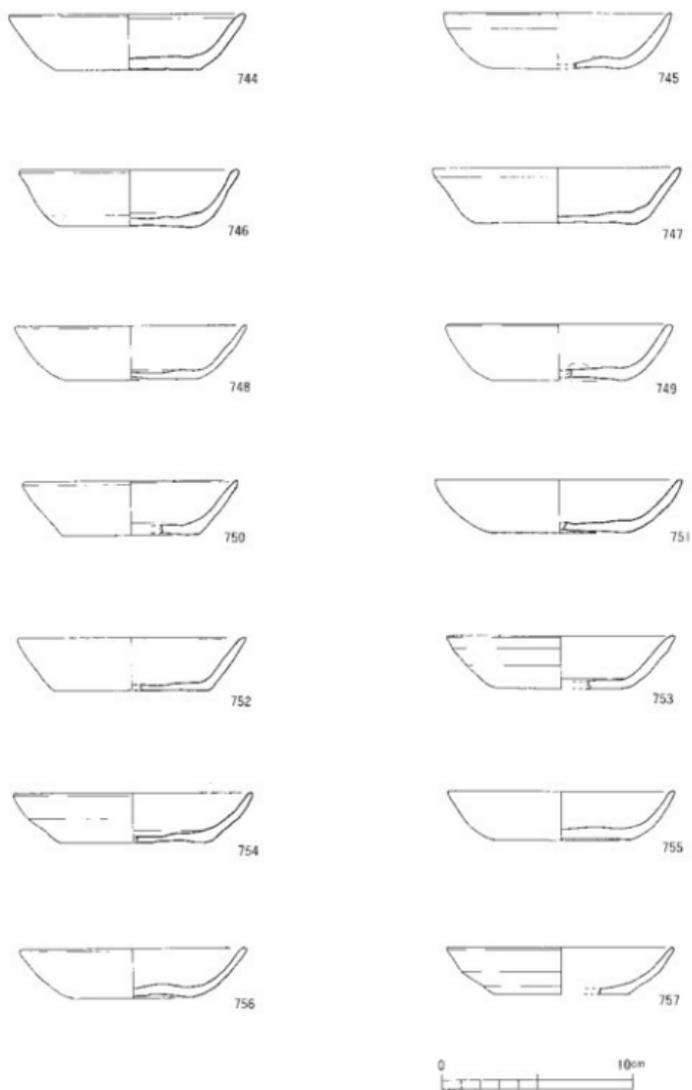
第148図 遺構外出土遺物実測図(4)



第149图 辽博外出土物实测图(5)



第150图 遗構外出土遺物実測図(6)



第151圖 遺構外出土遺物実測圖(7)

754・757は体部に屈曲をもって内湾している。

758～774は手づくねの杯である（第152・153図）。771は完形品、767・768・771はほぼ完形に近い。

全ての手づくね杯の口縁部外面は横撫でが施され、下部に折頭痕がみられる。

740は、口径12.5cm、器高3.1cmを測る。

765の外面には赤色顔料の様な付着がみられる。

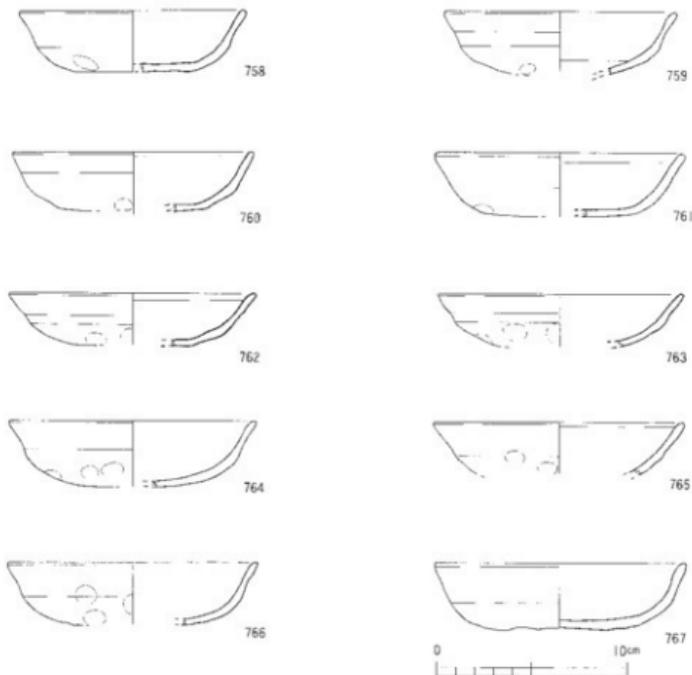
767は、口径13.2cm、器高3.4cmを測る。

768は、口径13.8cm、器高3.3cmを測る。

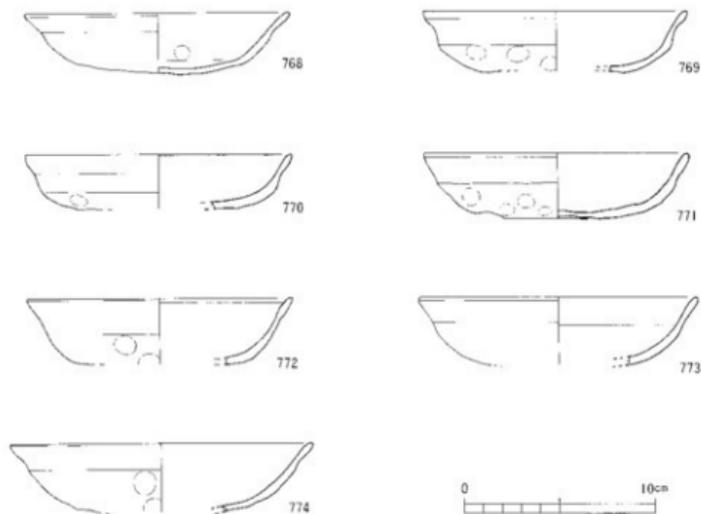
769・770は口縁部が横撫でにより極端に器壁が薄くなっている。

771は南壁から、974（第161図）の手づくね皿と1026（第165図）の瓦器碗と重なって出土しており、口径14cm、器高3.5cmを測る。

772は摩滅しているが、口縁端部内面に沈線が1条巡っている。



第152図 遺構外出土遺物実測図(8)



第153図 道橋外出土遺物実測図(9)

土師器皿(第154～162図)

775～941は底面回転糸切りの皿である(第154～159図)。795・808・812・813・818・830・849・874・879・922・923・930は完形品である。763・782・793・798・807・817・828・835・838・840・841・842・860・864・871・872・877・881・885・886・898・906・911・920・924・938・941は完形に近い。これらは口径6.9～11.9cm、器高0.9～2.0cmを測る。

775は口径11.9cmに対して器高2.0cmを測り、器高指数16.8であるため、皿として分類している。

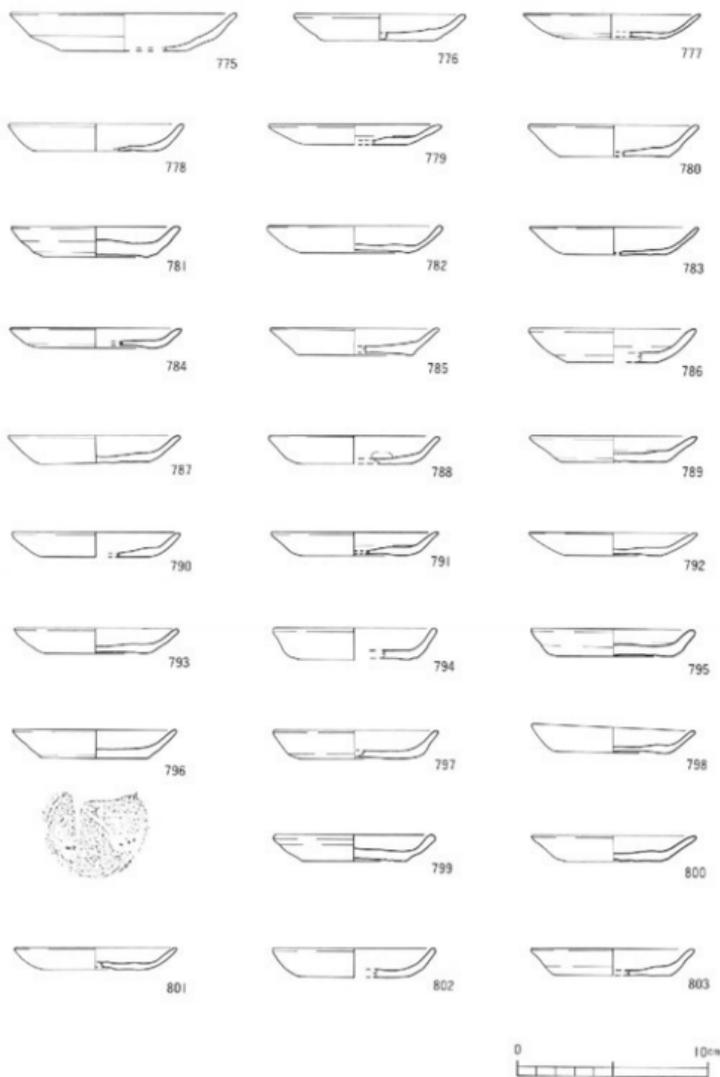
これら皿は、大きく分類するなら底部から口縁にかけて内湾するものと外傾するものに分かれるが、口縁部の形態の特徴的なものについて以下の様に分類してみる。

口縁部が外反するもの：791・803・810・811・822・831・847・856・870・873・876・894・912・936

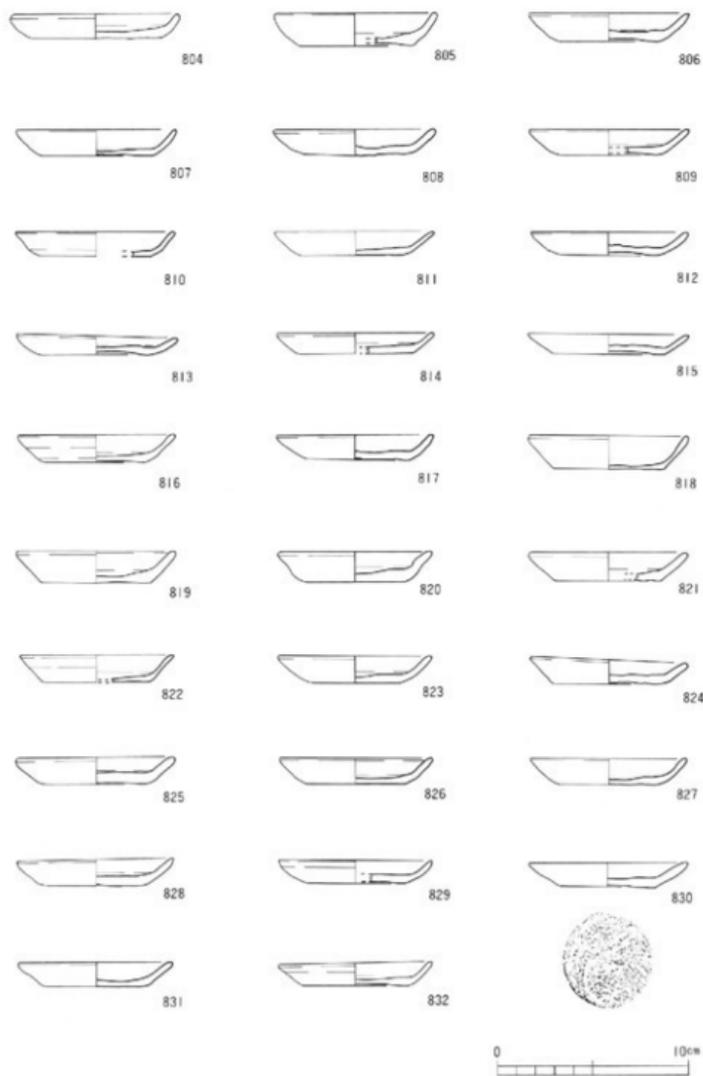
底部から内傾気味に立ち上がるもの：794・837・858・859・863・865・867・890・911・916・923・929・940

口縁端部が肥厚するもの：799・816・818・850・854・895・897・937

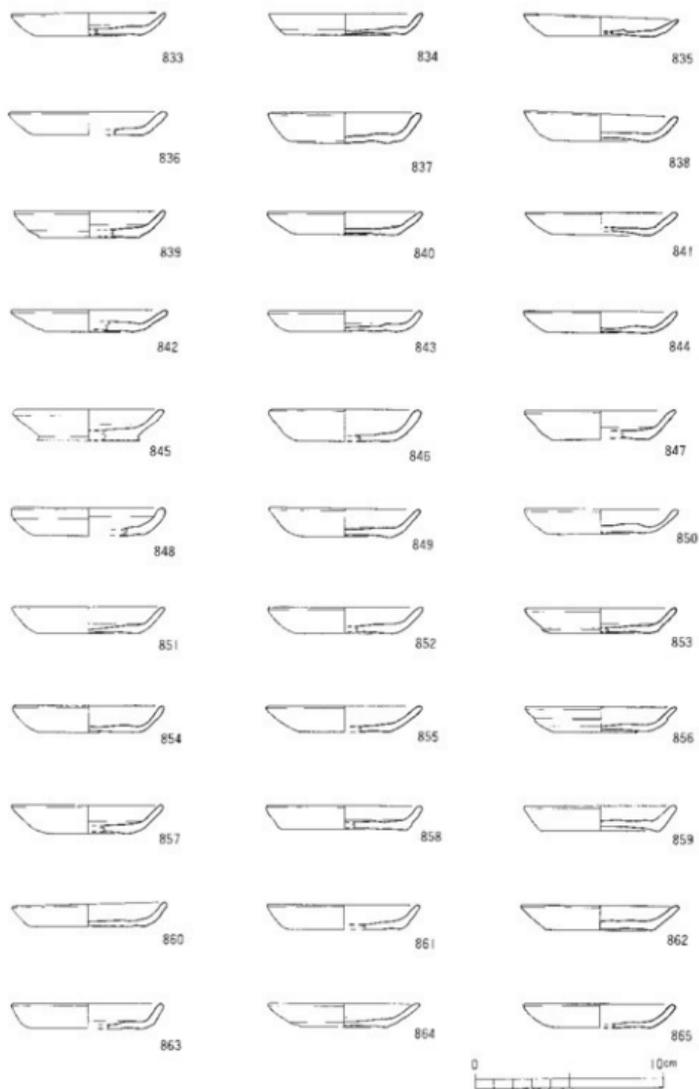
口縁端部が内傾気味のもの：829・848・872・915



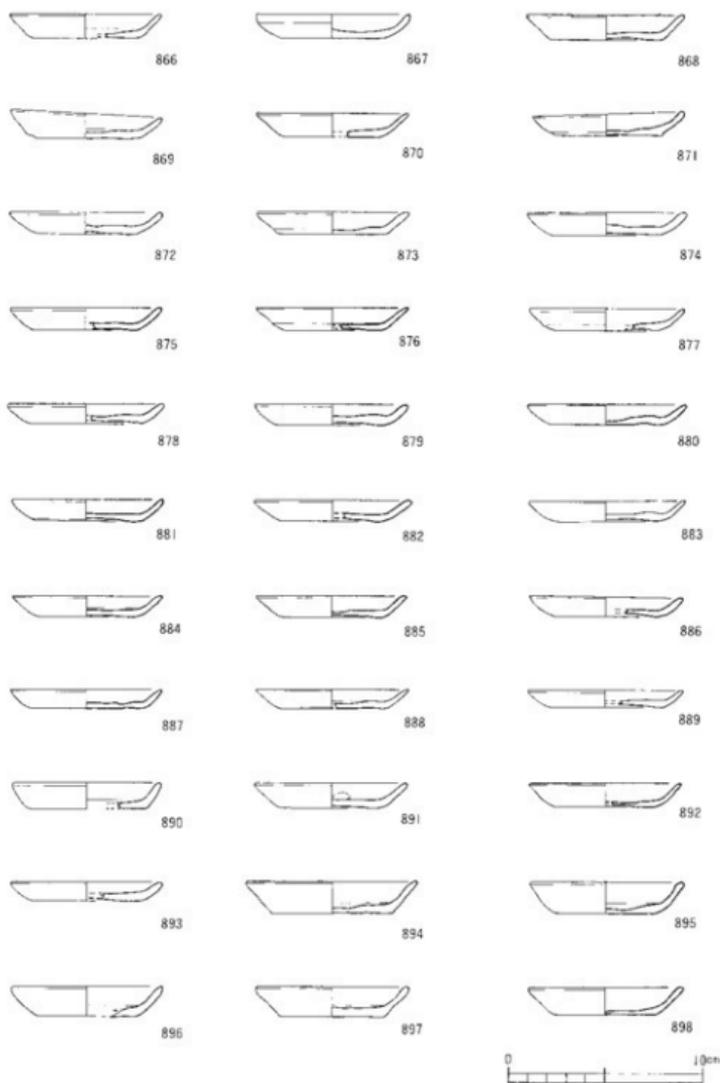
第154图 辽朝外出土文物实测图 (16)



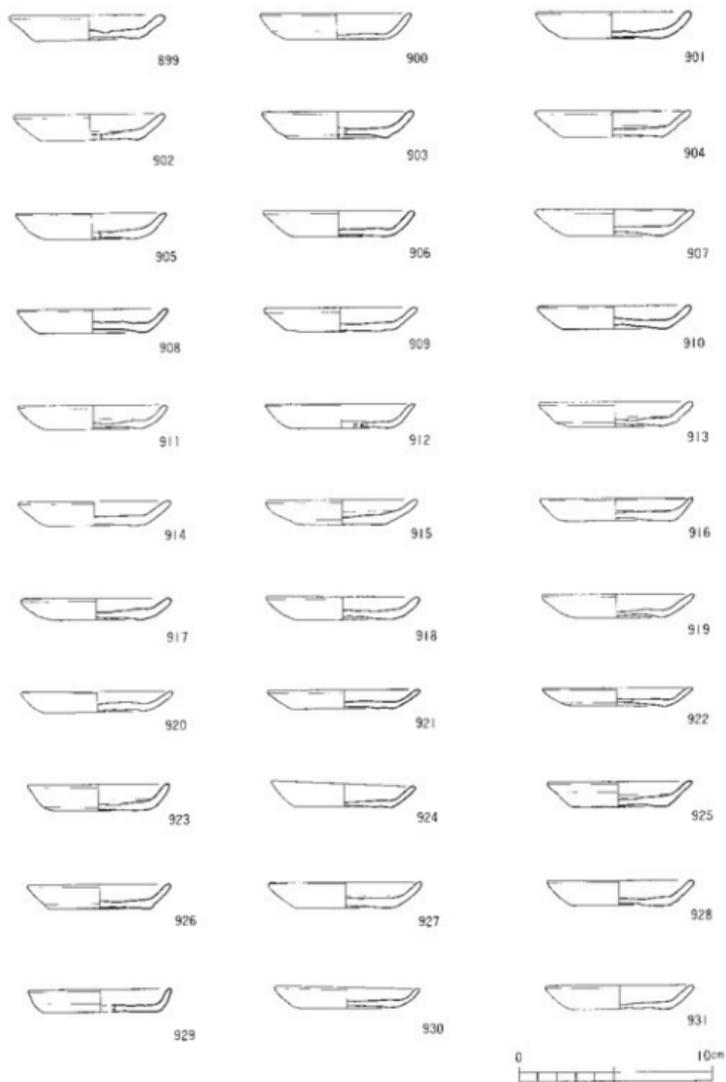
第155图 濠沟外出土遗物实测图 00



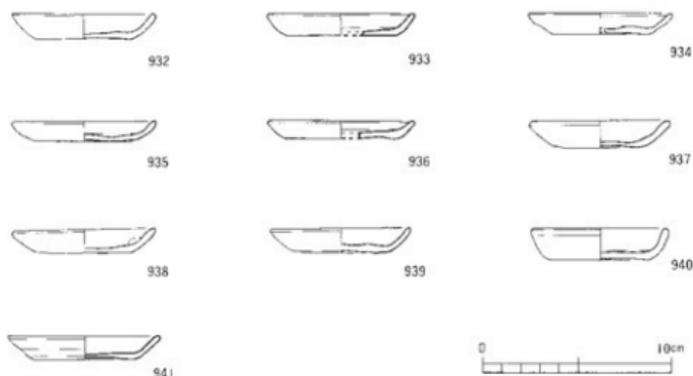
第156圖 遺構外出土遺物実測圖 (12)



第157图 遗構外出土遺物実測図 (13)



第158图 遺構外出土遺物実測図 (14)



第159図 遺構外出土遺物実測図 (15)

赤色顔料の様な付着がみられるのは、895は内面に、780・803・808・843・856・861・868・875・906・924・926は外面にみられる。

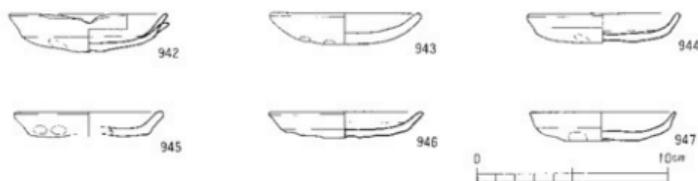
942～1008は手づくねの皿である(第160～162図)。これらは口径7.6～9.0cm、器高0.9～2.0cmを測る。969・952・957は完形品で、951・958・968・972・974・979・990・991・993・995・997・1004はほぼ完形に近い。

これら手づくねの皿は、全て口縁部内外面とも横撫でが施され、その下部に指頭痕がみられる。また、色調が白色を呈する皿もある。

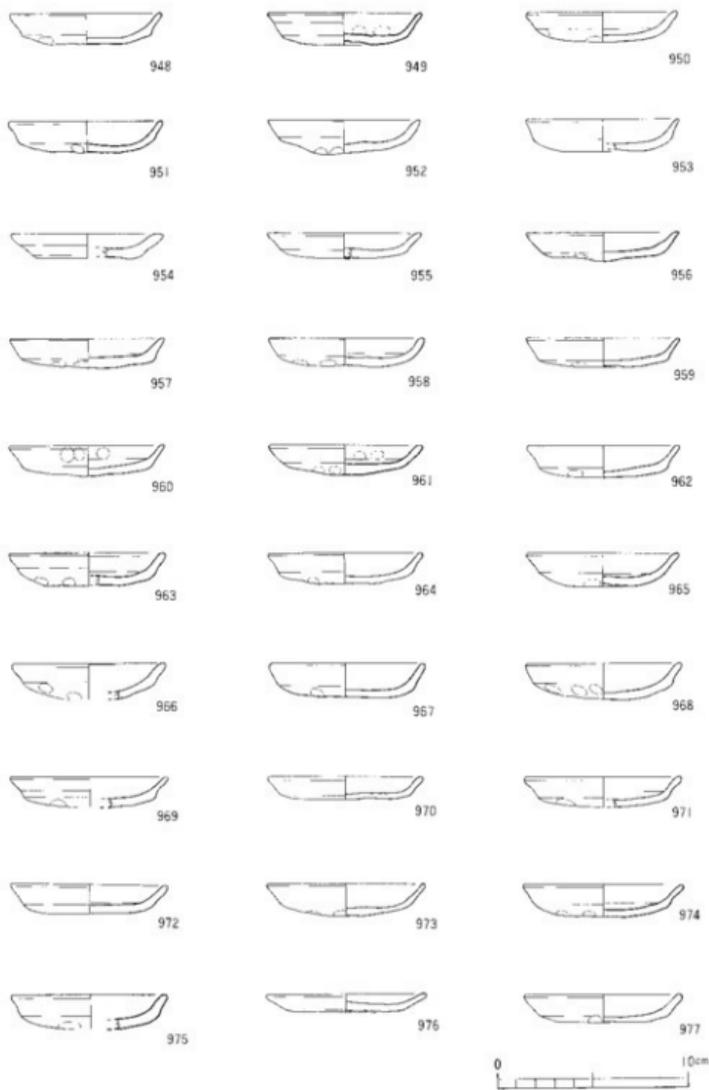
これらは、底部から屈曲して口縁部が外反または外傾しているものが大部分を占めているが、943の様に屈曲がないものもある。

942は口縁端部に、棒状工具によって片口部が作られているものである。

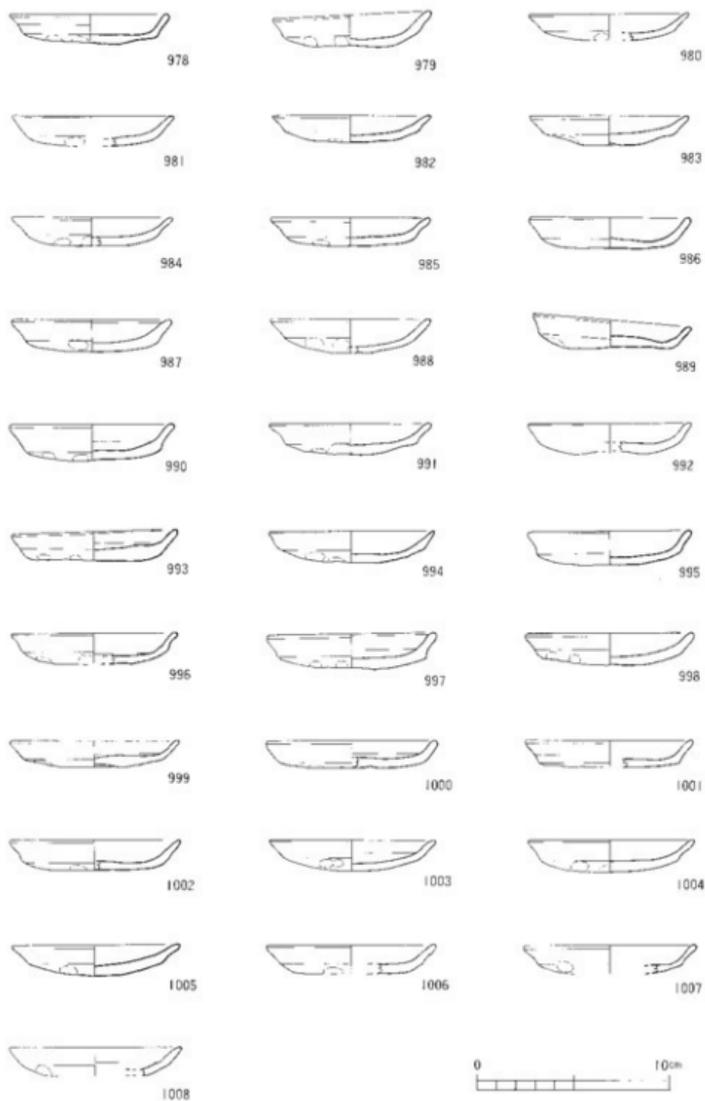
974は南壁から、771(第153図)の手づくね杯と1026(第165図)の瓦器碗と重なって出土しており、口径8.3cm、器高1.7cmを測る。



第160図 遺構外出土遺物実測図 (16)



第161圖 遺構外出土遺物実測図 (7)



第162图 遗物外出土遺物実測図 (B)

黒色土器（第163図、1009）

1009はA類の椀底部である。全体に摩滅を受けている。一部高台が欠損している接合部分から、深さ約0.3cmを測る二条の沈線を巡らせた後に高台を貼り付けるという接合方法が窺い知れる。11世紀後半のものであろう。

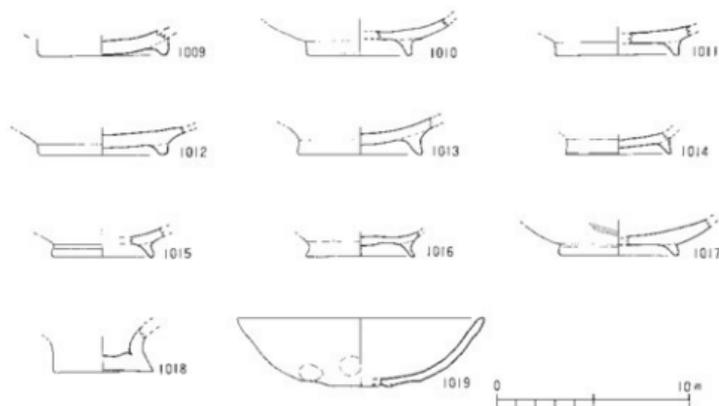
土師器椀（第163図、1010～1019）

1010・1011・1012は断面四角形の高台が貼り付けられ、1013・1014・1015・1016は断面三角形の高台がやや外方向に貼り付けられている。1016は全体に器厚が薄い。1017は断面四角形の高台が内気味に貼り付けられ、体部外面に磨きがかすかに施されている。

以上の椀は、おそらく11世紀後半から12世紀代と考えられる。

1018は川柱状の円盤高台の底部である。底部から外反気味に立ち上がる。底面に切り離し痕は看取れず、おそらく手づくね成形と考えられる。杯の可能性もある。

1019は高台から口縁部にかけて唯一残存している椀である。粘土紐を貼り付けた高台で、外面には指頭による凹凸が若干みられ、腰が張る器形をもつ。おそらく古備系土師器椀と考えられ13世紀後半であろう。同様の土師器椀の出土例としては、南江戸園目遺跡において多量の土師器杯・皿を出土した2号集積遺構から1点出土している。



第163図 遺構外出土遺物実測図 (9)

瓦器碗・杯（第164～167図）

出土した瓦器碗は口径13.2～17.2cm、器高3.4～5.0cmを測る。1031・1033・1034は完形品である。1026・1030・1035はほぼ完形に近い。

1026は南壁から、771（第153図）の手づくね杯と974（第161図）の皿と重なって出土しており、口径14.4cm、器高4.4cmを測り、体部内面には幅狭の圈線状、見込みには螺旋状の暗文が施されている。

1031は口径15.1cm、器高3.7cmを測り、体部内面には幅広の圈線状、見込みには螺旋状の暗文が施されている。

1035は口径15.4cm、器高4.3cmを測り、体部内面には幅狭の圈線状、見込みには螺旋状の暗文が施されている。

1036は口径17.2cm、器高5.0cmを測り、出土した瓦器碗の中でも大型である。

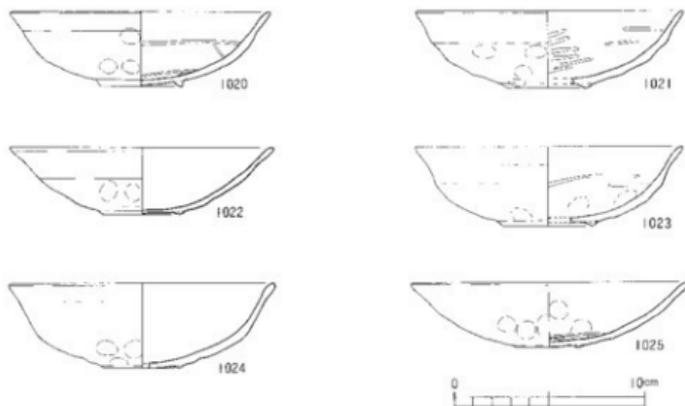
1044・1046は口縁部周辺にのみ炭素の付着がみられ、1025は炭素が飛んでしまい灰色を呈している。

1023・1042には炭素の付着がなく、1042はやや硬質のものである。

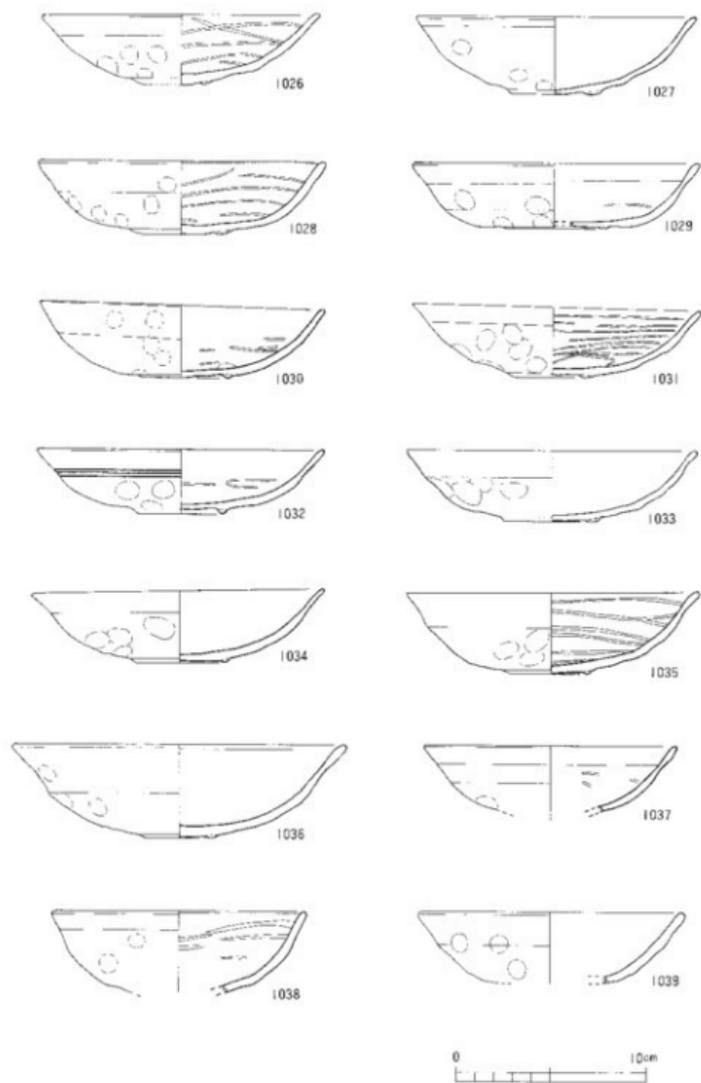
1052は底部で、断面四角形の高台が貼り付けられている。全体に摩滅している。

1053は外面に縦へらを施した無高台の楕圓型瓦器碗で、口径10cm、器高3.5cmを測る。13世紀後半から14世紀代のものである。

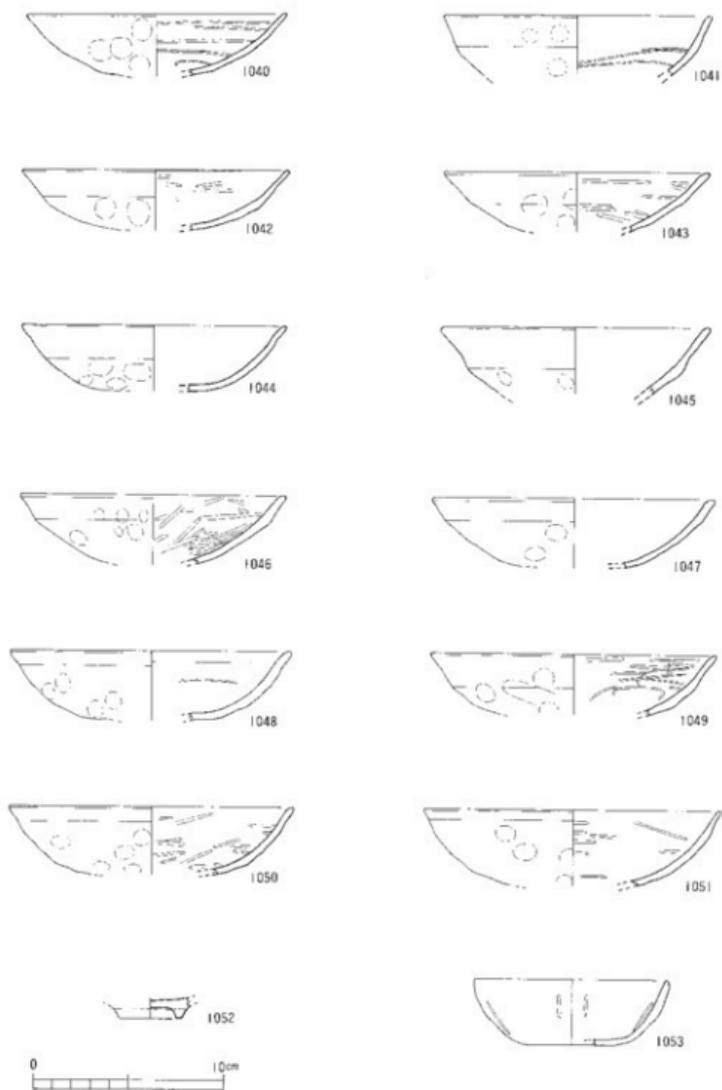
1054・1055は無高台で、平底を呈する瓦器杯である。口縁外面には横撫でが施され、下部に指頭痕が残る。1054は口径13.9cm、器高3.5cm、1055は口径14.0cm、器高3.2cmを測る。



第164図 遺構外出土遺物実測図(20)



第165图 遼構外出土遺物実測图 (2)



第166図 遺構外出土遺物実測図(7)

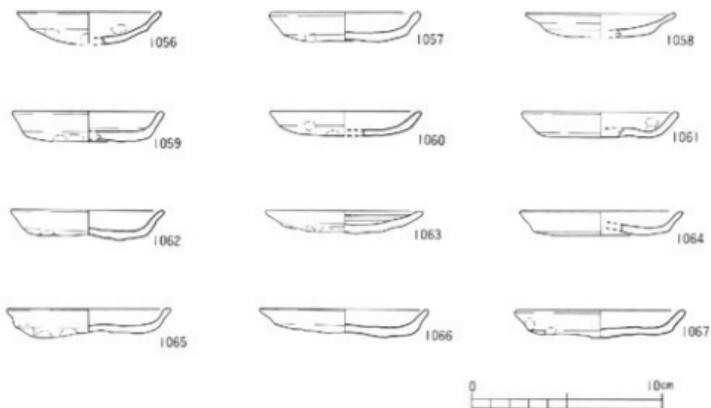


第167図 遺構外出土遺物実測図 (7)

瓦器皿 (第168図)

出土した瓦器皿は口径7.6~8.8cm、器高1.2~1.6を測る。1062・1063は完形品で、1065はほぼ完形に近い。

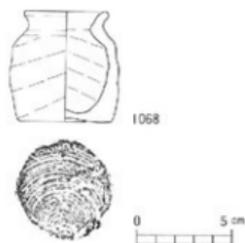
いずれも口縁部は横撫でされ底部外面に指頭痕が残る。



第168図 遺構外出土遺物実測図 (2)

土師器小壺 (第169図)

1068は口径4.3cm、器高5.9cm、底径4.9cmを測る。粘土紐巻き上げ成形の痕跡が内外面に看取れる。底面は回転糸切りである。



第169図 遺構外出土遺物実測図 (3)

上師質土鍋（第170～174図）

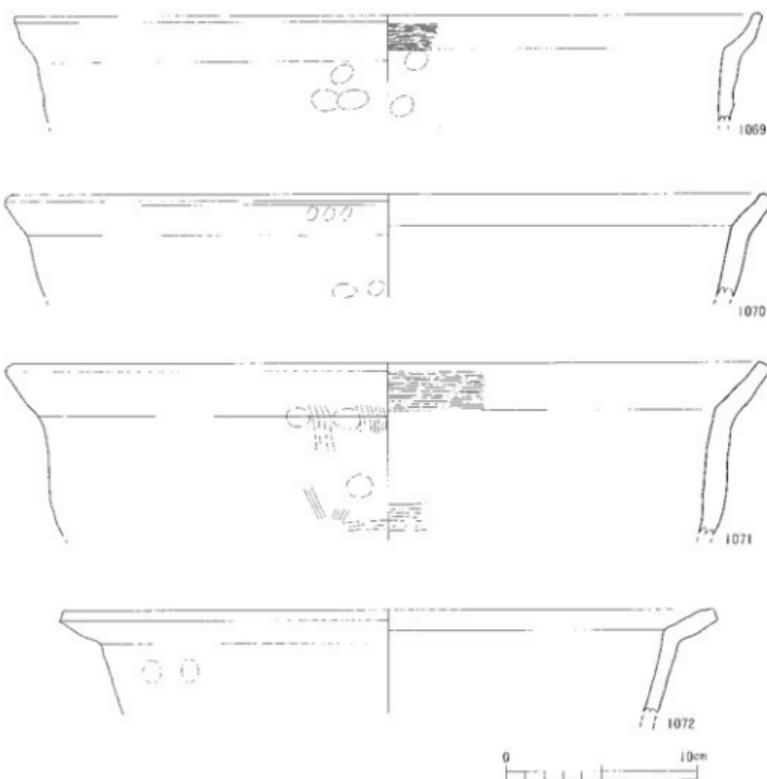
口縁部の器厚から大きく二種類に分類できる。厚いものをA類、薄いものをB類とする。

A類（第170・171図）

A類は、口縁端部の仕上げから更に2種類に分類できる。平坦に仕上げているものを1類、丸く仕上げているものを2類にする。

A-1類（1069～1072）

1069は口縁部が屈曲し内傾している。口縁内面に横方向の刷毛目が、外面は横撫でが施されている。胴部外面は煤けており成形時の指頭痕がみられる。内面は黄灰色を呈している。

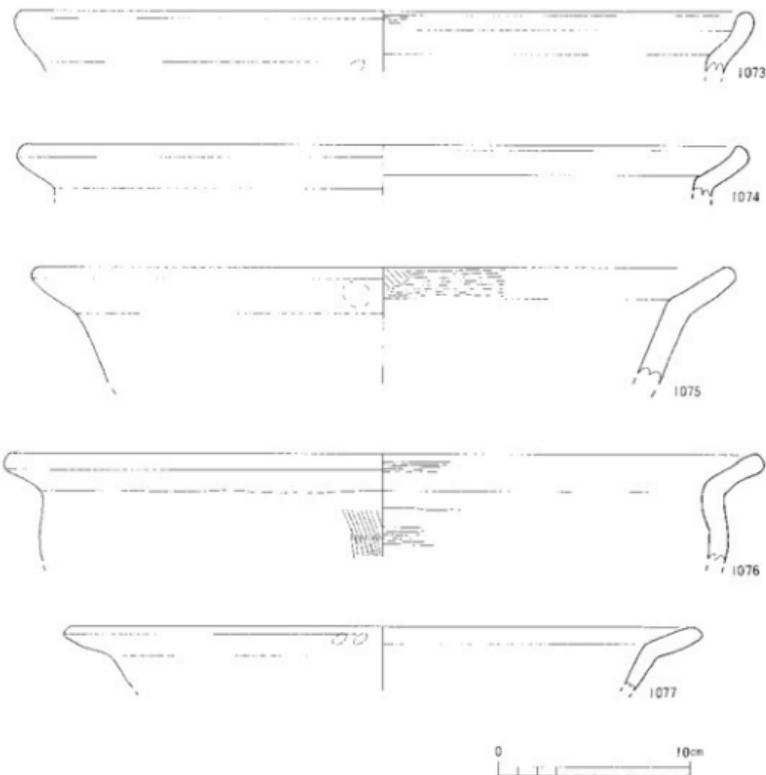


第170図 遺構外出土遺物実測図 (6)

1070は口縁部がやや内弯気味のものである。内面が摩滅しているため調整は不明であるが、外面は、口縁部下に成形時の指頭痕があり、横撫でされ、胴部も横撫でされている。口縁端部にまで煤けている。

1071は口縁部がやや内弯気味に外傾している。口縁部内面と胴部内面の底部近くに横方向の刷毛目が施されている。口縁部外面は横撫で、頸部付近に縦方向の刷毛目が、底部近くに横方向の刷毛目が施されている。

1072は口縁部が外傾している。摩滅がひどく調整は不明。胴部から口縁外面にかけて煤けている。灰黄色を呈している。



第171図 遺構外出土遺物実測図 (7)

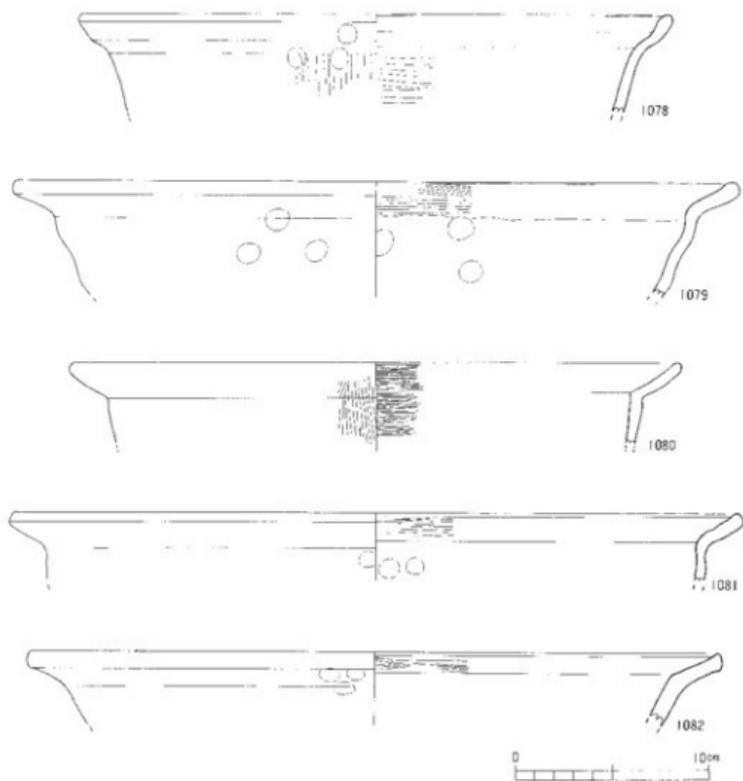
A-2類 (1073~1077)

1073は口縁部が屈曲して内弯している。内外面とも撫で調整が施されている。外面は煤けており、内面は赤褐色を呈している。

1074は口縁部が内弯し、端部が内側に肥厚している。

1075は口縁部がやや内弯気味である。口縁部内面には横方向の刷毛目が施され、胴部内面には施されていない。口縁部外面は撫で調整、頸部以下は摩滅のため調整は不明。

1076・1077は口縁部が外傾している。1076は内面に横方向の刷毛目、外面には縦方向の刷毛目が施されている。1077は摩滅がひどく調整は不明。全体に灰色を呈し、胴部から口縁外面にかけて煤けている。



第172図 遺構外出土遺物実測図 (28)

B類 (1078~1086)

B類はA類よりも器厚がやや薄いものである。

1078は口縁部が外傾し、更に屈曲により内傾し、口縁端部が内側に肥厚し丸く仕上げられている。胴部内面に横方向の刷毛目が見え、頸部以下の外面は縦方向の刷毛目が見え、施されている。外面はやや煤けているが、内面は灰白色を呈している。

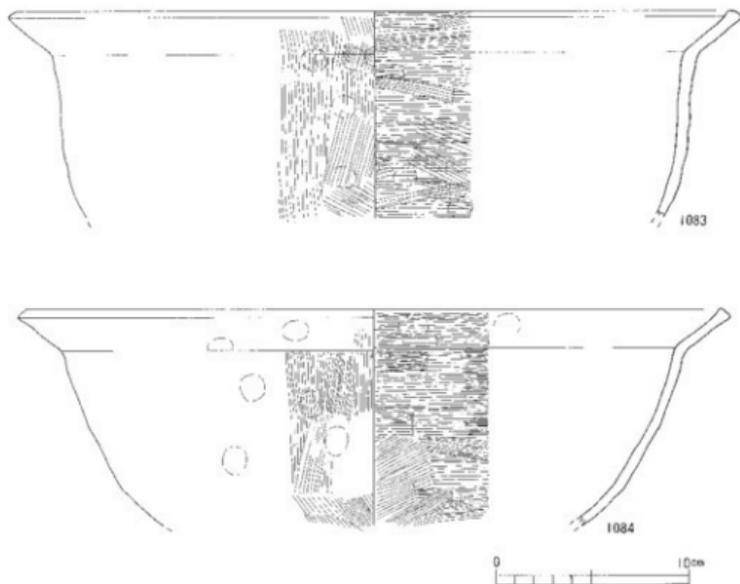
1079は口縁部が外傾し、口縁端部が内側に肥厚している。全体に摩滅しているが、口縁・胴部の内面に横方向の刷毛目がかすかに見取れる。口縁部外面は横撫で、胴部には指頭痕が巡り、おそらく粘土輪積みによる痕跡と考えられる。

1080は口縁部がやや内弯気味である。内面は横方向、外面は縦方向の刷毛目が見え、施されている。

1081は口縁部がやや内弯気味で、口縁端部が内側に肥厚しやや平坦にしている。横刷毛目が見え、施されている。

1082は口縁部が外傾し、口縁端部がやや内側に肥厚しやや平坦にしている。口縁内面には横方向の刷毛目が見え、施され、外面に指頭痕が残り、煤けている。

1083・1084・1086・1085は口縁端部が平坦で内側に肥厚している。1083・1084・1086は頸

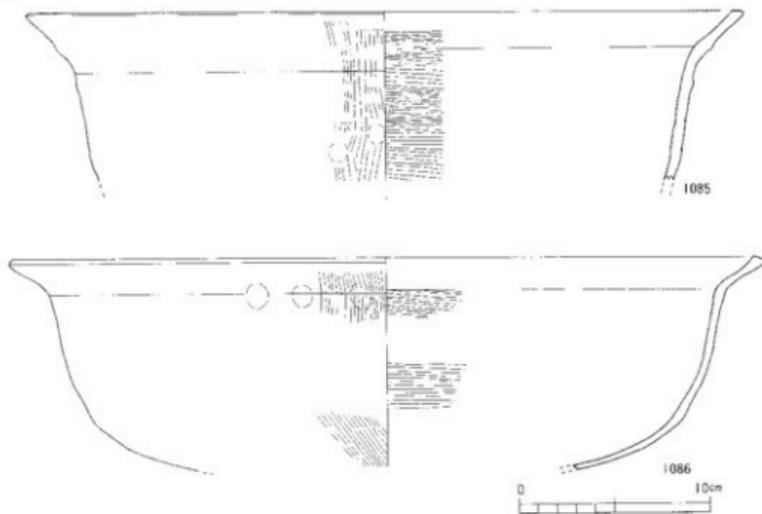


第173図 遺構外出土遺物実測図(2)

部内側が明確に屈曲しており、1085の頸部は丸味をもって仕上げられている。

1083・1084・1086の内面には横方向の刷毛目が、外面は底部のみ斜め方向の刷毛目、その他は縦方向の刷毛目が施されている。

1085の内面には横方向の刷毛目が、外面は全て縦方向の刷毛目が施され、外面は煤けている。



第174図 遺構外出土遺物実測図 (3)

土師質土釜 (第175・176図)

1087は脚部の接合部分、1088は脚先端部、1089～1096は口縁部等である。

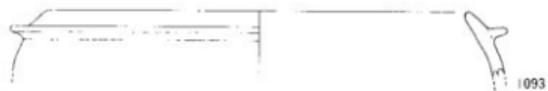
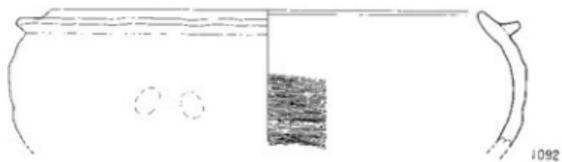
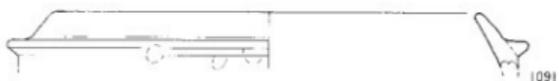
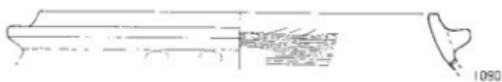
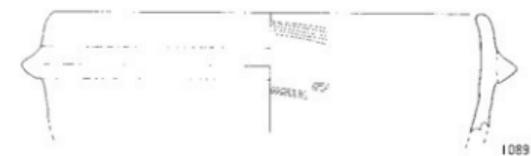
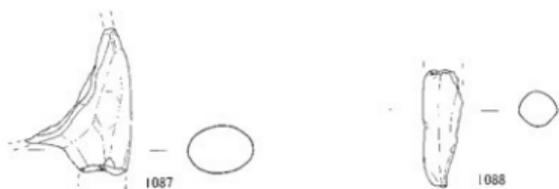
1087は内面に横方向の刷毛目が施され、底部はおそらく丸くなるものと考えられる。

1088は面取りされている脚部である。先端は折り曲げられ接地させるために平坦面を成している。

口縁部等は形態から3種類に分類できる。円筒形のをA類、八の字状のをB類、球形のをC類とする。

A類 (1089)

1089は口縁端部から2.2cm下がった位置に断面三角形の鈿が貼り付けられている。口径22.4cmを測る。内面は横方向の刷毛目、外面は撫で調整が施され、鈿より下部に指頭痕がみられる。



第175图 遗構外出土遺物実測図 (3)

B類 (1090)

1090は口縁端部から1.1cm下がった位置に断面四角形の鈎が貼り付けられている。口径21cmを測る。内面は横方向の刷毛目、外面は撫で調整が施されている。

C類 (1091~1096)

C類はA・B類とは違い、鈎の貼り付け位置から二類に細分できる。口縁端部から下がった位置に鈎を貼り付けているものを1類、口縁端部から貼り付けているものを2類とする。

C-1類 (1091~1095)

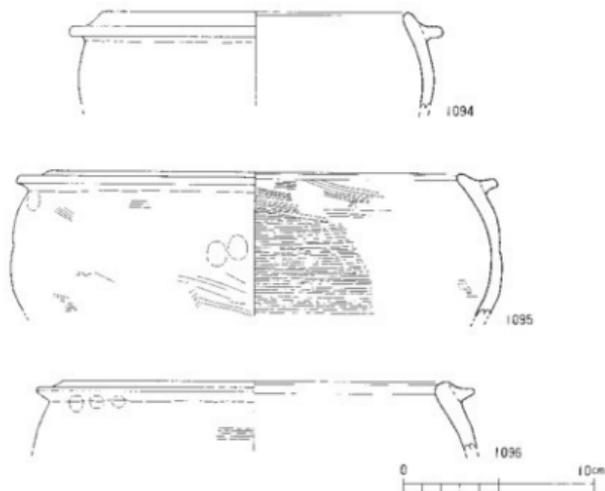
C-1類は、口縁端部と鈎の貼り付け部分との距離から、更に2種類に分類できる。1.5cm以上のものをa類、1.0cm前後のものをb類とする。

a類：1091は口縁端部より1.8cm下がった位置に断面四角形の鈎が貼り付けられ、内外面とも撫で調整が施されている。口径22.4cmを測る。

b類：1092・1095は1.0cm、1094は1.1cm、1093は1.2cmと口縁端部から下がった位置に鈎が貼り付けられている。いずれも断面四角形の鈎である。

C-2類 (1096)

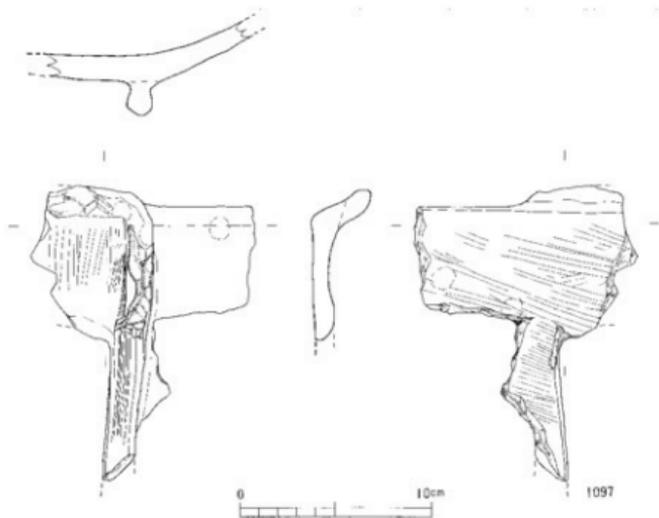
1096は口縁端部から垂れるように断面四角形の鈎が貼り付けられ、口縁端部は平坦に仕上げられている。口径20.4cmを測り、内面は撫で、外面は鈎の下部に横方向の刷毛目が施されている。



第176図 遺構外出土遺物実測図 (37)

置き竈（第177図）

1097は上師質の竈で、焚口の右側周辺部である。焚口上部外面には縦方向の刷毛目、釜穴の内面は横方向の刷毛目が施されている。竈上部先端は上方向に折り曲げられており、この竈部は焚口部に沿って下方向へ伸びている。



第177図 遺構外出土遺物実測図 (33)

瓦質土釜（第178図）

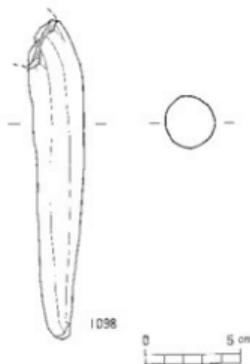
1098は脚部で、先端部は折り曲げられている。全体に摩滅が著しい。本調査区から瓦質土釜の口縁部の出土は、SD-6のみである。

瓦質甕（第179図、1099・1100）

1099は口頸部である。頸部以下外面は格子叩き、口縁部内外面は横撫でが施されている。口径21cmを測る。

1100は底部である。胴部外面には格子叩きが施されている。

出土した瓦質甕は、亀山焼きと考えられる。

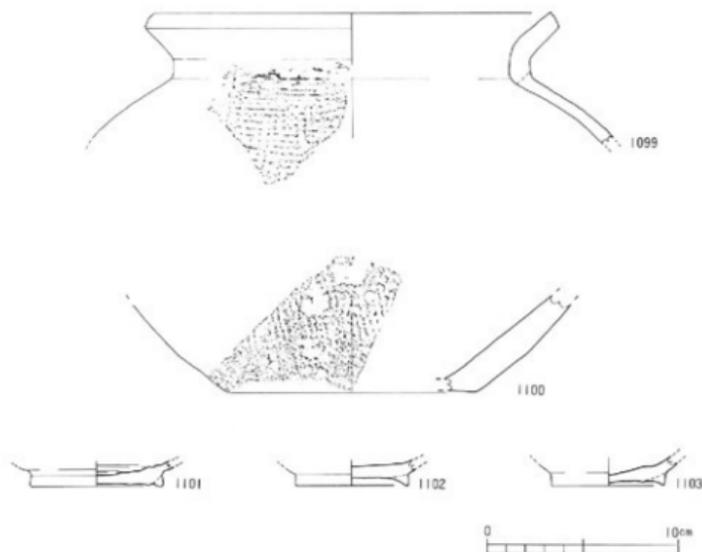


第178図 遺構外出土遺物実測図 (34)

須恵器椀 (第179図、1101・1102・1103)

1101は底面を回転糸切りした後、円盤高台となし、その外周に輪高台としての貼り付けがなされている。内外面とも撫で調整が施されている。

1102・1103は輪高台の椀底部である。1102の底面は回転ヘラ切りで、内外面とも撫で調整が施され、胎土は灰白色を呈している。1103の底面は回転糸切りで、内面は撫で調整が施されている。



第179図 遺構外出土遺物実測図 (9)

須恵器甕 (第180図)

1104は口頸部である。頸部以下に格子叩き、内外面とも横撫で調整が施されている。灰白色を呈している。

1105は底部である。外面には格子叩き、内面は撫で調整が施されている。外面にはオリブ灰色の自然釉がかかっている。

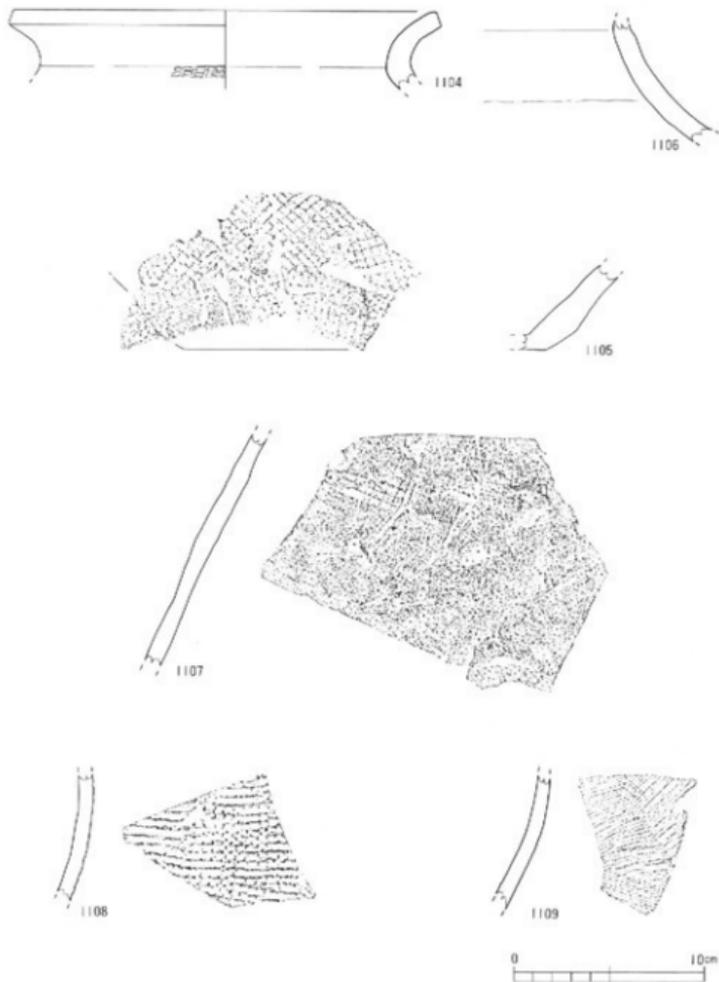
1106は肩部である。内外面とも横撫で調整が施され、胎土は灰褐色を呈している。

1107は体部である。外面には格子状の押印が施されている。

1108は体部である。外面に格子叩きが施されている。

1109は体部である。外面には平行叩きが細かく施されている。

出土した須恵器甕は、1104・1105・1108は亀山焼き、1106・1107は常滑焼き、1109は東播
 系のもと考えられる。



第180図 遺構外出土遺物実測図 39

須恵器こね鉢（第181・182・183図）

1110・1111・1112は東播磨こね鉢の底部である。1111の見込みには小さな凹凸がみられるが、1110・1112にはみられない。

出土したこね鉢口縁部を形態から大きく5類に分類する。

A類（1113）

A類は口縁部が外方向に屈曲し、端部が上方に立ち上がるものである。

1113はやや軟質に仕上げられており、おそらく十瓶山窯のこね鉢で11世紀後半以後のものと考えられる。

B類（1114）

B類は口縁部が平坦面に仕上げられているものである。

1114はやや軟質に仕上がっている。

C類（1115～1124）

C類は口縁部が上方へ拡張しており、外面を丸く仕上げているものである。

1123は軟質の仕上がりで、口径20.4cmと小振りである。

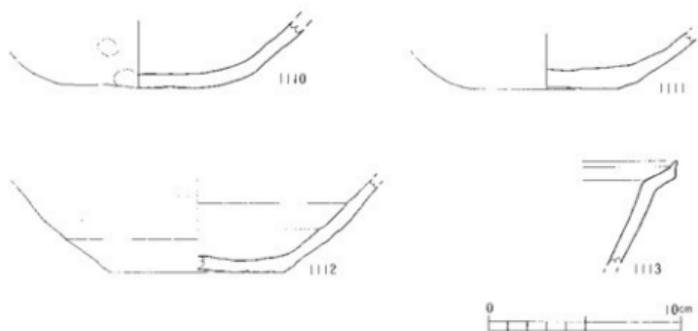
D類（1125～1128）

D類はC類と同様に口縁部が上方に拡張しており、外面はC類より角があるものである。

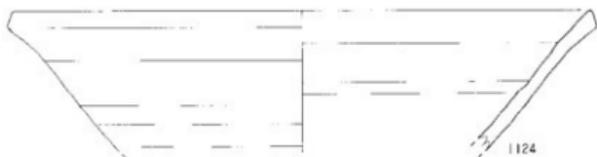
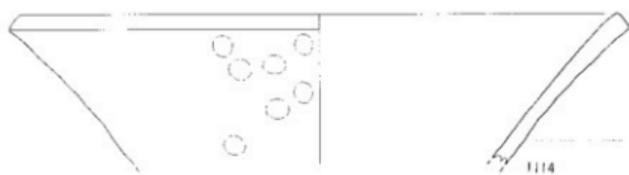
E類（1129～1133）

E類は口縁部が上下方向に拡張し、外面は明瞭な段として仕上げられているものである。

以上のC・D・E類は東播磨こね鉢と考えられる。



第181図 遺構外出土遺物実測図 (37)



第182圖 遺構外出土遺物実測図 ⑤



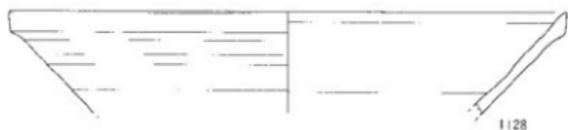
1126



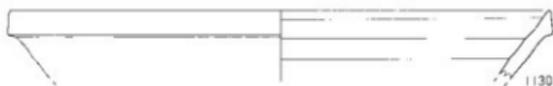
1127



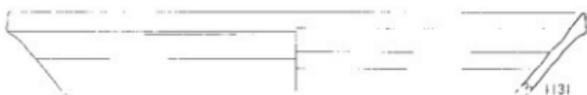
1129



1128



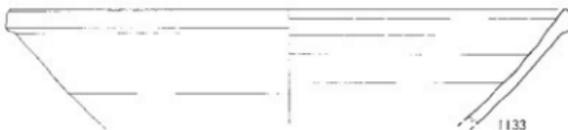
1130



1131



1132



1133



第183圖 遺構外出土遺物実測図(30)

須恵器壺 (第184図)

1134は瀬戸・美濃系と思われる壺の底部である。断面四角形の高台を削り出している。外面は削りの後撫でが施されている。内外面は灰白色、底部内面にはにぶい橙色を呈している。



第184図 遺構外出土遺物実測図 (40)

貿易陶磁器 (第185・186図)

出土した貿易陶磁器については、青磁碗、青磁皿、白磁碗、合子にわけて説明する。

青磁碗 (1135～1142)

1135・1136・1137・1138・1139は口縁部である。

1135は内面の口縁下に横方向の三本へら描きが施され、その下にもへら描きの花文様が施されている。オリブ黄色の釉がかかっている。

1136は口縁部をやや外反させており、内外面とも無文である。灰色の釉がかかっている。

1137は外面に蓮弁文が施され、灰オリブ色の釉がかかっている。

1138は口縁部がやや肥厚し、外面に菊蓮弁文が施され、明オリブ灰色の釉がかかっている。

1139は口縁部が外反し、外面には蓮弁を削り出し縦方向に節目がはいつている。内面には蕉葉文様が施されている。

1140は体部である。内面にはへらおよび髷状のもので花文様を施している。オリブ色の釉がかかっている。

1141・1142・1143は底部である。いずれも削り出し高台である。

1141は内面に片彫りの文様が施されている。オリブ黄色の釉がかかり、高台内側には施釉されていない。

1142は体部と高台外面にしか施釉されていない。緑灰色の釉がかかっている。

1143は体部中位下には施釉されていない。内面見込みに段をもち、体部内面には髷描き文様が施されている。灰色の釉がかかっている。

出土した青磁碗はいずれも龍泉窯系のものである。

青磁皿 (1144・1145)

1144・1145は、ともに体部中位で屈曲し体部と見込みの境に段を有し、内外面とも無文のものである。外面体部下半分と底面には施釉されていない。1144・1145には灰色の釉がかかっている。いずれも同安窯系のもと考えられる。

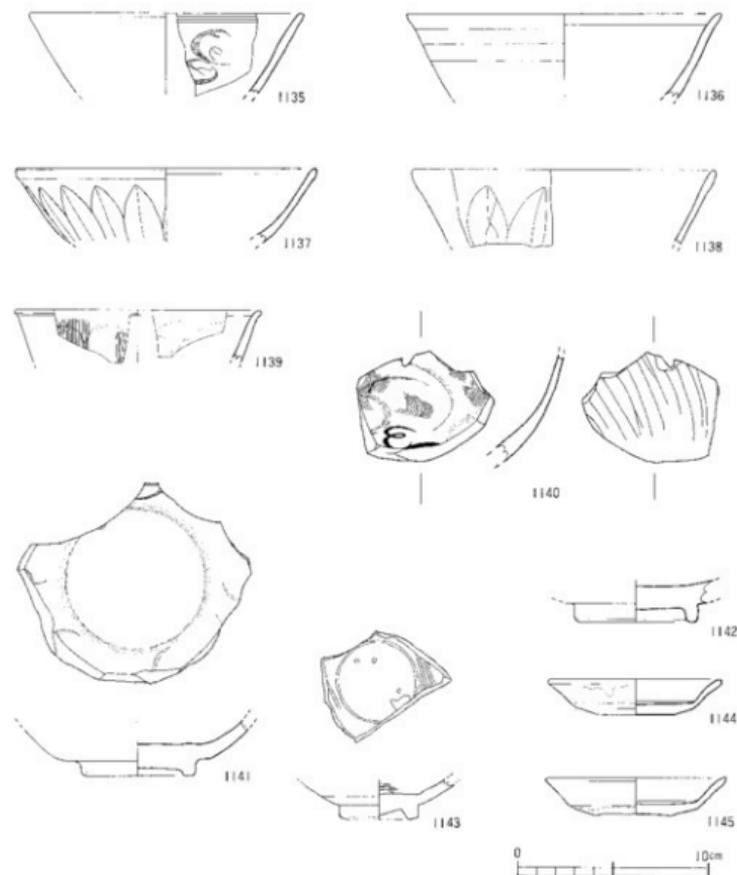
白磁碗 (1146・1147)

1146・1147は口縁部を外反させ端部を平坦にさせている。いずれも灰白色の釉がかかっている。

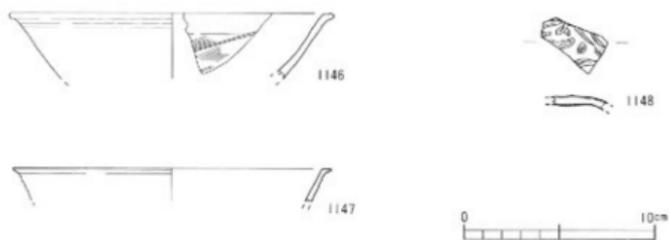
1146は内面に浅い沈線を施し、櫛描き文様がみられる。

合子 (1148)

1148は青白磁の合子蓋の一部である。外面には草文がみられ、内外面とも明緑灰色の釉がかかっている。合子はこの1点しか出土していない。



第185図 遺構外出土遺物実測図 (4)



第186図 遺構外出土遺物実測図 (4)

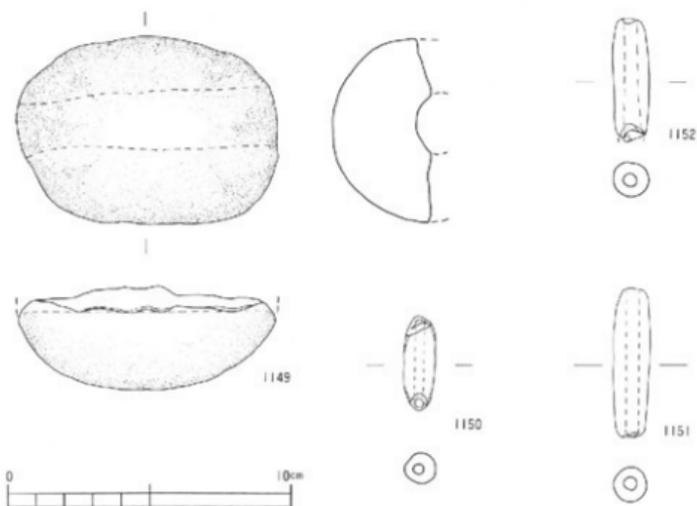
土錘 (土製品) (第187図)

1149は約1/2を欠損している大型の管状土錘で、全体に摩滅している。

1150・1151・1152は小型の管状土錘である。1150のみ摩滅が著しい。

箸 (木製品) (第188図、1153)

1153は箸の後端部である。欠損部は焼け焦げている。

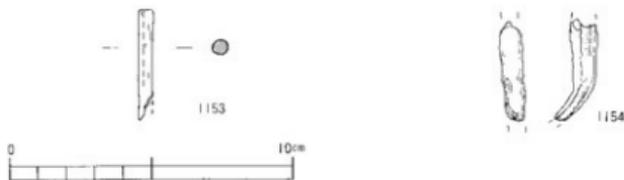


第187図 遺構外出土遺物実測図 (4)

釘（鉄製品）（第188図、1154）

1154はN 9 W32の上器密集地から出土している釘である。

図示したもののほか、N10W33からは鉄スラグ、N 7 W32とN10W33からはガラス質のスラグが出土している（写真図版52）。



第188図 遺構外出土遺物実測図 (4)

【参考文献】

- * 橋本久和：『中世土器研究序論』真陽社、1992
- * 尾上 実：『南河内の瓦器概観』『藤沢一夫先生古希記念古文化論叢』、1983
- * 森島康雄：『畿内産瓦器概観の併行関係と暦年代』『大和の中世土器 II - 大和型瓦器概観とその周辺 - 』、1992
- * 河野真知郎：『鎌倉の搬入土器と在産土器』『中近世土器の基礎研究 VII』、1992
- * 赤羽 一郎：『常滑焼-中世窯の様相-』（考古学ライブラリー23）、1984
- * 山本悦世：『吉備系土師焼の成立と展開』『鹿田遺跡 3 - 第5次調査-』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、1993
- * 鈴木康之：『草戸千軒遺跡IV期の土師質土器』『中近世土器の基礎研究 V』、1989
- * 萩野繁春：『西日本における中世須恵器系陶器の生産資料と編年』『福井考古学会誌 第3号』、1985
- * 岡山県文化財保護協会：『亀山遺跡』『山陽自動車道建設に伴う発掘調査 3』、1988
- * 片岡孝治：『讃岐国十瓶山窯製品の流れについて』『中近世土器の基礎研究 VII』、1992
- * 森田 稔：『東播磨中世須恵器生産の成立と展開-神出古窯址群を中心に-』『研究紀要 第3号』神戸市立博物館、1986
- * 森田 勉・横田賢次郎：『大宰府出土の輸入中国陶磁器について-型式分類と編年を中心として-』『九州歴史資料館研究論集 4』、1978

4 工事立会調査

平成5年8月6・7日、工事掘削において立ち会い調査を行った。工事の掘削予定は標高約9.60mまでである。

結果、標高9.60mまでは砂礫層が厚く堆積しており、この砂礫層からは摩滅した弥生式土器や古墳時代の土師器を出土した。

工事では排水用の釜場設営のために、標高約9.40mまで一部掘削した。標高約9.40mで黒褐色粘土を検出した。この黒褐色粘土は、平成2年度の第6次下層調査の最終沈澱池区で検出されている粘土層であり、西方へ広がることが確認できた。

V 小結

ここでは、A・B両地区から検出された遺構や出土遺物などについて、各地区毎に簡単なまとめと若干の考察などを記述する。

1 A地区

<遺構>

第Ⅷ層上面から検出された鋤跡状遺構は、第Ⅶ層の出土遺物から平安時代後半の遺構である。この遺構埋土は、第Ⅶ層の黒色粘土であるため、推し量るに調査区の南側においては第Ⅶ層時期から土壌肥沃となり農耕開発行為がなされたであろう。県内における当該期の生産遺構としては初検出である。周辺に生活域が想像される。

11世紀代の周辺の遺跡としては、松環古照遺跡や古照ゴウラ遺跡の溝・土坑などから黒色土器、土師器の出土が挙げられる。

第Ⅵ層上面で検出された畦畔や足跡から中世に水田が営まれている。この水田は洪水により埋没している。水田を埋没させた洪水砂は、古照遺跡の既往調査や松環古照遺跡でも確認されている。最近では、松山城の北東部に位置する道後今市遺跡9次調査地(1)でも13世紀後半から14世紀代の鋤跡遺構や足跡など生産関連遺構が検出され、道後平野における中世の農耕関連遺跡が少しずつではあるが増えている。

本調査区の中世段階の洪水は、江戸時代中期の洪水(2)と同様に大規模な水害であったと推測される。この中世段階の洪水について文献史学では解らない。

この検出された埋没水田は、上下層から判断して13世紀代に営まれていたと考えられ、本調査区が生産域であり、当該期の生活域はB地区と古照遺跡第1次調査地周辺(3)を挙げることができよう。

洪水を被った後、土坑や土坑壺が掘られている。これら土坑は14世紀から16世紀前半にかけての遺構と考えられ、本調査区が墓原(墓域)であった可能性がある。ただし、SK-23は出土遺物や埋土から12世紀後半の索掘り井戸と思われる。その他の土坑については、次項で述べる。

現在、本調査区周辺には下水処理施設が建ち並び、この墓域と関連する生活域について明らかにすることはできないが、第6次上層調査D区で検出された当該期の掘立柱建物跡などから本調査区の北東部を生活域と推測できる。

江戸時代に入っては、本調査区が水田として営まれている。江戸時代の後期にはSD-1が存在している。その後、幕末から明治前期にかけての小河川(北壁SR)を確認した。このSRからは多量の陶磁器、特に砥部焼きの碗や鉢、黒瓦などを出土している。出土瓦の中

には金雲母の付着が見られる瓦もある。

以上のように、古代から近世にいたる本調査区の歴史の変遷についてある程度考察することができた。道後平野の中でも特に古照遺跡は、貴重な資料を提供する重要な遺跡である。

＜土坑について＞

検出された土坑状遺構の中で明確な平面プランを確認した遺構について、長軸方向・規模などから簡単な分類を行ってみる（数字は土坑番号である）。

Aグループ：長軸が南北方向で磁北に沿うもの……1群9・29、2群18、3群3・4、4群7（方形に近い）、5群6・8（楕円に近い）

Bグループ：長軸が南北方向で磁北より東へ振れているもの……1群27、2群10・12・25、3群28・31、4群22・32（長軸長不明）

Cグループ：Bグループより更に東へ振れているもの……24

Dグループ：長軸が東西方向で磁北に対し直角になるもの……1群1・11、2群26、3群13（方形に近い）

Eグループ：Dグループより南へ振れているもの……1群5・15・16・34、2群2、3群11・20

Fグループ：Eグループより更に南へ振れているもの……14

Gグループ：上記グループに入らない……36（菱形）

以上の分類から、各土坑の新旧関係が判明しているものを列記すれば、以下の様になる（古→新を表し、*印は分類できなかった土坑である）。

31→29（B3群→A1群）、4→3（A3群→A3群）、16→25（E1群→B2群）、11→22（D1群→B4群）、15→6（E1群→A5群）、28→21（B3群→*）、35→24（*→C群）、33→32（*→B4群）

明らかに、磁北に沿うAグループがいずれのグループよりも新しい様相があり、E・D→B→Aグループへと時期的変化が考えられるが、更に各土坑の平面プランから詳細に分析し、また、周辺遺跡の資料も加えて検討すべき課題と考え、本報告書では中間的考察である。

＜分析について＞

ここでは、土坑墓から出土した人骨や脂肪酸分析の結果などから幾つかの考察を挙げて今後の研究課題にしてみたい（VII-1・3参照）。

まず、第VI層の水田土壌から人の臓器の数値が出ていることについてであるが、第V層の洪水によって運ばれてきた死人に関わるものではないか（第6次土層調査の江戸中期の洪水堆積層からも人の頭骨・腕骨が出土している点が挙げられる）。または、第VI層が水田であるため堆肥として人糞を使用していたという可能性も指摘できないでもない。また、周辺が後

世の墓原であるため数値が高いことも考えられる。

次に、SK-8の出土人骨が骨格的に女性的要素のある50歳を超える熟年者と所見を頂き、肥脂肪酸分析ではヒト男性ではないかと判断され、なんとも言い難い結果であるが、この相違が採取時のミスによるとも考えられるが、前述のように水田に堆肥として人糞を使用していたのであれば、土坑墓埋土の試料が数値的にヒト男性の可能性を指摘されてもおかしくはない。しかし、人骨が骨格的に若く骨細い人である上にお齒黒をしている点から、文明年間(1469~1487)における男性が元服時にお齒黒を行う事例(4)もあるため、この人骨が若年男性とも考えられるが、歯の咬耗度から年齢は高い。いずれにしても相違を明らかにすることは現時点において困難なものである。

〈土坑墓出土の土師器杯について〉

SK-7・8から出土した土師器杯について検討してみたい。

道後平野における土師器の編年については、中野良一氏(5)は10世紀から14世紀代まで、宮本一夫氏(6)は13世紀後半から15世紀代までを組まれている。

まず、SK-7の土師器杯(第14図、2)は底面が回転糸切り、SK-8出土の土師器杯(第16図、3)は底面が静止糸切りである。

2の杯は、中野良一氏編年にあてはめれば14世紀前半に比定される器形である。

3の杯は、岡氏の編年中では静止糸切り技法の土師器杯が組み入れられていないため、16世紀以降と考えられるが、中野良一氏は論考の中で、見近島城跡(7)出土遺物の中に回転糸切りと回転へら切りと静止糸切りの土師器皿が出土していることから、15・16世紀には3種類の切り離し技法が共存していると指摘されている。見近島城跡は16世紀後半の遺跡で、出土している土師器と3の杯とは明らかに法量差がみられる。3の杯が先行するものと考えられる。後述するが、静止糸切り技法の出現時期は15世紀後半頃からではないだろうか。

この糸切り技法については、近年、道後公園内にある河野家の湯築城跡の発掘調査成果(8)から、層位的に土師器の切り離し技法の変化について把握されている。これによるとⅢ層(焼上層)は、包含する遺物から1551~1575年の年代間が与えられ、湯築城の礎となる推積土層である。このⅢ層より下層(14世紀前半代)から出土している土師器の切り離しは回転糸切り技法が主流であり、Ⅲ層では静止糸切りと回転へら切り技法が加わり回転糸切り技法の土師器は少なく、Ⅲ層より上位層からは静止糸切り技法が多く、次いで回転へら切り技法のもので、回転糸切り技法は少量出土しているとのことである。湯築城から出土している土師器の法量的変化については未報告である。

また、湯築城の西方において松山市立埋蔵文化財センターによる試掘調査が行われた地所では、回転糸切りと静止糸切り技法の杯・皿が一括出土しており(9)、網線蓮弁の青磁碗の破片も出土している。出土した青磁碗から16世紀前半の土師器と考えられる。更に、樽味四反

地遺跡4次調査地⑩の土坑墓からは、回転ヘラ切りと静止糸切り技法の土師器杯がセットで出土している例もある。また、古照遺跡の西方約1.5kmに所在する北斎院地内遺跡⑩の土坑墓等から出土している土師器杯は、口縁部が外反し内面にはロクロ目のような多段撫でが施され、底部の切り離しが回転ヘラ切りである。この北斎院地内遺跡の土師器杯は16世紀前半頃のもので、2・3の土師器杯とは明らかに器形・技法的に差異があり、本調査区出土の杯が先行するものと考えられる。

中世後半における遺後平野の土師器杯・皿の切り離し技法の変化と共に器形・法量変化については研究課題であり、資料の増加を待ちたい。

<第Ⅶ層出土遺物について>

第Ⅶ層から出土した搬入土器の年代観としては、桶型瓦器碗（Ⅰ－Ⅱ期）は11世紀後半⑫、和泉型瓦器碗（Ⅱ期）は12世紀代、「て」の字状口縁皿は11世紀中葉頃から12世紀前半⑬、吉備系土師器碗（第58図、54）は12世紀代（搬入か在地かは不明）⑭、白磁碗は12世紀代と想定される。これら搬入土器に対して在地の土師器は、碗、杯、皿、土鍋などが出土している。これらについて若下の検討を以下に行う。

土師器碗

出土した土師器碗の高台部形態と切り離し技法については若干の分類を行っている(44p)。底部の切り離しが判明している碗は、回転糸切りと回転ヘラ切り技法のものである。また、輪高台と円盤状高台の碗に分けられる。円盤状高台の碗あるいは杯の初現は、現在、遺後平野内では石井幼稚園遺跡⑮の溝（SD-1）が挙げられる。このSD-1は共伴する搬入遺物から10世紀前半と捉えられている溝である。

底面が回転糸切りの土師器碗は、防長系土師器碗⑯と呼ばれるものである。中野良一氏は、この回転糸切りの土師器碗は11世紀後半段階から出土していると指摘されている⑰。第Ⅶ層から出土した土師器杯は全て回転ヘラ切りであるため、同層から出土している回転ヘラ切り技法の碗は在地的とも考えられるが、包含層資料であるため、この二種類の切り離し技法が時期的変化によるものであるかは不明である。

土師器碗の口縁形態は、口縁部外面の横撫での強弱によって、明瞭な稜を残すものがある。多くのものが外反し、また、まっすぐにやや外方向に伸びるものもある。内外面に磨きが施されているものもある。

伊予の土師器碗について森降氏⑱は、「回転台成形の土師器碗と非回転台成形の土師器碗の一群を伊予型」土師器碗として提唱されている。第Ⅶ層出土の土師器碗は包含層資料ということもあって型式的な編年は組みづらいが、森氏の提唱されている伊予型土師器碗の一群に広義的に加わるものであろう。

第Ⅶ層出土の土師器碗は、大部分が白色系土師器碗と呼ばれている碗で占められている。

最近、米住庵寺遺跡第15次調査(9)から白色系と橙褐色系の土師器碗が出土している報告がなされている。この遺跡から出土した土師器碗の切り離しは回転系切りが大半を占め、高台の形態化がかなり見られるため12世紀代を主とする碗と思われる。

この米住庵寺遺跡第15次調査では、内面に刷毛目の後に磨きが施されている碗が1点出土し、その底面は回転系切りと報告されている。第VII層からもこの調整方法の碗が3点出土している(第61図、106～108)。道後平野では、この調整方法の土師器碗の出土点数は少ないため搬入品の可能性もあるが、注目できる資料である。

第VII層出土の和泉型瓦器碗は量的に少なく、土師器碗が圧倒的に多い。中野良一氏の論考によれば、土師器碗の生産が減少し始めるのは、和泉型瓦器碗が多量に搬入される段階と指摘されている(9)。ただし、13世紀前半においては、在地の土師器碗は微少なれど生産されていたことは、資料編VI-2に後述する。しかし、この微少生産時期の土師器碗がどの系譜の土師器碗から捉えられるかは不明である。

土師器杯・皿

出土した土師器杯の底部の切り離し技法は、回転ヘラ切りである。

土師器皿は、大部分が底部から斜め方向に立ち上がる口縁をもち、口縁端部を丸く仕上げているものが多い。また、底部の切り離し技法は回転ヘラ切りが多い。しかし、回転系切りの土師器皿も出土している。この回転系切りの皿の出土に関しては、第VI層から13世紀代の水田ということもあり、水田耕作によって後世の土器も混入しているが、163・164(第64図)やSK-23出土の皿は、胎土・器形などからB地区出土の皿とは明らかに違い搬入品もしくは回転系切りの初現的皿とも考えられる。

現段階では、回転系切り技法の土師器皿・杯が道後平野において出現する時期については、前述の防長系土師器碗の様に従来の回転ヘラ切り技法に加えて新しく回転系切り技法が加わる時期である11世紀後半の出土例がないので土師器碗と同時期であるとは考えられず、12世紀後半頃からと思われるが明確なものではない。今後の資料増加を待ちたい。

その他

黒色土器A類碗は、口縁や高台の形態から11世紀代と考えられる。この中で、第65図184のように口縁部内側に沈線を1条巡らせている碗も出土している。

須恵器鉢(第68図、227)については、胎土・色調から搬入品の可能性があり、京都の篠原系の鉢とも考えられたが、不明である。

この第VII層より下の第VIII層から須恵器の内盤高台碗1点(第69図、236)を出土している。器壁の薄さから、搬入品の可能性がある。

2. B地区

〈遺構〉

本調査区では、柵列二方向に囲まれた掘立柱建物跡SB-1を検出し①、この建物跡の東側でSD-8を検出、SD-8はT字状になる溝である。このSD-8はSB-1に付随する溝と思われる。この溝から多量の遺物を出土した。出土遺物は、溝廃棄時の一括遺物として捉えられる。

検出された遺構が、調査区周辺にも連続して広がる可能性がある。

本調査区は、南江戸岡目遺跡②と関連する遺跡と考えられる。この南江戸岡目遺跡は報告書の中で上田真氏が、多量の土師器の出土とそれら土師器に亀裂が生じている点から「土師器の通別出荷が行われたのではないかと、また、生産遺跡で恐らくは集積地であったことが考えられる」と指摘されている。それぞれの遺跡から出土した遺物の比較検討を詳細に行っていないが、南江戸岡目遺跡を集積地とし、本調査区を消費地の一部としての性格が窺い知れる。

本調査区は、出土遺物から13世紀代を盛期とする遺跡と考えられる。

〈遺物〉

出土した遺物量は、天箱(DGK・No32、60×44×深さ15cm)にして43箱余りで、その内訳は回転糸切りの土師器杯・皿18箱(約41%)、瓦器碗・皿10箱(約23%)、手づくね土師器杯・皿5箱(約12%)、土師質の鍋・釜・甕などは5箱(約12%)、次いで須恵器・陶器などは4箱(約9%)、貿易陶磁器0.5箱(約1%)、その他1箱(約2%)である。

回転糸切り土師器が供膳具の主流を占めていることがわかる。椀形態のものは瓦器が主であり、手づくね土師器と煮沸関係の土器とは同数程度である。次いで貯蔵用須恵器類、そして少量の貿易陶磁器が出土している状況である。

以下、幾つかの遺物について検討する。

土師器碗

本調査区から出土した土師器碗は11世紀から12世紀代のものが紛れ込んでいるが、244(第75図、SB-1)・407(第109図、SD-8)・1019(第163図、遺構外)の3点は13世紀後半以降の吉備系土師器碗と思われる。この吉備系土師器碗は前述の南江戸岡目遺跡の2号集積遺構からも出土している③。道後平野の中では、古瀬遺跡周辺のみから出土している。

土師器杯・皿

前述のように、回転糸切り技法の土師器杯・皿が多量に出土している。次いで、手づくね成形の土師器杯・皿である。この手づくね成形は、底部に指頭痕がみられ明らかに指頭押さえによるもので、体外外面に粘土紐巻き上げの痕跡が窺われる土器も出土している。撫で調整

は、内面見込みを撫でた後に口縁部を横撫でしている。口縁部外面に明瞭な稜があるものと稜の取れないものがある。手づくね成形の土師器は畿内の技法によるものと考えられる。

本調査区から出土した手づくね土師器は、回転糸切り土師器と比較して色調・胎土の点で異なるものでないため在地的土器ではないかと考えられる。百瀬・橋本の両氏は、東日本では畿内系土師器の出土が12世紀後半から13世紀によく見られる点を指摘されている²⁴⁾。

本調査区から出土した手づくね土師器と回転糸切り土師器並びに瓦器の胎土分析結果を分析編VII-8に掲載している。分析結果から更に資料を増やして検討すべきものであろう。

A地区の第VII層からも手づくね土師器皿が4点出土している(第64図、165-168)。この皿は、本調査区出土の手づくね土師器と比較してみると明らかに胎土・焼成・色調において異なり、A地区出土は搬入品と考えられる。

本調査区以外に手づくね土師器は、南江戸磯日遺跡からも回転糸切り土師器に混じって出土しており、古原ゴウラ遺跡4次調査地や古照遺跡第8次上層調査A・B地区からも出土しているが、いずれの遺跡でも点数が少ない。本調査区は特異性をもつ遺跡であろう。

この様な手づくね土師器は、道後平野全域で出土するものでなく、現段階では古照遺跡周辺からしか出土例がなく地域が限定されている。この点から平野内の中であまり流通に乘らない一時的なものではないだろうか。

手づくね土師器以外に、SX-13の632(第133図)のように口縁端部を内側に折り曲げる形態の皿が1点出土している。底部の切り離しは不明である。この形態の皿は、伊野近高氏²⁵⁾がCタイプに分類されているものに類似しており、13世紀後半に比定されている。632が搬入品であるかどうかは定かでない。道後平野内では出土例が未だない土器である。

この632の様に口縁部を内側に折り曲げる形態に近い口縁をしているもの、または口縁端部が肥厚する形態の土師器皿の出土は鷹ノ子町遺跡1次調査²⁶⁾と鷹子遺跡²⁷⁾から報告されている。

また、SD-8の408(第109図)のように底部を回転糸切りしたあと粘土緑の高台を貼り付けた杯や造機外出土の675(第145図)のような箱型の杯についても平野内では出土例が少ないものである。

瓦器

SK-9の瓦器椀(第87図、304)は和泉型III-2期に、遺構外出土(第165図、1026)は和泉型III-3期である²⁸⁾。その他の瓦器椀も和泉型のIII期に属するものであろう。

本調査区からは無高台の桶栗型瓦器(第166図、1053)が案内で初めて出土している。この瓦器については、13世紀後半から14世紀代に比定されている²⁹⁾。

SB-1(第76図、257)と遺構外(第167図、1054・1055)は、手づくね土師器杯の形態をもつ瓦器であり、257は丸底、1054・1055は平底を呈している。この杯器形の瓦器(以下、略して瓦器杯という)は、古照遺跡周辺の遺跡からも出土しているため資料編VI-2で紹介

する。このような瓦器杯が道後平野全域に見られるものでなく古照地域からしか出土していない点が挙げられる。

県内では、今治平野の八町遺跡⁽³⁾5調査区の187号柱穴から出土例があり、この瓦器杯は平底を呈している。

その他

本調査区からは常滑焼き甕が出土している（SK-13第94図342、SP-7第123図574、第180図1106・1107）。当該期の常滑焼きの出土例はないが、後出時期の出土には松城古照遺跡⁽³⁾、樽味遺跡2次調査⁽³⁾、湯築城跡がある。

また、十瓶山窯こね鉢（第181図、1113）が出土しており、前述の八町遺跡7調査区の2号土坑からも出土⁽³⁾しており、県内では2例目となる。

本調査区の遺構埋土や包含層からスラグ⁽³⁾が出土していることは、本調査区周辺で小鍛冶や野鍛冶の存在が考えられ、中世生活を知る上で重要な資料である。

【註】

- (1)橋本雄一・相原秀仁：「道後今市遺跡9次調査地」『道後城北遺跡群 II』（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1994
- (2)古照遺跡第6次上層調査では、調査地全域において江戸時代中期の洪水で埋没した農耕遺構が検出されている。この洪水は東方の松城古照遺跡・古照ゴウラ遺跡でも確認されている。
- (3)古照遺跡第1次調査では、上層の中近世遺構などは掘削によって本調査であるが、完形の瓦器柄1点が出土している。この瓦器柄については本報告書の資料編VI-2に資料紹介している。
- (4)原 三正：『お釜窯の研究』人間の科学社、1981
- (5)中野良一：『愛媛県における古代末から中世の土器様相』『中近世土器の基礎研究 IV』、1988
- (6)宮本一夫：『道後平野の中世土器研究—13～15世紀を中心に—』『鷹子・樽味遺跡の調査』愛媛大学埋蔵文化財調査室、1989
- (7)中島博文・野口光比呂：『見近島城跡』（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター、1983
- (8)『道後公園埋蔵文化財発掘調査—現地説明会資料—』（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター（1989・1992・1993）並びに沖野新一：『湯築城跡』『理文えひめ（第18号）』同センター（1993）
- (9)試掘調査によるものであり、未報告資料である。検出された遺構等の詳細は不明である。
- (10)加島次郎：『樽味西反地遺跡4次調査地—概報—』（1993）この概報は、当（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター内における遺跡検討会資料であり、未報告である。
- (11)①宮崎泰好：『北斎院地内遺跡』『松山市埋蔵文化財調査年報 II』松山市教育委員会、1989
- (12)②梅木謙一・武正良治：『北斎院地内遺跡2次調査地』『松山市埋蔵文化財調査年報 V』（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1993
- (13)橋本久和：『高機における中世土器の編年』『上牧遺跡発掘調査報告書』高機市教育委員会、1980
- (14)（財）京都市埋蔵文化財研究所の小森俊寛・百瀬正恒・吉村正親の各氏からご教示頂く。
- (15)岡山県古代青備文化財センターの福田正継氏よりご指摘頂いた。

03 栗田茂哉：「石井幼稚園遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報 1』松山市教育委員会（1987）、出土遺物を発見した。

04 百瀬正恒・橋本久和：「中世平安京の土器様相と各地への展開」『考古学ジャーナル No299』、1988

07 前掲註(5)

08 森 隆：「中世土器の生産にみる地域型の提唱と工人集団の系譜について—西日本の土器焼生産を中心とした—」『中近世土器の基礎研究 VII』、1992

09 西尾幸則・山本健一他：『来住庵寺遺跡—第15次調査報告書、松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1993

09 前掲註(5)

21 『松山市埋蔵文化財調査年報 V』（1993）においては、竪立柱建物跡2棟と報告しているが、柱穴の位置関係にミスがあり、本報告書で1棟と訂正した。

02 上田 真・水本完児：『南江戸岡目遺跡』松山市教育委員会・松山市立埋蔵文化財センター、1992

03 南江戸岡目遺跡の2号集積遺構出土土器器腕については、広島県草戸千軒町遺跡調査研究所の鈴木康之氏からご教示頂いた。

24 前掲註(6)

05 伊野近富：「かわらけ考」『(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター—五周年記念論集』、1987

06 宮内慎一・梅木謙一：『鷹ノ子遺跡1次調査』『来住・久米地区の遺跡』(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1992

07 宮本 大：『鷹子遺跡』前掲註(6)

08 この瓦器碗2点について、平成5年2月、大阪府教育委員会の尾上実氏・(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターの森島康雄氏から、304は椀の類の器形である大阪南部の特徴がありIII—2期に、1026はIII—3期であろうとご教示頂いた。

09 橋本久和は『中世土器研究序論』（1992）において、上牧遺跡の溝1から出土した遺物を取り上げ、桶粟型のIII—3期と検討されている。また、河野真知郎氏は『鎌倉の搬入土器と在土器』『中近世土器の基礎研究 VII』（1992）の中で、主に13世紀後半から14世紀前半の層から普遍的に出上している様相を指摘されている。

00 「八町遺跡」『畿国道196号今治道埋蔵文化財発掘調査報告書』(財)愛媛県埋蔵文化財センター、1989

01 『松岡古照遺跡』(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター（1993）報告書の中では明確に常滑焼きとして言及されていないが、『松岡古照遺跡及び大峰ヶ台遺跡—現地説明会資料—』(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター（1987）並びに、中野良一氏の論考（前掲註(5)）において出土が記載されている。

02 『梅味遺跡 II—梅味遺跡2次調査報告—』愛媛大学埋蔵文化財調査室、1993

03 中野良一氏より「八町遺跡」7調査区2号土坑の土師製鍋と報告されているものが、十瓶山窯のコネ鉢であるとのこと指振を頂いた。

04 名古屋大学の村上恭通氏からご教示頂いた。

【参考文献】

* 『常盤仲ノ町集積跡発掘調査報告書』(財)京都市埋蔵文化財研究所、1978

* 『宮ヶ瀬遺跡群 III』神奈川県立埋蔵文化財センター、1993

★栗田正芳・河野史知他：『古蹟遺跡―第6次調査―』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1993

★栗田正芳・河野史知：『古蹟遺跡8次調査地』『松山市埋蔵文化財調査年報 V』(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1993

★松村 淳・山本健一：『古蹟ゴウラ遺跡4次調査地』『松山市埋蔵文化財調査年報 IV』(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1992

VI 資料編

1 濃縮タンク工事立会調査

濃縮タンクは、第7次調査A地区の東方約110mの地点に建設予定されている施設（第3図参照）である。

この濃縮タンク予定地の試掘調査は、平成3年7月25日～同年8月17日にかけて、A地区の試掘調査と同時に実施している。

深さ約2.0m（標高約11.0m）までの間は、中近世の土層が堆積し、それ以下は砂礫層が堆積していた。中近世土層からは遺構・遺物の検出がなかったため、工事掘削において更に下層の立会調査を行った。工事掘削は、標高約9.5mまでである。

平成3年9月4日、工事掘削に立会い、標高約10.2mにおいて層厚約50cmを測る黒褐色粘土層を確認した。この黒褐色粘土層の上下には厚く砂礫層が堆積していた。

この黒褐色粘土層から古墳時代前期初頭の土師器（第189図）を出土した。この黒褐色粘土の堆積時期は、「井堰」と同時期の古墳時代前期と考えられる。

この黒褐色粘土層は「井堰」よりも約1.2m高い位置で検出されている。この黒褐色粘土層と同時期の黒褐色粘土層については、平成4年度の第8次調査(1)において同じ標高から古墳時代前期の溝遺構が検出されている。

また、平成4年度の第9次調査地(2)でも標高約8.0mで古墳時代前期の黒褐色粘土層を確認している。

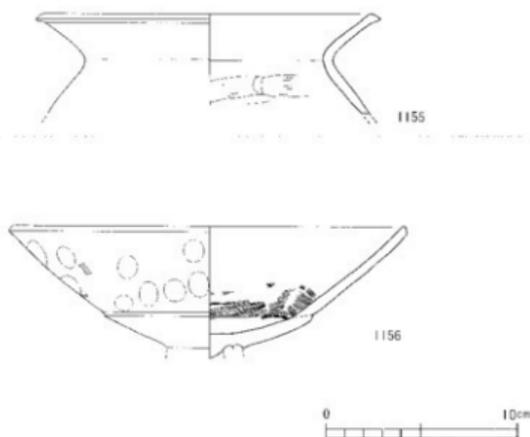
昭和45年撮影の航空写真や中央浄化センター造成前の微地形コンタから、中央浄化センター内のほぼ中央に東西方向の谷地形があることが解っている。この3箇所から検出された黒褐色粘土層が、この谷地形に比定される土層と思われる。

以上のことから、古墳時代前期の地形として東西方向の谷地形が存在し、その谷の西側、特に河川の合流する地点に「井堰」3基が構築されていたと考察される。

工事立会調査出土遺物（第189図）

1155は甕の口頸部である。口縁端部は内側に肥厚している。全体に摩滅しているが、内面には横方向の削りかたされ、体外面には横方向の刷毛目が施されている。口縁部内外面は横方向の撫で調整が施されている。

1156は高杯の杯部である。内外面とも幅広い刷毛目が施された後、磨き調整が施されている。



第189図 濃縮タンク工事立会調査出土遺物実測図

2 古照地域出土遺物について

近年、古照遺跡を含めた古照地域の発掘調査において、古代から中世にいたる遺物が多量に出土している。今後、遺後半野における土器様相を研究する上で貴重な資料であるため、各遺跡から出土した遺物について資料紹介を行い、今後の土器研究のために検討を加え、更には古照地域の性格について簡単に述べてみる。

〈各遺跡出土遺物〉

古照遺跡第6次下層調査(第190回)

古照遺跡第6次下層調査(以下、略して6下という)は平成2年度の調査(3)で、洪水による盗流堆積層から出土した遺物を説明する。この盗流堆積は10世紀後半の洪水による堆積層と考えられている。

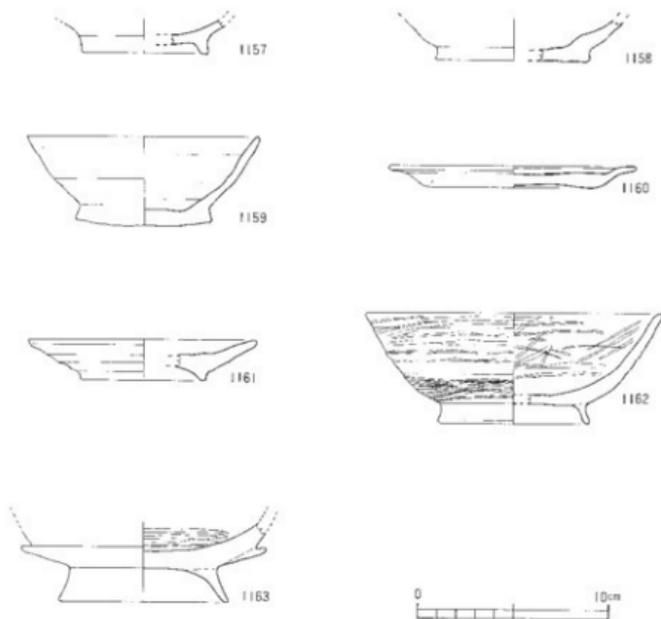
1157は輪高台の土師器碗で、断面四角形の高台が貼り付けられている。1158は円盤高台の土師器で、底面は回転ヘラ切りである。底径の大きさ、底部からの立ち上がりから碗と思われる。

1159は円盤高台の土師器杯で、底面は回転ヘラ切りされている。

1160は口縁部を外側へ折り曲げ、「て」の字状を呈する土師器皿である。底面にはヘラおこしの痕跡がある。1161は高台付の土師器皿である。

1162は黒色土器A類椀で、高台の断面は細長く、外方向に張り出している。内外面とも磨きが施されている。

1163は黒色土器A類の托上椀で、内面には横方向の磨きが施されている。

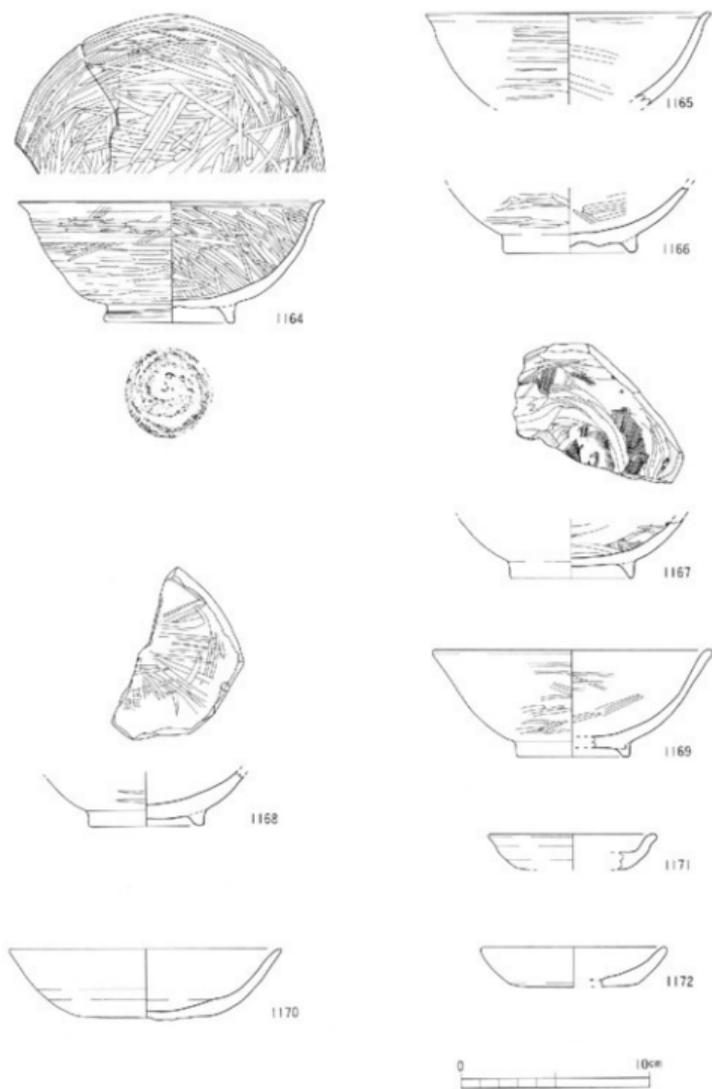


第190図 古照遺跡第6次下層調査出土遺物実測図

古照遺跡第10次調査 (第191図)

古照遺跡第10次調査(以下、略して10次という)は、平成5年度において古照遺跡第6次調査地の東側隣接地を調査したものである。本報告であるが、東西方向の溝(SD-1)を検出し、その溝から出土した遺物を紹介する。

1164~1168は黒色土器A類の椀である。1164はほぼ完形品で、やや腰が張る器形である。体部外面は横方向の磨きが緻密に施され、体部内面は横方向の磨きや見込み部から口縁部にかけて斜め方向の磨きが施されている。底面はヘラ切りされ、断面台形状の高台が貼り付けられている。底面のヘラ切り方向は時計回りである。1165と1166は同一個体と思われる。1165は1164と同様に口縁部が外反する。1166の内面には小さな窪みが多数あり何らかの痕跡であろう。1167は丸底を呈する底部に断面三角形の高台が貼り付けられ、見込み部には刷毛目の後に磨きが施されている。1168は1167よりも器壁は厚く断面台形状の高台が貼り付けられ、



第191図 古照遺跡第10次調査出土遺物実測図

見込み部には放射状の磨きと横方向の磨きが施されている。

1169は黒色土器B類の椀である。底部と口縁部は接合しないが同一個体であるため1個体として図示した。口縁部は外反している。内外面とも磨きが緻密に施されている。底面の切り離しは不明であるが、円盤状高台の外周に断面台形状の高台が貼り付けられている特徴がある。

1170は土師器杯で底面は回転ヘラ切りされている。体部外面上半分は横撫でが施され下半分は未調整である。

1171・1172は土師器皿である。1171の口縁部は外反している。1172は底部からやや内気味に立ち上がり、底面は回転ヘラ切りである。

図示しなかったものに、土師器椀の口縁部片や竹製籠も出土している。このSD-1は、出土した黒色土器から10世紀末から11世紀初頭の溝と考えられる。

古照遺跡第2次調査出土遺物（第192図、1173）

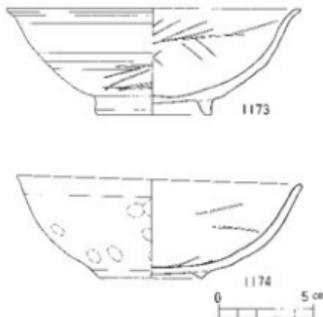
古照遺跡第2次調査（以下、略して2次という）は昭和49・50年（1974・1975）に調査され、古墳時代前期の「井堰」1基が検出されている。調査掘削中に出土した土師器椀について説明する。

1173の口縁部は外反し、口縁部下に明瞭な稜が巡っている。体部内外面には横方向の磨きが施されている。また、体部外面には浅い沈線が3条巡っている。おそらく回転台使用の椀である。口径15.4cm、器高6.7cmを測り、白色を呈している。中野良一氏の編年(4)では、11世紀中葉頃と考えられる。

古照遺跡第1次調査出土遺物（第192図、1174）

古照遺跡第1次調査（以下、略して1次という）は昭和48年（1973）に調査され、古墳時代前期の「井堰」2基が検出されている。調査掘削中に出土した瓦器椀について説明する。

1174は完形である。断面三角形の高台が貼り付けられている。特に、体部外面には焼成前の施された「×」「\」「/」のヘラ記号が3ヶ所でみられる。口径15cm、器高5.2cmを測り、断面三角形の高台が貼り付けられている。全体に摩滅しているが、体部外面上半分にかすかに磨きが施されており、内面にも幅約1mmの磨きが横方向に、見込み部には平行線あるいは格子状の磨きがかすかに看取れる。和泉型Ⅱ-3期またはⅢ-1期と思われる(5)。



第192図 古照遺跡第1・2次調査出土遺物実測図

古照ゴウラ遺跡4次調査地（第193～196図、1175～1215）

古照ゴウラ遺跡4次調査地（以下、略してG4という）は、平成元年（1989）に調査された(6)。この遺跡では、松環古照遺跡(7)と関連する遺構が調査されている。

特に、溝遺構、土器溜まり遺構、包含層から出土した遺物について説明を行う。

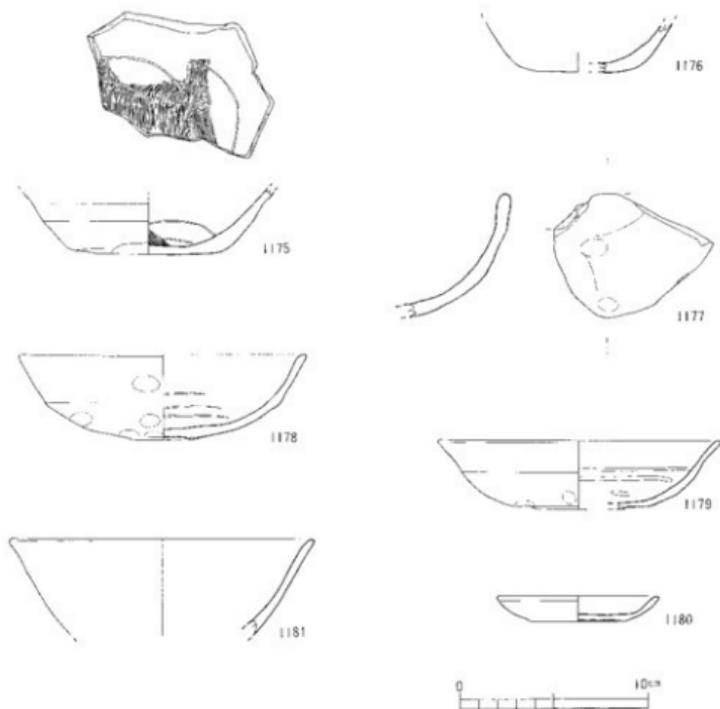
溝遺構出土遺物（第193図）

S D - 2 : 1175は瓦器杯で平底を呈し、内面に刷毛目と暗文が施されている。

S D - 4 : 1176は瓦器杯で、底面に回転糸切りの痕跡が残っている。

S D - 7 : 1177は瓦質の小型杯で片口部をもつ。道後平野では初めての出土と思われる。

S D - 8 : 1180は土師器皿で摩滅しているが底面はおそらく回転糸切りであろう。1179・1178は瓦器碗である。1181は越州窯青磁碗で、外面に1条の沈線らしき窪みが巡っている。溝への紛れ込みと考えられる。



第193図 古照ゴウラ遺跡4次調査地出土遺物実測図(1)

土器溜まり遺構（SD-8の先端部）出土遺物（第194図）

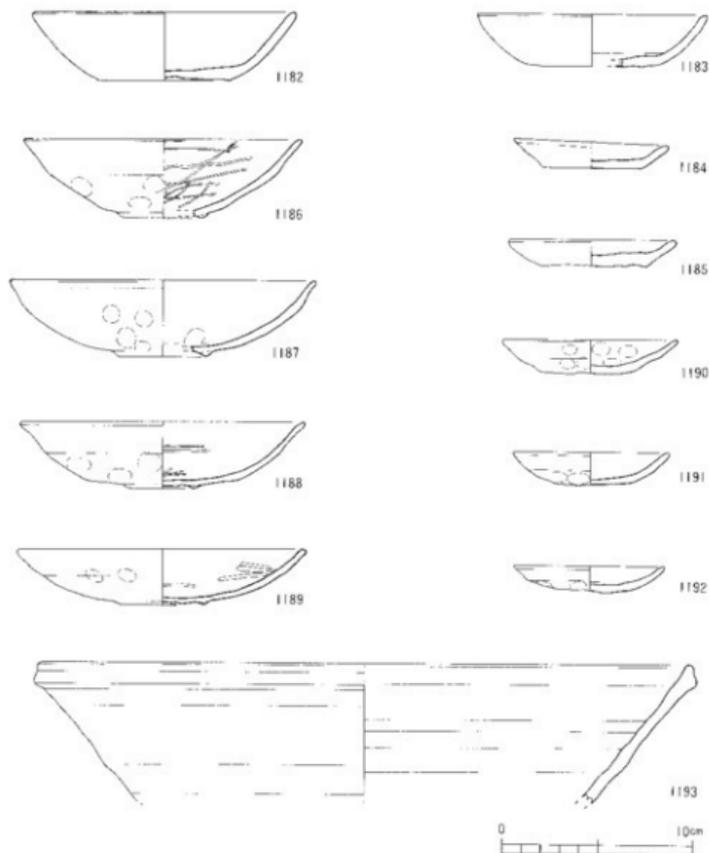
1182・1183は土師器杯で、底面は回転糸切りである。

1184・1185は土師器皿で、底面は回転糸切りである。

1186・1187・1188・1189は瓦器碗である。

1190・1191・1192は瓦器皿である。

1193は須恵器こね鉢で、東播系のものと考えられる。



第194図 古黒ゴウラ遺跡4次調査地出土遺物実測図(2)

包含層出土遺物 (第195・196図、1194～1215)

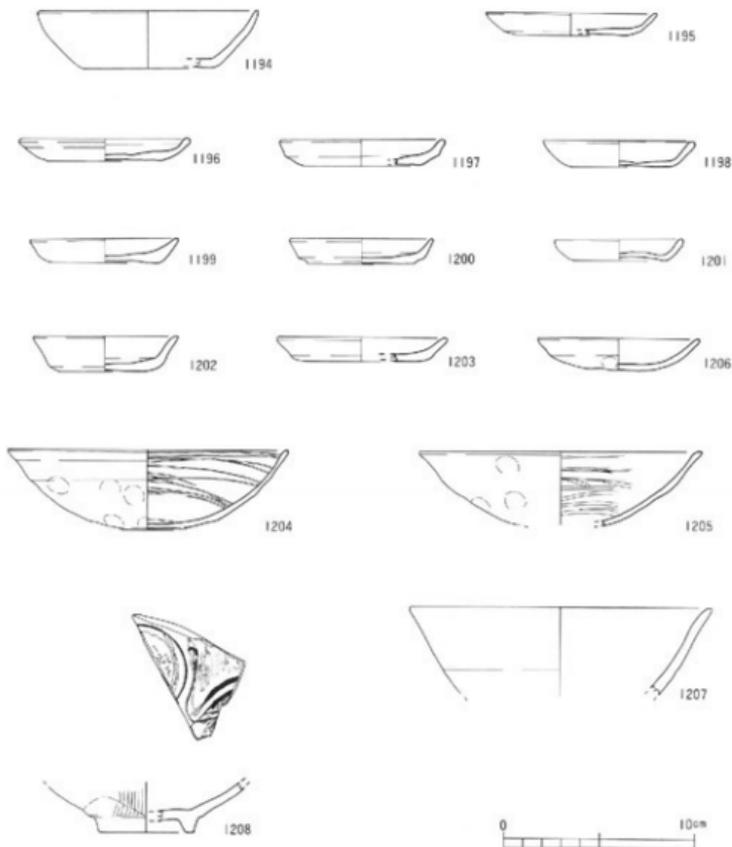
1194は土師器杯で、底面は回転糸切りである。

1195～1203は土師器皿である。1203のみ手づくねで底部に指頭痕が見られる。他は全て底面が回転糸切りである。

1204・1205は瓦器椀である。1204は内面見込みには平行線状の暗文が施されている。

1206は瓦器皿である。これらの瓦器は和泉型Ⅲ期に入ると考えられる(8)。

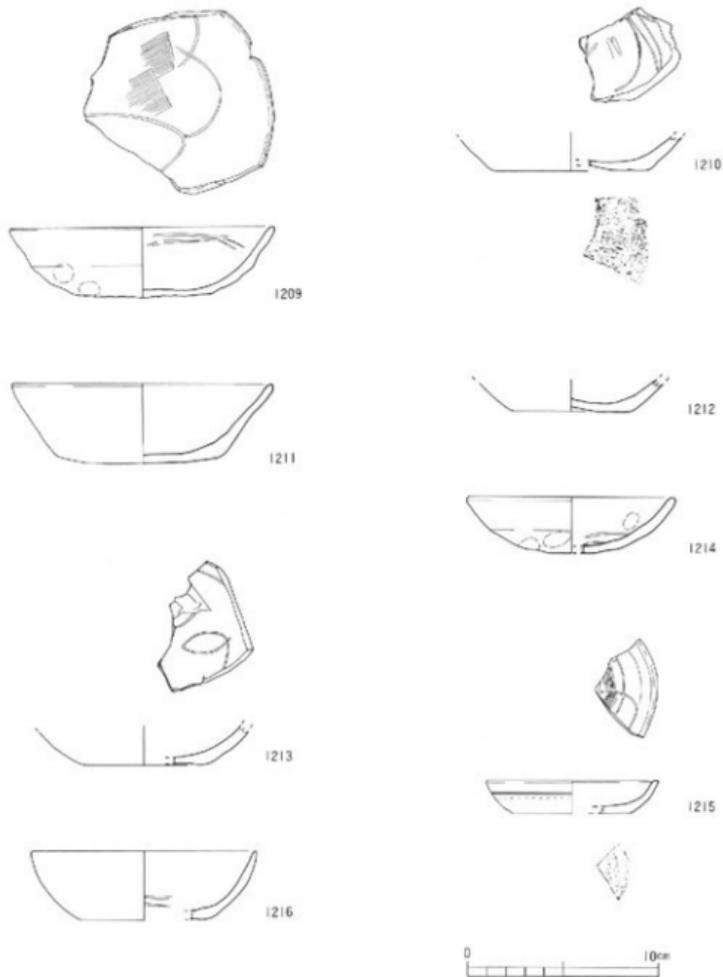
1207は越州窯青磁碗で、1181と同一個体とも考えられる。



第195図 古照ゴウラ遺跡4次調査地出土遺物実測図(3)

1208は龍泉窯系青磁碗である。

1209・1210・1211・1212・1213・1214は瓦器杯、1215は瓦器皿である。1210・1211・1213



第196図 古照ゴウラ遺跡4次調査地(4)・辻町遺跡出土遺物実測図

・1215は、底面が回転糸切りによるものである。1212は平底で、切り離し方法は摩滅のため不明。1210・1213・1215は内面に暗文が施されている。1209は手づくね成形によるもので、内面に刷毛目と暗文が施され、口縁外面は横撫で、体部下半分と底部に指頭痕が残る。1214は口径10.8cm、器高3cmを測り、内面に暗文が施され、法量的に和泉型瓦器のIV-4期の碗と思われる(9)。1215は体部外面上半分にのみ炭素が付着しており、重ね焼きの痕跡と考えられる(破線より上位)。

辻町遺跡(第196図、1216)

辻町遺跡(以下、略して辻という)は平成3年(1991)に調査された遺跡である(10)。

特に、第V層出土の瓦器について説明する。

1216は瓦器杯で、平底になると思われる。内面見込み部近くに横方向の磨きが施されている。

古照遺跡第8次上層調査A地区(第197図、1217~1225)

古照遺跡第8次上層調査A地区(以下、略して8Aという)は、平成4年度に調査された(11)。第6次上層調査C地区(12)の北側隣接地にあたる。

特に、土坑墓SK-1と土坑SK-5から出土した遺物について説明する。

SK-1:1217は土師器碗で、口径15cm、器高4.8cmを測る。やや腰の張る器形である。全体に摩滅している。口縁部は外反し、体部外面には浅い3条の沈線が巡っている。形骸化した断面四角形の高台が貼り付けられ、高台径6cmを測る。底面には「X」記号がある。このSK-1からは人骨、歯、湖洲六花鏡1面が出土し、埋土からは瓦器碗と土師器の小片の他に白磁碗IV類とV-2・b類の口縁部片が出土している(13)。おそらく12世紀末から13世紀前半の土坑墓と考えられる。

SK-5:1218・1219・1220は瓦器碗である。1219・1220の内面見込みに格子状の暗文が施されている。1218は口径15.4cm、器高4.8cm、1220は口径15cm、器高4.6cm、1219は口径14.8cm、器高4.8cmを測る。いずれも和泉型瓦器碗である。1221・1222は土師器杯で、底面が回転糸切りである。1221は口径12.8cm、器高4cm、1222は口径15.4cm、器高3.5cmを測る。1223・1224・1225は土師器皿で、底面が回転糸切りである。1223は口径9cm、器高1.6cm、1224は口径9cm、器高1.6cm、1225は口径8cm、器高1.2cmを測る。

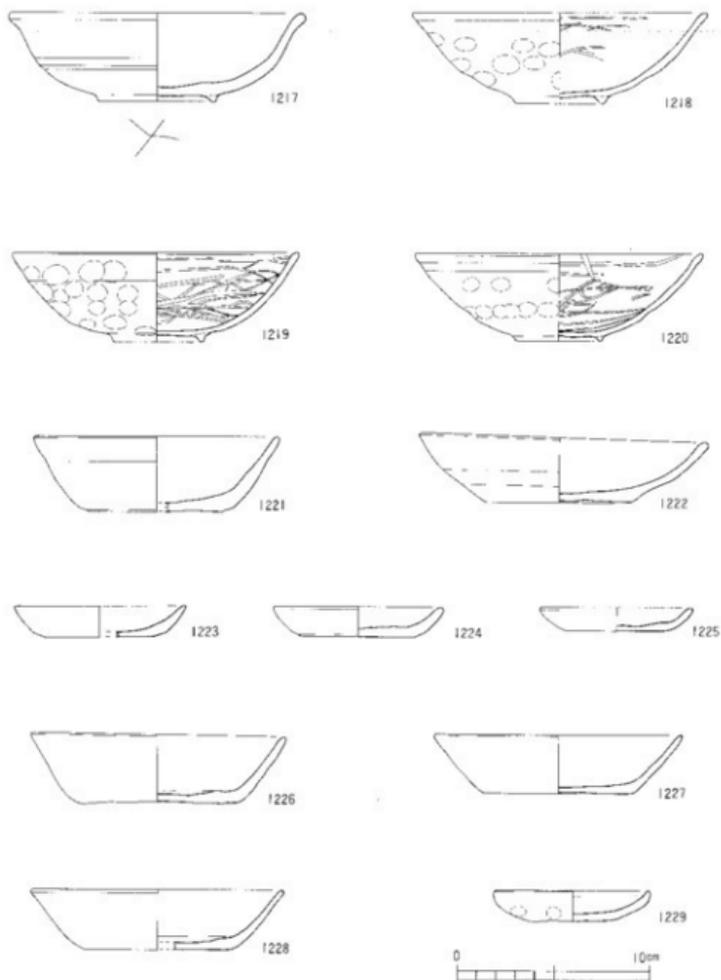
古照遺跡第8次上層調査B地区(第197図、1226~1229)

前述の8Aから西へ約150m離れた地区(14)で、第7次調査B地区(以下、略して7Bという)の西側に位置する。ここでは、土坑(SK-2)出土遺物について説明する。

このSK-2は、床面に灰が敷きつめられていた土坑である。この土坑から瓦器は出土していない。また、灰についての花粉分析結果を分析欄VII-5に掲載している。

1226・1227・1228は土師器杯で、底面が回転糸切りである。1226は完形品である。1226は口径13.3cm、器高3.6cm、1227は口径12.8cm、器高3.1cm、1228は口径13cm、器高3.2cmを測る。

1229は完形品の手づくね土師器皿で、平面形がやや六角形状を呈している。口縁部内外面は横溝で施されている。口径7.8cm、器高1.7cmを測る。



第197図 古照遺跡第8次上層調査A・B地区出土遺物実測図

以上、周辺の遺跡から出土した遺物について紹介並びに簡単な説明を行った。

以下、7A・B出土遺物とも併せて検討してみることにする。

〈出土土器について〉

土師器杯・皿

10次SD-1出土の土師器杯(1170)と7A出土の土師器杯(第63図、139・140・141)を調整・器形などから比較するならば、1170はやや底部近くに丸みをもたせ体部外面上半分のみ横撫でが施され、139・140・141は底部から斜め方向に外傾しながら立ち上がり、体部外面は全面に横撫でが施されている点に違いがみられ、時間差のある大きな技法の違いではないかと考えられるが、この11世紀から12世紀にかけての土師器杯については、中野良一氏が松環古照遺跡から出土した杯から福年09を継ぎられている程度で資料的にはまだ少ないため断定はできない。

土師器杯の底部の切り離し技法は、7Aの杯は全て回転ヘラ切りであり、皿に関しては回転ヘラ切りが多く、回転糸切りは数点出土している。

7AのSK-23出土の回転糸切りの土師器皿(第33図、9・10)の胎土・器形は、本報告書の小結でも述べているように(165p)、7Aの第VII層出土の土師器皿(第64図、159)と同様であり、9は全体に器壁が厚く底部から外方向へ立ち上がる口縁部をもち159と良く類似している。7B出土の土師器皿とは明らかに胎土や器形において9・10とは差異がみられるため、9・10は第VII層と同時期の土師器皿と考えられる。

更に、7Bでは手づくね以外の土師器杯・皿は全て回転糸切りである。この切り離し技法変化については前述の中野氏の論文に詳しい。現段階では、来住庵寺18次調査地06の出土遺物から、和泉型瓦器III-1期の瓦器碗と出土している土師器杯・皿は全て回転糸切り技法によるものであるため、III-1期を森島康雄氏の福年09に照らせ合わせれば、12世紀末頃に想定できる。9・10は、来住庵寺18次調査地出土の土師器皿よりも古い様相があるため、12世紀後半頃ではないかと考えられる。

次に回転糸切りの土師器杯に関してであるが、8ASK-5出土杯と7BSK-9出土杯とを比較するならば、全体的に明らかな法量差がみられ、共存する瓦器碗においても器高の低平化がみられる。また、8BSK-2と7BSK-9出土杯はほぼ同じ法量である。7BSK-15は7BSK-9よりも器高が低くなっており、皿においても同様である。おそらく、8ASK-5→7BSK-9・8BSK-2→7BSK-15へと法量変化があるものと考えられる。

今回掲載できなかった南江戸羅目遺跡08や松環古照遺跡から出土した土師器と比較して、今後検討する必要がある。

次に手づくね土師器杯・皿については、7B、7A(第64図、165~168)、G4(第195図、

1203)、南江戸岡目遺跡から出土している。松環古照遺跡からは報告されていない。7Bでは回転糸切り杯・皿の出土量に対して約1/4を占めている。この手づくね成形の土師器は、遺後平野の中では、古照地域という限られた地域からの出土である。この状況は、後述する瓦器についても同様である。これら手づくね土師器杯・皿の年代感は、現段階としては13世紀代と捉えておきたい。

土師器碗

中野良一氏の論文(9)によれば、12世紀代において在土師器碗は途絶し、補完するように和泉型瓦器碗が多量に搬入されると指摘されている。今回の7A出土土師器碗には高台の形態化がかなりみられる。また、8ASK-1出土1217(第197図)は中野氏の編年の中で使用されている12世紀代の松環古照遺跡出土碗と比較すると明らかに器高が低く高台が形態している点が挙げられ、7A出土土師器碗とも合せて、12世紀代から13世紀前半を埋める資料である。

次に吉備系土師器碗についてである本報告書の小結にも述べているが(166p)、吉備系土師器碗の出土は県内においては南江戸岡目遺跡の2号集積遺構の土師器碗1点が見える資料であり、あまり報告がなされていない。このため、7Aの54(第58図)及び7Bの244(第75図)・407(第109図)・1019(第163図)が新資料として挙げられる。12世紀代および13世紀後半段階における吉備系土師器碗の存在は、新たに東部瀬戸内の影響を受けていることが明らかになった。この吉備系土師器碗は、遺後平野の中では、手づくね土師器及び後述の瓦器と同様に現段階では古照地域からしか出土していない。

森隆氏は伊子における土師器碗を伊子型土師器碗として提唱し、「防長系土師器碗の影響を受けながら鬚紋型とは明確に異なるが、まだ不詳な点が多い」と指摘されている(20)。本報告書では伊子型土師器碗について言及することは難しいが、7Aや8ASK-1の土師器碗がその一群に含まれるものであろう。

黒色土器

10次の1164(第191図)、6下の1162(第190図)とを比較するなら、高台の張り出し方、高台高、体部の立ち上がり方などにおいて明らかに器形的差異が見られる。これをある程度の時期差をもつ変化として捉えたい。

次に、底部の切り離し方向(特に回転ヘラ切りによる)についてであるが、7Aの101・104・105(第61図)の黒化処理していない土師器碗の底部は逆時計回りであるのに対して、1164は時計回りで、回転方向に違いがある。この違いについては、未だ資料不足のため明確にすることはできないが、様々なことが考えられる。時期差による違い、工人の違い、製作者の利き腕による違いで特異なものか。注目すべき痕跡であり、再度、周辺遺跡から出土した碗の切り離し方向を検討する必要がある。

また、7A出土の土師器杯及び10世紀前半と考えられる石井幼稚園遺跡(21)の溝SD-1

から出土した土師器杯の底面は全て回転ヘラ切りで、逆時計回りであることを付記しておく。

道後平野における黒色土器について述べれば、現時点で9世紀代の資料として座拝坂遺跡②の土坑出土の黒色土器A類杯が挙げられる。この杯は体部内面に幅広の横方向の磨きが施され、口径18.1cm、器高4cmを測る。在地的杯と考えられる。

10世紀前半としては、前述の石井幼稚園遺跡のS D - 1の黒色土器A類杯が挙げられる。ただし、この杯は畿内からの搬入品である。この時期の在地的な黒色土器杯は未だ出土例がなく、今後の資料の増加を待ちたい。

10世紀後半では、6下のI162（第190図）及び松塚古照遺跡から出土している黒色土器A類杯が挙げられる。松塚古照遺跡出土杯は中野良一氏③によれば、体部外面の底部近くにヘラ削りが施され、虎溪山1号窯のもので搬入品ではないかと指摘されている。

11世紀初頭では、10次の第191図に掲載している黒色土器杯や松塚古照遺跡出土の杯が挙げられる。黒色土器杯はA類が主流でB類は数少ない。中野良一氏によれば、11世紀から12世紀にかけて黒色土器杯は土師器杯に淘汰されていくと指摘されている④。

瓦器

資料紹介した、G4と辻の瓦器杯・皿を含めて、7Bの瓦器（第76図257、第167図1054・1055）は、和泉型瓦器にすれば特異な器形である。瓦器杯においては、底部に指頭痕がみられ手づくね成形によって平底と丸底を呈するもの、明確に回転糸切りされたものがある。瓦器皿については回転糸切りされているものである。

この瓦器杯・皿は、前述のように道後平野の中でも、現段階では古照地域のみに限られて出土しており、ミクロ的存在の瓦器である。

県内での出土例としては、今治平野の八町遺跡⑤から同様の瓦器杯が報告されているだけで、古照地域と同様に限られた地域からしか出土していない。このことは、これら瓦器杯・皿が一時的・一過的なものであり、県内でも地域色をもつ瓦器として捉えられる。この八町遺跡は今治平野の中でも和泉型瓦器杯の出土が多く、また、古照地域も道後平野の中で和泉型瓦器杯の出土が多い点で一致している。

これら瓦器杯・皿は在地的生産である可能性が高く、伊予型の瓦器として捉えたい。

この瓦器杯・皿の初現や生産背景などについては、資料不足のため明らかにすることは出来ない。現段階では、道後平野における和泉型瓦器杯の隆盛時期及び衰退時期を考慮して、12世紀後半から14世紀前半と仮定しておきたい。

G4のI214（第196図）が和泉型瓦器杯のIV-4期とするならば、当該期の新資料として注目できる。

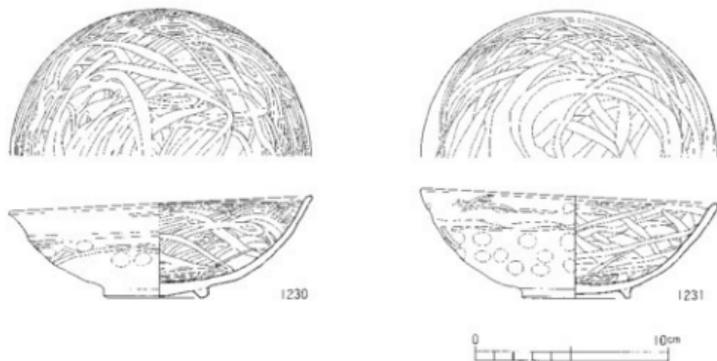
次に、輪高台の瓦器杯について検討してみたい。古照地域の遺跡でなく、古照遺跡の南東方約4.2km、小野川左岸にある東山（独立丘陵）に営まれた東山郷が森8号墳石室⑥内から、出土している瓦器杯（第198図）である。この瓦器杯は、石室の二次的開口時に置かれたもの

と思われ、以前から和泉型Ⅱ期として指摘されている節。

1230には約4～5mm前後の幅広の磨きが、見込み部には緻密に、体部内面は見込み部から口縁にかけて斜め方向に磨きを施して更に横方向の磨きが見込み部と体部との境界が見られない程加えられている。外面の磨きは上半分に施され、口縁部周辺の突出する部分のみに磨きを施している。口径15.3cm、器高5.4cmを測り、黒灰色を呈している。断面四角形の高台が貼り付けられている。

1231の瓦器碗にも同様の磨きが施されている。口径15.8cm、器高5cmを測り、灰色を呈し、口縁端部に炭素の付着が少し見られる程度である。

これら2点についていずれも内面の磨きが緻密に施されている点では和泉型Ⅰ期と想定されるが、法量的にはⅡ期の範疇に入る²⁸。和泉型瓦器碗として編年されている資料とに差異が見られる。内面の緻密な磨き方法は10次の黒色土器碗（第191図、1164）と同様の系統に捉えることができるのではないかと考えられるが断定はできず、資料の増加を待ちたい。



第198図 東山藪が森8号墳出土遺物実測図

7B出土瓦器碗の胎土分析を行った（VII-8参照）。結果、在地上師器の領域に入る瓦器碗が存在していることが解った。又、手づくね土師器についても同様の結果であった。注目すべき結果である。

以上、古泉地域を中心にした各遺跡から出土した遺物によって、若干の考察を試みてみた。問題点は多々あるが、古代から中世にかけての土器研究が今後の資料の増加によって明らかになされるものとする。

〈古照地域について〉

道後平野における古照地域の歴史的な位置付け並びに性格について、出土遺物も含めて多少なりとも考えてみたい。

古照地域は、7Aの「て」の字皿や7Bの畿内系技法の手づくね土師器の出土、7Aと松環古照遺跡から桶形型瓦器碗の出土、在地産の瓦器の出土、平野内でも和泉型瓦器の出土量が多いことなどから、道後平野の中でも畿内と関係が深い地域であることは確かであろう。ともすれば、道後平野の中でも畿内との玄関口として古照地域を位置付けても可能ではないだろうか。

越州窯青磁の出土について県内では、現在、今治平野の八町遺跡とG4の2カ所から報告されているのみである。今後は遺跡数が増える可能性もあるが、八町遺跡は伊予国府と関連する遺跡として注目されている。古照地域も、同様に何がしか特別な地域かも知れない。

以下、いくつかの事例などを列記し、今後の研究課題としたい。

1. 古照地域は古代の温泉郡に含まれている。『和名抄』によれば、温泉郡には味酒・井上・桑原・立花・埴生の5郷が記されている（現在、温泉郡尚関連遺構は道後平野の中で確認されていない）。
2. 大峰ヶ台丘陵東裾部の親和園前遺跡から複弁蓮華軒丸瓦が出土し、古代寺院の淨魔寺の存在が指摘されている³²⁾。
3. 古照地域の西方約1kmの北斎院遺跡³³⁾からは、8世紀代の須恵器と土師器の出土がみられ、その周辺からも出土している³⁴⁾。
4. 天平19年(747)、和氣郡・温泉郡・浮穴郡などに法隆寺の庄が存在していた記述がある³⁵⁾。
5. 古照地域の北東部に温泉郡の味酒郷が存在している。この味酒郷には、保元3年(1158)、石清水八幡宮護国寺が荘園領主となる荘園が存在していた記述がある³⁶⁾。
6. 古照地域の西方には、永暦2年(1161)～応永5年(1398)にかけて、荘園領主に日吉神社・妙法院、在地領主に鶴岡八幡宮からなる齋院勅旨田の存在が記載されている³⁷⁾。
7. 大峰ヶ台丘陵南裾部には、鎌倉時代初期に建てられた大宝寺がある。
8. 明治初期は、古照ではなく古寺の字名であった。

今回、各遺跡から出土した遺物の掲載に当たっては、未報告資料もあり、調査担当者から快く了承して頂いたことに深く感謝します。

[註]

- (1) 栗田正芳・河野史知：「古瀬遺跡 8 次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報 V』(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1993
- (2) 栗田正芳・河野史知：「古瀬遺跡 9 次調査地 前掲註(1)」
- (3) 栗田正芳・河野史知他：「古瀬遺跡—第 6 次調査—」松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1993
- (4) 中野良一：「愛媛県における古代末から中世の土器様相」『中近世土器の基礎研究 IV』、1988
- (5) 尾上 実：「南河内の瓦器概観」『藤沢一夫先生古希記念古文化論叢』、1983
- (6) 松村 淳・山本健一：「古瀬ゴウラ遺跡 4 次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報 IV』(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1992
- (7) 「一般国道196号松山環状線埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ—松環古瀬遺跡—」(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター、1993
- (8) 前掲註(5)
- (9) 前掲註(5)
- 00 梅木謙一・森本 潔：「注町遺跡」『朝美遺跡・注町遺跡』(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1992
- 01 前掲註(1)
- 02 前掲註(3)
- 03 森田 勉・横田賢次郎：「人字塚出土の輸入中国陶磁器について—型式分類と編年を中心として—」『九州歴史資料館研究論集 4』、1978
- 04 前掲註(1)
- 05 前掲註(4)
- 06 西尾幸則・山本健一他：「来住院寺18次調査地」前掲註(1)文獻
- 07 森島康雄：「袋内産瓦器概観の併行関係と推年代」『人和の中世土器 II—大和型瓦器概観とその周辺』、1992
- 08 上田 真・水木完児：『南江戸園貝遺跡』松山市教育委員会松山市立埋蔵文化財センター、1991
- 09 前掲註(4)
- 10 森 隆：「中世土器の生産にみる地域型の提唱と工人集団の承継について—西日本の土器概観生産を中心とした—」『中近世土器の基礎研究 VII』、1992
- 11 栗田茂敏：「石井幼稚園遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報 I』松山市教育委員会、1987
- 12 松村 淳：「岸井坂遺跡」『和氣・瀬江の遺跡』(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、1993
- 13 前掲註(4)
- 14 前掲註(4)
- 15 「八町遺跡」『一般国道196号今治道路埋蔵文化財発掘調査報告書』(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター、1989
- 16 「東山塚が森古墳群発掘調査報告書」松山市教育委員会、1981
- 17 崎本久和：「瓦器概観の分布」『中世土器研究序論』、1992
- 18 前掲註(5)
- 19 前掲註(6)
- 20 前掲註(7)
- 21 北高院遺跡は、昭和50年(1975)に松山市教育委員会において調査された(未報告)遺跡である。

◎栗田茂敏・大森一成：「開産所権現山遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報 Ⅲ』松山市教育委員会松山市立埋蔵文化財センター、1991

◎法隆寺の庄についての記述は『法隆寺縁起并流記資料帳』に記載されており、出典は『松山市史料集第13巻』松山市史料集編集委員会（1988）による。

◎『愛媛県史 古代Ⅱ・中世Ⅰ』愛媛県史編さん委員会、1984

◎前掲註30

【参考文献】

- ＊『愛媛県史—原始・古代Ⅰ』愛媛県史編さん委員会、1982
- ＊『松山市史料集 第13巻 年表・近世Ⅶ・近現代Ⅴ—』松山市史料集編集委員会、1988
- ＊『松山市史—第1巻—』松山市史編集委員会、1992
- ＊『松山の歴史』松山市史編集委員会、1989
- ＊『古文化叢書 第14集』九州古文化研究会、1984
- ＊『畿内産瓦器と共存した在地の土器の検討』『第4回 四国中近世土器研究会資料』、1992
- ＊亀井明徳：『日本貿易陶磁史の研究』、1986
- ＊『福岡城址—内堀外壁石積み調査—福岡市高速鉄道関係埋蔵文化財調査報告Ⅲ』福岡市教育委員会、1983
- ＊土橋理子：『日本出土の古代中国陶磁』『貿易陶磁—奈良・平安の中国陶磁—』榎原考古学研究所、1993
- ＊橋本久和：『中世土器研究序論』、1992
- ＊橋本久和：『畿内産瓦器の分布からみた中世の流通』『中近世土器の基礎研究Ⅱ』、1986
- ＊尾上 実：『大阪南部の中世土器—和泉型瓦器統一』『中近世土器の基礎研究』、1985
- ＊森 隆：『西日本の黒色土器生産』『考古学研究 146・147・148』、1990
- ＊森 隆：『土器碗の生産と流通』『中近世土器の基礎研究Ⅸ』、1993
- ＊百瀬正恒・橋本久和：『中世平安家の土器標榜と各地への展開』『考古学ジャーナル No.299』、1988
- ※ 脱稿後、平成6年2月19日、松山城山の西側に所在する若草町遺跡2次調査の現地説明会が(財)愛媛県埋蔵文化財調査センターによって行なわれた。当日、陳列された出土遺物の中に、12世紀代と思われる古備系土師器碗が1点あった。古備系土師器碗の出土が古備周辺のみに限定されるものでない訳であるが、出土数は平野内で未だ数える程度である。今後、平野内の東部域でも出土する可能性がある。

表1. A地区出土遺物観察表(1)

遺物 No	器種	口径	器高	器径	成形・調整等の特徴(上:内面, 下:外面)			色調	上:内面 下:外面	出土地	備考	発掘 図版 No	整理 No
					口縁部	胴部	底部						
1	白陶 瓶		(1.3)	(5.8)	／	海狗 無海	海狗 無海, 湖山台	灰白色(2.5Y 8/1)	*	SK-5		11 13	111
2	土師器 杯	10.6	4.0	5.6	ヨコナテ	ヨコナテ	ナテ 湖転糸切り, 板圧痕	褐色(5Y R 7/6) 赤褐色(5Y R 8/3)	*	SK-7		14 13	2
3	"	10.3	5.6	6.7	"	"	ナテ 湖転糸切り	灰白色(2.5Y 7/1)~8/1)	*	SK-8		16 13	1
4	土師器 土罐		(3.0)		／	7条の深目 ヨコナテ	ナテ 本家型	赤褐色(10R 3/1) 赤灰(10R 5/1)	*	SK-10		19 13	387
5	土師器 土罐	9.6	1.2	6.3	ヨコナテ	ヨコナテ	ナテ	淡褐色(2.5Y 6/3)	*	SK-15	ての字	25 13	383
6	土師器 土罐	16.0	(3.4)	／	ミガキ	ミガキ	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)	*	SK-16		27 13	77
7	瓦器 祝	14.0	(3.7)	／	ミガキ ナテ	ミガキ ミガキ, 板圧痕	ナテ	青灰色(N 3/)	*			27 13	386
8	土師器 瓶		(3.5)	(6)	／	ナテ	湖転高白, ナテ	に濃い黄褐色(10Y R 7/2) 灰白色(10Y R 8/2)	*	SK-23		33 13	23
9	土師器 瓶		1.5	5.6	ヨコナテ マメツ	ヨコナテ	ナテ 湖転糸切り	褐色(5Y R 7/6)	*			33 13	9
10	"	8.0	1.7	5.4	ヨコナテ	"	ナテ 湖転糸切り	灰白色(10Y R 7/1)	*			33 13	149
11	"	9.8	1.5	6.6	"	"	ナテ 湖転糸切り, 板圧痕	赤褐色(10Y R 8/3) に濃い黄褐色(7.5Y 7/4)	*			33 13	103
12	土師器 土罐	27.0	(5.3)	／	"	"	ナテ	に濃い黄褐色(10Y R 6/4) 赤褐色(10Y R 6/3)	*			33 13	105
13	土師器 杯		(1.2)	6.6	／	"	ナテ 湖転糸切り	暗褐色(7.5Y R 7/7)	*	SK-24		36	324
14	"	／	(1.2)	(4.4)	／	"	ヨコナテ 湖転糸切り, 湖転高白	青灰色(5P 5 7/1)	*	SK-26		37 13	75
15	土師器 瓶	16.8	(2.7)	／	ヨコナテ	"	ナテ	灰白色(10Y R 7/1)	*	SK-29		41 13	384
16	"	13.0	(3)	／	マメツ	マメツ	ナテ	赤褐色(10Y R 6/3) 赤褐色(2.5Y 7/2)	*			41 13	69
17	"	／	(1.7)	(7.4)	／	ナテ	ヨコナテ 湖転糸切り, 湖転高白	灰白色(2.5Y 8/1)	*			41 13	109
18	"	／	(1.4)	(3.6)	／	ナテ	ヨコナテ 湖転糸切り, 湖転高白	灰白色(2.5Y 8/2)	*			41 13	68
19	瓦器 瓶	14.0	(4.4)	／	ヨコナテ	マメツ 湖転高白	ナテ	緑灰色(N 3/)	*			41 13	382
20	土師器 土罐	7.6	1.1	4.6	ヨコナテ	ナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)	*		ての字	41	107
21	土師器 土罐		(3.5)	／	／	6条の深目 ナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 8/1)	*			41 13	389
22	土師器 瓶		(1.8)	(6.4)	／	"	ナテ 湖転糸切り, 湖転高白	灰白色(2.5Y 8/2) 赤褐色(2.5Y 8/1)	*	SK-34		44 13	385
23	土師器 土罐	25.8	(3.5)	／	ヨコナテ	ナテ	ナテ	黄褐色(10Y R 5/7)	*	SK-36		46 13	390
24	磁器 碗	4.5	(4.8)	／	2条線 3条線	地物 蓮花文	地物 蓮花文	青灰色(5P 5 7/1)	*	SD-1		49 13	321
25	"	／	(3.2)	(3.0)	／	地物 雲形格子目文	地物 高内月輪珠	灰白色(N 4/)	*			49 13	328
26	"	／	(4.0)	(4.6)	／	地物 雲文	地物 灰白月輪珠	灰白色(5Y 8/1)	*			49 14	337
27	"	／	(1.8)	(4.4)	／	地物 1条線	地物 灰白月輪珠, 砂目線	暗褐色(7.5Y 6/1)	*			49 14	332
28	"	／	(5.1)	(7.0)	／	ヨコナテ マメツ	湖山内輪飾, 赤台内輪飾	に濃い黄褐色(10Y 3 7/3) 暗褐色(10Y 7/1)	*			49 14	347
29	"	／	(3.3)	(7.0)	／	ヨコナテ 地物	ナテ 湖山内輪飾	灰白色(7.5Y 8/1) 赤褐色(7.5Y 6/1)	*			49 14	344
30	磁器 土罐	10.0	(1.8)	／	地物	四方模文 蓮花文	地物	灰白色(5Y 8/1)	*			49 14	345
31	磁器 瓶	10.2	2.4	(6.2)	地物	蓮し小文 蓮花文	蓮し小文 高内月輪珠, 湖山内輪飾	灰白色(N 8/)	*		湖山内輪飾	49 14	331
32	"	4.9	2.6	(3.8)	地物 マメツ	地物 マメツ	地物 マメツ	暗褐色(7.5Y 8/1)	*			49 14	323
33	"	12.0	(2.7)	／	／	二重の蓮し小文 地物	地物	灰白色(N 4/)	*			49 14	341
34	"	／	(3.3)	(6.6)	／	地物	高内月輪珠, 湖山内輪飾	灰白色(2.5Y 8/1)	*			49 14	327

表2. A地区出土遺物観察表(2)

遺物 No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上:内面, 下:外面)		色 調	上:内面 下:外面	出土地	備考	発掘 年度	整理 No.
					口 頸 部	体 部						
35	磁 器	—	(2.1)	(7.0)	—	輪飾	灰白色(2.5GY 8/1)	—	5D-1	—	49	332
						＊	＊	＊	＊	＊	14	
36	＊	—	(1.3)	(1.3)	—	輪飾 葉花文	灰白色(N 8 /)	—	＊	—	49	334
						＊	＊	＊	＊	＊	14	
37	磁 器	—	(1.9)	(5.0)	加物	—	灰白色(N 8 /)	—	＊	—	49	339
					横出 横出華文	—	＊ (2.5GY 8/1)	—	＊	—	13	
38	磁 器	6.0	(3.6)	—	底面茶色 輪飾	文字 蓮花文	灰白色(N 8 /)	—	＊	—	59	333
					＊	＊	陶褐色(10GY 8/1)	—	＊	—	14	
39	陶 器	—	(2.9)	(4.8)	—	—	にぶい黄褐色(10Y R 7/3)	—	＊	—	50	336
					＊	＊	＊	—	＊	—	13	
40	＊	—	(2.6)	(4.8)	—	—	灰オレンジ色(5Y 6/2)	—	＊	—	50	336
					＊	＊	＊	—	＊	—	—	
41	＊	—	(1.4)	(5.0)	—	一筋無飾	灰白色(5Y 7/2)	—	＊	—	50	343
					＊	＊	＊	—	＊	—	13	
42	陶 器	4.6	3.2	4.6	ヨコナテ	ヨコナテ	にぶい赤褐色(2.5Y R 5/3)	—	＊	—	50	335
					＊	ナテ	＊ (3Y R 5/3)	—	＊	—	13	
43	陶 器	—	(4.7)	4.4	輪飾	加物	暗ナリアツ色(5Y 4/4)	—	＊	—	50	340
					＊	＊	＊	—	＊	—	13	
44	陶 器	—	(4.9)	—	ヨコナテ	1層約10本の埋白 ヨコナテ	灰褐色(5Y 3/3)	—	＊	—	50	347
					＊	＊	灰褐色(2.5Y 4/2)	—	＊	—	13	
45	＊	—	(5.3)	—	＊	12本の横片 ヨコナテ	灰白色(7.5R 5/2)	—	＊	—	50	346
					＊	＊	＊ (7.5R 5/1)	—	＊	—	13	
46	陶 器	18.8	(4.5)	—	輪飾	＊	灰白色(10Y 7/2)	—	＊	—	50	330
					＊	＊	＊	—	＊	—	13	
47	土師器	12.2	3.1	3.1	ヨコナテ	ヨコナテ	灰白色(10Y R 8/1)	—	第V層	—	35	244
					＊	＊	＊	—	＊	—	14	
49	＊	—	(1.5)	7.2	—	＊	陶褐色(10Y R 3/1)	—	第VI層	—	57	35
					＊	＊	淡灰色(2.5Y 5/3)	—	＊	—	—	
50	土師器	—	(1.7)	(6.2)	—	マノツ	灰白色(10Y R 8/1)	—	＊	—	57	31
					＊	＊	＊	—	＊	—	—	
51	土師器	8.6	(1.8)	6.0	ヨコナテ	ヨコナテ	灰白色(10Y 8/1)	—	＊	—	57	318
					＊	＊	＊ (3Y 8/2)	—	＊	—	—	
52	土師器	—	(2.3)	6.2	—	＊	灰白色(10Y R 8/1)	—	第VI-VII層	—	57	30
					＊	＊	＊	—	＊	—	14	
53	＊	—	29.6	(4.5)	ヨコナテ	＊	灰白色(N 7 /)	—	第VI層	—	37	217
					＊	＊	＊	—	＊	—	14	
54	土師器	14.6	5.7	(6.4)	＊	マノツ	灰白色(7.5Y 8/2)	—	第VI層	—	58	78
					＊	＊	＊	—	＊	—	15	
55	＊	—	18.4	(3.8)	—	ヨコナテ	灰白色(7.5Y 8/1)	—	＊	—	58	34
					＊	＊	＊	—	＊	—	15	
56	＊	—	17.6	3.6	＊	マノツ	灰白色(2.5Y 8/2)	—	＊	—	58	177
					＊	＊	＊ (7.5Y R 8/2)	—	＊	—	—	
57	＊	—	15.8	(2.3)	ヨコナテ	ヨコナテ	灰白色(2.5Y 8/1)	—	＊	—	58	65
					＊	＊	＊	—	＊	—	—	
58	＊	—	17.5	(2.1)	＊	ミガキ	灰白色(2.5Y 8/1)	—	＊	—	58	313
					＊	＊	＊	—	＊	—	—	
59	＊	—	14.8	(2.2)	＊	ヨコナテ	灰白色(7.5Y 8/2)	—	＊	—	58	126
					＊	＊	淡灰色(2.5Y 8/3)	—	＊	—	—	
60	＊	—	15.4	(4.2)	＊	マノツ	陶褐色(10Y R 4/1)	—	＊	—	58	29
					＊	ヨコナテ	灰白色(10Y R 8/2)	—	＊	—	15	
61	＊	—	15.0	(2.2)	＊	＊	灰白色(2.5Y 8/2)	—	＊	—	58	46
					＊	＊	＊	—	＊	—	—	
62	＊	—	18.4	(4.4)	マノツ	マノツ	灰白色(10Y R 8/1)	—	＊	—	58	237
					＊	＊	＊	—	＊	—	15	
63	＊	—	17.4	(3.7)	ヨコナテ	ヨコナテ	淡褐色(7.5Y R 5/2)	—	＊	—	58	355
					＊	マノツ	灰白色(7.5Y R 8/2)	—	＊	—	—	
64	＊	—	13.8	(3.4)	＊	ナテ	灰白色(7.5Y R 8/2)	—	＊	—	58	360
					＊	ヨコナテ	＊	—	＊	—	15	
65	＊	—	13.6	(3.4)	＊	マノツ	灰白色(3.5Y 8/1)	—	＊	—	58	215
					＊	＊	＊ (2.5Y 8/2)	—	＊	—	—	
66	＊	—	12.8	(2.5)	マノツ	マノツ	灰白色(7.5Y 8/1)	—	＊	—	58	377
					＊	＊	＊	—	＊	—	15	
67	＊	—	12.8	(2.5)	＊	＊	灰白色(10Y R 8/2)	—	＊	—	58	361
					＊	＊	＊	—	＊	—	—	
68	＊	—	11.8	(2.2)	ヨコナテ	ヨコナテ	陶褐色(7.5Y R 7/2)	—	＊	—	58	375
					＊	＊	＊	—	＊	—	15	
69	＊	—	12.0	(2.8)	＊	＊	淡黄褐色(7.5Y R 4/3)	—	＊	—	58	367
					＊	＊	＊	—	＊	—	15	

表3. A地区出土遺物観察表(3)

遺物 No.	器 種	口径	器 高	底 径	成形・調整等の特徴(上:内面, 下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	出土 地	備 考	標記 図録 No.	数量 No.
					口 縁	底 縁	底 部						
70	土師器 甕	14.0	(3.4)	✓	ココナテ *	ココナテ *	✓	灰白色(2.5Y 8/1) * (2.5Y 8/2)		新田層		58	170
71	*	12.8	(3.2)	✓	*	ミガキ *	✓	灰白色(2.5Y 8/2) *		*		58	365
72	*	17.0	(2.3)	✓	マメツ *	マメツ *	✓	灰黄色(10Y R 5/2) 灰白色(10Y R 6/1)		*		59	212
73	*	15.0	(3.4)	✓	*	*	✓	にょい黄棕色(10.5 R 6/3)		*		99	260
74	*	14.0	(1.7)	✓	ココナテ *	ミガキ *	✓	灰白色(5Y R 5/1) 黄褐色(7.5Y R 7/1)		*		59	263
75	*	16.0	(2.7)	✓	マメツ *	マメツ *	✓	灰白色(10Y R 7/1) * (10Y R 8/1)		*		59	199
76	*	17.8	(3.2)	✓	ミガキ ココナテ *	ココナテ ミガキ *	✓	灰白色(2.5Y 8/2) * (10Y R 8/1)		*		29	208
77	*	16.0	(2.3)	✓	マメツ *	マメツ *	✓	灰白色(2.5Y 8/1)		*		29	204
78	*	14.0	(3.1)	✓	ココナテ *	ココナテ *	✓	灰白色(2.5Y 8/1)		*		59	266
79	*	16.0	(4.5)	✓	ココナテ *	ミガキ *	✓	灰白色(2.5Y 8/2)		*		59	95
80	*	15.4	(3.2)	✓	*	ココナテ *	✓	灰白色(7.5Y 8/1)		*		59	206
81	*	12.7	(6.4)	✓	ナテ ココナテ *	ナテ ココナテ *	✓	灰白色(2.5Y 8/2)		*		59	37
82	*	12.1	(6.4)	✓	マメツ *	マメツ 器底未切り。*	✓	灰白色(7.5Y 8/1)		*		39	15
83	*	12.5	(8.2)	✓	ナテ ココナテ *	ナテ ココナテ *	✓	灰白色(7.5Y 8/1)		*		39	232
84	*	12.3	(5.6)	✓	マメツ *	マメツ 器底未切り。*	✓	灰白色(2.5Y 8/3)		*		39	243
85	*	11.2	(6.2)	✓	ココナテ *	ナテ 器底未切り。*	✓	灰白色(2.5Y 8/2) 灰黄色(2.5Y 8/3)		*		39	193
86	*	11.6	(6.7)	✓	マメツ ココナテ *	マメツ 器底未切り。*	✓	灰黄色(7.5Y R 4/2) 灰白色(10Y R 7/1)		*		59	346
87	*	11.4	(6.8)	✓	マメツ ココナテ *	マメツ 器底未切り。*	✓	灰白色(2.5Y 8/1) * (2.5Y 7/1)		*		39	17
88	*	11.4	(6.6)	✓	マメツ *	器底未切り。器口縁部 *	✓	灰白色(2.5Y 8/2)		*		60	188
89	*	11.6	(6.2)	✓	ナテ ココナテ *	ナテ 器底未切り。*	✓	灰白色(7.5Y 8/1)		*		60	54
90	*	11.7	(6.0)	✓	ナテ *	ナテ 器底未切り。*	✓	灰白色(7.5Y 8/1)		*		60	86
91	*	11.3	(7.0)	✓	ナテ ミガキ *	ナテ 器底未切り。*	✓	灰白色(5Y 8/2)		*		60	212
92	*	12.1	(5.8)	✓	ナテ マメツ *	ナテ 器底未切り。*	✓	灰白色(10Y R 7/1) にょい黄棕色(10Y R 7/2)		*		60	41
93	*	11.4	(6.8)	✓	ナテ ココナテ *	ナテ 器底未切り。*	✓	灰白色(5Y 8/1) * (5Y 7/1)		*		60	202
94	*	11.9	(7.8)	✓	マメツ ココナテ *	マメツ 器底未切り。*	✓	灰白色(2.5Y 8/1) * (5.5Y 7/1)		*		60	185
95	*	11.6	(5.8)	✓	ナテ ココナテ *	マメツ 器底未切り。*	✓	灰白色(2.5Y 8/2)		*		60	233
96	*	11.3	(5.6)	✓	マメツ ココナテ *	ナテ 器底未切り。*	✓	灰白色(2.5Y 8/1)		*		60	137
97	*	11.9	(6.1)	✓	マメツ *	マメツ 器底未切り。*	✓	灰白色(2.5Y 8/1)		*		60	230
98	*	11.7	(5.8)	✓	ナテ ココナテ *	ナテ 器底未切り。*	✓	灰白色(7.5Y 8/2)		*		60	259
99	*	11.4	(6.2)	✓	マメツ ココナテ *	マメツ 器底未切り。*	✓	灰白色(7.5Y 8/1)		*		60	82
100	*	11.1	(6.0)	✓	マメツ ココナテ *	マメツ 器底未切り。*	✓	灰白色(5Y 8/1)		*		60	58
101	*	12.5	(6.6)	✓	マメツ *	マメツ 器底未切り。*	✓	灰白色(10Y R 7/1) * (10Y R 5/1)		*		61	180
102	*	11.1	(6.0)	✓	マメツ *	マメツ 器底未切り。*	✓	灰白色(2.5Y 8/2)		*		61	20
103	*	11.5	(7.8)	✓	ナテ ココナテ *	ナテ 器底未切り。*	✓	灰黄色(2.5Y 7/2) 灰白色(2.5Y 7/1)		*		61	47

表4. A地区出土遺物観察表(4)

遺物 No	種類	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上:内面, 下:外面)		色調	上:内面 下:外面	出土地	備考	検出 位置	整理 No.
					口縁部	体部						
101	土器類	✓	(1.3)	(7.0)	✓	マメツ	マメツ	灰白色(7.5Y R 6/1)	✓	63	56	
105	✓	(2.1)	(5.8)	✓	ココナテ	ナテ	灰白色(7.5Y R 6/2)	✓	61	161		
106	✓	(1.6)	(6.6)	✓	ココナテ	ハナ目、ミナキ	灰白色(7.5Y R 7/2)	✓	61	231		
107	✓	(1.1)	(6.8)	✓	ココナテ	ハナ目、ミナキ	灰白色(2.5Y R 7/2)	✓	61	239		
108	✓	(1.1)	(6.6)	✓	ココナテ	ハナ目、ミナキ	灰白色(2.5Y R 7/1)	✓	61	52		
109	✓	(2.2)	(6.6)	✓	ナテ	ナテ	灰白色(7.5Y R 5/2)	✓	61	207		
110	✓	(1.0)	(7.2)	✓	ココナテ	マメツ	灰白色(2.5Y 7/1)	✓	61	212		
111	✓	(3.0)	(6.4)	✓	マメツ	ナテ	灰白色(10Y R 6/1)	✓	61	97		
112	✓	(1.6)	(6.2)	✓	ココナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 7/1)	✓	61	96		
113	✓	(2.4)	(7.0)	✓	マメツ	マメツ	灰白色(2.5Y R 7/2)	✓	61	249		
114	✓	(2.8)	(7.0)	✓	ナテ	ナテ	灰白色(2.5Y R 7/2)	✓	61	19		
115	✓	(2.0)	(6.8)	✓	ココナテ	ココナテ	灰白色(10Y R 6/1)	✓	61	215		
116	✓	(1.9)	(6.4)	✓	マメツ	マメツ	灰白色(10Y R 6/2)	✓	61	113		
117	✓	(1.8)	(6.2)	✓	ココナテ	ココナテ	灰白色(2.5Y R 7/2)	✓	61	61		
118	✓	(3.6)	(7.0)	✓	ココナテ	ココナテ	灰白色(10Y R 6/1)	✓	62	318		
119	✓	(1.4)	(6.0)	✓	マメツ	マメツ	灰白色(2.5Y R 7/1)	✓	62	37		
120	✓	(1.3)	(5.6)	✓	マメツ	マメツ	灰白色(2.5Y 7/1)	✓	62	39		
121	✓	(1.3)	(6.2)	✓	ココナテ	ココナテ	灰白色(N 4/1)	✓	62	43		
122	✓	(3.2)	(6.8)	✓	マメツ	マメツ	灰白色(10Y R 6/2)	✓	62	98		
123	✓	(2.1)	(5.3)	✓	ココナテ	ココナテ	灰白色(10Y R 6/1)	✓	62	250		
124	✓	(1.4)	(6.6)	✓	マメツ	マメツ	灰白色(3Y R 7/2)	✓	62	70		
125	✓	(1.3)	(5.8)	✓	ココナテ	ココナテ	灰白色(3Y R 7/2)	✓	62	66		
126	✓	(2.7)	(6.6)	✓	マメツ	マメツ	灰白色(10Y R 6/2)	✓	62	48		
127	✓	(2.5)	(5.8)	✓	マメツ	マメツ	灰白色(7.5Y R 6/1)	✓	62	199		
128	✓	(1.7)	(8.2)	✓	ココナテ	ココナテ	灰白色(7.5Y R 7/1)	✓	62	100		
129	✓	(2.6)	(6.4)	✓	ココナテ	ココナテ	灰白色(10Y R 3/1)	✓	62	22		
130	✓	(1.9)	(5.6)	✓	ココナテ	ココナテ	灰白色(2.5Y R 7/2)	✓	62	225		
131	✓	(3.1)	(7.2)	✓	ココナテ	ココナテ	灰白色(7.5Y R 7/2)	✓	62	204		
132	✓	(1.4)	(3.6)	✓	ココナテ	ココナテ	灰白色(2.5Y R 7/2)	✓	62	35		
133	✓	(1.5)	(6.6)	✓	ココナテ	ココナテ	灰白色(2.5Y R 7/1)	✓	62	316		
134	✓	(2.1)	(6.4)	✓	ココナテ	ココナテ	灰白色(5Y 7/2)	✓	63	4		
135	✓	(1.9)	(5.2)	✓	ココナテ	ココナテ	灰白色(5Y 7/2)	✓	62	12		
136	✓	(1.5)	(7.0)	✓	ココナテ	ココナテ	灰白色(5Y R 7/2)	✓	62	167		
137	✓	(2.5)	(9.0)	✓	ココナテ	ココナテ	灰白色(10Y R 6/2)	✓	63	209		

表5. A地区出土遺物観察表(5)

遺物 No.	器 種	口径	器 高	底 径	成形・装飾等の特徴(上:内面, 下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	出土地	備 考	探出 位置	層位 No.
					口 縁 部	体 部	底 部						
128	土師器 杯	11.0	3.4	9.0	ナテ ヨコナテ	ナテ ヨコナテ	ナテ ヨコナテ	灰白色(2.5Y 7/1) *		赤田溝		63	333
129	上野器 杯	15.0	3.4	9.0	ワメツ ヨコナテ	ナテ ヨコナテ	ワメツ *	黄褐色(7.5Y R 7/2) 黄灰色(7.5Y R 6/1)		*		63	16
140	*	14.4	3.5	9.2	ワメツ ヨコナテ	ワメツ ヨコナテ	ワメツ ヨコナテ	淡灰色(7.5Y R 8/4)		*		63	25
141	*	14.0	3.4	8.1	ナテ ヨコナテ	ナテ ヨコナテ	ナテ ワメツ	灰白色(10Y R 8/1)		*		63	176
152	*	15.0	(2.4)	/	*	*	*	灰白色(2.5Y 8/2) *(2.5Y 8/1)				63	122
143	*	16.8	(3.3)	/	*	*	*	灰白色(10Y R 8/2) *(10Y R 8/1)				63	179
144	*	12.4	(2.6)	/	*	*	*	灰白色(10Y R 8/1) にぶい褐色(3.5Y R 7/4)				63	8
145	*	10.0	(1.4)	4.0	ナテ *	ナテ *, 指物痕	*	灰白色(7.5Y R 8/2)		*	手づくね	63	239
146	*	/	(2.4)	5.6	ヨコナテ *	ナテ *	ナテ *	にぶい黄褐色(10Y 3/7/2)				63	83
147	*	/	(1.0)	7.2	*	ナテ *	ナテ *	にぶい黄褐色(10Y R 7/2)				63	84
148	*	/	(1.3)	6.4	*	ナテ *	ナテ *	灰白色(10Y R 8/1) *(2.5Y 8/2)				63	139
149	*	/	(0.5)	6.4	ナテ ヨコナテ	ナテ ヨコナテ	ナテ *	灰白色(5Y 8/2)				63	80
130	上野器 皿	10.2	2.0	8.0	ヨコナテ *	*	ナテ *	淡灰色(10Y R 8/3)		*		61	18
151	*	10.0	1.6	6.6	ワメツ ヨコナテ	ワメツ ヨコナテ	ワメツ ヨコナテ	淡黄褐色(7.5Y R 8/3) 淡灰色(5Y R 8/2)				61	203
152	*	9.6	1.4	6.5	*	*	ナテ *	にぶい褐色(7.5Y R 6/1) にぶい黄褐色(10Y R 8/2)				64	41
153	*	8.2	1.4	6.6	ナテ ヨコナテ	ナテ ヨコナテ	ナテ *	にぶい黄褐色(10Y R 8/3)				64	201
154	*	9.2	1.5	6.8	*	*	ナテ *	淡灰色(7.5Y R 8/3) *(10Y R 4/3)				64	174
155	*	4.6	1.9	6.0	*	*	ナテ *	灰白色(2.5Y 7/1) にぶい黄褐色(10Y R 7/2)				64	210
156	*	8.6	1.3	6.8	*	*	ナテ *	にぶい褐色(7.5Y R 7/4)				64	371
157	*	11.1	6.0	ワメツ *	ワメツ *	ワメツ *	灰白色(10Y R 8/2) *(10Y 7/1)					64	45
158	*	9.8	(1.9)	4.8	ヨコナテ *	ヨコナテ *	ナテ *	灰白色(2.5Y 6/1)				64	705
159	*	7.4	1.4	6.0	ワメツ ヨコナテ	ワメツ ヨコナテ	ワメツ *	にぶい褐色(7.5Y R 7/4)				64	140
160	*	7.8	1.33	4.6	*	*	ナテ *	にぶい褐色(7.5Y R 7/5)				61	311
161	*	8.4	1.1	5.8	ナテ ナテ	ナテ ヨコナテ	ナテ *	灰白色(10Y R 8/1)				61	373
162	*	9.8	1.4	7.4	ヨコナテ *	*	ナテ *	灰白色(2.5Y 8/2)				64	372
163	*	6.8	1.3	4.0	*	*	ナテ *	淡黄褐色(7.5Y R 8/4)				64	376
164	*	8.0	1.4	4.2	*	*	ナテ *	褐色(5Y R 7/6)				64	245
165	*	8.8	1.3	7.2	ヨコナテ *	ヨコナテ *	ナテ *	にぶい褐色(2.5Y R 6/3) 灰白色(7.5Y 8/1)				61	379
166	*	8.8	1.35	6.2	*	ナテ ヨコナテ	ナテ *	灰白色(10Y R 8/2)			手づくね	61	370
167	*	9.0	1.1	7.4	*	ナテ *	ナテ *	淡灰色(5Y R 8/4)				64	10
168	*	7.9	1.3	3.2	*	*	ナテ *	にぶい黄褐色(10Y 3/7/3) 淡黄褐色(10Y R 8/3)				64	351
169	*	8.8	1.8	6.0	*	*	ナテ *	淡灰色(2.5Y 7/2) 灰白色(2.5Y 6/1)				64	378
170	*	10.2	1.8	8.4	*	*	ナテ *	灰白色(7.5Y R 8/2) *(10Y R 7/1)				64	186
171	*	9.0	1.6	6.4	ワメツ *	ヨコナテ *	ワメツ *	淡灰色(2.5Y 5/1) 黄褐色(10Y R 6/1)				64	190

表6. A地区出土遺物観察表(6)

遺物 No.	種類	口径	器高	底径	成形・調査等の特徴(上:内面, 下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	出土地	備考	発掘 図版 No.
					口 頸 部	体 部	底 部					
172	十輪器	8.0	1.5	5.8	マメツ #	マメツ #	マメツ #	灰白色(10Y R 7/4) #		新田層		64 253
173	#	7.8 (1.2)	/	/	#	#	#	灰白色(2.5Y 7/2) 灰青色(10Y R 6/2)		#		64 168
174	#	11.2	1.1	7.0	ナテ ヨコナテ	ナテ ヨコナテ	ナテ 指環状	灰青色(5 Y R 8/4)		#	ての字	64 16
175	#	10.0	1.4	4.4	ナテ ヨコナテ	ナテ ヨコナテ	ナテ 指環状	灰白色(10Y R 8/1) #		#	#	64 258
176	#	9.0	1.2	6.0	ナテ ヨコナテ	ナテ ヨコナテ	ナテ 指環状	灰白色(7.5Y R 7/2), 浅黄褐色(7.5Y R 8/3) #		#	#	64 7
177	#	9.8 (1.6)	/	/	ナテ ヨコナテ	ナテ ヨコナテ	ナテ 指環状	灰白色(7.5Y 8/1) #		#	#	64 354
178	#	9.4 (1.4)	/	/	ナテ ヨコナテ	ナテ ヨコナテ	ナテ 指環状	淡紫色(2.5Y 8/3) #		#	#	64 363
179	#	4.3 (1.4)	/	/	ナテ ヨコナテ	ナテ ヨコナテ	ナテ 指環状	灰白色(2.5Y 8/1) #		#	#	64 350
180	#	9.6 (1.2)	/	/	ナテ ヨコナテ	ナテ ヨコナテ	ナテ 指環状	淡黄褐色(10Y R 8/3) #		#	#	64 357
181	#	9.0 (1.0)	/	/	ナテ #	ナテ #	ナテ 指環状	淡黄褐色(10Y R 8/3) #		#	#	64 354
182	褐色土器	16.0 (1.3)	/	/	マメツ #	マメツ #	/	灰色(5Y 2/1) 紫褐色(10Y R 7/1)		#	内室	65 254
183	#	13.0 (3.0)	/	/	#	#	/	緑灰色(N 3/) 灰白色(2.5Y 8/2)		#	#	65 121
184	#	(7.5)	/	/	ヨコナテ, 1条流線	ヨコナテ #	/	黒色(7.5Y 2/1) 灰白色(2.5Y 8/2)		#	#	65 6
185	#	(3.8)	(6.8)	/	ナテ ヨコナテ	ナテ ヨコナテ	ナテ 貼付高台	灰青色(2.5Y 7/1) # (2.5Y 8/2)		#	#	62 71
186	#	(1.2)	(6.1)	/	ミガキ ヨコナテ	ミガキ 貼付高台	/	淡紫色(N 3/) 灰白色(2.5Y 6/2)		#	#	63 311
187	#	(1.8)	(6.8)	/	マメツ ヨコナテ	マメツ 貼付高台	/	灰色(5Y 4/1) 灰白色(10Y R 8/1)		#	#	63 178
188	#	(2.6)	(6.1)	/	マメツ #	マメツ 貼付高台	/	紫褐色(2.5Y 3/1) 灰白色(2.5Y 8/2)		#	#	62 247
189	#	(2.2)	(5.8)	/	ミガキ ヨコナテ	ミガキ 貼付高台	/	灰色(N 4/) 灰白色(2.5Y 8/1)		#	#	65 181
190	#	(2.2)	(7.1)	/	マメツ #	マメツ 貼付高台	/	紫褐色(N 3/) 灰白色(10Y R 8/2)		#	#	62 13
191	#	(1.6)	(6.1)	/	/	/	/	紫褐色(N 3/) 灰白色(2.5Y 8/2)		#	#	65 14
192	#	(1.6)	(7.1)	/	ミガキ ヨコナテ	ミガキ 貼付高台	/	オリーブ黒色(5GY 2/1) 灰白色(2.5Y 8/2)		#	#	65 160
193	#	(1.8)	(6.6)	/	マメツ #	マメツ 貼付高台	/	黒色(7.5Y R 2/1) 暗緑灰色(7.5Y R 7/2)		#	#	65 203
194	瓦 瓶	14.0 (2.0)	/	/	ミガキ, 1条流線	/	/	灰白色(N 7/) 灰白(N 4/)		#	#	65 24
195	#	14.6 (2.7)	/	/	マメツ, ミガキ	マメツ, ミガキ	/	灰白色(2.5Y 8/1) 灰白(N 5/)		#	#	65 182
196	#	8.4 (3.8)	/	/	ヨコナテ ミガキ	ミガキ, 指環状	/	緑灰色(10Y R 4/1) 灰色(5Y R 4/1)		#	#	67 341
197	#	15.0 (3.8)	/	/	# ヨコナテ	ミガキ #	/	灰色(N 5/) # (N 4/)		#	#	65 300
198	#	15.0 (3.8)	/	/	マメツ ヨコナテ	マメツ ミガキ, #	/	灰色(N 2/) #		#	#	65 355
199	#	17.2 (2.9)	/	/	ミガキ ヨコナテ	#	/	灰色(N 4/) 灰白色(10Y R 7/1)		#	#	63 314
200	#	15.2 (2.6)	/	/	ミガキ ヨコナテ	#	/	灰白色(10Y R 7/1) # (5Y 7/1)		#	#	66 315
201	#	13.2 (3.2)	/	/	マメツ #	指環状	/	灰白色(5Y 7/1) # (5Y 8/2)		#	#	66 301
202	#	15.0 3.7 (7.3)	/	/	ナテ ヨコナテ, ミガキ	ミガキ #, 指環状	/	灰白色(10Y R 8/1) #		#	#	65 175
203	#	15.0 (3.5)	/	/	ミガキ ヨコナテ	#, #	/	灰白色(7.5Y 8/1) 灰色(N 5/)		#	#	66 308
204	#	14.0 (2.7)	/	/	マメツ ヨコナテ	#	/	黒色(N 2/) #		#	#	66 26
205	#	14.0 (4.0)	/	/	ミガキ ヨコナテ	ミガキ #, 指環状	/	灰白色(N 8/) #		#	#	66 99

表7. A地区出土遺物観察表(7)

遺物 No	種類	口径	器高	底径	成形・修整等の特徴(上:内面 下:外面)			色調	上:内面 下:外面	出土地	備考	検出 図版	整理 No
					口 縁 部	体 部	底 部						
206	瓦 器 片	12.8	(3.6)	/	ヨコナテ #	ミナキ #	和紙灰 #	灰白色(N7/)	#	第3層	#	66	33
207	#	/	(1.4)	(6.0)	/	ナテ ヨコナテ	ナテ 貼付歯白	灰白色(N7/)	#	#	#	66	42
208	#	/	(0.8)	(5.4)	/	ナテ #	ミナキ 貼付歯白	灰色(N4/)	#	#	#	66	256
209	#	/	(1.6)	(3.6)	/	ミナキ ナテ	和紙灰 貼付歯白	灰白色(2.5Y R 7/)	#	#	#	66	204
210	#	/	(1.1)	(5.4)	/	マメツ #	マメツ 貼付歯白	淡赤褐色(2.5Y R 7/4)	#	#	#	66	356
211	#	/	(1.2)	(3.0)	/	#	ナテ 貼付歯白	褐色(N3/)	#	#	#	66	165
212	#	/	(1.4)	(4.3)	/	ナテ 和紙灰	ナテ 貼付歯白	灰色(N4/)	#	#	#	66	40
213	#	/	(0.9)	(4.8)	/	マメツ ナテ	マメツ 貼付歯白	褐色(N3/) 灰白色(N4/)	#	#	#	66	178
214	瓦 器 蓋	5.9	1.3	5.4	ナテ ヨコナテ	ヨコナテ	ナテ 和紙灰	灰色(5Y 4/1)	#	#	#	66	362
215	#	1.4	1.8	5.4	ナテ ヨコナテ	ナテ ヨコナテ	ナテ 和紙灰	黄灰色(5P B 3/1) 緑黄灰色(5P B 3/1)	#	#	#	66	246
216	十 銭 十銭	14.0	(2.4)	/	ナテ ナテ	ナテ #	ナテ #	淡黄褐色(7.5Y R 8/3)	#	#	#	67	151
217	土師器 十銭	32.0	(7.7)	/	ヨコナテ	ヨコナテ	ナテ #	灰褐色(7.5Y R 5/2) 灰色(7.5Y R 2/1)	#	#	#	67	309
218	#	38.4	(11.9)	/	ヨコハケ ナテ	ヨコハケ ナテ	ナテ #	にじみ黄褐色(10Y R 5/3) 灰黄褐色(10Y R 6/2)	#	#	#	67	252
219	#	32.0	(12.5)	/	ヨコハケ ヨコナテ	#	#	にじみ黄褐色(10Y R 4/3) 黒色(10Y R 2/1)	#	#	#	67	329
220	#	30.0	(4.8)	/	#	ナテ	ナテ #	にじみ褐色(7.5Y R 6/3) 土褐色(7.5Y R 3/1)	#	#	#	67	325
221	#	21.4	(15.2)	/	#	ヨコナテ	ナテ #	黄褐色(2.5Y 4/1) 土褐色(2.5Y 3/1)	#	#	#	68	32
222	#	22.0	(4.5)	/	ヨコハケ ヨコナテ	ヨコハケ ナテ	ナテ #	褐色(7.5Y R 4/1) 褐色(7.5Y R 2/1)	#	#	#	68	368
223	瓦 器 筒	30.8	(3.5)	/	マメツ ヨコナテ	#	#	灰白色(N7/) 灰色(N4/)	#	#	#	68	380
224	須恵器 瓶	/	(2.1)	(6.6)	/	ナテ	ナテ 貼付歯白	淡黄褐色(10Y R 6/2)	#	#	#	68	49
225	#	/	(1.5)	(7.8)	/	ヨコナテ	ナテ	暗赤褐色(10R 3/2)	#	#	#	68	351
226	須恵器 皿	/	(0.9)	5.0	/	#	ナテ 和紙灰	灰褐色(10Y R 6/1)	#	#	#	68	352
227	須恵器 鉢	/	(4.2)	15.0	/	#	ナテ 和紙灰	灰白色(7.5Y 8/1)	#	#	#	68	124
228	須恵器 壺	13.4	(3.7)	/	ヨコナテ	#	#	暗赤褐色(5P B 7/1)	#	#	#	68	101
229	瓦 器 筒	4.6	(3.1)	/	筒形	筒形	#	灰白色(7.5Y 7/1)	#	#	#	68	196
230	#	16.2	(2.4)	/	#	#	#	灰白色(2.5Y 8/1)	#	#	#	68	184
231	#	/	(1.4)	(6.2)	/	#	和紙灰	灰白色(10Y 7/)	#	#	#	68	27
232	瓦 器 鉢	36.0	(4.2)	/	マメツ #	マメツ #	#	褐色(7.5Y R 7/1) 褐色(7.5Y R 4/4)	#	下層	表式上層	69	324
233	瓦 器 小壺	/	(4.1)	6.0	/	#	ナテ マメツ	淡黄色(2.5Y 7/3) 淡赤褐色(7.5Y 5/6)	#	#	#	69	236
234	土師器 小壺	3.8	(8.5)	/	ヨコハケ ヨコナテ	ナテ ナテ	ナテ 貼付歯白	棕色(5Y R 6/6) にじみ褐色(5Y R 7/4)	#	#	#	69	326
235	須恵器 白付瓶	/	(4.4)	(8.6)	/	ナテ ヨコナテ	ナテ 貼付歯白	褐色(5Y R 5/1) 灰白色(N6/)	#	#	#	69	241
236	須恵器 瓶	13.0	(4.2)	(5.6)	ヨコナテ #	ナテ #	ナテ 門磁歯白	灰白色(N8/)	#	#	#	69	237

表8. A地区出土渡来銭観察表

遺物 No	銭名	初出年	時代	銭径(mm)	孔径(mm)	上:外縁厚 下:内縁厚 (mm)	重量(g)	出土地	備考	検出 図版	整理 No
48	大 延 通 宝	1017	北宋	24.5	6.3	1.27 0.68	2.69	第3層	順次	66	14

表9. B地区出土遺物観察表(1)

遺物 種別	器種	口徑	高さ	底径	成形・調整等の特徴(上:内面,下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	出土地	備考	検出 年度	整理 地
					口 縁 部	体 部	底 部						
237	土師器 卍	11.8	3.3	7.3	ココナテ *	ココナテ *	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰黄褐色(10Y R 6/2) にふい黄褐色(10Y R 7/3)		S B-1 P1		75	77
238	"	12.1	2.9	6.6	"	"	"	灰白色(2.5Y 8/2)	"	"		75	78
239	"	14.6	3.3	9.4	"	"	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 7/2)	"	"		75	470
240	土師器 卍	7.0	1.5	3.0	"	"	ナテ 回転糸切り、*	灰黄色(2.5Y 8/3)	"	"		75	87
241	"	8.0	1.2	5.4	"	"	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(2.5Y 8/2)	"	"		75	412
242	"	8.8	1.4	6.4	"	"	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(7.5Y 8/2) * (2.5Y 8/1・8/2)	"	"		75	74
243	"	8.6	1.3	6.0	"	"	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) * (2.5Y 8/1)	"	"		75	403
244	土師器 卍	10.0	3.4	4.4	ナメツ ワメツ	ナメツ ワメツ	ナテ ワメツ	灰白色(7.5Y 8/1)、黄褐色(2.5Y 5/1)		S B-1 P2		75	106
245	土師器 卍	12.0	(2.2)	✓	"	"	"	灰白色(7.5Y 8/2) * 黄褐色(7.5Y 8/1)	"	"		75	94
246	"	9.2	3.2	6.0	ココナテ *	ココナテ *	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(7.5Y 8/2)	"	"		75	102
247	土師器 卍	16.0	(4.1)	✓	ワメツ ワメツ	ワメツ ワメツ	ワメツ ワメツ、送付集	にふい褐色(7.5Y R 7/3) * 黄褐色(2.5Y R 3/1)		"		75	107
248	土師器 卍	26.2	(6.0)	✓	ココナテ *	ココナテ *	"	灰色(N 6 /)、地灰色(N 5 /)		S B-1 P3		75	285
249	土師器 卍	6.0	1.1	✓	"	"	ワメツ 板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)		S B-1 P4	手づくね	75	83
250	土師器 卍	10.0	3.5	5.4	ワメツ *	ワメツ *	ワメツ 回転糸切り、*	黄褐色(2.5Y R 7/4)、地灰色(2.5Y 8/1) 地赤褐色(2.5Y R 7/4)		S B-1 P5		75	192
251	土師器 卍	12.0	3.6	7.7	ココナテ *	ココナテ *	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/1)		S B-1 P6		75	28
252	"	13.4	3.7	8.0	"	"	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(10Y 8/1)	"	"		75	9
253	土師器 卍	7.3	1.5	5.0	"	"	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(10Y 2 8/1)	"	"		75	108
254	"	8.0	1.3	✓	"	"	ナテ 板圧痕	灰白色(7.5Y 8/2)	"	"	下づくね	75	378
255	"	8.2	1.2	6.3	ワメツ *	ワメツ *	ワメツ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(7.5Y 8/2)	"	"		75	105
256	"	8.5	1.3	3.2	ココナテ *	ココナテ *	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(2.5Y 8/2) * 黄褐色(2.5Y 6/1)	"	"		75	110
257	土師器 卍	14.0	(4.1)	✓	ワメツ ワメツ	ワメツ ワメツ	板圧痕	灰白色(N 8 /)	"	"		75	103
258	土師器 卍	13.0	(3.2)	✓	ワメツ ワメツ	ワメツ ワメツ	板圧痕	灰色(N 6 /)	"	"		75	339
259	土師器 卍	7.6	1.0	5.0	"	ワコナテ *	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(7.5Y R 4/1) * 褐色(7.5Y 2 7/6)		S A-1 P7		77	401
260	"	9.0	1.6	6.2	"	"	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(2.5Y 8/2)	"	S A-1 P8		77	399
261	"	8.0	1.4	5.0	"	"	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(10Y R 8/2)	"	S A-1 P12		77	405
262	土師器 卍	11.0	(2.6)	✓	ワメツ ワメツ	ワメツ ワメツ	板圧痕	黄褐色(10Y R 1 7/1) * 灰白色(10Y R 8/1)	"	"		77	411
263	土師器 卍	10.7	3.5	5.4	"	ココナテ *	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(10Y R 8/1)	"	"		77	68
264	土師器 卍	9.0	(1.2)	✓	"	"	ナテ 板圧痕	灰白色(10Y R 8/2)	"	"	手づくね	77	409
265	土師器 卍	8.0	1.2	4.8	"	"	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)	"	S A-1 P14		77	136
266	土師器 卍	7.0	(3.3)	✓	"	"	"	灰白色(N 8 /)	"	"		77	924
267	土師器 卍	14.4	(2.6)	✓	ワメツ ワメツ	ワメツ ワメツ	板圧痕	灰色(N 4 /)	"	S A-1 P15		77	394
268	土師器 卍	11.4	3.2	7.2	"	ワコナテ *	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(7.5Y R 8/2) * (10Y R 7/1・8/1)	"	S K-1		75	319
269	"	13.4	3.4	8.0	"	"	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(10Y R 8/2) * (10Y R 8/1)	"	"		75	98
270	"	15.0	(3.2)	✓	ワコナテ *	板圧痕	"	にふい黄褐色(10Y R 7/2) 灰白色(10Y R 7/1)	"	"	手づくね	75	100

表10. B地区出土遺物観察表(2)

遺物 No.	種 類	口 径	高	底 径	成形・調整等の特徴(上:内面, 下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	出土地	備 考	検出 回数	整理 No.
					口 頸 部	作 部	底 部						
271	土師器	6.0	2.4	4.4	マノツ ヨコナテ	マノツ ヨコナテ	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 6/2)		SK-1		79	420
272	"	8.0	1.7	5.0	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/2)		"		79	336
273	"	9.0	(1.5)	／	マノツ ヨコナテ	マノツ ヨコナテ	マノツ 指痕	灰白色(2.5Y 8/2)		"	手づくね	79	99
274	土師器	13.0	3.6	7.2	マノツ	マノツ	マノツ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/1)		SK-2		81	101
275	"	14.8	3.3	8.2	"	"	マノツ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/1)		"		81	6
276	瓦 甕 梅	14.7	(2.3)	／	ヨコナテ	指痕	／	灰色(N 6/) * (N 4/)		"		81	234
277	土師器	12.4	3.7	8.0	"	ヨコナテ	ナテ 回転糸切り	灰白色(5Y R 8/1)、黄褐色(5Y R 7/1) 、黄灰色(5Y R 6/1)		SK-4		83	195
278	土師器	9.0	1.7	6.4	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 6/2)		SK-8		85	315
279	土師器	12.0	3.5	7.6	"	"	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/1) * (2.5Y 7/1)、黄褐色(2.5Y 3/1)		SK-9		86	32
280	"	12.6	4.0	7.3	"	"	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(2.5Y 8/2)、黄褐色(2.5Y 3/1) * (2.5Y 3/1)、*		"		86	47
281	"	12.7	3.6	6.5	"	"	ナテ 回転糸切り、*	均染灰色(7.5Y R 7/2)		"		86	63
282	"	13.6	3.5	7.8	"	"	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(10Y R 8/1)		"		86	323
283	"	15.6	3.7	8.0	"	"	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(2.5Y 8/2)、④灰白色(2.5Y 7/1)		"		86	22
284	"	13.4	3.5	8.2	"	"	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(2.5Y 8/1)		"		86	21
285	"	13.4	3.7	8.1	"	"	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(10Y R 8/1)		"		86	8
286	"	13.6	3.4	7.6	"	"	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(2.5Y 7/1)、灰白色(2.5Y 8/1)		"		86	23
287	"	13.6	3.7	7.8	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/1)		"		86	48
288	"	13.8	3.6	8.0	"	"	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10Y R 8/1)、黒色(10Y R 2/1)		"		87	64
289	"	13.9	3.0	9.8	"	"	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(2.5Y 8/2)		"		87	70
290	"	12.6	3.0	／	"	指痕	ナテ 指痕	灰白色(10Y R 8/1)、黄褐色(7.5Y 3/6/1)		"	手づくね	87	50
291	土師器	7.8	1.4	4.6	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/1)、黄褐色(2.5Y 5/1)		"		87	326
292	"	8.0	1.2	5.7	"	"	ナテ 回転糸切り、板圧痕	均染灰色(7.5Y R 9/1)		"		87	329
293	"	8.2	1.3	7.0	"	"	ナテ 回転糸切り	①均染灰色(10Y R 7/2)、黄褐色(7.5Y 2/3) 灰白色(10Y 3/1)		"		87	95
294	"	8.3	1.3	6.2	"	"	ナテ 回転糸切り	黄褐色(10Y 3/1)、灰白色(10Y R 6/2)		"		87	59
295	"	8.2	1.3	5.5	"	"	ナテ 回転糸切り	均染灰色(7.5Y R 6/1) ②均染灰色(10Y R 7/2)、灰白色(10Y R 7/1)		"		87	33
296	"	8.3	1.3	5.6	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/1) *、③均染灰色(10Y R 6/1)		"		87	40
297	"	8.4	1.4	5.4	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y 8/1)		"		87	95
298	"	8.4	1.2	3.6	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y R 8/2)		"		87	54
299	"	8.6	1.3	5.6	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 7/1)、均染灰色(10Y R 6/1)		"		87	57
300	"	8.6	1.1	3.8	"	"	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)		"		87	38
301	"	8.4	1.5	6.0	"	"	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(10Y 8/1) * (10Y 8/2)、均染灰色(7.5Y R 6/2)		"		87	51
302	"	9.5	1.7	6.0	マノツ	マノツ	マノツ 回転糸切り	灰白色(10Y R 7/1)		"		87	72
303	"	8.8	1.2	6.6	ヨコナテ	ヨコナテ	ナテ 指痕	灰白色(10Y 3/2)、均染灰色(2.5Y R 7/6)		"		87	36
304	瓦 甕 瓶	14.0	3.9	(4.0)	マノツ ヨコナテ	マノツ 指痕	ナテ 板圧痕	灰白色(N 8/)		"	手づくね	87	30

表11. B地区出土遺物観察表(3)

遺物 種別	口 径	高	底径	底径	成形・調整等の特徴(上:内面,下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	出土地	備考	発見 回数	整理 No.
					口 縁 部	体 部	底 部						
303	瓦 瓶	15.0	(3.1)	ノコナテ	ミガキ 物柄筋		灰色(5Y 4/1)		S K - 9			67	330
306	*	18.3	(3.7)	ナテ ヨコナテ	ナテ 指輪痕		灰白色(5Y 8/1)		*			67	318
307	*	12.7	(3.2)	*	ナテ 指輪痕		灰白色(10Y 8/1)		*			67	60
308	土師器 杯	12.0	3.6	8.0	*	ノコナテ	ナテ 指輪痕切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 6/2) * (2.5Y 8/1)、黄褐色(2.5Y 6/1)		S K - 10		93	95
309	*	12.1	3.3	8.0	*	*	ナテ 指輪痕切り、*	灰白色(10Y 8/1)		*		93	81
310	*	12.3	3.6	7.0	*	*	ナテ 指輪痕切り、*	灰白色(2.5Y 8/2)		*		90	322
311	土師器 甕	6.3	1.3	4.0	*	*	ナテ 指輪痕切り	灰青色(2.5Y 6/1)		*		90	337
312	*	7.2	1.3	5.0	*	*	ナテ 指輪痕切り	灰白色(2.5Y 4/2)		*		90	91
313	*	8.1	1.3	3.5	*	*	ナテ 指輪痕切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)		*		90	88
314	*	8.6	1.0	6.4	*	*	ナテ 指輪痕切り、*	灰白色(2.5Y 8/1)		*		90	93
315	*	7.6	1.2	3.0	*	*	ナテ 指輪痕切り、*	灰白色(2.5Y 6/1)		*		90	92
316	豆 瓶	13.2	(3.2)		*	ミガキ 指輪痕		褐色(10Y R 2/1)				90	340
317	土師器 土瓶	30.0	(3.6)		ヨコナテ 板圧痕、横付筋	ヨコナテ 板圧痕、横付筋		灰青色(7.5Y 8/1) 黄褐色(10Y R 3/1)				90	97
318	*	37.0	(11.0)		タナハテ、*	ヨコナテ タナハテ、*	ヨコナテ	灰青色(10Y R 8/1)、黄褐色(10Y R 3/1)				90	119
319	土師器 甕	8.3	1.1	5.8	ヨコナテ	ヨコナテ	ナテ 指輪痕切り、板圧痕	灰白色(10Y 8/1)		S K - 11		92	316
320	土師器 土瓶	80.0	10.9	7.0	*	*	ナテ、底内あり 指輪痕切り、*	灰色(N 7 /)		*		93	487
321	土師器 杯	11.8	3.2	8.0	マメツ ヨコナテ	マメツ ヨコナテ	マメツ 指輪痕切り	灰白色(10Y R 8/1)		S K - 13		94	304
322	*	18.4	3.2	8.0	マメツ ヨコナテ	マメツ ヨコナテ	マメツ 指輪痕切り	灰白色(10Y R 8/2)		*		94	321
323	*	14.0	3.2	8.2	マメツ	マメツ	マメツ 指輪痕切り	灰白色(7.5Y 8/1)		*		94	335
324	*	12.4	(3.3)		ヨコナテ	ヨコナテ 板圧痕		灰白色(10Y 8/3)、黄褐色(10Y R 4/1) * (10Y 8/2)		*	手づくわ	94	327
325	*	10.8	(2.5)		マメツ	マメツ 指輪痕		灰白色(10Y 8/1)		*		94	324
326	土師器 甕	6.2	1.9	4.1	ヨコナテ	ヨコナテ	ナテ 指輪痕切り	灰白色(10Y R 8/2)		*		94	121
327	*	7.8	1.4	5.2	*	*	ナテ 指輪痕切り	洗滌褐色(10Y R 8/3) 灰白色(10Y R 8/2)		*		94	332
328	*	7.8	1.1	4.6	*	*	ナテ 指輪痕切り	灰白色(10Y R 8/1)、黄褐色(10Y R 5/1)		*		94	111
329	*	7.9	1.3	5.8	*	*	ナテ 指輪痕切り	灰白色(10Y R 8/2)		*		94	116
330	*	7.9	1.2	5.6	*	*	ナテ 指輪痕切り	洗滌褐色(2.5Y 8/3)		*		94	113
331	*	8.0	1.5	4.6	*	*	ナテ 指輪痕切り	灰白色(7.5Y 8/2)		*		94	159
332	*	8.0	1.4	5.0	ヨコナテ	ヨコナテ	ナテ 指輪痕切り	洗滌褐色(2.5Y 8/3)		*		94	109
333	*	8.1	1.3	4.8	*	*	ナテ 指輪痕切り	黄褐色(10Y R 6/1)		*		94	120
334	*	8.0	1.3	5.0	マメツ	マメツ	マメツ 指輪痕切り	灰白色(10Y R 8/2)		*		94	112
335	*	8.2	1.1	5.6	ヨコナテ	ヨコナテ	ナテ 指輪痕切り、板圧痕	灰白色(10Y R 8/1) * (10Y R 8/2)		*		94	118
336	*	9.2	1.5	6.0	マメツ	マメツ	マメツ 指輪痕切り、*	灰白色(10Y R 8/2)		*		94	114
337	*	9.3	1.5	6.6	ヨコナテ	ヨコナテ	ナテ 指輪痕切り、*	灰白色(10Y R 8/3)、洗滌褐色(10Y R 4/2)		*		94	158
338	*	10.0	1.5	6.1	マメツ	マメツ	マメツ 指輪痕切り	洗滌褐色(5Y 8/2) 黄褐色(5Y 7/2)		*		94	117

表12. B地区出土遺物観察表(4)

遺物 種別	容積	口径	口径	底径	成型・装飾等の特徴(上:内面、下:外面)			色調	上:内面 下:外面	出土地	備考	押印 図版	整理 No.
					口	底	体部						
330	土師器 杯	10.4	1.3	7.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ナテ 回転糸切り	にじみ褐色(5Y 7/4)、灰白色(7.5Y 8/2)		S K-10		94	325
330	正統 杯	13.2	(3.0)	7.0	ソコナデ	ソコナデ	ナテ 回転糸切り	灰白色(5Y 7/1)				94	331
341	正統 杯	15.0	(3.9)	7.0	ソコナデ	ソコナデ	ナテ 回転糸切り	灰白色(5Y 6/1)				94	333
342	正統 杯	43.0	(1.5)	7.0	ソコナデ	ソコナデ	ナテ 回転糸切り	にじみ褐色(5Y 8/3) にじみ褐色(5Y 8/3)			香淳流	94	46
343	青磁器 碗	(3.3)	(5.4)	7.0	施釉	施釉	施釉 削出裏面、器内内無釉	明褐色(5G 7/1)				94	30
344	土師器 杯	11.2	3.4	7.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ナテ 回転糸切り、削付痕	灰白色(10Y 8/2)		S K-14		96	18
345	土師器 杯	8.2	1.4	5.2	ナテ	ナテ	回転糸切り、削付痕	灰白色(2.5Y 8/2)				96	317
346	土師器 杯	11.4	2.8	6.0	ナテ	ナテ	回転糸切り、削付痕	灰白色(10Y 8/1)、にじみ褐色(7.5Y 7/4)		S K-15		98	385
347	ナテ	12.6	2.9	8.0	ナテ	ナテ	回転糸切り、削付痕	灰白色(10Y 8/2)				98	173
348	ナテ	12.4	3.1	7.4	ナテ	ナテ	回転糸切り	灰白色(10Y 8/1)				98	85
349	ナテ	12.7	3.0	7.6	ナテ	ナテ	回転糸切り、削付痕	灰白色(10Y 7/1) (10Y 8/1)				96	383
350	ナテ	12.6	3.2	8.0	ナテ	ナテ	回転糸切り	灰白色(7.5Y 8/1)				98	115
351	ナテ	12.8	3.0	8.8	ナテ	ナテ	回転糸切り、削付痕	灰白色(2.5Y 8/2) 灰白色(2.5Y 7/2)				98	15
352	ナテ	13.0	3.0	8.0	ナテ	ナテ	回転糸切り、削付痕	灰白色(2.5Y 8/2)				98	31
353	ナテ	13.0	3.8	8.0	ナテ	ナテ	回転糸切り、削付痕	灰白色(7.5Y 8/2) (2.5Y 7/1)				98	86
354	ナテ	13.2	3.2	9.0	ナテ	ナテ	回転糸切り	淡黄色(2.5Y 7/3) 灰白色(2.5Y 6/1)				98	304
355	ナテ	13.9	3.3	8.6	ナテ	ナテ	回転糸切り、削付痕	褐色(5Y 8/2)、明褐色(5Y 8/1) 灰白色(5Y 7/1)				98	387
356	ナテ	14.0	3.4	9.0	ナテ	ナテ	回転糸切り	淡黄色(10Y 8/3) 灰白色(10Y 8/1)、褐色(10Y 8/1)				98	87
357	ナテ	14.0	3.3	9.4	ナテ	ナテ	回転糸切り、削付痕	灰白色(10Y 8/1)				98	386
358	ナテ	14.6	3.1	10.0	ナテ	ナテ	回転糸切り	灰白色(10Y 8/2) (10Y 8/1)				99	94
359	土師器 盥	6.5	0.7	3.0	ナテ	ナテ	回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/1) (2.5Y 8/2)				99	397
360	ナテ	7.6	0.9	4.8	ナテ	ナテ	回転糸切り、削付痕	灰白色(5Y 8/2)				99	395
361	ナテ	7.6	1.0	4.8	ナテ	ナテ	回転糸切り、削付痕	灰白色(2.5Y 8/2)				99	80
362	ナテ	7.8	0.9	5.0	ナテ	ナテ	回転糸切り	灰白色(10Y 8/1) (10Y 8/2)				99	393
363	ナテ	7.8	1.1	5.0	ナテ	ナテ	回転糸切り	淡黄色(10Y 8/2) にじみ淡黄色(10Y 8/2)				99	400
364	ナテ	7.6	1.2	5.0	ナテ	ナテ	回転糸切り	灰白色(10Y 8/1)、明褐色(10Y 8/1)				99	391
365	ナテ	8.0	1.3	5.0	ナテ	ナテ	回転糸切り	にじみ褐色(7.5Y 7/3)、灰白色(7.5Y 8/2)				99	174
366	ナテ	8.3	1.7	5.8	ナテ	ナテ	回転糸切り、削付痕	淡黄色(2.5Y 8/3) 灰白色(10Y 8/2)				99	180
367	ナテ	8.7	1.4	6.0	ナテ	ナテ	回転糸切り、削付痕	灰白色(2.5Y 8/2)				99	90
368	ナテ	8.8	1.3	3.3	ナテ	ナテ	回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2)				99	392
369	ナテ	7.5	1.5	4.6	ナテ	ナテ	回転糸切り	灰白色(7.5Y 8/2)				99	398
370	ナテ	7.8	1.6	5.0	ナテ	ナテ	回転糸切り	灰白色(10Y 8/2)				99	388
371	ナテ	8.0	1.7	5.0	ナテ	ナテ	削付痕	灰白色(10Y 8/2)			季づ(北)	99	389
372	土師器 杯	12.0	3.7	6.0	ナテ	ナテ	回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/1)		S D 1		100	127

表14. B地区出土遺物観察表(6)

遺物 No.	器種	口径	器高	底径	成形・製作等の特徴(上:内面, 下:外面)		色調	上:内面 下:外面	出土層	備考	検出 図版 No.	整理 No.
					口縁部	体部						
407	土師器 杯	/	(1.3)	(3.0)	/	ミカク 泡陶質	ミカク 軟行黄白	灰白色(10Y R 8/1) * (10Y R 8/2)	SD 区		109 34	463
408	土師器 杯	/	(1.6)	(3.7)	/	ミコナテ	ナテ 黒転赤切り、黄白灰	灰白色(10Y R 8/2)	*		109 34	468
409	"	11.0	3.1	6.8	ミコナテ	"	ナテ 黒転赤切り	灰白色(10Y R 8/2)	"		109	272
410	"	11.1	3.1	7.0	"	"	ナテ 黒転赤切り	灰白色(2.5Y R 7/1) * (2.5Y R 7/2)	"		109	274
411	"	11.2	3.5	7.0	"	"	ナテ 黒転赤切り	灰白色(2.5Y R 7/2)	"		109	276
412	"	11.7	2.9	7.0	"	"	ナテ 黒転赤切り	灰白色(2.5Y R 7/2)	"		109	282
413	"	11.7	3.6	6.0	"	"	ナテ 黒転赤切り、板付灰	灰白色(10Y R 8/1)	"		109	371
414	"	11.8	3.5	7.0	"	"	ナテ 黒転赤切り	伊勢灰色(7.5Y R 7/1) * (7.5Y R 7/2)	"		109	788
415	"	12.0	3.0	7.0	"	"	ナテ 黒転赤切り	灰白色(2.5Y R 8/2) 灰黄色(2.5Y R 7/3)	"		109	261
416	"	12.0	3.2	6.8	"	"	ナテ 黒転赤切り、板付灰	灰白色(10Y R 8/2) 黒褐色(10Y R 3/1)	"		109	949
417	"	12.0	3.3	6.4	"	"	ナテ 黒転赤切り	灰白色(2.5Y R 7/2)	"		109	452
418	"	12.0	3.3	7.6	"	"	ナテ 黒転赤切り、板付灰	灰白色(2.5Y R 7/1)	"		109	447
419	"	12.0	3.4	7.8	"	"	ナテ 黒転赤切り、*	灰白色(5 Y R 7/2)	"		109	253
420	"	12.4	2.8	7.0	"	"	ナテ 黒転赤切り	灰白色(10Y R 8/2)	"		110	448
421	"	12.7	2.9	8.0	"	"	ナテ 黒転赤切り	灰白色(10Y R 8/1)	"		109	35
422	"	12.7	2.9	7.2	"	"	ナテ 黒転赤切り	淡黄褐色(10Y R 8/4)	"		110	269
423	"	12.6	3.2	7.0	"	"	ナテ 黒転赤切り、板付灰	灰白色(7.5Y R 7/1)	"		110	446
424	"	12.6	3.1	8.0	"	"	ナテ 黒転赤切り、*	灰黄色(7.5Y 7/2)	"		110 34	266
425	"	12.9	3.1	7.6	"	"	ナテ 黒転赤切り、*	灰白色(2.5Y R 7/2)	"		110	270
426	"	12.9	3.6	7.0	マノツ	マノツ	ナテ 黒転赤切り	灰白色(7.5Y 3/3)	"		110	264
427	"	13.0	3.2	7.8	ミコナテ	ミコナテ	ナテ 黒転赤切り	灰白色(2.5Y R 7/2)	"		111	279
428	"	13.0	3.2	7.0	"	"	ナテ 黒転赤切り、板付灰	灰白色(10Y R 8/1)	"		110	267
429	"	13.0	3.3	7.4	"	"	ナテ 黒転赤切り	灰白色(5 Y R 7/2)	"		110	256
430	"	14.0	3.4	7.6	"	"	ナテ 黒転赤切り	灰白色(2.5Y R 7/1)	"		110	273
431	"	14.0	3.6	7.5	"	"	ナテ 黒転赤切り、板付灰	灰白(10Y 7/1)、ニッパ黄褐色(10Y 2/2)	"		110	260
432	"	13.0	3.6	6.8	"	"	ナテ 黒転赤切り、*	灰白色(10Y R 8/2) 11.0A黄褐色(10Y R 7/2)	"		110	263
433	"	13.0	3.8	7.4	"	"	ナテ 黒転赤切り	灰白色(2.5Y R 7/2)	"		110	456
434	"	13.2	3.5	7.6	"	"	ナテ 黒転赤切り	灰白色(10Y R 8/2) * (10Y R 8/1)	"		111 24	256
435	"	23.7	3.3	8.2	"	"	ナテ 黒転赤切り、板付灰	灰白色(10Y R 8/2)、黄褐色(10Y R 6/2) * 灰色(10Y 3/1)	"		111	259
436	"	13.4	3.6	7.0	"	"	ナテ 黒転赤切り、*	灰白色(10Y R 8/1) * (10Y R 8/2)	"		111	280
437	"	13.6	3.8	8.0	"	"	ナテ 黒転赤切り	灰白色(10Y R 8/1)	"		111	378
438	"	13.8	3.4	7.0	"	"	ナテ 黒転赤切り、板付灰	灰白色(2.5Y R 7/2)	"		111	257
439	"	14.0	3.4	8.0	"	"	ナテ 黒転赤切り	灰白色(10Y R 8/1)	"		111	264
440	"	12.0	3.5		"	"	ナテ 板付灰	灰白色(10Y R 8/1)	"	手づくに	111	312

表15. B地区出土遺物観察表(7)

遺物 No.	器種	口径	器高	口径	成形・施装等の特徴(上:内面, 下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	出土地	備考	探出 年度	整理 No.
					口 縁 部	体 部	底 部						
441	七羽形 甌	12.2	(2.9)		ツコナテ	ツコナテ	ナテ 縁切取	灰白色(10Y R 8/2)		S-D-8	平づくり	111	304
442	*	12.2	(3.4)		*	*	*	本知灰色(7.5Y R 7/2)		*	*	111	281
443	*	12.8	3.8		*	マノブ ツコナテ	ナテ 縁切取	灰白色(10Y R 8/2), 少量褐色(10Y 3R/3)		*	*	111	300
444	*	12.6	2.8		*	*	ナテ 縁切取	灰白色(2.5Y 8/2)		*	*	111	277
445	*	13.0	2.3		*	*	ナテ 縁切取	淡黄褐色(10Y 3R/3)		*	*	111	314
446	*	13.1	4.1		*	*	ナテ 縁切取	灰白色(10Y R 8/2)		*	*	111	306
447	*	14.0	3.8		*	*	ナテ 縁切取	灰白色(10Y R 8/1)		*	*	111	289
448	*	14.0	3.3		*	*	ナテ 縁切取	灰白色(2.5Y 8/1)		*	*	111	604
449	土器器 皿	6.8	1.4	1.4	*	*	ナテ 縁取手切り	黄褐色(10Y R 6/1-5/1)		*	*	112	418
450	*	7.3	1.2	4.6	*	マノブ	ナテ 縁取手切り, 縁切取	黄褐色(10Y R 6/1-5/1) *(10Y R 4/1-5/1)		*	*	112	439
451	*	7.3	1.3	4.8	*	ツコナテ	ナテ 縁取手切り, *	灰白色(2.5Y 8/2) 淡黄色(7.5Y 8/3)		*	*	112	220
452	*	7.4	1.5	4.6	*	*	ナテ 縁取手切り	灰白色(10Y R 8/1)		*	*	112	536
453	*	7.4	1.5	5.0	*	*	ナテ 縁取手切り, 縁切取	灰白色(7.5Y 8/2)		*	*	112	413
454	*	7.5	1.1	5.0	*	*	ナテ 縁取手切り	灰白色(2.5Y 8/2)		*	*	112	442
455	*	7.6	1.2	4.6	*	*	ナテ 縁取手切り	灰白色(2.5Y 7/1)		*	*	112	435
456	*	7.6	1.3	5.0	*	*	ナテ 縁取手切り	灰白色(10Y R 8/2), 淡黄褐色(10Y R 8/3)		*	*	112	417
457	*	7.6	1.4	5.0	*	*	ナテ 縁取手切り	灰白色(10Y R 8/2)		*	*	112	444
458	*	7.6	1.4	5.8	*	*	ナテ 縁取手切り	灰白色(2.5Y 8/2), 褐色(7.5Y R 7/5)		*	*	112	434
459	*	7.6	1.6	4.8	*	*	ナテ 縁取手切り	灰白色(7.5R 8/2)		*	*	112	228
460	*	7.7	1.4	4.8	*	*	ナテ 縁取手切り, 縁切取	灰白色(2.5Y 8/2)		*	*	112	457
461	*	7.7	1.5	5.1	*	*	ナテ 縁取手切り	淡黄褐色(5Y 8/3)		*	*	112	426
462	*	7.8	1.3	4.6	*	*	ナテ 縁取手切り	淡黄褐色(7.5Y 8/3)		*	*	112	229
463	*	7.8	1.3	5.6	*	*	ナテ 縁取手切り, 縁切取	灰白色(2.5Y 8/2)		*	*	112	240
464	*	7.8	1.2	5.6	*	*	ナテ 縁取手切り, *	灰白色(10Y R 8/2)		*	*	112	252
465	*	7.9	1.3	4.8	*	*	ナテ 縁取手切り	灰白色(2.5Y 8/2) 淡黄褐色(2.5Y 8/7)		*	*	112	430
466	*	7.9	1.6	5.8	*	*	ナテ 縁取手切り	灰白色(2.5Y 8/2) *(10Y R 8/2)		*	*	112	429
467	*	8.0	1.8	5.2	*	*	ナテ 縁取手切り, 縁切取	灰白色(2.5Y 8/2)		*	*	112	425
468	*	8.0	1.2	4.8	*	*	ナテ 縁取手切り	灰白色(2.5Y 8/2)		*	*	112	250
469	*	8.3	1.1	5.2	*	*	ナテ 縁取手切り, 縁切取	灰白色(10Y R 8/2) *(2.5Y R 8/2)		*	*	112	436
470	*	8.0	1.2	3.8	*	*	ナテ 縁取手切り	灰白色(5Y 7/3)		*	*	112	422
471	*	8.0	1.3	5.3	*	*	ナテ 縁取手切り	灰白色(10Y R 8/2)		*	*	112	410
472	*	8.0	1.2	5.2	*	*	ナテ 縁取手切り, 縁切取	灰白色(2.5Y 8/2), 灰白色(2.5Y 7/1)		*	*	112	348
473	*	8.0	1.4	5.0	*	*	ナテ 縁取手切り	灰白色(2.5Y 8/2)		*	*	112	343
474	*	8.0	1.4	5.0	*	*	ナテ 縁取手切り	淡黄褐色(2.5Y 7/2) 黄褐色(2.5Y 6/1)		*	*	112	415

表16. B地区出土遺物観察表(8)

遺物 No.	種類	口径	高さ	直径	成形・修整等の跡(上:内面, 下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	出土地	備考	検出 区画	整理 No.
					口 縁 部	体 部	底 部						
475	土師器 丸	8.0	1.3	5.6	ヨコナテ	ヨコナテ	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)		S D 8		112 34	344
476	土師器 丸	8.0	1.4	4.8	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り	にじみ黄褐色(10Y R 7/2) 灰白色(10Y R 7/1)				112	431
477	土師器 丸	8.0	1.5	5.0	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R/1)、灰白色(10Y R/2)				117	428
478	土師器 丸	8.0	1.6	5.2	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り	淡黄褐色(7.5Y R 8/4)				115	406
479	土師器 丸	5.0	1.8	3.0	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(3.5Y 8/2)				119	231
480	土師器 丸	8.1	1.3	5.8	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り、	灰白色(10Y R 6/1)				118	240
481	土師器 丸	8.2	0.9	4.6	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り、	灰白色(5Y 1/1)、にじみ褐色(7.5Y R 7/4)				118	441
482	土師器 丸	8.2	1.1	3.6	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り、	灰白色(2.5Y 8/2) # (10Y R/2)、黄褐色(7.5Y R/2)				118	280
483	土師器 丸	8.2	1.1	6.4	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 7/1) # 黄褐色(2.5Y 6/1)				113	423
484	土師器 丸	8.2	1.2	5.1	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/1) # (10Y R/1)、にじみ褐色(5Y R/3)				113	416
485	土師器 丸	8.2	1.6	4.8	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り	灰白色(7.5Y 8/1)				113	443
486	土師器 丸	5.2	1.6	3.3	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2)、にじみ褐色(2.5Y 6/3)				118	432
487	土師器 丸	8.3	1.1	5.4	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 7/1) # (10Y R 6/1)				118	251
488	土師器 丸	8.6	1.2	5.8	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(5Y R 6/1) # (10Y R 8/1)				118	342
489	土師器 丸	8.6	1.5	3.3	ツメツ	ツメツ	ナテ 回転糸切り、	淡黄色(10Y 3 8/1) # (10Y 3 6/2)				113	247
490	土師器 丸	8.4	1.2	6.0	ヨコナテ	ヨコナテ	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y 3 8/1)				113	407
491	土師器 丸	8.4	1.3	5.0	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 7/1) # (3.5Y 8/3)				118	436
492	土師器 丸	8.4	1.4	5.0	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰黄色(2.5Y 7/2)				112	241
493	土師器 丸	8.4	1.4	3.0	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R/1) # 淡褐色(2.5Y R/4)				113	283
494	土師器 丸	8.4	1.4	6.0	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y R/1) # (2.5Y 8/2)				113	471
495	土師器 丸	8.4	1.5	5.0	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y R/2)				113	232
496	土師器 丸	8.4	1.4	5.0	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り	暗褐色(7.5Y R 7/1)、茶色(10Y R 2/1)				118	440
497	土師器 丸	8.4	1.5	3.6	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)				118	337
498	土師器 丸	8.6	1.6	3.8	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り、	灰白色(10Y R 8/1) # (10Y 3 8/2)				113	227
499	土師器 丸	8.9	1.5	6.0	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り	淡黄褐色(7.5Y 8/4) 灰白色(7.5Y 8/2)				113	69
500	土師器 丸	8.6	1.7	5.6	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り、板圧痕	淡黄色(2.5Y 8/3)				113	345
501	土師器 丸	8.8	1.8	6.2	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 淡黄色(2.5Y 7/3)				113	445
502	土師器 丸	8.8	1.2	6.0	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2)				118	254
503	土師器 丸	8.8	1.4	5.0	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)、淡黄色(2.5Y 7/4)				118	231
504	土師器 丸	8.8	1.4	5.2	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/1)				113	403
505	土師器 丸	8.8	1.6	5.5	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(7.5Y 1 8/2)、淡褐色(2.5Y R/3) # (7.5Y R/1)				113	225
506	土師器 丸	8.4	1.3	5.5	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り、	灰白色(7.5Y R/2)、暗褐色(7.5Y R/1) # (7.5Y R/1)				113	236
507	土師器 丸	9.0	1.3	6.0	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/1)				113	424
508	土師器 丸	9.0	1.4	6.0	ナテ	ナテ	ナテ 回転糸切り	灰白色(7.5Y 8/1)				113	413

表17. B地区出土遺物観察表(9)

遺物 No.	種類	口径	高さ	底径	成形・調整等の特徴(上:内面, 下:外面)			色調	上:内面 下:外面	出土地	備考	検出 図版 No.	整理 No.
					口縁部	体部	底部						
509	土師器 皿	9.0	1.5	5.5	ツコナテ	ツコナテ	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/1) * (10Y R 8/2)		S1-8	113 35	735	
510	"	9.0	1.7	7.6	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) * (2.5Y 8/1)		"	113 ---	414	
511	"	9.2	1.4	5.8	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/1) * (2.5Y 8/2)		"	114 ---	437	
512	"	9.2	1.4	6.0	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/1) * (2.5Y 8/2)		"	111 ---	430	
513	"	9.2	1.5	6.0	"	"	ナテ 回転糸切り, 板取痕	灰白色(2.5Y 8/1) *		"	114 ---	420	
514	"	9.8	1.7	5.8	"	"	ナテ 回転糸切り, *	灰白色(2.5Y 8/2) *		"	114 35	233	
515	"	7.0	1.4		ツコナテ	ツコナテ	ナテ 指拍痕	灰白色(10Y R 8/2) *		手づくね	114 ---	309	
516	"	8.1	1.4		"	"	ナテ 指拍痕	灰白色(10Y R 8/1) *		"	114 35	302	
517	"	7.6	1.3		"	"	ナテ 指拍痕	灰白色(5Y R 8/1) * (7.5Y R 8/1)		"	114 35	303	
518	"	7.7	1.1		"	"	ナテ 指拍痕	灰白色(10Y R 8/2) *		"	114 ---	402	
519	"	7.8	1.4		"	"	ナテ 指拍痕	灰白色(10Y R 8/1) *		習性色(10Y R 8/6)	114 ---	453	
520	"	7.8	1.5		"	"	ナテ 指拍痕	淡黄色(2.5Y 8/3) *		"	114 ---	308	
521	"	7.8	1.7		"	"	ナテ 指拍痕	灰白色(7.5Y R 8/2) * (7.5Y R 8/1)		"	114 ---	688	
522	"	8.0	1.4		"	"	ナテ 指拍痕	灰白色(10Y R 8/2)、緑色(7.5Y R 7/6) * (10Y R 8/1)		"	114 ---	428	
523	"	8.0	1.7		"	"	ナテ 指拍痕	灰白色(7.5Y R 8/1) *		"	114 ---	460	
524	"	8.2	1.3		"	"	ナテ 指拍痕	灰白色(7.5Y 8/1) *		"	114 35	301	
525	"	8.4	1.8		ナテ	指拍痕	灰白色(10Y R 8/2) * (10Y R 8/1)、L200黄褐色(10Y 5/6)			"	111 ---	307	
526	"	8.4	1.9		ナテ	指拍痕	灰白色(10Y R 8/1) *			"	114 35	298	
527	"	8.8	1.7		ナテ	指拍痕	灰白色(10Y R 8/2) * (10Y R 8/1)、褐色(5Y R 6/6)			"	114 35	675	
528	"	8.6	1.8		ナテ	指拍痕	灰白色(2.5Y 8/2) * (2.5Y 8/1)			"	114 36	16	
529	"	8.7	1.8		ナテ	指拍痕	灰白色(10Y R 8/1)、淡黄褐色(7.5Y R 8/4) * (2.5Y 8/2)			"	114 36	671	
530	"	8.8	1.4		ナテ	指拍痕	L200黄褐色(10Y R 7/7) *			"	114 ---	434	
531	"	9.5	1.5		ナテ	指拍痕	灰白色(10Y R 8/2) *			"	114 36	221	
532	"	9.0	1.4		ナテ	指拍痕	灰白色(5Y 8/2) *			"	111 ---	405	
533	"	9.0	1.7		ナテ	指拍痕	灰白色(10Y R 8/1) *			"	114 ---	310	
534	"	8.6	2.1		ナテ	指拍痕	淡黄褐色(7.5Y R 8/3) *			"	114 ---	313	
535	瓦 筒	14.0	3.5	(3.0)	"	ミガキ 指拍痕	灰白色(N 3/) *			"	115 36	292	
536	"	11.8	(2.8)	/	"	ミガキ 指拍痕	灰白色(5Y 4/1)、灰色(5Y 6/1) *			"	115 ---	282	
537	"	13.0	(3.4)	/	"	ミガキ 指拍痕	灰色(N 6/) * (N 5/)			"	115 ---	401	
538	"	13.7	(3.6)	/	"	ミガキ 指拍痕	灰白色(10Y R 8/1)、褐色(10Y R 5/1) *			"	115 ---	285	
539	"	13.6	(3.1)	/	ツコナテ	指拍痕	灰白色(N 6/)、灰色(N 5/) *			"	115 36	405	
540	"	14.0	(3.2)	/	ミガキ	指拍痕	黄灰色(5P 6/1) * (5P R 5/1)			"	115 ---	467	
541	"	14.0	(3.0)	/	ツコナテ	指拍痕	黄褐色(N 3/) * (N 4/)			"	115 ---	280	
542	"	14.0	(3.3)	/	ミガキ	指拍痕	オリブ黒色(5Y 3/1) *			"	115 ---	288	

表18. B地区出土遺物観察表⑩

遺物 No.	器種	口径	高さ	直径	成形・調整等の特徴(上:内面, 下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	出土地	備考	検出 図版	整理 No.
					口 頸 部	体 部	底 部						
543	瓦 器 鉢	14.2	(4.0)	✓	ヨコナテ	ヨコナテ 指爪痕	✓	灰白色(10YR 8/2), 灰褐色(10YR 6/3) * (5Y 5/)		SD 8		115	439
541	■	15.0	(3.7)	✓	■	ヨコナテ 指爪痕	✓	灰青灰色(5PB 4/1)		■		115	440
545	■	15.0	(3.7)	✓	■	ヨコナテ 指爪痕	✓	灰色(5Y 4/1)		■		115	466
546	■	16.0	(3.2)	✓	■	ヨコナテ 指爪痕	ナテ	灰白色(N 7/)	* (5Y 6/), 灰色(N 4/)	■		115	286
547	■	(1.6)	4.5	✓	ヨコナテ	ナテ 指爪痕	ナテ	灰青(5Y 4/)		■		115	287
548	瓦 器 土 瓶	5.3	1.7	✓	ヨコナテ	ヨコナテ 、指爪痕	ナテ 指爪痕	灰白色(2.5Y 8/1), 灰色(5Y 4/3) * (5Y 4/1),		■		115	289
549	■	6.4	1.5	✓	■	■	ナテ	灰色(5Y 4/1)		■		115	283
550	灰雲母 土 瓶	28.0	(5.7)	✓	■	■	■	灰白色(N 7/)		■		115	518
551	■	30.0	(5.0)	✓	■	■	■	灰白色(N 7/)		■		116	503
552	■	30.0	(5.7)	✓	■	■	■	青灰色(5PB 6/1) 靑灰色(10Y 5/2)青(7.5Y 7/2)青(7.5Y 6/2)		■		116	916
553	■	35.0	(5.0)	✓	■	■	■	灰白色(5Y 7/1) * (5Y 7/1), 青灰色(5PB 6/1)		ヤウ敷		116	599
554	■	(1.4)	✓	■	■	■	■	灰色(N 6/)		■		116	920
555	■	(4.0)	✓	■	■	■	■	靑青灰色(5PB 7/), 青灰色(5PB 6/)		ヤウ敷		116	505
556	■	(4.1)	✓	■	■	■	■	灰白色(N 7/)		■		116	912
557	■	(7.1)	✓	■	■	■	■	灰色(N 6/), 灰色(N 5/)		■		116	908
558	清土 土 瓶	(1.1)	5.0	✓	■	ナテ	■	灰白色(N 7/)		■		116	929
559	瓦 器 土 瓶	30.0	(3.7)	✓	ヨコナテ	ナテ 、指爪痕	✓	靑灰色(10YR 4/1) 灰褐色(5YR 5/2)		■		117	45
560	土師器 土 瓶	34.0	(3.7)	✓	ヨコナテ	指爪痕	✓	褐色(7.5Y 3/6) に濃い黄褐色(10YR 5/4)		■		117	892
561	■	39.0	(4.1)	✓	ヨコナテ	タテハテ	✓	12.5Y 7/3 * (10YR 6/3)		■		117	358
562	■	40.0	(4.1)	✓	ヨコナテ	ナテ	✓	褐色(7.5Y 6/6) に濃い褐色(7.5Y 5/4)		■		117	44
563	黒土 土 瓶	28.0	(10.3)	✓	ヨコナテ	タテハテ	✓	12.5Y 7/3 に濃い黄褐色(10YR 5/2), 黒褐色(10YR 3/2)		■		117	36
564	青 土 土 瓶	11.4	2.8	4.4	指爪	指爪	海粒, 草花文 指爪をとり	灰白色(2.5GY 8/1)		■		117	27
565	土師器 土 瓶	14.0	3.6	3.5	ヨコナテ	ヨコナテ	ナテ	灰白色(7.5Y 8/1) 黄褐色(2.5Y 5/1)		SD 10		120	140
566	■	12.0	3.5	8.0	■	■	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2), 灰青(5Y 7/4)		■		120	133
567	土師器 土 瓶	8.0	(1.3)	✓	■	指爪痕	✓	灰青(2.5Y 8/3)		■		120	129
568	灰雲母 土 瓶	26.0	(5.9)	✓	■	■	■	灰白色(N 7/)		■		120	907
569	土師器 土 瓶	11.0	(3.1)	✓	■	■	✓	靑褐色(5Y 3/2) 灰白色(5YR 8/2)		SD 7		122	79
570	■	11.4	2.9	7.4	■	■	ナテ	灰白色(10YR 8/2) に濃い黄褐色(10YR 7/2)		■		123	10
571	土師器 土 瓶	7.0	1.5	4.2	■	■	ナテ	灰白色(10YR 8/1)		■		123	404
572	■	8.0	1.5	5.0	■	■	ナテ	灰白色(2.6YR 7/2)		■		123	76
573	■	9.0	1.4	5.6	■	■	ナテ	褐色(7.5YR 5/1) 明灰褐色(7.5YR 7/1)		■		123	407
574	青 土 土 瓶	(8.9)	14.0	✓	ナテ	ナテ	土師器	黒褐色(10.5/3), オリーブ色(5Y 6/4) 青灰色(5PB 6/1)		■		123	588
575	土師器 土 瓶	13.0	3.1	8.6	ヨコナテ	ヨコナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)		SD 13		123	396
576	■	11.8	3.5	6.7	■	■	ナテ	明灰褐色(7.5YR 7/1)		SD-13		123	71

表19. B地区出土遺物観察表(1)

遺物 No.	種類	口径	径	高さ	成形・調整等の特徴(上:内面, 下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	出土地	備考	測長 No.	
					口 頸 部	体 部	底 部						
577	土師器 甕	9.2	1.7	6.0	ココナテ *	ココナテ *	ナテ 刷毛糸切り, 板圧痕	灰白色(7.5Y R 8/1)		SF-22		123 28	406
578	土師器 鉢	1.3	7.0			*	ナテ 刷毛糸切り	灰白色(10Y R 8/2)		3号集積		125	223
579	土師器 甕	8.0	1.4	5.1	ココナテ *	*	ナテ 刷毛糸切り	灰白色(10Y R 8/2)		*		175 36	219
580	*	8.2	1.2	5.4	*	*	ナテ 刷毛糸切り	灰白色(7.5Y R 8/2)		*		125	222
581	土師器 甕	13.0	(3.1)		*	*		灰白色(10Y R 8/1), 濃灰色(10YR 6/1)		1号集積		127 —	215
582	*	(1.3)	7.0		*	*	ナテ 刷毛糸切り	灰白色(2.5Y R/2) 淡黄色(2.5Y 8/4)		*		127	207
583	土師器 甕	6.3	0.8	4.0	ココナテ *	*	ナテ 刷毛糸切り	灰白色(10Y R 8/1) *(10Y R 8/2)		*		127	216
584	*	6.8	1.1	4.6	*	*	ナテ 刷毛糸切り	灰白色(2.5Y 8/1)		*		127	208
585	*	7.6	1.2	5.0	*	*	ナテ 刷毛糸切り	灰白色(2.5Y 8/2)		*		127	220
586	*	7.8	1.3	5.2	*	*	ナテ 刷毛糸切り, 板圧痕	灰白色(2.5Y 8/1)		*		127	210
587	*	7.8	1.5	5.6	*	*	ナテ 刷毛糸切り	灰白色(2.5Y 8/2)		*		127	214
588	*	8.0	1.2	5.4	*	*	ナテ 刷毛糸切り, 板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)		*		127 38	209
589	*	8.3	1.3	5.0	*	*	ナテ 刷毛糸切り	灰白色(2.5Y 8/1)		*		127 38	213
590	*	8.0	1.3	5.5	*	*	ナテ 刷毛糸切り, 板圧痕	灰白色(10Y R 8/1)		*		127 38	204
591	*	8.0	1.4	5.0	*	*	ナテ 刷毛糸切り, *	灰白色(2.5Y 8/2) *, オリーブ黒色(5Y 4/1)		*		127 —	206
592	*	8.0	1.4	4.8	*	*	ナテ 刷毛糸切り, *	灰白色(2.5Y 8/2)		*		127 39	217
593	*	8.1	1.3	5.2	*	*	ナテ 刷毛糸切り	灰白色(10Y R 8/2) *(10Y R 8/1)		*		127 38	201
594	*	8.0	1.3	4.8	*	*	ナテ 刷毛糸切り, 板圧痕	灰白色(2.5Y 8/1)		*		127 38	206
595	*	8.2	1.4	5.4	*	*	ナテ 刷毛糸切り	灰白色(2.5Y 8/1)		*		127 38	205
596	*	8.4	1.4	5.8	*	*	ナテ 刷毛糸切り, 板圧痕	灰白色(2.5Y 8/1)		*		127 38	13
597	*	7.6	(1.5)		*	*	ナテ 板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)		*	手づくね	127	216
598	土師器 鉢	12.0	(2.6)		*	*		灰白色(10Y R 8/1), 濃灰色(10YR 6/1) *, 淡黄色(2.5Y 8/4)		2号集積		127	202
599	*	12.6	3.2	8.4	*	*	ナテ 刷毛糸切り, 板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)		*		127 39	203
600	*	13.8	3.0	7.8	ワメツ *	ワメツ *	ナテ 刷毛糸切り?	灰白色(2.5Y 8/1)		*		127 39	212
601	*	13.2	2.9		ココナテ *	ココナテ *, 板圧痕	ナテ 板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)		*	手づくね	127 39	209
602	土師器 甕	7.6	1.5	5.3	*	*	ナテ 刷毛糸切り	灰白色(7.5Y R 8/2)		*		127	211
603	*	7.8	1.3	5.0	*	*	ナテ 刷毛糸切り	灰白色(10Y R 8/2)		SX-3		129 39	162
604	*	7.8	1.3	5.0	*	*	ナテ 刷毛糸切り, *	灰白色(10Y R 8/2) *, 灰白色(5Y R 7/2)		*		129 39	259
605	丸形 甕	13.8	(2.5)		*	ナテ 板圧痕		灰白色(5Y 4/1)		*		129 39	354
606	土師器 甕	12.3	3.2	7.0	ココナテ *	*	ナテ 刷毛糸切り, 板圧痕	淡黄色(2.5Y 8/3) 灰白色(2.5Y 8/2)		SX-5		129	160
607	*	13.4	3.6	8.0	*	*	ワメツ 刷毛糸切り, *	灰白色(10Y R 8/1)		*		129 39	172
608	土師器 甕	7.6	1.3	3.2	*	*	ナテ 刷毛糸切り, *	灰白色(5Y R 8/2) *, 灰白色(5Y R 8/1)		*		129	343
609	*	7.8	1.2	5.0	*	*	ナテ 刷毛糸切り, *	灰白色(10Y R 8/2)		*		129	166
610	*	7.8	1.3	5.0	*	*	ナテ 刷毛糸切り	灰白色(10Y R 8/2) *(10Y R 8/1)		*		129	338

表20. B地区出土遺物観察表(2)

遺物 No	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上:内面, 下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	出土地	備考	検出 段階	整理 No
					口 部	底 部	底 部						
611	土師器 盆	7.9	1.6	4.7	ヨコナテ	ヨコナテ	ナテ / 底面削り	灰白色(10Y R 8/1) * 10A・黄褐色(7.5Y R 7/4)		SX-5		129	170
612	"	8.7	1.6	6.0	"	"	ナテ / 底面削り	灰白色(2.5Y 8/2)		"		129	169
613	"	8.8	1.3	5.8	"	"	ナテ / 底面削り、横圧痕	灰白色(10Y R 8/2) * (2.5Y 8/2)		"		129	342
614	瓦 甍	15.4	(3.3)		マメツ ヨコナテ	マメツ 指痕痕	マメツ 指痕痕	灰白色(10Y R 7/1・R/2) * 10A・黄褐色(7.5Y R 7/2)		"		129	348
615	土師器 鉢	11.8	3.1	7.0	ヨコナテ	ヨコナテ	ナテ / 底面削り	灰白色(2.5Y R/2)		SX-7		129	161
616	瓦 甍	15.0	(3.2)		マメツ ヨコナテ	マメツ 指痕痕	マメツ 指痕痕	緑褐色(N 3/)		"		129	170
617	土師器 鉢	14.0	3.5	10.0	"	ヨコナテ	ナテ / 底面削り	にじみ青色(7.5Y R 7/3) 灰白色(7.5Y R 8/2)		SX-8		131	164
618	土師器 皿	8.3	1.2	5.0	"	ナテ	ナテ / 底面削り、横圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)		"		131	165
619	"	7.6	1.3	3.0	"	ナテ	ナテ / 底面削り?	灰白色(2.5Y 8/2)		"		131	375
620	"	8.2	1.0	5.2	"	ナテ	ナテ / 底面削り	灰白色(2.5Y 8/3)、黒褐色(2.5Y 3/1)		"		131	167
621	"	8.6	1.5	5.2	"	ナテ	ナテ / 底面削り	黄褐色(2.5Y 7/2)、黒褐色(2.5Y 3/1)		"		131	366
622	"	8.0	(1.9)		"	指痕痕	指痕痕	灰白色(10Y R 8/2) * (10Y R 8/1)		"	手づくお	131	160
623	土師器 土釜	22.5	(3.0)		ヨコナテ *、縦圧痕	ヨコナテ *、縦圧痕	ヨコナテ *、縦圧痕	にじみ青色(7.5Y R 7/4) * 黒褐色(7.5Y 4/3)		"		131	363
624	土師器 鉢	13.8	3.4		"	"	ナテ / 指痕痕	灰白色(10Y R 8/2) * (7.5Y R 8/2)		SX-10	手づくお	131	150
625	"	13.6	3.2	7.7	"	"	ナテ / 指痕痕	黄褐色(2.5Y R/3)		"	"	131	43
626	瓦 甍	16.0	3.8	(5.4)	"	ナテ 指痕痕	ナテ / 斜圧痕	灰白色(2.5Y 8/1)、灰褐色(2.5Y 5/1) * 黒褐色(7.5Y 8/1)		"		131	371
627	土師器 鉢	(1.3)	7.4		マメツ	マメツ	マメツ / 底面削り?	灰白色(10Y R 8/1)		SX-12		132	163
628	"	12.6	3.0	7.4	ヨコナテ	ヨコナテ	ナテ / 底面削り	明褐色(5Y R 7/2)、灰褐色(5Y R 6/2) 灰白色(5Y R 8/1)、黒褐色(5Y R 7/3)		SX-13		132	189
629	"	13.0	(2.7)		"	指痕痕	指痕痕	黄褐色(10Y R 8/3)、灰白色(10Y R 7/1)		"	手づくお	132	182
630	"	13.4	3.5		"	ナテ	ナテ / 指痕痕	灰白色(2.5Y 8/2)		"	"	132	187
631	"	14.0	(3.2)		"	ナテ	ナテ / 指痕痕	灰白色(10Y R 8/2)		"	"	132	185
632	土師器 皿	7.0	1.0		"	ナテ	ナテ / 指痕痕	灰白色(10Y R 8/2)		"		132	188
633	"	8.0	1.1	5.6	マメツ	マメツ	マメツ / 底面削り、横圧痕	灰白色(10Y R 8/1)		"		132	376
634	"	8.2	1.4	3.0	ヨコナテ	ヨコナテ	ナテ / 底面削り	黄褐色(10Y R 8/3) 灰白色(10Y R 8/1)		"		132	178
635	"	6.6	1.2	5.4	"	ナテ	ナテ / 底面削り	黄褐色(2.5Y R/3)		"		132	179
636	"	7.9	1.7		"	ナテ	ナテ / 指痕痕	黄褐色(7.5Y R 7/1)、黒褐色(7.5Y 4/1)		"	手づくお	132	191
637	"	8.2	1.8		"	ナテ	ナテ / 指痕痕	黄褐色(5Y 8/3)、10A・黄褐色(10Y R 6/4)		"	"	132	184
638	"	8.3	1.3		"	ナテ	ナテ / 指痕痕	灰白色(10Y R 8/1)		"		132	379
639	"	8.4	1.2		"	ナテ	ナテ / 指痕痕	灰白色(2.5Y 8/2)		"	"	132	181
640	"	7.6	1.5	5.0	"	ナテ	ナテ / 底面削り	黄褐色(7.5Y 7/2)		SX-20		132	174
641	土師器 土師	(3.1)			ヨコナテ ヨコナテ	ナテ ナテ	ナテ / 指痕痕	にじみ黄褐色(10Y R 5/3) *		"		132	180
642	土師器 皿	9.0	1.4	(6.0)	"	ナテ	ナテ / 底面削り	灰白色(10Y R 8/1)		SX-26		132	372
643	"	8.2	1.3	6.2	"	ナテ	ナテ / 底面削り、横圧痕	灰白色(10Y R 8/2)		SX-28		132	267
644	瓦 甍	(6.2)			ナテ	ナテ	ナテ / 指痕痕	灰色(N 4/) * 灰色(N 5/)		SX-29		132	928

表21. B地区出土遺物観察表(3)

遺物 No	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上:内面, 下:外面)			色調	上:内面 下:外面	出土地	備考	測定 図版	整理 No
					口縁部	体部	底部						
643	十徳杯	15.0	3.2	8.0	マメツ	マメツ	マメツ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2)		SX-30		137	191
646	?	11.2	3.2	6.7	マメツ	マメツ	マメツ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)		SX-33		138	197
647	土師器 盃	8.8	1.3	6.0	?	?	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/1)		*		139	169
648	?	5.4	1.3	6.0	?	?	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰青色(2.5Y 8/3)		SX-34		141	190
649	土師器 杯	10.1	3.4	5.4	?	?	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(10Y R 8/2)		SX-40		141	192
650	?	11.0	3.4	5.8	?	?	ナテ 回転糸切り	淡黄褐色(7.5Y R 8/3)		*		141	194
651	?	12.2	3.4	6.2	?	?	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/1)		*		141	198
652	?	12.7	3.0	8.2	?	?	ナテ 回転糸切り、縋けている	灰白色(2.5Y 8/2) *(並行灰色(5Y 4/1))		*		141	143
653	?	12.9	3.3	8.2	?	?	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10Y R 8/1)		*		141	151
654	?	13.0	3.3	7.7	?	?	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(2.5Y 8/2)		*		141	264
655	?	13.0	3.6	8.0	?	?	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(2.5Y 8/2) *(2.5Y 7/1)		*		141	146
656	土師器 盃	7.4	1.4	7.0	?	?	ナテ 回転糸切り	灰白色(5Y 7/2)		*		141	361
657	?	7.4	1.6	4.0	?	?	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰青色(2.5Y 7/2)		*		141	340
658	?	6.0	1.2	5.4	?	?	ナテ 回転糸切り、*	灰青色(10Y 8/1) *(並行灰色(5Y 6/4))		*		141	344
659	?	6.0	1.3	5.0	?	?	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(7.5Y 8/1)		*		141	155
660	?	6.0	1.5	3.8	?	?	ナテ 回転糸切り	灰白色(7.5Y 8/2)		*		141	309
661	?	7.8	1.2	?	?	?	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10Y 8/1)		*	手づくた	141	347
662	?	7.8	1.3	?	?	?	ナテ 板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)		*	*	141	367
663	?	8.4	1.4	?	?	?	ナテ 板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)		*	*	141	177
664	灰土器 杯	/(2.2)	/(3.6)	?	マメツ	マメツ	マメツ 回転糸切り	灰青色(10Y R 5/1) 灰白色(2.5Y 8/1)		*	内裏	142	358
665	土師器 土鍋	/(2.8)	/(2.8)	?	マメツ	マメツ	マメツ ナテ、板圧痕	黄褐色(10Y R 3/2) *(並行灰色(7.5Y 6/3))		*		142	381
666	土師器 土師器	26.0	11.4	8.8	?	?	ナテ、内面がある 回転糸切り	灰白(N 6/)		*		142	17
667	十徳杯	12.6	3.0	7.0	?	?	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10Y R 8/1)		SX-52		142	142
668	?	13.7	3.3	8.0	?	?	ナテ 回転糸切り、*	灰青色(2.5Y 8/3)		*		142	313
669	?	12.7	3.5	7.4	?	?	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(2.5Y 8/2)		SX-53		142	29
670	?	12.8	3.7	?	?	?	ナテ 板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) *(10Y R 8/1、並行灰色(7.5Y 6/3))		*	手づくた	142	145
671	土師器 盃	5.8	1.5	5.2	?	?	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)		*		142	260
672	?	9.3	1.4	5.6	?	?	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(10Y R 8/1) 淡黄褐色(7.5Y R 8/3)		*		142	147
673	?	9.0	1.6	6.4	?	?	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(10Y R 7/1)		*		142	198
674	土師器 土師器	/(6.4)	4.2	?	?	?	土師器 板圧痕、板圧痕	黄褐色(10Y 7/1) *(並行灰色(7.5Y 6/3))		*		142	173
675	土師器 土師器	9.6	3.4	6.9	マメツ	マメツ	マメツ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)		*		142	770
676	?	10.6	3.2	6.2	?	?	ナテ 回転糸切り	黄褐色(5Y R 8/3)		*		142	713
677	?	12.4	4.2	8.1	?	?	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10Y R 8/2) *(10Y R 8/1)		*		142	282
678	?	13.0	4.1	7.0	?	?	ナテ 回転糸切り、*	灰白色(10Y R 8/1)		*		142	362

表22. B地区出土遺物観察表(1)

遺物 No	種類	口径	高さ	底径	成形・調整等の特徴(上:内面, 下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	出土地	備考	押印 図例 No	整理 No
					口 頸 部	住 部	底 部						
579	1.6号 杯	12.4	3.9	7.4	ナテ	コナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				146	441
												146	
580	*	13.0	3.9	7.5	*	*	ナテ	灰白色(10Y R 8/1)				146	721
												147	
581	*	13.4	3.8	8.5	*	*	ナテ	灰白色(10Y 2 8/1)				147	592
												146	
582	*	12.8	3.8	7.4	*	*	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				146	4
												42	
583	*	12.4	3.8	7.8	*	*	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				146	583
												—	
584	*	12.2	3.8	7.0	*	*	ナテ	淡黄褐色(7.5Y R 7/3), 灰白色(3Y R 6/1)				146	576
												146	
585	*	13.2	3.7	8.2	*	*	ナテ	灰白色(10Y R 8/2)				146	737
												42	
586	*	13.2	3.7	7.6	*	*	ナテ	灰白色(10Y 3 8/2)				146	831
												42	
587	*	13.2	3.7	7.4	*	*	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				146	570
												—	
588	*	12.8	3.7	8.0	*	*	ナテ	灰白色(10Y R 8/2)				146	125
												—	
589	*	12.3	3.7	8.2	*	*	ナテ	ぶいい黄褐色(10Y R 5/3)				146	810
												—	
590	*	12.0	3.7	8.0	*	*	ナテ	灰白色(2.5Y 8/1), 黄褐色(2.5Y 5/3)				147	—
												147	805
591	*	13.6	3.6	8.0	*	*	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2), 黄褐色(2.5Y 3/1)				147	833
												42	
592	*	13.7	3.6	7.5	*	*	ナテ	黄褐色(6Y R 4/1), 黄褐色(7.5Y R 7/2)				147	554
												—	
593	*	13.1	3.6	7.4	*	*	ナテ	灰白色(10Y R 8/2)				147	718
												—	
594	*	13.0	3.6	8.6	*	*	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				147	561
												—	
595	*	12.8	3.6	6.4	*	*	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				147	849
												—	
596	*	12.1	3.6	7.6	*	*	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				147	566
												—	
597	*	12.4	3.6	6.6	*	*	ナテ	灰白色(10Y R 8/2)				147	726
												—	
598	*	14.0	3.5	8.4	*	*	ナテ	灰白色(10Y R 8/2)				147	586
												—	
599	*	13.6	3.5	8.0	*	*	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				147	593
												—	
700	*	13.6	3.5	7.6	*	*	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				147	830
												—	
701	*	13.4	3.5	8.4	*	*	ナテ	灰白色(10Y R 7/1)				147	573
												42	
702	*	13.0	3.5	8.2	*	*	ナテ	灰白色(10Y R 8/2)				147	571
												—	
703	*	13.0	3.5	7.8	*	*	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				148	838
												—	
704	*	13.0	3.5	8.0	*	*	ナテ	灰白色(2.5Y 7/2)				148	264
												—	
705	*	12.6	3.5	8.5	*	*	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				148	605
												—	
706	*	12.0	3.5	8.0	*	*	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				148	580
												—	
707	*	13.8	3.4	9.0	*	*	ナテ	灰白色(7.5Y 8/2)				148	575
												—	
708	*	13.6	3.4	8.0	*	*	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				148	835
												—	
709	*	13.0	3.4	7.8	*	*	ナテ	灰白色(7.5Y R 8/2)				148	864
												—	
710	*	13.0	3.4	7.0	*	*	ナテ	灰白色(10Y R 8/1)				148	125
												—	
711	*	12.8	3.4	7.4	*	*	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				148	590
												—	
712	*	13.0	3.4	6.8	*	*	ナテ	灰白色(10Y 3 8/1)				148	579
												—	

表23. B地区出土遺物観察表(15)

遺物 No.	器種	口径	高さ	成形・調整等の特徴(上:内面, 下:外面)			色調	上:内面 下:外面	出土地	備考	押出 位置 No.	整理 No.
				口縁部	体部	底部						
713	土師器	12.7	3.4	4.0	ココナテ	ココナテ	ナテ 黒褐色切り、板圧痕	灰白色(10Y R 8/2)			145	574
714	"	17.6	3.4	7.4	"	"	ナテ 黒褐色切り、"	灰白色(2.5Y 8/2)			148	517
715	"	12.6	3.4	6.8	"	"	ナテ 黒褐色切り	灰白色(2.5Y 8/2)、黄灰色(2.5Y 8/1)			168	507
716	"	12.0	3.4	7.4	"	"	ナテ 黒褐色切り、板正痕	灰白色(2.5Y 8/2)			144	591
717	"	13.2	3.3	8.0	"	"	ナテ 黒褐色切り	灰白色(2.5Y 8/2)			149	842
718	"	13.2	3.3	7.4	"	"	ナテ 黒褐色切り	灰白色(10Y R 8/1)			169	726
719	"	13.0	3.3	7.4	"	"	ナテ 黒褐色切り	灰白色(2.5Y 8/2)			169	563
720	"	13.0	3.4	7.0	"	"	ナテ 黒褐色切り	灰白色(10Y R 8/2)			149	677
721	"	12.7	3.3	8.0	"	"	ナテ 黒褐色切り、板圧痕	灰白色(10Y R 8/1) * (10Y R 8/2)			149	683
722	"	12.4	3.3	7.0	"	"	ナテ 黒褐色切り、"	灰白色(2.5Y 8/2)、黄褐色(2.5Y 8/4)			149	556
723	"	12.2	3.2	7.2	"	"	ナテ 黒褐色切り、"	灰白色(2.5Y 8/2)、黄褐色(2.5Y 8/4)			149	613
724	"	12.0	3.5	7.3	"	"	ナテ 黒褐色切り	灰白色(2.5Y 8/2)			149	588
725	"	12.0	3.3	7.0	"	"	ナテ 黒褐色切り	灰白色(2.5Y 8/2)			149	763
726	"	12.0	3.3	6.9	"	"	ナテ 黒褐色切り、板圧痕	灰白色(10Y R 8/2)			149	124
727	"	11.4	3.3	7.0	"	"	ナテ 黒褐色切り、"	灰白色(10Y R 7/1)			149	839
728	"	11.3	3.3	7.4	"	"	ナテ 黒褐色切り、"	灰白色(5Y R 7/4・6/3) * (7.5Y R 7/3)、黄褐色(2.5Y R 7/4)			149	808
729	"	13.2	3.2	6.0	マノツ	マノツ	マノツ 黒褐色切り	灰白色(10Y R 7/1)			169	561
730	"	12.8	3.2	9.0	ココナテ	ココナテ	ナテ 黒褐色切り	黄褐色(7.5Y R 6/1・5/1) * (7.5Y R 5/1・5/2)			150	263
731	"	12.4	3.2	7.2	"	"	ナテ 黒褐色切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)			150	727
732	"	12.3	3.2	7.3	"	"	ナテ 黒褐色切り、"	灰白色(10Y R 8/1)			150	572
733	"	12.2	3.2	8.0	"	"	ナテ 黒褐色切り、"	灰白色(10Y R 8/2)			150	590
734	"	12.0	3.2	4.0	"	"	ナテ 黒褐色切り、"	灰白色(10Y R 8/2)			149	552
735	"	11.9	3.2	8.2	"	"	ナテ 黒褐色切り	灰白色(10Y R 8/1)			150	564
736	"	11.8	3.2	7.6	"	"	ナテ 黒褐色切り	灰白色(10Y R 8/2)			150	799
737	"	11.8	3.2	7.5	"	"	ナテ 黒褐色切り	黄褐色(7.5Y R 6/2・5/2) * (7.5Y R 6/2)			150	837
738	"	13.8	3.1	9.6	"	"	ナテ 黒褐色切り、板正痕	灰白色(2.5Y 8/2)			150	123
739	"	13.8	3.1	8.6	"	"	ナテ 黒褐色切り、"	黄褐色(2.5Y 8/3)			150	712
740	"	12.5	3.1	7.0	"	"	ナテ 黒褐色切り、"	灰白色(2.5Y 8/2)			150	653
741	"	11.9	3.1	8.0	"	"	ナテ 黒褐色切り	黄褐色(10Y R 8/3) 灰白色(10Y R 8/2)			150	589
742	"	12.0	3.0	7.4	"	"	ナテ 黒褐色切り	灰白色(2.5Y 8/2)			150	585
743	"	12.8	3.0	7.8	"	"	ナテ 黒褐色切り、板圧痕	黄褐色(10Y R 8/3)			150	723
744	"	12.4	3.0	7.6	"	"	ナテ 黒褐色切り、"	灰白色(2.5Y 8/2)			151	587
745	"	12.0	3.0	6.6	"	"	ナテ 黒褐色切り	灰白色(10Y R 8/2)			151	122
746	"	11.4	3.0	7.4	"	"	ナテ 黒褐色切り、板正痕	黄褐色(2.5Y 7/2)、黄灰色(2.5Y 5/1)			151	355

表24. B地区出土遺物観察表(6)

遺物 No	器種	口径	器高	底径	成形・修整等の特徴(上:内面, 下:外面)			色調	上:内面 下:外面	出土地	備考	押印 図版 No	整理 No
					口蓋部	胎部	底部						
747	大甕 鉢	13.0	2.9	8.6	ヨコナテ #	ヨコナテ #	ナテ # 回転糸切り、胎中面	淡黄色(2.5Y 8/3) #				151 —	872
748	"	12.0	2.9	7.0	"	"	ナテ # 回転糸切り、#	淡黄色(2.5Y 8/3) #				151 —	589
749	"	11.6	2.9	7.0	"	"	ナテ # 回転糸切り、#	灰白色(2.5Y 8/2)、淡灰色(2.5Y 6/1) #				151 —	834
750	"	11.2	2.9	7.2	"	"	ナテ # 回転糸切り、#	灰白色(2.5Y 8/2) #、明褐色(2.5Y 4/2)				151 —	567
751	"	12.8	3.8	7.0	"	"	ナテ # 回転糸切り、#	淡黄色(2.5Y 8/3) #、灰白色(2.5Y 8/2)				151 —	574
752	"	12.0	2.8	8.2	"	"	ナテ # 回転糸切り、#	にじみ黄褐色(10Y R 7/2) #				151 —	722
753	"	12.0	2.8	6.6	"	"	ナテ # 回転糸切り	灰白色(10Y R 6/1) #				151 —	590
754	"	12.6	2.6	7.6	"	"	ナテ # 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/2)、黄褐色(10Y R 3/1) # (2.5Y 8/2)、黄褐色(2.5Y 4/1)				151 —	396
755	"	12.0	2.6	7.2	"	"	ナテ # 回転糸切り、縦圧痕	にじみ黄褐色(10Y R 7/2) #、黄褐色(10Y R 6/2)、黄褐色(5Y R 7/1)				151 —	730
756	"	11.8	2.6	6.2	"	"	ナテ # 回転糸切り、#	灰白色(2.5Y 8/2) #				151 —	566
757	"	12.0	2.5	7.0	"	"	ナテ # 回転糸切り	灰白色(10Y R 6/1) #				151 —	558
758	"	12.0	3.2		"	"	ナテ # 拍摩痕	灰白色(2.5Y 8/3) #			手づ(お)	152 —	814
759	"	12.1 (3.3)			"	"	ナテ # 拍摩痕	灰白色(2.5Y 8/2)、淡灰色(2.5Y 6/3) #			#	152 —	667
760	"	12.6 (3.2)			"	"	ナテ # 拍摩痕	灰白色(10Y R 8/2) #			#	152 —	657
761	"	12.8	3.4		"	"	ナテ # 拍摩痕	灰白色(7.5Y R 8/2) #			#	152 —	706
762	"	13.0 (2.8)			"	"	ナテ # 拍摩痕	淡黄色(2.5Y 8/3) #			#	152 —	693
763	"	12.8 (2.8)			"	"	ナテ # 拍摩痕	灰白色(2.5Y 8/2)、灰白色(10Y R 7/1) #			#	152 —	674
764	"	13.0 (3.5)			"	"	ナテ # 拍摩痕	灰白色(10Y R 8/1) #			#	152 —	654
765	"	13.2 (2.7)			"	"	ナテ # 拍摩痕	灰白色(2.5Y 8/2) #、褐色(2.5Y 6/8)			#	152 —	802
766	"	13.2 (3.3)			"	"	ナテ # 拍摩痕	明褐色(5Y R 7/1) #			#	152 —	740
767	"	13.2	3.4		"	"	ナテ # 拍摩痕	黄褐色(2.5Y 5/3)、灰白色(2.5Y 8/2) #、明褐色(2.5Y 6/2)、# (2.5Y 7/1)			#	152 43	745
768	"	13.8	3.3		"	"	ナテ # 拍摩痕	灰白色(2.5Y 8/2) #			#	152 43	655
769	"	13.9 (3.2)			"	"	ナテ # 拍摩痕	灰白色(7.5Y 8/1) #			#	152 —	660
770	"	14.0 (2.9)			"	"	ナテ # 拍摩痕	灰白色(2.5Y 8/2) #			#	153 —	733
771	"	14.0	3.5		"	"	ナテ # 拍摩痕	灰白色(10Y R 6/1)、淡黄色(2.5Y 8/3) # (10Y R 8/2)			#	153 43	61
772	"	14.0 (3.5)			"	"	ナテ # 拍摩痕	灰白色(2.5Y 8/2) #			#	153 —	711
773	"	14.6 (3.6)			"	"	ナテ # 拍摩痕	灰白色(10Y R 8/2)、黒色(10Y R 2/1) # (7.5Y R 6/2)、黄褐色(7.5Y R 5/1)			#	153 —	781
774	"	16.0 (3.6)			"	"	ナテ # 拍摩痕	灰白色(N 8/) #			#	153 —	860
775	上陶器 皿	11.9	2.0	6.6	"	"	ナテ # 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/2) #				154 —	560
776	"	9.0	1.4	5.8	ナメツ #	ナメツ #	ナテ # 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) # (7.5Y 8/1)				154 —	815
777	"	9.4	1.8	5.0	ヨコナテ #	ヨコナテ #	ナテ # 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) #				154 —	493
778	"	9.2	1.4	6.4	"	"	ナテ # 回転糸切り	灰白色(10Y R 7/1)、黄褐色(10Y R 6/1) #				154 —	541
779	"	9.2	1.1	5.4	"	"	ナテ # 回転糸切り	灰白色(10Y R 6/1) #				154 —	497
780	"	9.0	1.7	5.7	"	"	ナテ # 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) #、褐色(2.5Y 6/6)				154 —	851

表25. B地区出土遺物観察表(17)

遺物 No	器種	口径	器高	底径	冠形・調整帯の特徴(上:内面, 下:外面)		色調	上:内面 下:外面	出土地	備考	検出 段階	整理 No
					口 頸 部	体 部						
793	十線型 甌	9.0	1.6	5.6	ココナテ	ココナテ	灰白色(10Y R 8/2)				154	544
792	甌	9.0	1.5	5.8	ナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				154	519
793	甌	9.0	1.5	5.4	ナテ	ナテ	灰白色(10Y R 8/2)				151	522
784	甌	9.0	1.1	6.0	ナテ	ナテ	灰白色(10Y R 8/1)				154	594
785	甌	8.9	1.4	6.0	ナテ	ナテ	灰白色(10Y R 8/2)				154	783
796	甌	8.8	1.8	4.8	ナテ	ナテ	灰白色(10Y R 7/1)				151	621
797	甌	8.8	1.5	5.8	ナテ	ナテ	灰白色(10Y R 8/2)				151	617
788	甌	8.8	1.5	5.9	ナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 8/1)				124	818
789	甌	8.8	1.4	5.4	ナテ	ナテ	灰白色(5Y 8/2)				154	498
790	甌	8.8	1.3	5.6	ナテ	ナテ	灰白色(7.5Y 8/2)				154	789
791	甌	8.8	1.2	5.6	ナテ	ナテ	灰白色(10Y R 8/1)				254	803
792	甌	8.8	1.2	5.0	ナテ	ナテ	淡紫棕色(7.5Y R 8/3) 緑灰色(7.5Y R 5/1)				151	852
793	甌	8.5	1.4	5.2	ナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 6/2)				154	777
794	甌	8.5	1.7	5.8	ナテ	ナテ	灰白色(10Y R 8/1)				154	796
795	甌	8.5	1.3	6.2	ナテ	ナテ	灰白色(10Y R 8/1)				154	577
796	甌	8.5	1.5	5.6	ナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				154	850
797	甌	8.3	1.5	6.0	ナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				151	536
798	甌	8.6	1.3	5.8	ナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)、黄灰色(7.5Y 6/1)				154	709
799	甌	8.1	1.4	5.5	ナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				154	853
800	甌	8.6	1.4	5.0	ナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				154	615
801	甌	8.6	1.2	5.0	ナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 7/1)				154	861
802	甌	8.5	1.5	5.8	ナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				151	863
803	甌	8.5	1.1	6.0	ナテ	ナテ	黄褐色(7.5Y R 7/2)				151	768
804	甌	8.6	1.3	6.5	ナテ	ナテ	灰白色(10Y R 8/2)				125	709
805	甌	8.4	1.7	6.1	ナテ	ナテ	灰白色(10Y R 8/2)				125	733
806	甌	8.1	1.5	5.2	ナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				151	490
807	甌	8.1	1.4	5.8	ナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)、黄灰色(2.5Y 6/1)				151	518
808	甌	8.4	1.1	5.6	ナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				151	485
809	甌	8.4	1.1	3.0	ナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				125	827
810	甌	8.4	1.3	6.0	ナテ	ナテ	灰白色(10Y R 8/2)				151	843
811	甌	8.4	1.3	5.4	ナテ	ナテ	灰白色(10Y R 8/1)				125	773
812	甌	8.4	1.3	5.0	ナテ	ナテ	緑色(7.5Y 2/2)、黄褐色(2.5Y 6/1)				43	481
813	甌	8.4	1.0	5.6	ナテ	ナテ	灰白色(2.5Y 8/2)				151	602
814	甌	8.4	1.1	6.2	ナテ	ナテ	黄褐色(10Y 2 6/1)				131	725

表26. B地区出土遺物観察表⑧

遺物 No.	種類	口径	高さ	底径	(形状・調整等の特徴(上:内面,下:外面))			色 調	上:内面 下:外面	出土地	番 考	測定 図版 No.	整理 No.
					口 縁 部	体 部	底 部						
813	土師器 上腹部	H.4	1.1	0.0	ツツナテ	ツツナテ	ナテ 回転糸切り	淡灰色(2.5Y 8/3) 灰白色(2.5Y 8/2)				155 —	— 493
816	"	8.2	1.5	5.4	"	"	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)			155 —	— 504	
817	"	8.3	1.4	5.4	"	"	ナテ 回転糸切り、"	灰白色(2.5Y 8/2)			155 —	— 504	
818	"	8.2	1.8	3.8	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2)			155 —	— 600	
819	"	8.2	1.7	5.8	"	"	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)			155 —	— 628	
820	"	8.2	1.6	5.2	"	"	ナテ 回転糸切り、"	灰白色(10Y 8/1)			136 —	— 781	
821	"	8.2	1.6	5.4	"	"	ナテ 回転糸切り、"	灰白色(10Y 8/2)			155 —	— 714	
822	"	8.2	1.5	5.6	"	"	ナテ 回転糸切り、"	灰白色(10Y 8/1)			155 —	— 531	
823	"	5.2	1.5	1.6	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(5Y 7/1)			105 —	— 724	
824	"	8.2	1.3	3.8	"	"	ナテ 回転糸切り、板圧痕	淡灰色(10Y 8/2) 灰白色(10Y 8/2)			136 —	— 492	
825	"	8.2	1.4	5.6	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y 7/1)			155 —	— 731	
826	"	8.2	1.4	5.2	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) 黄灰色(10Y 5/1)			155 —	— 501	
827	"	8.2	1.4	5.2	"	"	ナテ 回転糸切り、板圧痕	淡黄褐色(10Y 8/3)			135 —	— 510	
828	"	8.2	1.4	5.0	"	"	ナテ 回転糸切り、"	灰白色(10Y 8/1)			155 —	— 771	
829	"	8.2	1.3	5.2	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y 8/2)			155 —	— 530	
830	"	8.2	1.3	5.0	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y 8/1)			155 —	— 40	
831	"	8.2	1.3	3.2	"	"	ナテ 回転糸切り	淡黄褐色(10Y 8/3)、灰白色(10Y 8/2) 灰白色(10Y 8/1)			155 —	— 762	
832	"	8.2	1.2	5.6	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2) " (2.5Y 8/1)			155 —	— 603	
833	"	8.2	1.2	5.6	"	"	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10Y 8/2)			155 —	— 528	
834	"	8.2	1.1	6.0	"	"	ナテ 回転糸切り、"	灰白色(10Y 8/2)			155 —	— 513	
835	"	8.2	1.1	6.0	"	"	ナテ 回転糸切り、"	淡灰色(2.5Y 7/3) 灰黄色(2.5Y 6/2)			155 —	— 509	
836	"	8.7	1.7	5.6	"	"	ナテ 回転糸切り、"	黄褐色(7.5Y 8/1)、淡褐色(7.5Y 6/2)			155 —	— 819	
837	"	8.1	1.6	5.2	"	"	ナテ 回転糸切り	当降制(10Y 8/1)、淡黄褐色(10Y 8/2)			155 —	— 648	
838	"	8.1	1.5	5.0	"	"	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10Y 8/2) " (10Y 8/1)			155 —	— 512	
839	"	8.1	1.4	5.4	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y 8/2)			155 —	— 533	
840	"	8.1	1.2	5.4	"	"	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)			155 —	— 854	
841	"	8.0	1.2	5.0	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y 8/2) " (10Y 8/1)			136 —	— 511	
842	"	8.2	1.2	4.6	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y 8/2) 淡黄褐色(10Y 8/3)			155 —	— 494	
843	"	8.1	1.1	5.8	"	"	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)、淡黄褐色(5Y 8/4) " (7.5Y 8/1)、淡褐色(5Y 8/4)			155 —	— 793	
844	"	8.1	1.1	5.5	"	"	ナテ 回転糸切り	淡黄褐色(2.5Y 8/3)			136 —	— 502	
845	"	8.0	1.7	5.4	"	"	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(7.5Y 8/2)			155 —	— 831	
846	"	8.0	1.7	5.0	"	"	ナテ 回転糸切り	淡褐色(5Y 8/4) " (5Y 8/3)			155 —	— 783	
847	"	8.0	1.6	5.0	"	"	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y 8/1)			155 —	— 824	
828	"	8.0	1.5	5.6	"	"	ナテ 回転糸切り	淡色(2.5Y 8/2)			155 —	— 732	

表27. B地区出土遺物観察表09

遺物 No.	種類	口径	器高	器径	成形・調整等の特徴(上:内面, 下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	出土地	備考	押印 図録 No.	整理 No.
					口 縁 部	体 部	底 部						
820	土師器	8.0	1.5	4.8	コナナ	コナナ	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10Y R 8/2)、棕色(5Y R 7/6)				156 44	772
850	ナ	8.2	1.3	5.1	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り、ナ	灰白色(7.5Y R 8/2)			156	523	
851	ナ	8.0	1.4	5.2	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り、ナ	灰白色(7.5Y R 8/1) * (2.5Y 8/2)			156	825	
852	ナ	8.0	1.4	5.0	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り、ナ	褐色色(10Y R 6/1) L20・黄棕色(10Y R 7/2)、灰白色(10Y R 7/1)			156	508	
853	ナ	8.0	1.4	5.0	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り、ナ	黄灰色(2.5Y 6/1)			156	500	
854	ナ	8.0	1.4	5.0	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り、ナ	灰白色(10Y R 8/2)			156	735	
855	ナ	8.0	1.4	4.8	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り、ナ	灰白色(2.5Y 8/2)			156	795	
856	ナ	8.0	1.4	4.6	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り、ナ	灰白色(2.5Y 8/1) 棕色(5Y R 7/6)			156	830	
857	ナ	8.0	1.5	4.4	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/1)、褐色色(10Y R 5/1) *、灰白色(5Y R 8/2)			156	790	
858	ナ	8.0	1.3	6.6	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2)			156	798	
859	ナ	8.0	1.3	6.0	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10Y R 8/2)、黄灰色(10Y R 5/1) *、*			156	795	
860	ナ	8.0	1.3	6.0	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り、ナ	灰白色(2.5Y 8/2)			156 44	791	
861	ナ	8.0	1.3	6.0	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り	棕色(2.5Y R 7/6) *、灰白色(5Y R 8/2)			156	456	
862	ナ	8.4	1.3	5.6	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り	洗滌褐色(7.5Y R 8/3) 灰白色(7.5Y R 8/2)			156	867	
863	ナ	8.0	1.3	5.6	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り	洗滌褐色(7.5Y R 8/4) * (7.5Y 8/3)			156	818	
864	ナ	8.0	1.3	4.4	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) 洗滌色(2.5Y 8/3)			156	609	
865	ナ	8.0	1.3	5.0	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り	L20・黄棕色(10Y R 7/2)			156	521	
866	ナ	8.0	1.3	5.4	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2)			157	776	
867	ナ	8.0	1.3	5.3	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/2)			157	540	
868	ナ	8.0	1.3	5.8	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り、板圧痕	洗滌褐色(10Y R 8/3) *、洗滌褐色(10Y R 7/4)			157	782	
869	ナ	8.0	1.3	5.2	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/2)			157	621	
870	ナ	8.0	1.3	4.8	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(10Y R 8/1)			157	814	
871	ナ	7.8	1.3	5.5	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り	L20・黄棕色(10Y R 7/2)			157 44	806	
872	ナ	8.0	1.4	5.2	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り	洗滌色(2.5Y 8/3)			157	489	
873	ナ	8.0	1.2	3.8	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 7/1)			157	539	
874	ナ	8.2	1.2	5.6	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り、板圧痕	L20・洗滌色(10Y R 7/2)、褐色色(10Y R 4/1) 褐色色(10Y R 1/1)、灰白色(10Y R 8/1)			157 44	616	
875	ナ	8.0	1.2	5.6	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り、ナ	灰白色(10Y R 8/2) *、L20・褐色(10Y R 7/4)			157	509	
876	ナ	8.0	1.2	4.8	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/2)			157	600	
877	ナ	8.0	1.2	5.2	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/1)			157	707	
878	ナ	8.0	1.1	5.8	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2)			157	783	
879	ナ	8.0	1.1	5.7	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/2) * (10Y R 8/1)			157 44	805	
880	ナ	8.0	1.1	5.4	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2) *、黄灰色(2.5Y 5/1)			157	545	
881	ナ	8.1	1.1	5.4	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/1)			157	614	
882	ナ	8.0	1.1	5.2	ナ	ナ	ナテ 回転糸切り、板圧痕	灰白色(2.5Y 8/2)			157	607	

表28. B地区出土遺物観察表20

遺物 No	器種	口径	器高	底径	成形・調整等の特徴(上:内面, 下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	出土地	備考	検出 段階	整理 No.
					口 縁 部	体 部	底 部						
983	土師器 罎	8.0	1.1	5.2	ナテ #	コシナテ #	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/2)				157	020
984	#	8.0	1.1	5.2	#	#	ナテ 回転糸切り、縦圧痕	灰白色(7.5Y 8/2)				157	496
985	#	8.0	1.1	5.2	#	#	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/2)、 黄褐色(10Y R 8/3)				157	515
986	#	8.0	1.1	5.0	#	#	ナテ 回転糸切り、腕圧痕	灰黄色(2.5Y 7/3)				157	507
987	#	8.0	1.0	6.0	#	#	ナテ 回転糸切り、#	灰白色(5Y 8/2)				157	516
988	#	8.0	1.0	5.1	#	#	ナテ 回転糸切り、#	SiO ₂ 黄褐色(10Y R 7/7)				157	537
989	#	8.0	0.9	3.8	#	#	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2)				157	830
990	#	7.9	1.4	6.1	#	#	ナテ 回転糸切り、腕圧痕	淡青色(2.5Y 8/3) 灰白色(10Y R 8/2)				157	519
991	#	8.0	1.4	5.2	#	#	ナテ 回転糸切り	にぶい黄褐色(10Y R 7/2)				157	797
992	#	7.5	1.3	5.0	#	#	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/1)				157	542
993	#	8.0	1.0	5.8	#	#	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/2)				157	809
994	#	8.6	1.7	6.4	#	#	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2)、黄褐色(2.5Y 6/1)				157	786
995	#	7.8	1.2	4.6	#	#	ナテ 回転糸切り	にぶい藍色(7.5Y 7/4)、黄褐色(7.5Y 8/2)				157	621
996	#	7.8	1.6	3.2	#	#	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2)				157	612
997	#	7.8	1.6	5.4	#	#	ナテ 回転糸切り、腕圧痕	黄褐色(7.5Y 6/1)、黄褐色(7.5Y 8/1) 灰白色(7.5Y 8/2)、#				157	788
998	#	7.9	1.5	5.2	#	#	ナテ 回転糸切り、#	灰白色(7.5Y 8/2)				157	530
999	#	8.0	1.4	5.6	#	#	ナテ 回転糸切り	にぶい藍色(7.5Y R 7/3) 、淡褐色(7.5Y 8/2)				158	517
900	#	8.0	1.1	5.0	#	#	ナテ 回転糸切り、縦圧痕	淡黄色(2.5Y 7/3)				158	702
901	#	7.8	1.4	5.2	#	#	ナテ 回転糸切り、#	灰白色(2.5Y 8/2) # (10Y R 8/1)				158	601
902	#	7.8	1.4	3.2	#	#	ナテ 回転糸切り、#	灰白色(2.5Y 8/2)				158	826
903	#	7.8	1.5	5.2	#	#	ナテ 回転糸切り、#	灰白色(10Y R 8/2)				158	856
904	#	7.8	1.4	5.0	#	#	ナテ 回転糸切り、#	灰白色(10Y R 8/1)				158	829
905	#	7.9	1.4	5.0	#	#	ナテ 回転糸切り、#	灰白色(7.5Y 8/2)、灰黄色(2.5Y 7/2) (2.5Y 8/1)、黄褐色(7.5Y 6/1)				158	548
906	#	7.8	1.4	4.3	#	#	ナテ 回転糸切り、#	灰白色(7.5Y R 8/2) (7.5Y 8/1)、藍色(7.5Y R 7/6)				158	608
907	#	8.2	1.4	5.0	#	#	ナテ 回転糸切り、#	灰白色(2.5Y 8/2)				158	806
908	#	7.8	1.3	5.6	#	#	ナテ 回転糸切り	M白色(10Y R 8/2) # (10Y 8/1)				158	535
909	#	8.0	1.3	5.6	#	#	ナテ 回転糸切り、腕圧痕	灰白色(10Y R 8/2) # (10Y R 8/1)				158	499
910	#	7.8	1.3	5.4	#	#	ナテ 回転糸切り、#	灰白色(2.5Y 8/2)				158	526
911	#	7.8	1.3	3.0	#	#	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2)				158	729
912	#	7.8	1.3	5.0	#	#	ナテ 回転糸切り、縦圧痕	灰白色(10Y R 8/2)				44	828
913	#	7.8	1.3	5.0	#	#	ナテ 回転糸切り、#	灰白色(2.5Y 8/2) (2.5Y 8/1)				158	817
914	#	7.8	1.3	4.8	#	#	ナテ 回転糸切り	灰白色(10Y R 8/2)				158	787
915	#	7.8	1.3	4.7	#	#	ナテ 回転糸切り	灰白色(2.5Y 8/2)				158	535
916	#	7.8	1.2	5.6	#	#	ナテ 回転糸切り、腕圧痕	淡黄色(2.5Y 8/3)				158	611

表30. B地区出土遺物観察表22

遺物 No.	器 種	口径	器高	底径	成形・製造の特徴(上:内面, 下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	出土 地	備 考	押印 図版	整理 No.
					口 縁 部	体 部	底 部						
951	土師器 皿	7.9	1.7		ココナテ	ヨコナテ	ナテ 縁拍直	灰白色(2.5Y 8/2)			手づ(土)	161 45	706
952	"	7.9	1.8		"	"	ナテ 縁拍直	淡黄色(2.5Y 8/3) 灰白色(2.5Y 8/2)			"	161 45	693
953	"	8.0	1.7		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(2.5Y 8/2)			"	161	681
954	"	5.0	1.3		"	"	ナテ 縁拍直	にじみ褐色(7.5Y R 7/2)			"	161	431
955	"	8.0	1.3		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(10Y 8/2)			"	161	686
956	"	8.0	1.5		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(3.5Y 8/2)			"	161	801
957	"	8.0	1.6		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(2.5Y 8/2)			"	161 45	669
958	"	8.0	1.5		"	"	ナテ 縁拍直	淡黄色(2.5Y 8/3) にじみ赤(7.5Y 3/4)			"	161 45	682
959	"	8.0	1.6		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(7.5Y 8/1)			"	161	659
960	"	8.0	1.6		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(5Y 8/2)	灰白色(5Y 6/1)		"	161	701
961	"	8.0	1.6		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(2.5Y 8/2)			"	161	696
962	"	8.0	1.7		"	"	ナテ 縁拍直	淡黄色(2.5Y 8/3) 灰白色(2.5Y 8/2), 黄色(7.5Y 7/6)			"	161	734
963	"	8.0	1.7		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(7.5Y 8/2) " (10Y 8/2)			"	161	664
964	"	8.0	1.7		"	"	ナテ 縁拍直	淡黄色(2.5Y 8/3) " (10Y 8/1)			"	161	698
965	"	8.0	1.8		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(7.5Y 8/2), 褐色(7.5Y 5/1)			"	161	805
966	"	8.0	1.9		"	"	ナテ 縁拍直	淡黄色(3Y R 3/2), 褐色(7.5Y 8/1)			"	161	587
967	"	8.0	1.8		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(2.5Y 8/2)			"	161 45	705
968	"	8.1	1.9		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(7.5Y 8/1)			"	161 45	697
969	"	8.2	(1.6)		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(7.5Y 8/1)			"	161	704
970	"	6.2	1.2		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(10Y 8/1)			"	161	677
971	"	8.2	1.6		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(3.5Y 8/2) " 淡黄色(2.5Y 5/1)			"	161 45	680
972	"	8.2	1.6		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(10Y 8/1)			"	161 45	661
973	"	8.2	1.7		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(10Y 8/1)			"	161	691
974	"	8.3	1.7		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(10Y 8/2)			"	161	885
975	"	8.2	(1.8)		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(2.5Y 8/2)			"	161	672
976	"	8.3	0.9		"	"	ナテ 縁拍直	淡黄色(7.5Y 8/4)			"	161	806
977	"	8.3	1.5		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(2.5Y 8/2)			"	161	679
978	"	8.3	1.6		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(7.5Y 8/2)			"	161 45	683
979	"	8.2	1.7		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(10Y 8/2) にじみ褐色(10Y 7/2)			"	161	738
980	"	8.4	(1.4)		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(7.5Y 8/1) " (2.5Y 8/2), にじみ褐色(7.5Y 3/4)			"	161	703
981	"	8.4	(1.6)		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(10Y 8/2)			"	161	807
982	"	8.4	1.4		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(2.5Y 8/1) 淡黄色(2.5Y 3/1)			"	161	676
983	"	8.4	1.6		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(10Y 8/1)			"	161	741
984	"	8.4	1.5		"	"	ナテ 縁拍直	灰白色(7.5Y 8/1)			"	161	685

表31. B地区出土遺物観察表23

遺物 No.	種類	口径	口径	高さ	成形・調整等の特徴(上:内面, 下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	出土地	備考	検出 位置	整理 No.
					口 頸 部	体 部	底 部						
985	土器 高足	8.4	1.5		ココナア	ココナア	ナテ 指環痕	灰白色(2.5Y 8/1) * (2.5Y 8/2)		手づくわ		162	737
986	土器 高足	8.4	1.6		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(10Y R 8/2)		*		162	311
987	土器 高足	8.2	1.5		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(10Y R 7/1) 底黄褐色(10Y R 6/2)		*		162	738
988	土器 高足	8.4	1.8		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(2.5Y 8/2)		*		162	756
989	土器 高足	8.2	1.0		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(2.5Y 8/2)		*		162	674
990	土器 高足	8.4	1.9		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(2.5Y 8/2)		*		163	853
991	土器 高足	8.5	1.6		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(7.5Y 8/2)		*		162	743
992	土器 高足	8.5	1.6		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(7.5Y 8/2)		*		163	680
993	土器 高足	8.5	1.6		*	*	ナテ 指環痕	黄褐色(2.5Y 8/3) 灰白色(2.5Y 8/2)		*		162	685
994	土器 高足	8.6	1.2		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(10Y R 8/2) * (10Y R 8/1)		*		162	658
995	土器 高足	8.6	1.3		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(2.5Y 8/2)		*		162	602
996	土器 高足	8.6	(1.6)		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(2.5Y 8/2) * 灰白色(2.5Y 7/3)		*		162	692
997	土器 高足	8.6	1.9		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(10Y R 7/1); C2a黄褐色(10Y R 7/2) * (10Y R 7/1・7/1)		*		162	744
998	土器 高足	8.7	1.8		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(7.5Y 8/1)		*		162	636
999	土器 高足	8.8	1.4		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(2.5Y 8/1)		*		162	715
1000	土器 高足	8.8	1.5		*	*	ナテ 指環痕	黄褐色(7.5Y 8/4/1) 灰白色(10Y R 8/1); 黄褐色(10Y R 6/1)		*		162	760
1001	土器 高足	8.8	(1.5)		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(10Y R 7/1)		*		162	763
1002	土器 高足	8.8	1.6		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(10Y R 6/1); C2a黄褐色(5Y R 7/4)		*		162	764
1003	土器 高足	8.8	1.6		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(10Y R 8/1) * (10Y R 8/2)		*		162	653
1004	土器 高足	8.8	1.7		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(10Y 8/2)		*		162	736
1005	土器 高足	8.8	1.6		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(2.5Y 8/2)		*		162	673
1006	土器 高足	9.0	(1.5)		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(10Y R 8/1)		*		162	738
1007	土器 高足	8.9	(1.3)		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(7.5Y 8/1) 黄褐色(7.5Y 8/1)		*		162	747
1008	土器 高足	9.0	(1.5)		*	*	ナテ 指環痕	灰白色(3Y 8/2) * 黄褐色(7.5Y 7/8)		*		162	683
1009	土器 高足	(1.3)	(6.4)		/	/	ワメツ 貼付高台	黄褐色(2.5Y 5/1) 灰白色(2.5Y 8/2)		内裏		163 45	856
1010	土器 高足	(2.0)	(5.4)		/	/	ナテ ワメツ 貼付高台	黄褐色(7.5Y 8/3) *				164	876
1011	土器 高足	(1.3)	(6.3)		/	/	ワメツ 貼付高台	灰白色(2.5Y 8/2)				164	646
1012	土器 高足	(1.4)	(6.4)		/	/	ワメツ 貼付高台	黄褐色(7.5Y 8/3)				163	643
1013	土器 高足	(1.9)	(6.5)		/	/	ナテ ワメツ 貼付高台	灰白色(10Y R 8/1)				163 45	649
1014	土器 高足	(1.1)	(5.4)		/	/	ナテ ワメツ 貼付高台	黄褐色(10Y R 6/2); C2a黄褐色(10Y R 7/2) C4a黄褐色(10Y R 7/2)				163 45	642
1015	土器 高足	(1.6)	(5.0)		/	/	ワメツ 貼付高台	黄褐色(10Y R 8/3) C4a黄褐色(10Y R 7/2)				163	710
1016	土器 高足	(1.4)	(5.7)		/	/	ワメツ 貼付高台	灰白色(7.5Y 8/1)				163	617
1017	土器 高足	(1.9)	(6.3)		/	/	ワメツ 貼付高台	黄褐色(7.5Y 8/3)				164	746
1018	土器 高足	(2.4)	5.7		/	/	ナテ 貼付高台	灰白色(10Y R 8/1) 黄褐色(10Y R 8/3)				163 45	650

表32. B地区出土遺物観察表④

遺物 No.	種	口径	高さ	底径	成形・調整等の特徴(上:内面, 下:外面)			色 質	上:内面 下:外面	出土地	備考	発掘 図録 No.	整理 No.
					口 縁 部	側 面	底 部						
1019	十部器 板	13.0	3.6	(3.0)	ナデ ワメツ	ナデ 指環痕	ナデ 貼付痕	灰白色(2.5Y 8/2)				163 45	648
1020	五、器 柄	13.7	4.0	(3.4)	ヨコナデ *	ミガキ 指環痕	ワメツ 貼付痕	暗灰色(N 3 /) * 灰白色(2.5Y 8/1)				164 46	632
1021	*	13.9	4.3	(4.7)	*	ミガキ 指環痕	ワメツ 貼付痕	黒色(2.5Y 7/1)				164 —	39
1022	*	14.0	3.6	(4.0)	ワメツ *	ワメツ 指環痕	ワメツ 貼付痕	灰白色(7.5Y 8/1)、灰色(N 5 /) *(N 8 /)				164 —	628
1023	*	14.0	4.0	(4.0)	ナデ ヨコナデ	ミガキ 指環痕	ワメツ 貼付痕	灰白色(7.5Y 8/1) *				164 —	631
1024	*	14.0	4.0	(4.0)	ワメツ ヨコナデ	ワメツ 指環痕	ワメツ 貼付痕	灰色(N 6 /) *(R 4 /)				164 —	739
1025	*	14.4	3.4	(3.4)	ワメツ ヨコナデ	ワメツ 指環痕	ミガキ 貼付痕	灰色(N 7 /)				164 —	803
1026	*	14.4	4.4	(3.3)	ヨコナデ、ミガキ *	ミガキ 指環痕	ミガキ 貼付痕	黒褐色(10Y R 3/1) 暗灰色(10Y R 6/1)				165 62	40
1027	*	14.6	4.1	(3.8)	ワメツ ヨコナデ	ワメツ 指環痕	ワメツ 貼付痕	黒褐色(10Y R 3/1) *				165 —	625
1028	*	14.8	3.9	(4.2)	ナデ ヨコナデ	ミガキ 指環痕	ミガキ 貼付痕	オリーブ黒色(5Y 3/1) 灰色(5Y 4/1)				165 —	633
1029	*	15.0	3.5	(3.2)	ナデ ヨコナデ	ミガキ 指環痕	ワメツ 貼付痕	灰白色(N 8 /) 暗灰色(N 3 /)				165 —	627
1030	*	15.0	3.9	(4.5)	ナデ ヨコナデ	ミガキ 指環痕	貼付痕	黒褐色(10Y R 4/1)、黒灰色(10Y R 3/1) *(10Y R 4/1-5/3)、*				165 46	635
1031	*	15.1	3.7	(3.6)	ヨコナデ、ミガキ *	ミガキ 指環痕	ミガキ 貼付痕	暗灰色(N 3 /)				165 —	3
1032	*	15.2	3.4	(4.6)	ナデ ヨコナデ	ミガキ 指環痕	ナデ 貼付痕	オリーブ黒(5Y 3/1) *				165 —	889
1033	*	15.2	3.8	(5.0)	ワメツ ヨコナデ	ワメツ 指環痕	ワメツ 貼付痕	暗灰色(N 3 /) *				165 —	5
1034	*	15.3	4.0	(4.7)	ワメツ ヨコナデ	ワメツ 指環痕	ワメツ 貼付痕	灰色(N 2 /) 灰白色(10Y 8/1)				165 46	11
1035	*	15.4	4.3	(4.2)	ナデ、ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指環痕	ミガキ 貼付痕	暗灰色(N 3 /) 灰白色(7.5Y 8/1)、暗灰色(N 3 /)				165 12	12
1036	*	17.2	5.0	(3.6)	ワメツ ヨコナデ	ワメツ 指環痕	ワメツ 貼付痕	RO5(5Y 4/1)、オリーブ黒(5Y 3/1) *				165 —	637
1037	*	13.2	(3.5)	/	*	ミガキ 指環痕	/	灰色(5Y 4/1) *				165 —	629
1038	*	13.2	(4.3)	/	ナデ、ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指環痕	/	黒褐色(10Y R 3/1)				165 —	750
1039	*	13.6	(4.8)	/	ワメツ ヨコナデ	ワメツ 指環痕	/	黒褐色(10Y R 3/1)、暗灰色(10Y R 6/1) 灰白色(2.5Y 8/2)				165 —	633
1040	*	13.8	(3.3)	/	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指環痕	/	灰白色(N 8 /) *、暗灰色(N 3 /)				166 —	846
1041	*	14.0	(3.2)	/	ナデ ヨコナデ	ミガキ 指環痕	/	灰色(N 6 /) 灰白色(7.5Y 8/1)、灰色(7.5Y 5/1)				166 46	813
1042	*	14.0	(3.2)	/	ナデ ヨコナデ	ミガキ 指環痕	/	灰白色(2.5Y 8/1) *				166 —	754
1043	*	14.0	(3.2)	/	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指環痕	/	灰白色(N 8 /)、灰色(N 4 /)				166 —	728
1044	*	14.0	(3.5)	/	ワメツ ヨコナデ	ワメツ 指環痕	/	暗灰色(5Y 8/1)、灰白色(10Y R 1/1) 灰白色(10Y 8/2)、灰色(N 4 /)				166 46	847
1045	*	14.0	(3.5)	/	ワメツ ヨコナデ	ワメツ 指環痕	/	灰色(5Y 4/1) *				166 —	800
1046	*	13.9	(3.7)	/	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指環痕	/	灰白色(2.5Y 8/1) *、灰色(N 3 /)				166 —	759
1047	*	14.8	(3.6)	/	ワメツ ヨコナデ	ワメツ 指環痕	/	灰白色(2.5Y 8/2)、暗灰色(2.5Y 5/1) 灰色(N 4 /)				166 —	631
1048	*	14.8	(3.7)	/	ナデ ヨコナデ	ミガキ 指環痕	/	灰白色(5Y 8/2)、灰色(5Y 6/2) *				166 —	622
1049	*	15.0	(3.2)	/	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指環痕	/	灰色(N 6 /)				166 —	749
1050	*	15.0	(3.6)	/	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指環痕	/	オリーブ黒色(5Y 3/1)				166 —	630
1051	*	15.6	(4.0)	/	ミガキ ヨコナデ	ミガキ 指環痕	/	黒色(10Y R 2/1) *				166 —	626
1052	*	(1.1)	(3.4)	/	ワメツ *	ワメツ 貼付痕	/	灰白色(N 7 /)				166 —	844

表33. B地区出土遺物観察表25

遺物 No.	種 類	口径	口径	底径	成形・調整等の特徴(上:内面, 下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	出土地	備考	編年 整理 No.	
					口 縁	底 部	底 部						
1053	瓦 瓦 筒	10.0	3.5	4.5	ヨコナテ *	ヨコナテ タテハテ *	ナテ *	灰白色(10Y R 4/1・5/1)				166 46	73
1054	瓦 瓦 鉢	13.9	3.5		*	ヨコナテ *, 指環状 *	ナテ *	灰白色(10Y R 6/1)				167 46	305
1055	*	14.0	3.2		*	*	ナテ 指環状 *	灰白色(2.5Y 4/1), 黒褐色(2.5Y 3/1)				167 ---	751
1056	瓦 瓦 蓋	7.6	(1.7)		*	*	ナテ 指環状 *	暗灰色(N 3/)				168 ---	638
1057	*	7.8	1.6		*	*	ナテ 指環状 *	灰色(N 5/1) *(N 6/1)				168 ---	640
1058	*	8.0	(1.2)		*	*	ナテ 指環状 *	灰色(N 5/)				168 ---	752
1059	*	8.0	1.6		*	*	ナテ 指環状 *	暗褐色(N 3/)				168 ---	813
1060	*	8.0	1.3		マメツ ヨコナテ	マメツ ヨコナテ, 指環状	マメツ 指環状	灰白色(N K/) 灰色(N 6/)				168 ---	641
1061	*	8.2	1.2		ヨコナテ *	*	ナテ 指環状 *	灰白色(5Y 4/1)				168 ---	642
1062	*	8.2	1.4		*	*	ナテ 指環状 *	褐色(7.5Y 2/1)				168 47	634
1063	*	6.3	1.2		*	*	ナテ 指環状 *	暗灰色(N 3/)				168 47	2
1064	*	8.4	1.3		*	*	ナテ 指環状 *	灰色(5Y 4/1) *(5Y 5/1)				168 ---	644
1065	*	8.6	1.3		*	*	ナテ 指環状 *	灰色(N 5/) *(N 4/)				168 47	639
1066	*	8.8	1.5		*	*	ナテ 指環状 *	青灰色(5P R 5/1), 灰白色(N K/)				168 47	809
1067	*	8.8	1.5		*	*	ナテ 指環状 *	灰白色(3.5/) *, 灰色(N 6/)				168 ---	636
1068	土師器 小笠	1.3	5.9	4.9	ナテ *	ナテ *	ナテ 指環状 *	灰白色(2.5Y R 7/2)				169 47	1
1069	土師器 土鉢	39.0	(5.7)		ヨコナテ ヨコナテ	ヨコナテ ナテ, 指環状	ナテ *	灰白色(2.5Y 4/1) 黒褐色(2.5Y 3/1)				170 58	802
1070	*	39.4	(5.5)		マメツ ヨコナテ	マメツ ヨコナテ, *	マメツ *	にじみ褐色(7.5Y 5/4) *(7.5Y 4/3)				170 ---	874
1071	*	39.2	(9.2)		ヨコナテ ヨコナテ, タテハテ	ナテ, ヨコナテ ナテ, タテハテ, ヨコナテ	ナテ *	灰白色(2.5Y 7/2) 赤褐色(10Y R 3/1), 黒褐色(10Y B 4/2) 黒褐色(2.5Y 3/1), 灰褐色(7.5Y 6/2) にじみ茶褐色(10Y R 4/3) 黄褐色(10Y R 6/2), 赤色(10Y R 2/1)				170 58 170 58	807
1072	*	34.0	(5.3)		マメツ *	マメツ *	マメツ *	褐色(7.5Y R 6/6) *, 黒色(7.5Y R 2/1)				171 58	800
1073	*	38.0	(3.3)		ナテ *	ナテ *	ナテ *	褐色(7.5Y R 6/6) *, 黒色(7.5Y R 2/1)				171 58	800
1074	*	37.4	(2.7)		ヨコナテ *	ナテ *	ナテ *	にじみ褐色(5Y R 6/3) にじみ褐色(5Y R 3/3), 赤褐色(5Y R 2/1)				171 ---	878
1075	*	37.0	(6.9)		ヨコナテ ナテ	マメツ *	マメツ *	にじみ褐色(7.5Y R 7/3) 暗褐色(7.5Y R 7/3)				171 ---	868
1076	*	39.0	(5.8)		ヨコナテ ヨコナテ	ヨコナテ タテハテ	ナテ *	にじみ褐色(7.5Y R 6/6)				171 58	877
1077	*	33.0	(3.4)		マメツ *	マメツ *	マメツ *	灰青褐色(10Y R 6/2)				171 ---	887
1078	*	30.6	(5.2)		ヨコナテ *	ヨコナテ タテハテ	ナテ *	灰白色(2.5Y R 7/2)				172 48	884
1079	*	37.6	(6.2)		ヨコナテ ヨコナテ	ヨコナテ マメツ	ナテ *	にじみ褐色(5Y R 7/3) にじみ褐色(2.5Y R 5/4), 暗褐色(10Y R 5/1)				172 46	875
1080	*	32.0	(4.3)		ヨコナテ ヨコナテ, タテハテ	ヨコナテ タテハテ	ナテ *	黄褐色(10Y R 6/6) 黒褐色(10Y R 2/2)				172 48	51
1081	*	38.0	(3.6)		ヨコナテ マメツ	マメツ *	マメツ *	にじみ黄褐色(10Y R 6/6) 黄褐色(2.5Y 5/2)				172 ---	870
1082	*	36.0	(3.9)		ヨコナテ ヨコナテ	ナテ *	ナテ *	褐色(7.5Y R 4/4) *, 黒褐色(10Y R 2/2)				172 58	891
1083	*	38.0	(1.0)		ヨコナテ タテハテ	ヨコナテ タテハテ	ナテ *	黄褐色(10Y R 6/2), 暗褐色(10Y R 4/1) 赤褐色(10Y R 3/1)				172 ---	879
1084	*	37.0	(11.5)		ヨコナテ ナテ, タテハテ	ヨコナテ タテハテ	ナテ *	にじみ黄褐色(10Y R 7/2) 暗褐色(7.5Y R 7/1)				172 46	881
1085	*	37.0	(9.0)		ヨコナテ タテハテ	ヨコナテ タテハテ	ナテ *	赤褐色(7.5Y R 4/2), 黄褐色(7.5Y R 7/2)				174 48	746
1086	*	39.6	(11.3)		ヨコナテ タテハテ	ヨコナテ タテハテ	ナテ *	灰白色(2.5Y R 7/2) 灰褐色(7.5Y R 4/2)				174 48	42

表34. B地区出土遺物観察表

遺物 品名	種類	口径	高さ	直径	成形・調整の特徴(上:内底, 下:外底)			色調	上:内底 下:外底	出土地	備考	浮田 図番	整理 No
					口縁部	生部	底部						
1087	十師百 十蓋	✓	(7.8)	3.4	✓	ココナテ ナテ	ココナテ ナテ	灰褐色(7.5Y R 7/4) 黄褐色(7.5Y R 12/1)				175	896
1088	〃	✓	(6.3)	3.0	✓	ナテ	ナテ	灰褐色(7.5Y R 6/3), 灰褐色(7.5Y R 3/2)				175	895
1089	〃	22.4	(6.4)	✓	ココナテ ココナテ	ココナテ ココナテ, 調整付	ココナテ ナテ	灰褐色(7.5Y R 5/4)				175	37
1090	〃	21.0	(3.0)	✓	〃	ココナテ ココナテ	〃	灰褐色(10Y 1.8/3) 黄褐色(10Y R 2/1)				175	873
1091	〃	25.4	(3.0)	✓	〃	〃	〃	灰褐色(10Y R 7/3) (10Y R 7/4), 黄褐色(10Y R 3/1)				175	890
1092	〃	22.6	(7.2)	✓	ココナテ	ココナテ マノツ	〃	灰褐色(7.5Y R 6/6)				175	14
1093	〃	22.0	(3.3)	✓	〃	ココナテ	〃	褐色(7.5Y 6/6) 黄褐色(7.5Y R 1.7/1)				175	34
1094	〃	16.0	(5.1)	✓	〃	〃	〃	灰褐色(5Y R 5/4) 灰褐色(5Y R 3/1)				175	866
1095	〃	21.7	(7.6)	✓	ココナテ ココナテ	ココナテ ココナテ	〃	灰褐色(2.5Y 3/6), 灰褐色(7.5Y R 5/3) 黄褐色(2.5Y 3/3)				175	871
1096	〃	20.4	(3.7)	✓	〃	ココナテ ココナテ	〃	灰褐色(10Y R 6/2) 灰褐色(7.5Y R 4/2), 黄褐色(7.5Y R 2/1)				175	870
1097	曹公 蓋	✓	✓	ナテ	ナテ	タテハテ ココナテ	ナテ	灰褐色(5Y R 7/4) 黄褐色(5Y R 3/2)				177	35
1098	瓦 上蓋	✓	(16.9)	最大径 27.3	✓	マノツ	ナテ	灰白色(N 8/) 灰白色(N 4/)				178	899
1099	瓦 蓋	21.0	(7.0)	✓	ココナテ	ココナテ 格子印込	ナテ	黄褐色(N 3/)				179	28
1100	〃	✓	(6.2)	13.0	✓	ココナテ 格子印込	ナテ	灰色(N 5/) 〃				179	925
1101	曹公 板	✓	(1.3)	(7.0)	✓	ココナテ	ナテ	灰白色(N 8/) 〃				179	292
1102	〃	✓	(1.6)	(5.9)	✓	〃	ナテ	灰白色(N 8/) 調整糸切り、〃				179	294
1103	〃	✓	(1.4)	(5.0)	✓	〃	ナテ	灰白色(N 8/) 〃				179	293
1104	曹公 蓋	22.4	(4.2)	✓	ココナテ	格子印込	ナテ	黄褐色(10Y R 6/1) 灰白色(10Y R 7/1)				180	481
1105	〃	✓	(4.5)	19.0	✓	ナテ	ナテ	灰白色(N 6/) 〃				180	933
1106	〃	✓	(6.6)	✓	ココナテ	ココナテ	〃	灰褐色(5Y R 6/1)				180	931
1107	〃	✓	(12.8)	✓	ナテ	ナテ	〃	灰褐色(5Y R 6/2) 灰褐色(5Y R 3/3)				180	934
1108	〃	✓	(6.9)	✓	ナテ	格子印込	ナテ	灰白色(N 7/) 〃 (N 8/)				180	932
1109	〃	✓	(6.8)	✓	ナテ	平行印込	ナテ	灰色(N 6/) 〃				180	937
1110	曹公 上蓋	✓	(3.6)	7.3	✓	ココナテ	ナテ	黄褐色(5P 6/1)				181	906
1111	〃	✓	(3.0)	7.8	✓	〃	〃	灰白色(N 7/) 〃				181	908
1112	〃	✓	(5.0)	9.2	✓	〃	〃	灰色(N 6/) 調整糸切り、〃				181	904
1113	〃	✓	(5.5)	✓	ココナテ	〃	〃	灰白色(N 8/)				181	884
1114	〃	31.0	(6.0)	✓	〃	〃	〃	灰白色(N 7/) 調整糸				181	905
1115	〃	✓	(4.9)	✓	〃	〃	〃	灰色(N 6/) 〃 (N 7/), 黄褐色(N 5/)				182	930
1116	〃	✓	(4.4)	✓	〃	〃	〃	灰白色(N 7/) 〃, 灰色(N 6/)				182	911
1117	〃	✓	(3.4)	✓	〃	〃	〃	灰白色(5Y 7/1) 〃 (5Y R 2/2)				182	911
1118	〃	✓	(3.4)	✓	〃	〃	〃	灰白色(N 8/) 〃, 灰色(N 5/)				182	910
1119	〃	✓	(2.7)	✓	〃	〃	〃	灰白色(2.5Y 7/1) 〃				182	921
1120	〃	✓	(4.7)	✓	〃	〃	〃	灰白色(N 7/) 〃				182	913

表35. B地区出土遺物観察表

遺物 No.	器種	口径	器高	底径	成形・調整の特徴(上:内面, 下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	出土地	備 考	採収 回数	整理 No.
					口 頸 部	体 部	底 部						
1121	灰青器 小鉢	✓	(3.3)	✓	ココナテ	ココナテ	✓	灰色(N 6 /)				182 50	923
1122	*	✓	(4.7)	✓	*	*	✓	灰白色(N 7 /)				182 50	922
1123	*	20.4	(5.0)	✓	*	*	✓	灰白色(N 8 /)				182 50	936
1124	*	30.0	(7.5)	✓	*	*	✓	灰白色(N 7 /) * 灰色(N 5 /)				182 50	900
1123	*	28.4	(3.5)	✓	*	*	✓	青灰色(S P B 6 / 1)				182 30	897
1125	*	✓	(5.1)	✓	*	*	✓	陶青灰色(S P B 7 / 1)				183 30	917
1127	*	✓	(5.4)	✓	*	*	✓	陶青灰色(S P B 7 / 1) 青灰色(S P B 6 / 1)				183 30	913
1128	*	29.0	(5.4)	✓	*	*	✓	灰色(N 6 /)				183 20	898
1129	*	(2.3)	✓	✓	*	*	✓	灰色(N 6 /) * 灰色(N 4 /)				183 —	925
1130	*	28.0	(3.7)	✓	*	*	✓	灰色(N 5 /)、灰色(N 4 /) * 黄色(N 6 /)				183 50	901
1131	*	30.0	(4.2)	✓	*	*	✓	灰色(N 6 /) * 灰色(N 5 /)				183 30	902
1132	*	26.2	(2.8)	✓	*	*	✓	灰白色(N 7 /) * 灰色(N 4 /)				183 50	894
1133	*	29.0	(6.1)	✓	*	*	✓	灰色(N 6 /)				183 50	893
1134	灰青器 小鉢	✓	(3.9)	10.0	無輪	ナテ 傾出高台	✓	灰白色(S 5 Y 7 / 1) にみい灰色(S Y 7 / 3)、灰白色(S Y 7 / 1)				184 51	471
1135	青 磁 碗	✓	14.4	(4.3)	✓	無輪	✓	オリーブ褐色(S Y 6 / 3)、オリーブ色(S 7 O 2 / 1)				185 51	479
1136	*	16.4	(4.5)	✓	*	*	✓	灰白色(S 10 Y 7 / 1) 灰色(S 10 Y 6 / 1)				185 51	297
1137	*	16.0	(4.9)	✓	*	*	✓	灰オリーブ色(S Y 5 / 3)				185 51	472
1138	*	16.0	(4.0)	✓	*	*	✓	オリーブ褐色(S 5 Y 7 / 1)、灰DB(S 5 Y 6 / 1)				185 51	470
1139	*	13.0	(2.8)	✓	*	*	✓	オリーブ褐色(S 3 Y 6 / 1)				185 51	475
1140	*	✓	(5.7)	✓	*	*	✓	オリーブ色(S Y 5 / 4)				183 31	506
1141	*	✓	(3.0)	(3.8)	✓	ナテ 傾出高台、西方内無輪	✓	オリーブ黄色(S Y 6 / 3)				183 31	33
1142	*	(2.2)	(6.2)	✓	*	ナテ 傾出高台、西方内無輪	✓	緑灰色(S 3 G Y 3 / 1)				185 51	473
1143	*	(2.2)	(4.2)	✓	*	ナテ 傾出高台、無輪	✓	灰オリーブ色(S Y 6 / 2) 灰白色(S 7 Y 7 / 1)				185 51	477
1144	青 磁 丸	0.2	1.9	4.0	無輪	無輪 *、下半無輪	✓	灰色(S 10 Y 6 / 1) 灰白色(S 10 Y 7 / 1)				185 51	296
1145	*	9.4	2.0	4.2	*	*	✓	灰色(S 10 Y 7 / 1) 灰色(S 10 Y 6 / 1)、灰白色(S Y 7 / 1)				185 51	295
1146	白 磁 碗	17.0	(3.3)	✓	*	*	✓	灰白色(S 10 Y 7 / 1)				186 51	474
1147	*	16.0	(1.8)	✓	*	*	✓	灰白色(S 10 Y 6 / 1)				186 51	478
1148	青内磁 合子	✓	(0.6)	✓	*	*	✓	灰白色(S 10 Y 6 / 1)、灰白色(S 7 Y 6 / 1) 陶青灰色(S 10 C Y 8 / 1)				186 51	482

表36. B地区出土 上・木・鉄製品観察表

遺物 No.	器種	長さ(cm)	最大径(cm)	孔径(cm)	重量(g)	採収 回数	整理 No.	遺物 No.	器種	長さ(cm)	最大径(cm)	孔径(cm)	重量(g)	採収 回数	整理 No.
1149	土練	9.1	6.5	2.1	176.2	187 39	20	1150	土練	5.4	1.2	0.45	3.8	187 52	21
1150	*	3.3	1.1	0.3	8.8	187 52	880	1153	管	(3.9)	0.6	-	0.6	188 32	736
1151	*	4.5	1.2	0.3	6.8	187 52	845	1154	釘	(3.0)	0.7	-	3.8	188 148 32	938

表37. VI 資料編 遺物観察表(1)

遺物 No.	器 種	口径	器 高	底径	成形・調整等の特徴(上:内面, 下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	出土地	備考	探出 段階	整理 No.
					口 縁 部	体 部	底 部						
1125	罎	17.2	(5.4)	ノコナテ	ケズリ	マメツ	ノコナテ	淡黄色(10Y R 7/2)		遺跡中	▲古墳時代	189	301
1126	高 杯	20.4	(7.0)	ノコナテ	ハヤ	ハヤ	ノコナテ	淡黄色(10Y 3.8/3) 灰白色(7.5Y R 8/2)、淡黄色(7.5Y R 8/4)		*	*	89	302
1127	土師器 甕	1	(1.8)	(6.6)	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	灰白色(2.5Y 8/2) 淡黄色(10Y 7/2)、灰白色(10Y 7/4)		吉原石次 下層		190	373
1128	*	1	(2.2)	8.0	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	灰白色(2.5Y 8/1) *、黒褐色(2.5Y 3/2)				190	372
1129	土師器 杯	12.2	4.8	7.1	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	淡黄色(7.5Y R 8/4) 淡黄色(10Y R 7/2)、灰白色(5Y 3/1)		*		190	158
1130	土師器 盃	12.9	1.1	8.9	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	淡黄色(2.5Y 8/4)		*	ての字	190	607
1131	*	17.0	2.2	(6.4)	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	淡黄色(2.5Y 8/3) 淡黄色(7.5Y R 8/4)			高内付	190	519
1132	卑土器 甕	15.4	5.9	7.7	*、ミガキ	*、ミガキ	ミガキ	黒色(10Y R 1/2.1) 淡黄色(10Y R 7/2)			内黒	190	107
1133	*	1	(4.7)	(9.0)	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	黒色(10Y 1.7/1) 灰白色(5Y 8/2)		*	庄190	191	159
1134	*	16.2	6.5	(7.0)	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	*、7割(5Y 1/1)、*、7割(5Y 4/2) 淡黄色(10Y R 6/2)、黒色(10Y 1.7/1)		六割2次 5 R-1		191	3
1135	*	15.0	(5.0)	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	黒褐色(2.5Y 3/1) *、淡黄色(10Y R 6/2)				191	9
1136	*	1	(3.5)	(6.8)	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	灰色(7.5Y 2/1) 淡黄色(2.5Y 6/3)、黒色(2.5Y 6/3)		*	内黒	191	7
1137	*	1	(3.2)	(6.4)	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	黒色(10Y R 1.7/1) 淡黄色(10Y R 7/2・6/3)		*		191	2
1138	*	1	(2.9)	(5.8)	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	淡黄色(10Y 1.7/1)、*、7割(5Y 1/1)、*、7割(5Y 4/2) 灰白色(5Y 8/1・8/2)		*		191	10
1139	*	14.8	5.7	(6.0)	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	淡黄色(7.5Y R 3/1)			開土	191	4
1120	土師器 杯	14.4	3.7	7.6	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	淡黄色(2.5Y 5/2)、黒色(2.5Y 2/1) 淡黄色(10Y R 6/2)、黒色(10Y R 6/1・4/1)				191	8
1121	土師器 盃	8.8	(1.9)	5.0	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	灰白色(2.5Y 8/2) 淡黄色(2.5Y 7/2)				191	5
1122	*	9.8	2.1	5.2	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	灰白色(2.5Y 8/2)、淡黄色(5Y 4/1) 淡黄色(2.5Y 7/2)				191	6
1123	土師器 甕	15.1	6.7	(6.0)	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	灰白色(10Y R 8/2)			六割2次	192	1
1124	土師器 甕	15.0	5.2	(5.5)	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	竹葉色(5P B 2/1)			六割1次	192	2
1125	土師器 甕	1	(3.5)	5.1	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	*、5割(5Y 3/1)、淡黄色(5Y 4/1)			吉原G 1 S D-2	193	44
1126	*	1	(2.6)	4.0	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	淡黄色(2.5Y R 3/3) 灰色(N 5 /)			吉原G 4 S D 4	193	41
1127	土師器 甕	1	(6.4)	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	灰色(N 4 /) *、灰色(N 5 /)			5割G 4 S D-7	193	47
1128	土師器 甕	15.0	4.5	(3.0)	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	灰色(N 4 /) *、灰白色(N 8 /)			吉原G 4 S D-8	193	43
1129	*	11.9	3.7	(1.7)	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	灰色(7.5Y R 8/2)				193	89
1130	土師器 甕	8.4	1.35	5.0	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	淡黄色(2.5Y R 3/3)				193	37
1131	土師器 甕	16.0	(5.1)	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	オリーブ灰色(5Y 6/3)			船山塚	193	42
1132	土師器 甕	13.0	3.7	7.0	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	灰白色(7.5Y R 8/1)			六割G 4 土師器	194	23
1133	*	16.0	2.8	6.0	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	灰白色(2.5Y R 8/2)				194	31
1134	土師器 甕	8.2	1.4	5.2	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	灰白色(10Y R 8/2)				194	27
1135	*	8.5	1.4	5.4	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	灰白色(7.5Y R 8/2)				194	26
1136	土師器 甕	14.6	4.2	(3.0)	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	灰色(N 4 /)				194	36
1137	*	16.0	4.1	(4.6)	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	灰色(N 5 /) *、灰色(N 8 /)				194	32
1138	*	15.0	3.5	(3.8)	ノコナテ	ノコナテ	ノコナテ	灰色(N 6 /)				194	34

表38. VI 資料編 遺物観察表(2)

遺物 No.	種 類	口 径	口 縁	底 径	成形・調整等の特徴(上:内面, 下:外面)			色 調	上:内面 下:外面	周 土 地	備 考	採出 図版	整理 No.
					口 頸 部	体 部	底 部						
1188	瓦 葺	13.0	3.0	(4.1)	コナテ	ミガキ 指節痕	ミガキ 指節痕	灰白色(N 6 /)、灰白色(N 4 /)	#	志那 G 4 土層付近		194	30
1190	瓦 葺	9.2	1.8		#	コナテ 指節痕	ナテ 指節痕	灰白色(N 4 /)	#			194	31
1191	#	8.2	1.75		#	ナテ 指節痕	ナテ 指節痕	磚灰色(N 3 /)	#			194	32
1192	#	8.0	1.3		#	ナテ 指節痕	ナテ 指節痕	灰色(N 4 /)	#			194	28
1193	須恵窯 土器	3.4	(7.4)		#	コナテ		灰色(N 7 /)	#			194	35
1194	土師窯 杯	11.0	3.1	6.4	コナテ マメツ	コナテ マメツ	ナテ 指節痕	灰白色(10Y R 8 / 2) # (10Y R 8 / 1)	#	志那 G 4 土層付近		199	12
1195	土師窯 杯	9.0	3.2	5.8	コナテ	コナテ	ナテ 指節痕	灰白色(2.5Y R 8 / 2)	#			195	3
1196	#	9.0	3.2	6.3	#	#	ナテ 指節痕	灰白色(2.5Y R 8 / 2)	#			195	4
1197	#	8.7	1.4	6.0	#	#	ナテ 指節痕	淡黄色(10Y R 8 / 2)、淡黄色(10Y R 7 / 3) # 淡黄色(10Y R 4 / 3)	#			195	11
1198	#	8.8	1.3	5.1	#	#	ナテ 指節痕	灰白色(10Y R 8 / 1)	#			195	6
1199	#	7.6	1.3	5.7	#	#	ナテ 指節痕	淡黄色(2.5Y R 8 / 3) # 淡黄色(2.5Y R 8 / 1)	#			195	3
1200	#	7.6	1.1	5.6	#	#	ナテ 指節痕	灰白色(2.5Y R 8 / 2)	#			195	8
1201	#	6.8	1.1	5.0	#	#	ナテ 指節痕	淡黄色(7.5Y R 8 / 3 + 8 / 4) 淡黄色(7.5Y R 8 / 2)、淡黄色(5Y R 8 / 3)	#			195	10
1202	#	7.6	1.9	4.8	#	#	ナテ 指節痕	淡黄色(2.5Y R 8 / 3) 灰白色(2.5Y R 8 / 2)	#			195	9
1203	#	8.8	1.3	6.0	マメツ コナテ	マメツ 指節痕	ナテ 指節痕	灰白色(10Y R 8 / 1)	#	手づね		195	7
1204	瓦 葺	24.8	4.3	(3.4)	ミガキ コナテ	ミガキ 指節痕	ミガキ 指節痕	灰色(N 6 /)	#			195	24
1205	#	15.0	(3.9)		#	ミガキ 指節痕	ミガキ 指節痕	灰白色(N 7 /) # (N 8 /)、灰色(N 4 /)	#			195	38
1206	瓦 葺	8.1	1.7		#	コナテ 指節痕	ナテ 指節痕	灰色(N 2 /) 磚灰色(N 3 /)	#			195	14
1207	瓦 葺	15.8	(4.0)		麻和	麻和		オリーブ黄白色(5Y 6 / 3)	#	志那窯		195	15
1208	瓦 葺		(2.7)	(5.0)	#	#	瓦胎 指節痕	淡黄色(7.5Y R 8 / 2)、淡黄色(5Y R 7 / 3) 淡黄色(7.5Y R 8 / 2)、淡黄色(5Y R 7 / 3)	#			195	25
1209	瓦 葺	13.8	3.8		ミガキ コナテ	ミガキ コナテ、指節痕	ハナ目、ミガキ 指節痕	磚灰色(10Y J 5 / 1) # (10Y R 5 / 1 - 4 / 1)	#			195	16
1210	#		(1.8)	8.0	#	ナテ 指節痕	ナテ 指節痕	磚灰色(N 3 /) オリーブ色(2.5G 5 / 1)、黄褐色(2Y R 7 / 2)	#			195	18
1211	#	13.6	4.3	8.4	コナテ	コナテ	ナテ 指節痕	灰白色(2.5Y R 8 / 1)、黄褐色(10Y R 3 / 1) # (2.5Y 7 / 1-8 / 1)、#	#			195	20
1212	#		(1.7)	6.2	マメツ ナテ	マメツ マメツ	ナテ マメツ	暗灰色(N 3 /) 灰色(N 4 /)、灰白色(N 8 /)	#			195	20
1213	#		(2.1)	6.0	#	ミガキ ナテ	ミガキ 指節痕	灰色(N 4 /)	#			195	19
1214	瓦 葺	10.8	3.0		コナテ	ミガキ、指節痕	ミガキ、指節痕	灰白色(N 8 /)、灰色(N 5 /) 灰色(N 4 /)	#			195	13
1215	瓦 葺	9.0	1.75	6.0	#	ミガキ コナテ	ハナ目、ミガキ 指節痕	磚灰色(N 3 /) # 灰白色(N 8 /)	#			195	17
1216	瓦 葺	16.0	(3.6)	6.5	コナテ	ミガキ	ミガキ	灰色(N 4 /) 灰白色(N 7 /)	#	志 那 土層		195	21
1217	土師窯 杯	15.0	4.8	6.0	#	#	指節痕	灰白色(10Y R 8 / 1) # 淡黄色(3.5Y R 7 / 3)	#			197	1
1218	瓦 葺	15.4	4.8	(4.6)	ミガキ コナテ	ミガキ 指節痕	ミガキ 指節痕	灰白色(2.5G 5 / 1)、灰色(N 4 /) # (5Y 7 / 1)	#	志那 G 4、5 S K 1		197	6
1219	#	14.8	4.8	(4.5)	ミガキ コナテ	ミガキ 指節痕	ミガキ 指節痕	灰色(N 4 /)	#			197	14
1220	#	15.0	4.6	(4.4)	ミガキ コナテ	ミガキ 指節痕	ミガキ 指節痕	灰白色(7.5Y R 8 / 1)、淡黄色(5Y 6 / 1) # (5Y 7 / 1)	#			197	13
1221	土師窯 杯	12.8	4.0	7.0	コナテ	ナテ	指節痕	淡黄色(10Y R 7 / 2) 淡黄色(3Y R 8 / 2)、淡黄色(3.5Y R 8 / 3)	#			197	7
1222	#	14.8	3.5	7.5	#	#	ナテ 指節痕	淡黄色(10Y R 7 / 3)	#			197	8

表39. VI 資料編 遺物観察表(3)

遺物 No.	器 種	口 径	口 縁	器 高	底 径	成形・調整等の特徴(上：内面, 下：外面)			色 調	上：内面 下：外面	出土地	備考	標記 図版 No.	整理 No.
						口 頸 部	体 部	底 部						
1223	ナテ 器	9.0	1.6	5.6	ミコナテ *	ミコナテ *	ナテ 器転去切り	灰赤色(5Y R 8/2) に濃い棕色(3Y R 7/3)		八潮8次, A 5R-5		197	5	
1224	*	9.0	1.6	5.6	*	*	ナテ 器転去切り	灰白色(7.5Y R/1)		*		197	3	
1225	*	8.0	1.7	5.2	*	*	ナテ 器転去切り	に濃い灰褐色(10Y R 7/3) 灰白色(5Y R 8/2・7.5Y R 8/2)		*		197	4	
1226	ナテ器 鉢	13.3	3.6	8.0	*	*	ナテ 器転去切り	灰白色(10Y R 8/2)		八潮8次, B 5R-2		197	6	
1227	*	12.8	3.1	7.7	*	*	ナテ 器転去切り	に濃い黄褐色(10Y R 7/2) 灰白色(10Y R 8/2), 褐色(10Y R 5/1)		*		197	11	
1228	*	13.0	3.2	7.6	*	*	ナテ 器転去切り	黄褐色(10Y R 8/2), 褐色(10Y R 5/1) 灰白色(2.5Y 8/2・7/1), 黄色(2.5Y 2/1)		*		197	12	
1229	土師器 釜	7.4	1.7		*	器底痕	ナテ 器底痕	灰白色(10Y R 8/2) に濃い灰棕色(10Y R 7/2)		*	手ノク(粘)	197	10	
1230	土師器 瓶	15.8	5.0	(5.4)	ミガキ ミコナテ, ミガキ	ミガキ 器底痕, ミガキ	ミガキ 粘付器底	灰白色(7.5Y R/1・4/1) * (5Y R/2・7.5Y 4/1)		表山宮森 忌手漬		198	68	
1231	*	15.3	5.4	(5.0)	ミガキ ミコナテ, *	ミガキ 器底痕, *	ミガキ 粘付器底	灰色(N 5/1) * (N 6/1)		*		198	69	

松山市文化財調査報告書 第38集

古照遺跡—第7次調査— (第1分冊)

平成6年3月31日 発行

編集 松山市教育委員会

発行 〒790 松山市二番町4丁目7-2
TEL (0899) 48-6605

財団法人松山市生涯学習振興財団

埋蔵文化財センター

〒791 松山市南斎院町乙67番地6
TEL (0899) 23-6363

印刷 岡田印刷株式会社

〒790 松山市湊町7丁目1-8
TEL (0899) 41-9111
